京都美術工芸大学

シラバス［2022 年度版］

INDEX

1．教養教育科目 - 教養科目

歴史学 … 2
美学 … 3
技芸と文学 … 4
栄養学入門 … 5
生涯学習論 … 6
生活と法律 … 7
博物館概論 … 8
森林学概論 … 9
科学と芸術 … 10
工芸と経済 … 11
伝統と学び … 12
哲学 … 13
教育学 … 14
世界文化遺産論 … 15
地域社会論 … 16
人間関係の科学 … 17
人間関係の心理臨床 … 18
表現技術論 … 19

2. 教養教育科目 - 伝統文化科目

日本工芸美術史 … 21
京都学 … 22
伝統芸術入門Ⅰ（茶道） … 23
伝統芸術入門Ⅰ（華道） … 24
伝統芸術入門Ⅰ（書道） … 25
伝統芸術入門Ⅱ（茶道） … 26
伝統芸術入門Ⅱ（華道） … 27
伝統芸術入門Ⅱ（書道） … 28
日本文化史 … 29
京都学演習Ⅰ（デザイン） … 30
京都学演習Ⅰ（工芸） … 31
京都学演習Ⅰ（建築） … 32
京都学演習Ⅱ … 33

3．教養教育科目 - コミュニケーション科目

日本語表現法 … 35
英会話Ⅰ（Ａクラス） … 36
英会話Ⅰ（Ｂクラス） … 37
英会話Ⅰ（Ｃクラス） … 38
英会話Ⅰ（Ｄクラス） … 39
英会話Ⅰ（Ｅクラス） … 40
英会話Ⅰ（Ｆクラス） … 41
美術工芸英語（Ａクラス） … 42
美術工芸英語（Ｂクラス） … 43
美術工芸英語（Ｃクラス） … 44
美術工芸英語（Ｄクラス） … 45
美術工芸英語（Ｅクラス） … 46
美術工芸英語（Ｆクラス） … 47
英会話Ⅱ（Ａクラス） … 48
英会話Ⅱ（Ｂクラス） … 49
英会話Ⅱ（Ｃクラス） … 50
英会話Ⅱ（Ｄクラス） … 51
英会話Ⅱ（Ｅクラス） … 52
英会話Ⅱ（Ｆクラス） … 53
英語コミュニケーション（Ａクラス） … 54
英語コミュニケーション（Ｂクラス） … 55
情報基礎演習（Ａクラス） … 56
情報基礎演習（Ｂクラス） … 57
総合コミュニケーション … 58

4．教養教育科目 - キャリア形成科目

しごと論Ⅰ … 60
しごと論Ⅱ … 61
社会活動Ⅰ … 62
社会活動Ⅱ … 63
インターンシップ … 64
メディアリテラシー … 65
現代社会論 … 66

5．専門教育科目 - 美術工芸科目・基本科目

工芸概論 … 68
建築概論 … 69
伝統工芸概論 … 70
構成基礎演習（デザイン） … 71
構成基礎演習（工芸） … 72
構成基礎演習（建築） … 73
伝統住居概論 … 74
色彩学（Ａクラス） … 75
色彩学（Ｂクラス） … 76
日本美術史 … 77
素描 … 78
デザイン概論 … 79
社寺建築概論 … 80
西洋美術史 … 81
東洋美術史 … 82
伝統絵画技法Ⅰ … 83
建築計画Ⅰ … 84

建築構造力学Ⅰ … 85
文化財概論 … 86
【建築学部】
日本住居史 … 87
構法計画Ⅰ … 88
建築ＣＡＤ演習Ⅰ … 89

6．専門教育科目 - 美術工芸科目・基幹科目

色彩理論演習 … 92
伝統住居論 … 93
デザイン作図演習（Ａクラス） … 94
デザイン作図演習（Ｂクラス） … 95
デザインと法規 … 96
伝統絵画技法Ⅱ … 97
社寺建築論 … 98
伝統空間論 … 99
伝統建築環境学 … 100
文献・絵画資料概論 … 101
伝統構造学 … 102
ＩＴ活用応用演習（Ａクラス） … 103
ＩＴ活用応用演習（Ｂクラス） … 104
コンピューターデザイン演習（Ａクラス） … 105
コンピューターデザイン演習（Ｂクラス） … 106
建築計画Ⅱ … 107
建築一般構造Ⅰ … 108
建築材料 … 109
建築法規 … 110
建築構造力学Ⅱ … 111
建築環境工学 … 112
文化財修理論 … 113
文化財マネージメント論 … 114
インテリア設計 … 115
【建築学部】 … 116
構法計画Ⅰ

7．専門教育科目 - 美術工芸科目・展開科目

伝統工芸産業工学 … 118
伝統工芸材料科学 … 119
工芸経営論 … 120
立体造形（デザイン） … 121
立体造形（工芸） … 122
伝統文様 … 123
古文書解読演習Ⅰ … 124
伝統建築図（応用） … 125
室内意匠論 … 126
古文書解読演習Ⅱ … 127
建築設備 … 128
建築一般構造Ⅱ … 129
伝統建築論Ⅰ … 130
伝統建築論Ⅱ … 131
建築施工法 … 132
建築計画Ⅲ … 133
建築計画Ⅳ … 134
建築構造力学Ⅲ … 135
公共デザイン論 … 136

8．専門教育科目 - 専門演習･実習（美術工芸学科）

芸術導入演習（デザイン） … 138
芸術導入演習（工芸） … 139
芸術導入実習（デザイン） … 140
芸術導入実習（漆芸） … 141
芸術導入実習（陶芸） … 142
芸術導入実習（木工・彫刻） … 143
造形基礎演習Ⅰ（デザイン） … 144
造形基礎演習Ⅰ（工芸） … 145
造形基礎演習Ⅱ（デザイン） … 146
造形基礎演習Ⅱ（工芸） … 147
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（デザイン） … 148
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（漆芸） … 149
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（陶芸） … 150
工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工・彫刻） … 151
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（デザイン） … 153
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（漆芸） … 154
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（陶芸） … 155
工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻） … 156
専門実習Ⅰ（デザイン） … 158
専門実習Ⅰ（漆芸） … 159
専門実習Ⅰ（陶芸） … 160
専門実習Ⅰ（木工・彫刻） … 162
専門実習Ⅱ（デザイン） … 164
専門実習Ⅱ（漆芸） … 165
専門実習Ⅱ（陶芸） … 166
専門実習Ⅱ（文化財） … 167
専門実習Ⅱ（木工・彫刻） … 168
専門実習Ⅲ（デザイン） … 170
専門実習Ⅲ（漆芸） … 171
専門実習Ⅲ（陶芸） … 172
専門実習Ⅲ（文化財） … 173
専門実習Ⅲ（木工・彫刻） … 174
プロジェクト演習Ⅰ … 176
プロジェクト演習Ⅱ … 177
プロジェクト演習Ⅲ … 178

卒業制作研究（デザイン）　…　179
卒業制作研究（漆芸）　…　180
卒業制作研究（陶芸）　…　181
卒業制作研究（文化財）　…　182
卒業制作研究（木工・彫刻）　…　183
卒業制作・論文（デザイン）　…　185
卒業制作・論文（漆芸）　…　186
卒業制作・論文（陶芸）　…　187
卒業制作・論文（文化財）　…　188
卒業制作・論文（木工・彫刻）　…　189

９．専門教育科目 - 専門演習・実習（建築学科）

建築設計導入実習　…　192
工芸実習導入（建築デザイン）　…　194
建築設計基礎演習Ⅰ　…　196
工芸実習基礎Ⅰ（建築デザイン）　…　198
建築実習基礎Ⅱ（建築デザイン）　…　200
建築デザイン演習Ⅰ　…　202
建築デザイン演習Ⅱ　…　204
建築デザイン演習Ⅲ　…　206
伝統建築専門実習Ⅰ　…　208
伝統建築専門実習Ⅱ　…　209
伝統建築専門実習Ⅲ　…　210
卒業制作（建築）　…　211

１０．博物館学芸員養成科目

生涯学習論　…　214
博物館概論　…　215
博物館経営論　…　216
博物館資料論　…　217
博物館資料保存論　…　218
博物館展示論　…　219
博物館情報・メディア論　…　220
博物館教育論　…　221
博物館実習　…　222

1. 教養教育科目ー教養科目

京都美術工芸大学シラバス［2022 年度版］

KYOBI 京都美術工芸大学

講義名	歴史学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 中村　みどり	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	教養としての通史的な理解を深めるばかりでなく、歴史を複数の視点から考える多角的な視野と、歴史的事象がどのような情勢と人々の動きによって築かれたのかという「生きた歴史学」を身につけ、理解してもらうことを目標とする。
授業概要	本授業では古代から近代までの日本における歴史と文化を通史的に概説し、中でも特に京都に関わる歴史的事象を取り上げ、適宜詳説してゆく。授業は毎時間レジュメを配布し講義形式によって行い、適宜質問に回答してゆくフィードバックの時間を設けるものとする。 本科目は工芸学部のディプロマポリシー１、２に該当する。
授業計画 授業内容	第１回 歴史学概論 第２回 古代国家の成立 第３回 奈良時代と天平文化 第４回 平安時代の始まりと安定 第５回 摂関時代と国風文化 第６回 院政期と武士の台頭 第７回 鎌倉時代とその盛衰 第８回 室町時代と応仁の乱 第９回 室町時代の文化と習俗 第10回 戦国時代と天下統一 第11回 南蛮文化と桃山文化 第12回 江戸時代の政治と改革 第13回 江戸文化 第14回 明治維新と文明開化 第15回 文化財保護の現在
成績評価	評価ポイント：期末レポート（70%）、授業・質疑参加態度（30%）
教科書	特になし
参考書　参考資料	山川出版社『詳説 日本史Ｂ』 岩波書店『岩波日本史辞典』
履修上の注意	特になし
予習・復習指導	必要とする時間については自己判断に任せる。 特に予復習は課さないが、参考書にあげているような教科書レベル等の通史を事前に頭に入れて授業に臨むように。なお授業中の分からなかった単語等もすぐに辞書等を引き自習しておくことが望ましい。
関連科目	日本文化史、京都学、日本美術史、文化財概論
課題に対するフィードバックの方法	特になし
教員の実務経験	特になし
科目ナンバリング	COM-GE201L

講義名	美学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西村　知紘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	西洋における美学の歴史を概観することで、美しさとは何か、芸術作品を研究することは何を意味するのかを哲学的に問う方法を学ぶ。
授業概要	現在「美学」と呼ばれている学問は近代に初めてその名で呼ばれるようになったとされるが、美学で取り扱われる内容は古代ギリシャ以来の哲学の伝統に根ざしている。この講義では西洋における美学の歴史を概観しながら、美学で問題となっているテーマについて考える。 本科目は本学のディプロマポリシーの１、２に該当する。
授業計画 授業内容	1 イントロダクション 2 美しさとは何か 3 イデア論と芸術の関係 4 作品と完成 5 アイデアと実践 6 キリスト教世界観と芸術の関係 7 近代美学の成立 8 近代美学の展開(1) 9 近代美学の展開(2) 10 芸術と体験(1) 11 芸術と体験(2) 12 芸術作品と真理(1) 13 芸術作品と真理(2) 14 芸術作品と解釈 15 まとめ
成績評価	授業態度（３０％）、期末レポート（７０％）によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書　参考資料	今道友信編『西洋美学のエッセンス』ぺりかん社
履修上の注意	特になし
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、4.5時間の復習をすること （具体的な内容） 復習では授業で説明した内容を覚えるだけでなく、紹介した学説がどういうことなのか自分自身で身近な例を考えて吟味することが重要である。特に関心を持ったテーマに関しては授業で紹介した参考図書を読んで知識を深めること。
関連科目	哲学
課題に対するフィードバックの方法	授業中に質疑応答を行う。期末レポートに関する総評をクラスルームに掲示する。
科目ナンバリング	COM-GE103L

講義名	技芸と文学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 武藤　夕佳里	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	多角的な視座を追究する姿勢を育み、論理性ある思考力と自らの感受や感性を表現する創造力を養う。提出課題のA調査メモ、B調査メモ、C研究調査ノートの作成を通し、自らの思考を整理し、表現に導く手法を学ぶ。
授業概要	本講義では、技芸にみるものづくりについて、文学をはじめとした文芸の世界から読み解く。人と技の関係性や人間の暮らしを通して、日本の歴史と文化について考える。各回に多彩な史資料を取り上げ、技芸がどのように私たちの生活に寄り添い、彩ってきたのかを知り、これまでの学習を一歩進め、自らで考える歴史、文化、技芸を学び確立していく機会とする。 本科目は本学のディプロマポリシー１，２，３に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　技芸と文学―はじめに 第２回　技芸と文学―古典 第３回　技芸と文学―意匠 第４回　技芸と文学―色彩 第５回　技芸と文学―茶道　＊（A調査メモの提出） 第６回　近代と技芸①日本―万博との出会い 第７回　近代と技芸②海外―芸術の時代・ジャポニズム 第８回　近代日本の工芸①外国人著作物にみる日本の旅 第９回　近代日本の工芸②外国人著作物にみる京都 第10回　近代日本の工芸③外国人著作物にみる近代七宝　＊（B調査メモの提出） 第11回　現代への道①日本庭園と文芸 第12回　現代への道②民芸と文芸 第13回　現代への道③作家と言葉―個性創作 第14回　現代への道④創造と革新―日本の伝統　＊（C研究調査ノートの提出） 第15回　まとめ
成績評価	授業への出席を含む積極的参加（30%）、期末試験に相当する課題のA調査メモ、B調査メモ、C研究調査ノートの提出（70%） ・A調査メモ:技芸（工芸や建築、絵画ほかのワザやモノ）を一つ取り上げ、素材や技術など製作に関わる背景を調べる。 ・B調査メモ:A調査メモで取り上げた対象物に関わる文芸的要素や背景を調べる。 ・C研究調査ノート　調査メモAとBを踏まて対象物の歴史と文化について自分の考えをまとめる。
参考書　参考資料	中西進『美しい日本語の風景』（2008、淡交社）,エリザ・R・シドモア／外崎克久訳『デドモア日本紀行』（2002年、講談社）ほか、講義の時々に様々な資料に言及する。
履修上の注意	「技芸と文学」を難しく捉えず、皆さんが本学で学ぶ技が育まれてきた文化の背景を文学を含む文芸から学ぶと捉える。 提出課題は自らの学習や創作を助ける要素となりうることを意識して意欲的に取り組んで、必ず提出すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、2時間の事前学習および、2.5時間の復習をすること （具体的な内容） 各回のテーマに即した本を手にして開いてみてみる。書籍や史資料（本や雑誌、図録、音楽や映像ほか）に図書館などで触れる。合わせて自分が取り組むテーマに関する史資料を収集を行う。自分の興味ある本をいろいろ手にし、好きな本を1冊以上みつける。
関連科目	自分を育み養うひとつの要素とし、他の科目へ学習を拡げる際の素地となりうる。
課題に対するフィードバックの方法	A、B調査メモは、必要に応じて調べ方や史資料の紹介を授業の中で言及し、C研究調査ノートの完成を助ける。
教員の実務経験	会社員、学芸員
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-GE304L

講義名	栄養学入門		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 桑原　彩	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	身体活動を支える各種栄養素に関する基礎的理解をはかると共に、実践的な食事へ反映させることができる。更に世界の食文化への興味を深める。
授業概要	人間の身体活動の基礎となる各種栄養素、適切な食事や水分補給、サプリメントの知識など、生活に密着した情報を得ることで、健康的で文化的な生活の基盤を生成する機会とする。また日本及び世界の食の歴史や地域性等への理解を深め、食文化の観点からも食への興味を深めることを目的とする。本格もは工芸学部のディプロマポリシー２に該当する。
授業計画 授業内容	１ 受講内容と講義計画の説明 ２ 栄養とは何か ３ 五大栄養素について（炭水化物・脂質） ４ 五大栄養素について（たんぱく質、ビタミン） ５ 五大栄養素について（ミネラル・水分） ６ 食事バランスガイドについて ７ 日本の食文化（古代日本の食事） ８ 日本の食文化（古代日本の食事） ９ 日本の食文化（行事食） １０ 障害予防の食事について １１ ウエイトコントロールについて １２ 食の多様性（西洋の食文化） １３ 食の多様性（中国等） １４ サプリメントと外食について １５ 食のリスク、食品衛生について
成績評価	期末試験（50%）、小テスト８回（40%）、提出物等（１０%）
教科書	栄養の基礎がわかる図解辞典　成美堂出版
参考書　参考資料	食の文化／石毛直道／味の素食の文化センター
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して２時間の事前学習、2.5時間の復習をすること （具体的な内容） 次回講義について、教科書のページを指定するので事前に読んでおくこと
課題に対するフィードバックの方法	小テストの正誤、提出物へのコメントにて行う
教員の実務経験	管理栄養士
科目ナンバリング	COM-GE105L

講義名	生涯学習論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目 ｜ 博物館学芸員養成科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉富　千恵	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	①人間の生涯に渡る発達について学ぶ ②生涯学び続けることの意義と必要性を理解する ③生涯学習支援と推進の方法を学ぶ
授業概要	本講義では、生命誕生の瞬間から高齢期まで、それぞれの時期における発達と課題を詳しく学ぶことを通して、生涯学習について考えます。 本科目は、本学ディプロマポリシーの３に該当します。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション 第2回 胎児期① 第3回 胎児期② 第4回 乳幼児期① 第５回 乳幼児期② 第６回 児童期① 第７回 児童期② 第８回 青年期① 第９回 青年期② 第１０回 中年期① 第１１回 中年期② 第12回 高齢期① 第13回 高齢期② 第14回 生涯学習論の背景① 第15回 生涯学習論の背景②
成績評価	期末テスト７０%、その他３０%（授業態度、自主レポートなど）
教科書	特に指定しない。適宜、レジュメを配布する。
参考書　参考資料	『現代の生涯学習』　岩永雅也　放送大学教材
履修上の注意	特になし
予習・復習指導	特になし
関連科目	博物館学芸員養成科目
課題に対するフィードバックの方法	コメント、質問のフィードバックを次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験	なし
科目ナンバリング	COM-GE106L

講義名	生活と法律		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 右近　潤一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・身近に様々な法律が存在することを認識することができる。 ・法律が関係するニュース報道を理解することができる。
授業概要	・生活の様々な場面に遭遇する問題を取り上げ、その背後にある法制度やその問題点について講義する。法律に関わるからと、難しく考える必要はない。 ・本講義を受講することにより、身の回りにある法律がどのように自らに関わるのかを認識することができるようになる。 ・本科目は大学のディプロマポリシーの２に該当する。
授業計画 授業内容	第１回 法学とは？何を何のために学ぶか（教科書Theme1） 第２回 法律が憲法に違反すると（教科書Theme4） 第３回 憲法で守られる人権とは（教科書Theme5） 第４回 憲法は差別問題についてどう考えているか（教科書Theme6） 第５回 【小テスト１】テスト１解説；六法とは何か（教科書Theme2） 第６回 テスト１講評；民法の適用は年齢によって区別されるか（教科書Theme7） 第７回 契約は守らなければならないか（教科書Theme8） 第８回 子どもの遊びが原因の事故でも損害賠償請求に応じなければならないか（教科書Theme9） 第９回 お父さんと呼べるのはなぜ（教科書Theme10） 第10回 【小テスト２】テスト２解説；裁判所は何をするところか（教科書Theme3） 第11回 テスト２講評；夫婦は同一姓を名乗らなければならないか（教科書Theme11） 第12回 相続のルールはなぜ必要なの（教科書Theme12） 第13回 冤罪事件を防ぐには（教科書Theme13） 第14回 裁判員になって死刑判決にかかわる（教科書Theme14） 第15回 【小テスト３】テスト３解説；AI のある生活（教科書Theme16）
成績評価	・各講義の最後に講義に関連した「今日の質問」をするので、それに回答してもらう。【40%】 ・３回の小テストを各回 20 点で行う。【60%】 なお、オンラインで行う場合には、意見を求めた際に反応がなかったときは、今日の質問に回答されていても、採点せず欠席といたします。
教科書	渡邊博己・右近潤一『法学ナビ：16 の物語から考える』（北大路書房）
履修上の注意	・遅刻や早退のほか、途中退室が散見されます。他の方の妨げになりますので、スケジュール管理をしっかり行い、また体調を整えて、受講しましょう。 ・スマホゲームは教室外で。 ・オンラインで行う場合にも、意見を求めます。その際、反応がなければ、欠席といたします。 ・教科書を手に入れずに受講される方がありますが、普段皆さんが学ばれていることとは異なる内容ですので、できる限り教科書を手元に置かれることをおすすめします。講義内でも、教科書の一部を読上げて、意見を求めることもあります。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、2.5時間の事前学習及び2時間の復習をすること （具体的な内容） 《予習》上記授業計画にある各回のテーマを扱う教科書の部分を一読しておく。意味のわからない言葉などがあるときは、チェックをつけておくこと。 《復習》今日の質問にかかわる部分を再読しておく。
課題に対するフィードバックの方法	「今日の質問」については、対面講義の場合には、翌週の冒頭にコメントおよび模範解答に言及する。オンラインで実施するときは、提出者へのコメントとして返すことが多く、模範解答があるときは、ストリームで公開する。
教員の実務経験	なし
科目ナンバリング	COM-GE107L

講義名	博物館概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目 ｜ 博物館学芸員養成科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	博物館活動の大要を把握するとともに、博物館の諸活動に従事するために不可欠な基礎的知識を総合的に習得する。
授業概要	博物館は、さまざまな博物館資料を調査・研究、さらに展示・活用し、幅広く社会と関わる学習活動の拠点である。本講義では、博物館に関する基礎的な知識、歴史などとともに、具体的な活動事例を提示し、現代社会における博物館の役割と意義を理解することを目指す。 本学のディプロマポリシー１に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 博物館とはなにか 第3回 学芸員の仕事　１ 第4回 学芸員の仕事　２ 第5回 博物館建築と機能 第6回 博物館の歴史　１ 第7回 博物館の歴史　２ 第8回 博物館と収集・保存 第9回 博物館資料と情報化 第10回 博物館と展示　１ 第11回 博物館と展示　２ 第12回 博物館とデジタル技術 第13回 博物館と学校教育 第14回 博物館と地域 第15回 総括
成績評価	授業時の小レポート（40%）、期末試験もしくは期末レポート（60%）によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書　参考資料	加藤有次、鷹野光行、西源二郎、山田英徳、米田耕司『新版博物館学講座1　博物館概論』雄山閣出版、2000年
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必ず受講すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：次回授業のテーマ、内容に関するトピックを確認しておくこと。 復習：講義内容を整理してくこと。適宜博物館などを見学すること。
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを講義内でおこなう。
科目ナンバリング	COM-GE108L

講義名	森林学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 森本　幸裕	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	森林に親しみ、その恵みを持続可能な形で利用するにあたって重要な現代的課題を理解できるようになる。また、京都の代表的な森林景観の構成要素と動態が理解できるようになる。
授業概要	最も発達した陸上生態系である森林は地球生命圏の恒常性を支える基盤でもある。また素材としても、モチーフとしても美術工芸と関わりが深い。その多様な側面を身近な具体例から解説し、地球環境変動の渦中における課題とその取り組みについても紹介する。自主的フィールドワークを推奨し、課題としてmy樹木図鑑を作成する。 本科目は本学のディプロマポリシーの１に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　森林と樹木：　ウォッチングの基本 第2回　機能する森林：　森とヒトとガイア仮説 第３回　日本の森林と林業：　多面的機能と社会的位置づけ 第4回　宝ヶ池の森：　身近な里山の危機 第5回　糺の森：　攪乱と森林 第6回　京都三山の森：　風水と景観生態学 第7回　吉野山：　サクラの森 第8回　にほんの里：　アートと多様な林産物 第9回　平安神宮の森：　美と生物多様性とフラクタル 第10回　自然公園の森：　ウィルダネスの継承 第11回　万博の森：　都市に自然林をつくる 第12回　いのちの森：　アーバンエコロジーパーク 第13回　癒しの森：　次世代統合医療 第14回　世界の森林：　グリーンインフラとしての森林生態系 第15回　まとめ：　森林の未来
成績評価	授業態度（２５％）、レポート（２５％）、およびmy樹木図鑑（５０％）
参考書　参考資料	『景観の生態史観～攪乱が再生する豊かな大地』森本幸裕編著（京都通信社）
予習・復習指導	講義1コマに対し、4.5時間は上記の課題と復習にあてること。 （具体的な内容） 休日等に樹木と森林のウォッチングを行い、講義で解説する方法でmy樹木図鑑の作成を行うこと。 授業で配布する資料やノートで、キーワードを復習すること。
課題に対するフィードバックの方法	レポート等の提出物については特徴的なものを選んで、授業の際等にコメントする。
教員の実務経験	（公財）京都市都市緑化協会理事長、中央環境審議会専門委員、　文化審議会第三専門調査会会長、京都市緑化審議会委員長等
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-GE102L

講義名	科学と芸術		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三木　勲	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	自分なりに、芸術における科学の役割を見極め、その役割の是非を判断し、きちんと説明できるようにする。さらには、芸術について科学的な知見を導入しながら発想を行い、果たしてその自らの発想は人類に対してどのような影響を及ぼすものであるのかを指摘できるようにする。
授業概要	古来、芸術は科学とどのような関係性を持ちながら展開されてきたのか。この点について、画期となった概念や理論また方法や人物に着目しながら考察し、芸術を科学的に創造することの意義を検討する。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1, 2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　イントロダクション：科学と芸術の起源 第2回　自由学芸と機械技芸の関係性 第3回　ルネサンス期における芸術論の生成 第4回　ルネサンス期における芸術論の展開 第5回　レオナルド・ダ・ヴィンチの「トリセツ」 第6回　レオナルド・ダ・ヴィンチの思考 第7回　芸術のさらなる科学化？ 第8回　古典的な美への眼差し 第9回　新古典主義的な美学 第10回　古典的な美学からの逃走劇１ 第11回　古典的な美学からの逃走劇2 第12回　マルセル・デュシャンの「創造性」１ 第13回　マルセル・デュシャンの「創造性」2 第14回　現代アートと科学 第15回　新しい制作・表現の可能性
成績評価	毎授業後のコメントなどの提出物を60%、期末レポート課題（1回）を40%の割合で評価の対象とする。
教科書	特に指定はない。適宜、文献などの関連資料を紹介していく。
参考書　参考資料	B・コロミーナ、 M・ウィグリー『我々は人間なのか? ― デザインと人間をめぐる考古学的覚書き―』牧尾晴喜訳 ビー・エヌ・エヌ新社 2017年。森美術館監修『未来と芸術』美術出版社 2020年。M・カルポ『アルファベット そして アルゴリズム: 表記法による建築―ルネサンスからデジタル革命へ―』美濃部幸郎訳 鹿島出版会 2014年。
履修上の注意	できるかぎり予習・復習をしておくのが望ましい。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、4.5時間の復習をすること （具体的な内容） 上記参考書・参考資料以外に必要であれば、毎回事前に、講義内容に関連する文献などの資料も示す。それらに基づき、当該講義内容に関する事柄について情報収集に努め関心を高めておく。また、受講後は、学んだ事柄について重要な点を中心に確認し、整理する。なお、不明な点があれば、次回受講後等の機会に、質問できるように準備しておく。
関連科目	美術史、科学史、建築史、デザイン史、工芸史、美学、哲学、倫理学など
課題に対するフィードバックの方法	評価の方法や基準などをweb掲示板で公表する。
教員の実務経験	特になし
科目ナンバリング	COM-GE211L

講義名	工芸と経済		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩田　均	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	①経済学の基本的な考え方を理解し、あるべき社会の構想力を獲得する。 ②工芸・建築・デザインなどと経済との関係性について理解する。 ③研究課題を自ら設定し、課題解決に取り組む力を養う。
授業概要	現代の標準的な経済学には、美術や工芸の価値を正しく評価する能力が備わっていない、という重大な欠陥がある。そこで、固有価値や文化資本等の概念を取り入れた新たな経済学（文化経済学）から学び、人間の創造的能力が開花する社会を担う力量を養う講義とする。 本学ディプロマポリシーの１，２，３に該当する。
授業計画 授業内容	第1回　講義概要：講義の目標、全体計画、受講の要領、経済学の原理 第2回　近現代社会の基本構造：コモンズの解体、市場の勃興、近代国家の形成 第3回　経済学の誕生：スミスの経済思想、産業革命の影響 第4回　経済学の展開：マーシャルの地域経済学、ラスキンの芸術経済学 第5回　Arts & Craftsの経済学：芸術財のジレンマ、ボウモル病、芸術の外部性 第6回　価値を問い直す：労働価値論と効用価値論、ケインズ経済学 第7回　固有価値論：固有価値と享受能力、職人仕事の本質と外部性 第8回　資本を問い直す：経済資本、私的資本、社会資本、社会関係資本 第9回　文化と経済発展：企業と文化、地域と文化、工業の工芸化 第10回　財(主体)を問い直す：私的財と公共財、共同財化による問題解決 第11回　社会企業の時代：公を担う市民、営利企業の社会企業化 第12回　工芸の復権：柳の民衆工藝論、クラフト産業の再評価、価値の探求 第13回　次世代産業論：創造産業論、産業クラスター論、産業集積論 第14回　工芸社会の創造：新産業発展論、理想社会の姿、地域経営者の役割 第15回　総括と到達度テスト
成績評価	毎回提出のミニレポートや受講意欲などの平常点（50%）と最終段階での到達度レポート（50%）によって総合的に評価する。
教科書	毎回の講義用資料を事前にネット配信する。
参考書　参考資料	池上惇『文化と固有価値の経済学』岩波書店 スロスビー『文化経済学入門』日本経済新聞社
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、１時間の予習及び３時間の復習を目安とする。 （具体的な内容） 講義の中で提示する課題などに積極的に取り組み、しっかり復習して講義内容を咀嚼し身につけ、実践に役立ててください。
関連科目	地域社会論、工芸経営論
課題に対するフィードバックの方法	レポート内容や質問などについて、次回以降の講義で紹介・応答するなどの方法でフィードバックする。
教員の実務経験	京都府庁で24年間、シンクタンクで7年間などの実務経験を有する。
科目ナンバリング	COM-GE212L

講義名	伝統と学び		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 齋藤　桂	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	多様な音楽やその他の文化を考える基礎的な視点・考察方法を身に着ける。また、それを適切に表現する手段を習得する。
授業概要	日本に限らず「伝統文化」と呼ばれるものは世界中にあるが、その定義は様々である。本講義では、おもに音楽の事例を通じて、人々が「伝統」をどのように捉え、表現してきたかを解説する。日本の狭義の伝統音楽に留まらず、現代のポピュラー音楽やあるいは他の国・地域の事例、また文学や美術、映像等を含めて扱うことで、文化を相対的に把握し、考察する。本科目は本学のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	講義は以下の予定で行うが、進捗状況により前後が入れ替わることがある。 ①はじめに：「伝統」の定義について ②「創られた伝統」の議論１ ③「創られた伝統」の議論２ ④各国・各地の伝統音楽１（日本の事例） ⑤各国・各地の伝統音楽２（日本の事例） ⑥各国・各地の伝統音楽３（日本以外の事例） ⑦各国・各地の伝統音楽４（日本以外の事例） ⑧「伝統」に関する研究史1 ⑨「伝統」に関する研究史2 ⑩「伝統」と社会問題１（伝統と著作権） ⑪「伝統」と社会問題2（伝統と文化の非対称性） ⑫文化をどう書くか（レポートについて）1 ⑬文化をどう書くか（レポートについて）2 ⑭身近な文化と伝統 ⑮まとめ：再度「伝統」とは何か
成績評価	中間で実施する課題と期末レポート
教科書	なし。
参考書　参考資料	講義中に適宜示す。
履修上の注意	特になし。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、1時間の事前学習、3.5時間の復習をすること。 （具体的な内容） 講義で紹介した音楽や映像の視聴、文献の精読など。
関連科目	なし。
課題に対するフィードバックの方法	講義期間中の課題については講義中にフィードバックを行う。
教員の実務経験	なし
科目ナンバリング	COM-GE313L

講義名	哲学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

到達目標	真理・自由・存在などの哲学のテーマについて、各時代の哲学者がどのように問い、どのように答えてきたかを学び、受講者が哲学的な問題について自ら考えることができるようになる。
授業概要	この授業では哲学とはどのような営みであり、現代の哲学者がどのようなことを考えているのかを理解することを目的としている。講義の前半では哲学史上の大きな転換点とされるプラトンとカントを中心に哲学の伝統的な主題を概観する。後半では現代哲学の様々な分野のうちのいくつかを取り上げ、時代の中でどのように哲学の問題に応答してきたかを考える。 本科目は本学のディプロマポリシーの２に該当する。
授業計画 授業内容	1 イントロダクション 2 古代ギリシャの哲学Ⅰ：哲学の起源 3 古代ギリシャの哲学Ⅱ：プラトンのイデア論 4 古代ギリシャの哲学Ⅲ：プラトンとアリストテレス 5 近代の哲学Ⅰ：カントの理性批判 6 近代の哲学Ⅱ：自由と道徳 7 近代の哲学Ⅲ：カント以後の哲学 8 ニーチェと生の哲学(1) 9 ニーチェと生の哲学(2) 10 現代思想の様々な展開 11 20世紀の哲学Ⅰ：現象学と存在論(1) 12 20世紀の哲学Ⅱ：現象学と存在論(2) 13 20世紀の哲学Ⅲ：実存主義 14 20世紀の哲学Ⅳ：解釈学 15 まとめ
成績評価	授業態度（３０％）、期末レポート（７０％）によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書　参考資料	貫茂人『哲学マップ』ちくま新書
履修上の注意	特になし
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、4.5時間の復習をすること （具体的な内容） 復習では授業で説明した内容を覚えるだけでなく、紹介した学説がどういうことなのか自分自身で身近な例を考えて吟味することが重要である。特に関心を持ったテーマに関しては授業で紹介した参考図書を読んで知識を深めること。
関連科目	美学
課題に対するフィードバックの方法	授業中に質疑応答を行う。期末レポートに関する総評をクラスルームに掲示する。
科目ナンバリング	COM-GE314L

講義名	教育学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉富　千恵	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	①教育学につての基礎知識を学ぶ ②人間の発達，成長過程について理解する ③自分自身の教育観を形成する
授業概要	本講義では，教育心理学や発達心理学にて蓄積された豊富な研究結果を紹介しながら、よりよい教育について考える。人間の発達を軸に、その時々で必要な学習と教育について学ぶ。 本科目は、本学ディプロマポリシーの３に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 教育学を学ぶにあたって 第2回 生命誕生と教育① 第3回 生命誕生と教育② 第4回 乳幼児と教育① 第5回 乳幼児と教育② 第6回 児童と教育① 第7回 児童と教育② 第8回 青年と教育① 第9回 青年と教育② 第10回 発達障がいと教育 第11回 現代の教育問題① 第12回 現代の教育問題② 第13回 現代の教育問題③ 第14回 現代の教育問題④ 第15回 総まとめ
成績評価	期末テスト７０％、その他３０％（授業態度、自主レポートなど）
教科書	特に指定しない．毎回レジュメを配布する．
参考書　参考資料	木村元・小玉重夫・船越一男『教育学をつかむ』（有斐閣，２００９年）
履修上の注意	教育学的テーマについて、できるだけ多くの方に講義内（オンライン講義であっても）で発表してもらいます。積極的に参加してくれる方を望みます。
予習・復習指導	毎回の準備は特にありません。準備が必要の場合には、適宜指示します。
関連科目	「生涯学習論」
課題に対するフィードバックの方法	コメント、質問のフィードバックを次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験	なし
教員の実務経験有無	なし
科目ナンバリング	COM-GE315L

講義名	世界文化遺産論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三木　勲	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	文化遺産を保存し、過去を継承していくことの意味について的確に理解し説明できるようにする。さらには、様々な文化遺産を身近な存在と捉え、その保全や活用に関して、自分なりに問題点を見出し、解決策を提案できるようにする。
授業概要	世界文化遺産の理念、歴史、制度、類型（タイプ）について把握する。その上で、国内外における文化遺産の保全や活用に関わる考え方や取り組みをみながら、文化遺産保護の望ましい在り方について考察していく。なお、適宜、できるだけ多くの事例や最新の動向（トレンド）を紹介し、理解を深められるように努める。本科目は工芸学部ディプロマシーの1，2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　イントロダクション：世界遺産の概要と歴史 第2回　世界文化遺産の評価と登録 第3回　世界遺産条約を支える考え方 第4回　世界文化遺産関連の組織と憲章 第5回　世界文化遺産の類型（タイプ）の捉え方 第6回　世界文化遺産の類型と具体例①（歴史的建造物） 第7回　世界文化遺産の類型と具体例②（文化的景観） 第8回　世界文化遺産の類型と具体例③（産業遺産） 第9回　世界文化遺産の類型と具体例④前編（20世紀遺産） 第10回　世界文化遺産の類型と具体例④後編（20世紀遺産） 第11回　世界文化遺産の類型と具体例⑤（負の遺産） 第12回　文化遺産保護の意義 第13回　文化遺産と地域社会 第14回　無形文化遺産 第15回　文化遺産保護の課題と展望
成績評価	毎授業後のコメントなどの提出物を60%、期末レポート課題（1回）を40%の割合で評価の対象とする。
教科書	特に指定はない。適宜、文献などの関連資料を紹介していく。
参考書　参考資料	西村幸夫・本中眞（編）『世界文化遺産の思想』東京大学出版会 2017年。中村俊介『世界遺産―理想と現実のはざまで―』岩波書店 2019年。TBS『THE世界遺産』（TVプログラム）1996年～。NHK『シリーズ世界遺産100』（TVプログラム）2005-2009年。
履修上の注意	できるかぎり予習・復習をしておくのが望ましい。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、4.5時間の復習をすること （具体的な内容） 日ごろから、実物や媒体（メディア）を通して、世界文化遺産に関する情報収集に努め関心を高めておく。得られた知見については、重要な点を確認し直し、さらには、自身の専門分野との関連性を見出しながら、まとめるようしておく。
関連科目	建築史、美術史、工芸史、デザイン史、庭園史、保存修復論など
課題に対するフィードバックの方法	評価の方法や基準などをweb掲示板で公表する。
教員の実務経験	特になし
科目ナンバリング	COM-GE116L

講義名	地域社会論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩田　均	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	①身近な地域社会の実態を調べ、課題を発見し、課題解決方策を考えること。 ②地域社会づくりへの参画を学生時代に体験すること。 ③地域に根ざした仕事を起こし、社会の主体者として成長すること。
授業概要	伝統社会における人々の暮らしは地域社会と共に存在したのであるが、近代化が浸透する過程で地域社会の存在感は薄れ、いま社会には諸問題が山積している。この授業では、地域社会の変容を巨視的につかみ、その実態や課題を学術的知見により読み解き、具体的な事例を交えながら健全な地域社会が復活する展望を提示する。 本学ディプロマポリシーの１，２，３に該当する。
授業計画 授業内容	第1回　講義ガイダンス：受講の心得、講義計画、主体的な学び方 第2回　伝統的な地域社会：伝統社会の構造、コモンズ、共同体感覚 第3回　近代の勃興：産業革命、市場の原理、私的財、市場の失敗 第4回　市場と政府：政府セクターの原理、公共財、国民主権、政府の失敗 第5回　戦後日本経済の概観：戦後復興、経済成長、バブル経済、日本的経営 第6回　経済政策入門：財政・金融・税制、産業政策、公務員の仕事 第7回　地方分権･自治論：地方自治、地方財政、地域政策の立案、地域価値を高める 第8回　市民セクター論：コモンズの復活、新しい公共、社会企業、SDGs、労協法 第9回　文化の底力：祭りや伝統行事、地域文化＝インフラ論、文化の継承＆交流 第10回　Arts and Crafts：ラスキンとモリス、柳宗悦、固有価値論、匠の精神 第11回　地域社会の産業論①：職人仕事の本質、地域特化産業、クラフト産業論 第12回　地域社会の産業論②：産業クラスター論、産業集積論、伝統産業システム 第13回　まちづくり：コミュニティビジネス、都市計画、理想の地域社会像 第14回　地域社会への参画：社会貢献活動、市民社会の主体、学びと実践 第15回　総括と到達度テスト
成績評価	毎回提出のミニレポートや受講意欲などの平常点（50%）と最終段階での到達度レポート（50%）によって総合的に評価する。
教科書	毎回の講義用資料を事前にネット配信する。
参考書　参考資料	講義の中で提示する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、１時間の事前学習及び３時間の復習を目安とする。 （具体的な内容） 講義の中で提示する課題に積極的に取り組み、しっかり復習して講義内容を身につけ、実践に役立ててください。
関連科目	工芸と経済、工芸経営論
課題に対するフィードバックの方法	レポート内容や質問などについて、次回以降の講義で紹介・解説するなどの方法でフィードバックする。
教員の実務経験	京都府庁で24年間、シンクタンクで7年間など、地域振興に関する実務経験を有する。
科目ナンバリング	COM-GE118L

講義名	人間関係の科学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 加藤　結芽	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	心理学の基本的知見を活用して、自分自身のこころや周囲の人たちとの関わりの中で起きていることについて理解を深める。また、それらを学生生活や今後の人生に活かしていくための基礎的な素養を培う。
授業概要	本授業では、主に心理学の基本的知見を紹介し、それについて共に考える。前半では、基礎心理学を扱い、後半では応用実践について扱う。聴講中心の授業ではあるが、受講生相互や講師とのコミュニケーションをできるだけ取り入れるため、積極的な参加を期待する。 本科目は本学のディプロマポリシー2、3に該当する。
授業計画 授業内容	以下は、現時点での予定であり、変更の可能性があります。 授業形態は、オンラインまたは対面（随時指示）です。 1回　オリエンテーション、基礎心理学：脳・神経 2回　基礎心理学：知覚・認知 3回　基礎心理学：学習・言語 4回　基礎心理学：感情・人格 5回　基礎心理学：社会・集団 6回　基礎心理学：発達 7回　基礎心理学：障害 8回　応用実践：心理検査 9回　応用実践：心理的支援 10回　応用実践：精神疾患 11回　応用実践：健康・医療領域 12回　応用実践：福祉領域 13回　応用実践：教育領域 14回　応用実践：司法・犯罪領域 15回　応用実践：産業・組織領域
成績評価	授業時の小レポート60%、期末レポート40%を基準に、総合的に評価する。
教科書	指定しない
参考書　参考資料	『公認心理師　完全合格テキスト』（2020）翔泳社、『公認心理師　対策テキスト＆予想問題集』（2022）ナツメ社
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、4.5時間程度の復習をすること （具体的な内容） 授業後には、配布資料を見直し、そこで紹介されている事項について不明な点がないように、復習・補習すること。また、それらに照らして身近な生活や自分自身を振り返るように心がけること。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業時に、前回の授業で提出された小レポートの内容について総合的にコメントを行う。
科目ナンバリング	COM-GE119L

講義名	人間関係の心理臨床		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

到達目標	対人関係の中で自分についての理解を深めること。そして、自分のこころも、他者のこころも大切にできるようになることを目標とする。 本科目は本学のディプロマポリシー2,3に該当する。
授業概要	心理臨床とは目の前の人のこころを共に見つめ、その人が自身の困難を解決し、新しい生き方を見い出す歩みに寄り添う営みである。本授業ではカウンセリングの理論について講義を行うとともに、絵本・物語作品も題材に用いながら、子どもや思春期・青年期のこころや人間関係の課題について、心理臨床の観点から考えていく。授業では講師や他の受講生と意見交換・交流する機会を取り入れる予定である。
授業計画 授業内容	以下は現時点での予定です。 第1回 オリエンテーション(授業の進め方、聴講上の倫理・期待・約束等) 第2回 こども、思春期・青年期のこころ① 第3回 こども、思春期・青年期のこころ② 第4回 こども、思春期・青年期のこころ③ 第5回 カウンセリング①（こころがまえ） 第6回 カウンセリング②（非言語） 第7回 カウンセリング③（認知行動療法） 第8回 カウンセリング④（精神分析的心理療法） 第9回 カウンセリング⑤（家族療法） 第10回 絵本・物語作品から学ぶ心理臨床① 第11回 絵本・物語作品から学ぶ心理臨床② 第12回 絵本・物語作品から学ぶ心理臨床③ 第13回 絵本・物語作品から学ぶ心理臨床④ 第14回 絵本・物語作品から学ぶ心理臨床⑤ 第15回 まとめと学びの振り返り
成績評価	授業時の小レポート60%、期末レポート40%を基準に、総合的に評価する。
教科書	指定しない。
参考書　参考資料	授業時に資料配付。 『絵本がひらく心理臨床の世界　こころをめぐる冒険へ』(前川・田中著)新曜社 『河合隼雄のカウンセリング教室』(河合著)創元社 『好きなのにはワケがある　宮崎アニメと思春期のこころ』(岩宮著)ちくまプリマ―新書 その他、授業で扱う絵本・物語作品の通読を推奨する。
履修上の注意	身近な人間関係や心のありようについて、自身の日々の体験に関心を向けながら授業に臨んで下さい。なお講師や他の受講生との意見交換・交流には積極的な参加が求められます。
予習・復習指導	一講義(1コマ)に対して4.5時間の予習復習をすること。毎回の授業資料で紹介した事項を日常での自身の経験と結び付けて見直すこと。また可能な範囲で、授業でとりあげる絵本・物語作品を読み進めること。あるいは、それ以外の様々なジャンルの作品にも積極的に触れ、毎回の授業で取り上げた事項と絡めて、こころや人間関係の側面から考察すること。
関連科目	人間関係の科学
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業時に、前回の授業で提出された小レポート内容について総合的にコメントを行う。
科目ナンバリング	COM-GE320L

講義名	表現技術論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 富家　大器	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	各表現の特長、コンセプト、テクニックなどを理解し、自身の表現力の向上を目指す。
授業概要	表現技術の多様性を講述する。 工芸学部ディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 オムニバス形式 第１回　冨家　大器　　全体ガイダンス 第２回　岡　　達也　　ポスター表現　1 第３回　岡　　達也　　ポスター表現　2 第４回　渡邊　俊博　　立体の表現 第５回　中山　智博　　３Ｄの表現　1 第６回　中山　智博　　３Ｄの表現　2 第７回　松本　浩作　　照明の表現　1 第８回　松本　浩作　　照明の表現　2 第９回　松本　浩作　　照明の表現　3 第10回　安藤　眞吾　　オノマトペ　1 第11回　安藤　眞吾　　オノマトペ　2 第12回　中井川　正道　美の表現　1 第13回　中井川　正道　美の表現　2 第14回　冨家　大器　　家具・建物のの表現 第15回　冨家　大器　　まとめとレポート ＊講師の都合により内容の変更および講師の入れ替えがあります
成績評価	履修態度70%、各小レポート30%
教科書	配布資料、映像など
参考書　参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	講師の都合により内容、順番などの変更がある。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 想定の範囲内において各講義の内容について調べる。 講義後はわからなかったとことを中心に調べ講義の内容を十分に理解する。
関連科目	科学と芸術　伝統と学び　工芸概論　デザイン概論　しごと論Ⅰ、Ⅱ　発想と表現
課題に対するフィードバックの方法	第15回終了後に総評をweb上に公開する。
教員の実務経験有無	あり
科目ナンバリング	COM-GE221L

2. 教養教育科目ー伝統文化科目

京都美術工芸大学シラバス［2022 年度版］

講義名	日本工芸美術史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 近藤　利江子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	日本工芸美術史の流れを各分野・各時代を通して理解し、それぞれの作品をより深く鑑賞する能力を身につける。
授業概要	この授業は江戸時代までの日本の美術史のうち、工芸作品を対象とし、日本工芸美術史の流れを分野ごとに概観する講義である。各時代の代表的な作品を取り上げ、画像による作品鑑賞を行い、各作品の時代ごとの様式的・技法的特徴を解説する。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの１に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 概説　講義の進め方と講義計画 第2回 漆芸史　（原始・古代） 第3回 漆芸史（中世） 第4回 漆芸史（近世） 第5回 染織史（原始・古代） 第6回 染織史（中世） 第7回 染織史（近世） 第8回 陶芸史（原始・古代） 第9回 陶芸史（中世） 第10回 陶芸史（近世） 第11回 金工史（古代） 第12回 金工史（中世・近世） 第13回 南蛮工芸 第14回 和の工芸意匠 第15回 まとめ
成績評価	期末テスト（60%）、小テスト4回（40%）
教科書	なし
参考書　参考資料	日高薫『日本美術のことば案内』小学館2003年
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、4.5時間の事前学習及び復習をすること。数回分をまとめて行うことも可能。 （具体的な内容） 事前に提示されるレジュメの内容について、目を通しておく。また、授業中に紹介する参考図書やウェブサイトを参照する。状況が可能であれば、展覧会情報も紹介するので、実際に美術館・博物館などへ行き、本物の作品を鑑賞する。
課題に対するフィードバックの方法	小テストのフィードバックを次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験	あり
教員の実務経験有無	あり
科目ナンバリング	COM-TR101L

講義名	京都学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷　裕久	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	「京都市行政」を通じて日本文化の中心である京都の伝統と文化を学ぶ。また、京都の大学の学生として地域発展に結びつく連携の重要性について学ぶ。
授業概要	京都は歴史に育まれた多彩な文化が生活の中に息づいている。国内外から年間５千万人を超える観光客が訪れる、京都の奥深い魅力に触れるための、具体的な体験メニューや情報収集法などについて学ぶ。本学は、京都市と「包括連携協定」を結んでおり、地域連携の意義について理解を深める。授業はオムニバス方式であり、京都市の多岐にわたる分野（行政の総合企画局、産業観光局、都市計画局、文化市民局、保健福祉局、消防局、東山区役所、美術館等）の職員がゲストスピーカーとして登壇し、京都について総合的な理解を深める。 本学ディプロマポリシー1、2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回(オムニバス方式) ※第2回～14回については、京都市の担当部門の職員がゲストスピーカーとして登壇 第1回　京都国立博物館・京の大仏について／事務局長　植田義雄 第2回　「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進／総合企画局総合政策室大学政策 第3回　留学生施策の推進／総合企画局総合政策室大学政策 第4回　京都駅東部エリア活性化将来構想／総合企画局プロジェクト推進室 第5回　これからの京都観光～住んでよし、訪れてよし、働いてよし～／産業観光局観光MICE推進室 第6回　時を超え光り輝く京都の景観づくり／都市計画局都市景観部景観政策課 第7回　都心再生のまちづくり／都市計画局まち再生・創造推進室 第8回　京都市の文化財保護について／文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課 第9回　わたしたちの伝統産業／産業観光局クリエイティブ産業振興室 第10回　博物館で学んでみませんか？／京都市教育委員会事務局生涯学習部 第11回　SDGs（持続可能な開発目標）とは？／総合政策局総合政策室SDGs・市民協働推進室 第12回　世界の都市「KYOTO」として成長していくために／総合企画局国際交流・共生推進室 第13回　家族を守る，地域を守る消防団　／消防局総務部消防団課 第14回　東山区のまちづくり　山紫水明の都　結び合う心　東山の未来／東山区役所地域力推進室 第15回　まとめ「京都美術工芸大学は京都でなにをするのか？」／学長　新谷裕久 ※テーマ、日程等は都合により変更となる場合があります。
成績評価	受講態度（10%）、毎回講義中に実施する小レポート（90%）をもって評価する。 受講態度は、遅刻、レポートの提出遅れなどが該当する（減点方式）。 原則、レポート提出のない場合は欠席とみなす。5回以上欠席の場合は不可とする。公欠による欠席の場合は、追レポートにより評価を行う。
教科書	講義ごとに事前に資料を配布する（クラスルームに添付）。
参考書　参考資料	京都市ホームページ（www.city.kyoto.lg.jp）
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努める。 クラスルームで資料の配布、出席管理、小レポートの提出等を行うので、パソコンを持参すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 予習は、各テーマごとの「京都市ホームページ」等をチェックしておくこと。また、事前に講義資料を配布するので目を通し、質問等があれば整理しておくこと。 復習は、各テーマごとの講義ノートと配布された資料を整理し、理解しておくこと。
関連科目	京都学演習Ⅰ、社会活動Ⅰ、社会活動Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-TR102L

講義名	伝統芸術入門Ⅰ（茶道）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大室　瑞恵	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	手塚　博子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	繰り返し稽古をすることによって、所作の道具の扱いに慣れる。
授業概要	日本の伝統文化、茶道とは一期一会を心し、お茶を通してもてなしもてなされる文化のことである。 実践を通して、それぞれの所作の意味、道具の位置づけ、その扱い方を学ぶ。掛け軸、花、菓子等を通して、日本の四季やしきたりに触れる。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの１に該当する。
授業計画 授業内容	第１回　茶道選択の思い等自己紹介(レポート提出)教本持ち物の説明 第２回　席入　茶室での立ち居振る舞い(座り方　立ち方　お辞儀の仕方等) 第３回　席入　茶室での立ち居振る舞い(座り方　立ち方　お辞儀の仕方等) 第４回　席入　茶室での立ち居振る舞い(座り方　立ち方　お辞儀の仕方等) 第５回　席入　茶室での立ち居振る舞い(座り方　立ち方　お辞儀の仕方等) 第６回　席入　茶室での立ち居振る舞い(座り方　立ち方　お辞儀の仕方等) 第７回　お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶の歴史 第８回　お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶碗の拝見の仕方 第９回　お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶碗の拝見の仕方 第10回　お菓子の頂き方、お茶の飲み方、茶碗の拝見の仕方 第11回　お点前にむけて割稽古(袱紗の扱い) 第12回　お点前にむけて割稽古(袱紗の扱い　茶器　茶杓の扱い) 第13回　お点前にむけて割稽古(袱紗の扱い　茶器　茶杓の扱い) 第14回　お点前にむけて割稽古(袱紗の扱い　茶器　茶杓の扱い　茶筅とおし) 第15回　お点前にむけて割稽古(袱紗の扱い　茶器　茶杓の扱い　茶筅とおし)
成績評価	授業内容理解度　30%　　授業態度　70%
教科書	決定版　「初めての茶の湯」　主婦の友社
参考書　参考資料	菅田健三著　「茶席の花十二ヶ月」　講談社
履修上の注意	装飾品（時計　指輪　ブレスレット等）不着用　　白靴下（初回授業より必要）着用　長髪はまとめる
予習・復習指導	「初めての茶の湯」「茶席の花 十二ヶ月」を読んで読んで予習をしてもらう。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評を行う。 質疑応答を随時行う。
科目ナンバリング	COM-TR203S

講義名	伝統芸術入門Ⅰ（華道）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 髙林　佑丞	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	華道の基本的な所作を習得し、いけばなの基礎を理解する。
授業概要	基本的な華道具の扱い方や植物の要素、花器との関係等を学び、五感を通じて草木花に楽しく関心をよせることで、いけばなの基礎の形や姿を学ぶ。 本科目は本学のディプロマポリシーの２に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　講義：いけばなの歴史・様式・華道具について 第２回　自由花　自然的表現と意匠的表現・素材要素の特徴 第３回　自由花　自然的表現　季節感と表現 第４回　自由花　意匠的表現　花器と構成 第５回　自由花　意匠的表現　形態自由 第６回　自由花　自由花表現と構成要素(線・点) 第７回　自由花　自由花表現と構成要素(面・マッス) 第８回　講義：生花概論　陰陽と出生 第９回　生花　一種生　（真行草の区分） 第１０回　生花　一種生　（あしらいの働きと効果） 第１１回　生花　二種生　（根〆の意義） 第１２回　生花　三種生　（融合美と取り合わせ） 第１３回　自由花　造形表現　線・面の変化 第１４回　生花　草木集の花　一種生　葉物 第１５回　生花　草木集の花　対照効果
成績評価	授業態度（60%）、技術の習熟度および作品（40%）
教科書	はじめる　いけばな　学校華道
参考書　参考資料	池坊いけばなテキスト「生花Ⅰ」・「生花Ⅱ」改訂版　いけばな池坊歴史読本
履修上の注意	演習で使用した花材は、大切に持ち帰ること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、1.5時間の復習をすること （具体的な内容） 演習後、持ち帰った花を生け直し、復習すること。 花と人とのふれあいを大切に、草木の生命を尊ぶこと。
課題に対するフィードバックの方法	演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	生花店勤務
科目ナンバリング	COM-TR203S

講義名	伝統芸術入門Ⅰ（書道）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 川瀬　みゆき	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	「古典に始まり古典に終わる」といわれる書道芸術の伝統と技芸向上を『臨書』を通して体感する。また漢字の時代背景を知ることで書の奥深さを知り、線一本の美しさや文字造形の魅力に気づく感性を高める。
授業概要	時代とともに進化を遂げた漢字５書体（楷書・行書・草書・隷書・篆書）を総合的に学ぶ。各時代を代表する古典作品の鑑賞で、書道の歴史を理解しながら目と心を養い、実技では臨書による練習と添削を反復し、各書体の運筆や字形の特徴を習得。鑑賞眼と毛筆技巧の両面を掘り下げる授業内容で書道の醍醐味を伝える。 本科目は本学のディプロマポリシー１に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　「古代文字から楷書成立までのストーリー」解説（漢字５書体の変遷から書道の歴史を紐解く）／時代別の古典作品鑑賞 第２回 道具の解説／臨書の重要性と練習法の解説／楷書の古典作品鑑賞と基本練習（初唐の三大家の作品を例にして） 第３回　【臨書①：楷書】　「孔子廟堂碑」の実習（力を内に秘めた穏やかな楷書の表現） 第４回 【臨書②：楷書】　「九成宮醴泉銘」の実習（引き締まった線と形から端正美を学ぶ） 第５回 【臨書③：楷書】　「雁塔聖教序」の実習（張りのある細身の線で筆先を利かせる練習） 第６回　王羲之の解説（“書聖”たるゆえんの品格ある文字に触れる）／行書・草書の古典作品鑑賞と基本練習（王羲之の作品を例にして） 第７回 【臨書④：行書】　「集字聖教序」の実習（やわらかさと緊張感のある線を同時に学ぶ） 第８回　【臨書⑤：行書】　「集字聖教序」の実習（④と文字を変えて） 第９回【臨書⑥：草書】　「十七帖」の実習（ゆったりとした運筆で草書の字形を学ぶ） 第10回　【臨書⑦：草書】　「十七帖」の実習（⑥と文字を変えて） 第11回 古代文字の解説（絵画的な象形文字から始まった漢字の起源に触れる）／隷書・篆書の古典作品鑑賞と基本練習（紀元前の作品を例にして） 第12回 【臨書⑧：隷書】　「乙瑛碑」の実習（逆筆・波磔の習得と粘り強い線の表現） 第13回 【臨書⑨：隷書】　「乙瑛碑」の実習（⑧と文字を変えて） 第14回 【臨書⑩：篆書】　「甲骨文」の実習（亀の甲羅に刻んだ最古の漢字を体験） 第15回 【臨書⑪：篆書】　「石鼓文」の実習（丸みのある形と線の魅力を感じ取る）
成績評価	授業態度50%、課題提出作品の採点50%によって評価する。
教科書	増補版 書道資料集（教育図書刊）
参考書　参考資料	図説 中国書道史（芸術新聞社）
履修上の注意	書道用具の準備と片付けをすみやかに行うこと。特に墨の処理には注意を払う。
予習・復習指導	（具体的な内容） 古典作品を鑑賞し、書風・字形・線質をよく見て理解するとともに、時代背景を調べること。 （必要な時間） １コマに対し、0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。
課題に対するフィードバックの方法	その都度添削。但し提出作品は採点のみ。
教員の実務経験	2007年より教員が運営・代表を務める書道・篆刻教室「碧の会」の講師を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-TR203S

講義名	伝統芸術入門Ⅱ（茶道）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 大室　瑞恵	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	手塚　博子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	所作の意味をより理解し、繰り返し稽古することによって自然で美しい所作を身に付ける。
授業概要	伝統芸術入門Ｉに引き続き、もてなしもてなされる文化を学ぶ。所作の意味をより理解し、自然の流れとして振舞うことが出来るよう稽古していく中で、盆点前を体験し、その流れを学ぶことによってより茶の心を学ぶ。 本科目は本学のディプロマポリシーの１に該当する。
授業計画 授業内容	第１回　前期の復習(席入　立ち居振る舞い) 第２回　お点前　割稽古(袱紗　茶器　茶杓　茶巾の扱い方　茶筅とおし 第３回　お点前　風炉　客の作法 第４回　お点前　風炉　客の作法 第５回　お点前　風炉　客の作法 第６回　お点前　風炉　客の作法 第７回　お点前　風炉　客の作法 第８回　お点前　風炉　客の作法 第９回　お点前　風炉 第10回　お点前　炉 第11回　お点前　炉 第12回　お点前　炉　小間で濃茶　先生がお点前 第13回　お点前　炉 第14回　お点前　炉 第15回　お点前　炉 第12回目初釜形式で
成績評価	授業内容理解度　30%　　授業態度　70%
教科書	決定版　「初めての茶の湯」　主婦の友社
参考書　参考資料	菅田健三著　「茶席の花十二ヶ月」　講談社
履修上の注意	装飾品（時計　指輪　ブレスレット等）不着用　白靴下（初回授業より必要）着用　長髪はまとめる
予習・復習指導	「初めての茶の湯」「茶席の花 十二ヶ月」を読んで予習をしてもらう。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評を行う。質疑応答を随時行う。
科目ナンバリング	COM-TR204S

講義名	伝統芸術入門Ⅱ（華道）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 髙林　佑丞	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	いけばなにおける　和　の本質を十分に理解し、自身を反映するいけばなを創作する。
授業概要	「伝統芸術入門Ⅰ」に加え、いけばなの歴史をひも解きながら、更なる演習を積み重ね、伝統文化といけばな芸術について思考する機会とする。歴史を基に、いけばなにおける普遍的な和と美の本質を十分に理解し、草木美を生かした表現力を身に付けることで、作者自身の想いが反映するいけばなを創作する。本科目は本学のディプロマポリシーの２に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　講義：花伝書概要　五ヶ条・七種伝 第２回　生花　草木集の花　陰陽と出生 第３回　生花　草木集の花　葉物 第４回　生花　一種生　（洋花の現代空間への活用） 第５回　自由花　技術の応用と表現Ⅰ 第６回　自由花　技術の応用と表現Ⅱ 第７回　自由花　技術の応用と表現Ⅲ 第８回　講義：大巻伝の考察と草木の生命感 第９回　生花　二種生　（原則と禁忌事項の確認） 第１０回　生花　草木集の花　伝花 第１１回　自由花　行事の花　加工素材と構成 第１２回　自由花　生活空間を彩る花 第１３回　生花　一種生　（枝物） 第１４回　自由花　グループ制作Ⅰ 第１５回　自由花　グループ制作Ⅱ
成績評価	授業態度（60%）、技術の習熟度および作品（40%）
教科書	はじめる　いけばな　学校華道
参考書　参考資料	池坊いけばなテキスト「生花Ⅰ」・「生花Ⅱ」改訂版　いけばな池坊歴史読本
履修上の注意	演習で使用した花材は、大切に持ち帰ること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、1.5時間の復習をすること （具体的な内容） 演習後、持ち帰った花を生け直し、復習すること。 花と人とのふれあいを大切に、草木の生命を尊ぶこと。
課題に対するフィードバックの方法	演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	生花店勤務
科目ナンバリング	COM-TR204S

講義名	伝統芸術入門Ⅱ（書道）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 川瀬　みゆき	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	落款印および漢字や詩文の書を創作し、作品を完成させる。これにより、余白美や落款の重要性を学び、創造性を養い表現の幅を広げる。
授業概要	前期で実習した篆書(古代文字)を石に彫る「篆刻」を学び、落款(名前印)を制作。書道においては、良寛の臨書、漢字かな交じり書による詩文の制作に取り組み、文字の配置や落款を含めた空間構成を追求する。また作品の仕上げとして、裏打ちの実習も行う。本科目は本学のﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏﾎﾟﾘｼｰ1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　【篆刻①】解説と作品鑑賞／名前の一文字印(ひらがな)制作の下準備(草稿作成等) 第2回　【篆刻②】運刀→補刀→押印→鑑賞と評論 第3回　【篆刻③】篆書の解説(前期のおさらい)／名前の二文字印(篆書)制作の下準備(草稿作成等) 第4回　【篆刻④】草稿の添削と調整→運刀 第5回　【篆刻⑤】補刀→押印→鑑賞と評論 第6回　良寛の解説と作品鑑賞 第7回　良寛の臨書(良寛の書から文字のくずし方と空間構成を学ぶ) 第8回　漢字少数字の創作 第9回　漢字複数字の創作 第10回　落款の解説と押印／裏打ちの実習による作品仕上げ 第11回　漢字かな交じり書の解説と作品鑑賞 第12回　自詠による表現について(詩文を考える) 第13回　漢字かな交じり書の創作① 第14回　漢字かな交じり書の創作② 第15回　押印および裏打ちの実習による作品仕上げ／意見交換と総評
成績評価	授業態度50%、課題提出作品の採点50%によって評価する。
教科書	増補版 書道資料集（教育図書刊）
参考書　参考資料	篆刻・墨場必携(三圭社)、篆刻字林(三圭社)、良寛の名品百選(考古堂)、詩文を書く(芸術新聞社)
履修上の注意	書道用具の準備と片付けをすみやかに行うこと。特に墨の処理には注意を払う。
予習・復習指導	（具体的な内容） 篆刻作品、良寛の書、漢字かな交じり書を鑑賞し、作風・字形・線質をよく見て理解しておくこと。 （必要な時間） １コマに対し、0.5時間の事前学習及び0.5時間の復習をすること。
課題に対するフィードバックの方法	その都度添削。但し提出作品は採点のみ。
教員の実務経験	有
科目ナンバリング	COM-TR204S

講義名	日本文化史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	4		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 村上　隆	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	杉本　歌子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	細かい知識の習得ではなく、歴史の流れを大きく掴むことにより以下の項目に取り組む ・「日本文化」の骨組みと特徴を確認する ・「ほんもの」の京文化に触れ、「京都」で学んだ意義を再認識する ・これからの「日本」を考え、21世紀を生き抜くための知恵を磨く
授業概要	日本の歴史を踏まえて、「日本文化とは何か」を改めて問い直す。新しい文化の創造は、 先人の礎を学ぶこと、すなわち「温故知新」によって開かれることを様々な観点から問う。また、 KYOBIの最終学年において、京都の「大学」で学ぶことの意義を再確認する。本科目は本学のディプロマポリシーの2、3に該当する。
授業計画 授業内容	第1回　イントロダクション　・・・本講義の構成と達成目標を提示・・・（村上担当） 第2～７回「京都からみた日本文化とその歴史」（杉本担当） ・京町家　建造物にひそむ生活文化の形（360度撮影によるバーチャル見学案内） ・幕末　京商人への道のり ・奉公人の生活　人生儀礼から当時の人々の人生を見る ・江戸後期　病・天災・飢餓・大火事　危機をどのように乗り越えたか ・SDG’ｓ　歴史から学ぶ環境にやさしい暮らし ・真似の日本文化　いま・むかし／後半レポート記述時間テーマ『私の考える日本文化　いま・むかし』 第8～14回「温故知新の日本文化史」（村上担当） 暗記中心の日本史から脱却し、さまざまな事象を大きな流れとして「日本文化」をとらえる考え方を身につける。 ・日本文化とは何か ・日本文化の基層 ・日本文化の潮流 ・日本文化各論Ⅰ～Ⅳ ・日本文化の未来を考える 第15回　総括　（村上担当）
成績評価	最終レポート（40%）　小レポート（60%）
教科書	特に使わない
参考書　参考資料	村上　隆「金・銀・銅の日本史」 片山杜秀「歴史という教養」など　　その他、講義の中で適宜紹介
履修上の注意	事前学習は特に求めないが、講義中に興味を持った事項を次の講義までに調べてレポートとして提出する
予習・復習指導	講義1コマに対し、１時間の復習をすること （具体的な内容） 予習：　特に求めない 復習：　講義の中で特に興味をもったテーマを深く追求し、レポートにまとめる ※ネット検索だけではなく、図書館などで実資料にあたることを心掛けること
関連科目	開講されているすべての科目
課題に対するフィードバックの方法	授業内で、小レポートに対して随時コメントし、テーマごとに適時ディスカッションを行う
教員の実務経験	・国立の研究所、博物館などで、日本のものつくりの歴史の実践研究　著作・講演多数（村上） ・杉本家住宅での有形無形文化財の維持管理、古文書調査及び所蔵品保存・活用（杉本）
教員の実務経験有無	有」
科目ナンバリング	COM-TR407L

講義名	京都学演習Ⅰ（デザイン）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 富家　大器	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	餌取　健司	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	「京都」を対象とし、各専攻の専門性における歴史的知識や見識を身につける。
授業概要	1200年の歴史をもつ京都の文化的価値や現代生活との関係を学ぶ。 美術工芸学科のディプロマポリシー１、３に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回各専攻別オリエンテーション 演習全般に関する説明、グループ編成 第2回調査指導 文献調査、資料収集を行う。 途中回演習プログラムの内容についての助言 プログラム1ー調査内容の作成 途中回演習プログラムの内容についての助言 プログラム2ー調査および調査報告書の作成 第15回演習プログラムの内容確認 調査報告書の提出　評価 ※上記日程は各専攻ごとに組み立てる。
成績評価	履修態度および調査内容（50%）調査報告書のレベル（50%）により評価する。
教科書	特になし
参考書　参考資料	京都府の歴史散歩上・下　京都府歴史遺産研究会編　山川出版 アジア古都物語　京都千年の水脈　NHK出版 景観を歩く京都ガイド　清水泰博　岩波アクティブ新書 京都まち遺産探偵　円満字洋介　淡交社 大人の京都探訪　松田彰　リーフ・パブリケーションズ　他
履修上の注意	特にフィールドワーク・校外活動の際は、規律のある行動を取るように気をつけてください。
予習・復習指導	準備学習を行う 自身の興味（視点）と京都における調査対象を定めるため、京都の案内書や歴史書、文化財資料などを学習する。 調査対象を選択し視点と関係する内容を詳細に抽出する。
関連科目	「日本美術史」「伝統住居概論」「文化財概論」「博物館概論」「日本工芸美術史」「社寺建築概論」「文化財修理論」「伝統絵画技法」「京都学」「伝統建築論Ⅰ」「文献-絵画資料概論」「博物館資料論」
課題に対するフィードバックの方法	調査報告書の評価について提出後web掲示板に公開する。
教員の実務経験有無	あり
科目ナンバリング	COM-TR208S

講義名	京都学演習Ⅰ（工芸）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤　公誉	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	「京都」という地域を対象として様々な知識や見識を身につけることを目標にする。同時に調査・観察・研究した内容を的確に発信するために、写真撮影などの技術習得も併せて目標とする。
授業概要	長い歴史をもつ京都の街の成り立ちや文化など、多面的な魅力を考察する。また、これによって得た情報などを適切な形で、他者へわかりやすく伝えるために、デジタルカメラを用いた写真撮影の基礎技術を学習する。これは自身の作品を情報発信する場合にも役立ものでもある。習得に当たっては屋内での講習だけではなく、フィールドワークの形で実際に京都の町中で撮影を行い、撮影成果物の合評も実施する。最終的に、撮影した写真を可能な限りコンクールに出品する。 美術工芸学科のディプロマポリシー1, 3, 4に該当する。
授業計画 授業内容	全15週／週1日 第1週　概要説明 第2週　カメラの原理と構造について　撮影時のサイズやメモリーの容量について 第3週 撮影講習1：まずはオートで　おまかせモードのあれこれ 第4週 撮影講習2：レンズの選択　標準・広角・望遠　単眼とズーム　明るさ（ｆ値） ピント位置・置きピンなど　前回課題合評 第5週 撮影講習3：絞り優先モード　前回課題合評 第6週 撮影講習4：シャッタースピード優先モード　前回課題合評 第7週 撮影講習5：露出補正とは　前回課題合評 第8週　撮影講習6：色温度とホワイトバランス　　前回課題合評 第9週　撮影講習7：ライティングと物撮り・偏光フィルター・マクロ撮影　前回課題合評 第10週　フィールドワーク1 第11週　フィールドワーク1合評 第12週　フィールドワーク2 第13週　フィールドワーク2合評 第14週　発信に関連する事柄について 第15週　総括
成績評価	受講態度及び撮影技術講習ごとに課される課題写真の内容、並びにコンクールへの応募を確認できる資料（エントリーシートのコピー）の確認などにより評価する。
教科書	なし。講習に使用するP.P.のデータを活用する。
参考書　参考資料	「京都の大路小路」「続・京都の大路小路」千宗室　森谷剋久監修　小学館 「京都のトリセツ」昭文社旅行ガイドブック編集部編　昭文社 「京都レトロモダン建物めぐり」片岡れいこ　著　メイツ出版 「大人の京都探訪」リーフパブリケーションズ　編 「商品撮影の基本を学ぶ　プロが教える、上達の早道」熊谷晃　著　　玄光社
履修上の注意	特に自身の京都における興味（視点・モチーフ・調査対象）を定めるため、京都の案内書や歴史書、文化財資料などを事前に学習すること。また日常、街中の様々なものごとをよく観察しておくこと。カメラなど撮影機材についての知識・扱い方についても同様に、予習復習を行い身につけるようにする。 成績評価の欄にも記してあるが、授業ごとに課題が設定されることが多い。課題提出を確認した上ではじめて出席扱いとなり、その回の素点・成績が付与される。よって課題未提出が多い場合は平均の点数が下がり、成績が不可になる可能性が出てくるため注意すること。
予習・復習指導	1コマに対し0.5時間の事前学習及び1.0時間の復習をすること
関連科目	「日本美術史」「伝統住居概論」「文化財概論」「博物館概論」「日本工芸美術史」「社寺建築概論」「文化財修理論」「伝統絵画技法」「京都学」
課題に対するフィードバックの方法	授業時間中に行う合評の中でフィードバックを行う。
科目ナンバリング	COM-TR208S

講義名	京都学演習Ⅰ（建築）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	髙田　光雄	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	京都におけるまち・建築・空間を直接往訪し、現在に受け継がれてきた日本の伝統・文化、美しい町並み・その成り立ち、京都に育まれてきた豊かなコミュニティ等について自ら体験とすることで、「京都らしさ」とは何か、「京都において建築を学ぶ意義」を問う機会とする。また、グループフィールドワークやその結果の発表機会を設けることで、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養成する。
授業概要	京都に関連がある特色のある建造物やまちなみ、景観、庭園などを選定し、その歴史(由来、建設経緯や設計者など)や特性（意匠的・構造的特徴など）を調べる。その結果を、Google My Maps を活用して各自が選定したコンテンツに対応するアイコン、画像（スケッチあるいは写真）、文章やデザイン、レイアウトなどに工夫を凝らし、建築に関連するテーマを定めてストーリー性のあるパンフレットを作成する。本科目は建築学科のディプロマポリシー3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第 1 回　オリエンテーション、課題説明 第 2 回　フィールドワーク① 第 3 回　フィールドワーク② 第 4 回　フィールドワーク③ 第 5 回　フィールドワーク④ 第 6 回　フィールドワーク⑤ 第 7 回　フィールドワーク⑥ 第 8 回　エスキスチェック① 第 9 回　追加調査① 第10 回　追加調査② 第11 回　エスキスチェック② 第12 回　資料作成① 第13 回　資料作成② 第14 回　プレゼンテーション 第15 回　成果物の評価フィールドワーク ※学習への理解、到達状況に加えて、コロナ等の感染状況応じて、フィールドワークの実施可否など適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	提出シート、プレゼンテーション
教科書	なし（配布資料あり、パワーポイントなどを使用）
参考書　参考資料	モダン建築の京都100、建築MAP京都、京都の近代化遺産、京都近代の記録など
履修上の注意	本講義中に行うフィールドワークには必ず出席し、ワークショップに臨むこと。 フィールドワーク時には、大学生としての自覚を持ち、事故のないよう注意すること。 校外学習を行う際は、規律のある行動をとること。
予習・復習指導	フィールドワーク、シートの作成などに当たっては、グループの連携を計り、プレゼンテーションの完成度を高めること。
関連科目	京都学、伝統建築論Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	最終回に成果品、プレゼンテーションに対し講評を行う。
教員の実務経験	調査研究実務経験豊富
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-TR208S

講義名	京都学演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	伝統文化科目		
配当年次	4		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上　直樹	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	“とある地域”の風土に根差した文化をタイトルとして取り上げ、そこに点在する個々の文化遺産を構成要素として選定し、世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえたストーリーを作成する。京都府に存する史跡、名勝、歴史的建造物、伝統的建造物群保存地区、美術品などの文化財に対する理解を深めるとともに、自己の観察力や洞察力、表現力、協調性、自発性を高めることを目標とする。
授業概要	タイトルを決めて、その構成要素を選定し、その歴史や特性を調べ、Googleマイマップにピン止めし、ストーリーを盛り込んだ紹介用パンフレットを作成する。
授業計画 授業内容	夏季集中講座 第1回　　ガイダンス・課題説明・環境設定 第2～13回　進捗状況発表(プロット状況、パンフレットエスキースチェック、質問等) 第14回　　作品提出 第15回　作品講評会
成績評価	受講態度、提出物、プレゼンテーションから総合評価を行う。
教科書	特になし
参考書　参考資料	特になし
履修上の注意	パソコンの環境設定を確実に行うこと。 見学、調査を行う際は、感染病の感染拡大防止に努め、規律ある態度をとること。
予習・復習指導	選定物件に対し、充分な知識を得たうえで、構想を練り練り成果物提出へつなげること。
関連科目	京都学演習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	最終回に講評を行う。
科目ナンバリング	COM-TR409S

3. 教養教育科目 - コミュニケーション科目

京都美術工芸大学シラバス [2022 年度版]

講義名	日本語表現法		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉富　千恵	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	①日本語コミュニケーションの仕組みを理解し、 ②日本語コミュニケーション力を高め、 ③他者との円滑な人間関係を築く力を養うことを、目標とする。
授業概要	本講義では、日本語表現を、「日本語コミュニケーション論」と捉え、社会心理学や言語学にて蓄積された豊富な研究結果を紹介しつつ、日本語コミュニケーション能力を高めることに主眼を置く。 本科目は、本学のディプロマポリシーの３に該当する
授業計画 授業内容	第1回 日本語表現法とは？ 第2回 コミュニケーションの仕組み① 第3回 コミュニケーションの仕組み② 第4回 非言語コミュニケーションとは① 第5回 非言語コミュニケーションとは② 第6回 言語コミュニケーション 第7回 異文化間コミュニケーション 第8回 日本人のコミュニケーションについて 第9回 コミュニケーションスキル（基礎） 第10回 コミュニケーションスキル（発展） 第11回 恋愛コミュニケーション 第12回 伝える力 第13回 アサーティブトレーニング 第14回 アサーティブトレーニング 第15回 総まとめ
成績評価	期末レポート７０％、その他３０％（授業態度、自主レポートなど）
教科書	特に指定しない．毎回レジュメを配布する
参考書　参考資料	末田清子・福田浩子著『コミュニケーション学－その展望と視点－』松柏社
履修上の注意	講義中にグループワークを入れいることがあるため（オンライン講義であっても）、積極的に参加できる方を望みます。
予習・復習指導	毎回の準備は特にありません。準備が必要の場合には、適宜指示します。
関連科目	「人間関係の科学」
課題に対するフィードバックの方法	感想、質問等レポートを課した場合には、次回以降の講義内で行う
教員の実務経験	なし
教員の実務経験有無	なし
科目ナンバリング	COM-C0101S

講義名	英会話Ⅰ（Aｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	英語の基礎を知識としてではなく言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数（読んでわかり、聞いてわかり、自分で使える単語の数）と最低限の規則（文法）が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。 また、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICに挑戦できる実力がつくことをめざす。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　授業計画紹介　Orientation, Self Introduction in English 第2週　Unit 1: Listening & Reading Practice 1 第3週　Unit 2: Listening & Reading Practice 2 第4週　Unit 3: Listening & Reading Practice 3 第5週　Unit 4: Listening & Reading Practice 4 第6週　Review (1) Unit 1-4までの習熟度確認 第7週　Unit 5: Listening & Reading Practice 5 第8週　Unit 6: Listening & Reading Practice 6 第9週　Unit 7: Listening & Reading Practice 7 第10週 Unit 8: Listening & Reading Practice 8 第11週 Review (2) Unit 5-8までの習熟度確認 第12週 Unit 9: Listening & Reading Practice 9 第13週 Unit 10: Listening & Reading Practice 10 第14週 Unit 11: Listening & Reading Practice 11 第15週 Review (3) Unit 12による前期の習熟度確認 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, Review Test 3回 30%, 授業中の提出物等 20%, 積極的な授業への参加 20%
教科書	Welcome to the TOEIC L&R Test（新訂版 TOEIC L&R テストへようこそ） 北原良夫編著（株）朝日出版社 ISBN 978-4-255-15649-1
参考書　参考資料	英和辞典、和英辞典
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、リスニングが苦手な人は何度も聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	美術工芸英語、英会話II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。小テストは間違った箇所を確認できるように、必ず返却する。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO102S

講義名	英会話Ⅰ（Bｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	英語の基礎を知識としてではなく言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数（読んでわかり、聞いてわかり、自分で使える単語の数）と最低限の規則（文法）が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。 また、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICに挑戦できる実力がつくことをめざす。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　授業計画紹介　Orientation, Self Introduction in English 第2週　Unit 1: Friends 第3週　Unit 2: Hobbies 第4週　Unit 3: Commuting 第5週　Review (1) Unit 1-3までの習熟度確認 第6週Unit 4: Fashion 第7週Unit 5: Personality 第8週Unit 6: Sleep 第9週Unit 7: Travel 第10週 Review (2) Unit 4-7までの習熟度確認 第11週 Unit 8: Diets 第12週 Unit 9: Money 第13週 Unit 10: E-books 第14週 Review (3) Unit 8-10までの習熟度確認 第15週 Speaking Test （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, Review Test 3回 30%, Speaking Test 20%, 授業中の提出物等積極的な授業への参加 20%
教科書	Companion to TOEIC Bridge L&R Tests（大学生のためのTOEIC Bridge L&R Tests演習） エスタ・ウェア他著（株）南雲堂 ISBN 978-4-523-17925-2（後期は同じ教科書の後半部を使用する）
参考書　参考資料	英和辞典、和英辞典
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、リスニングが苦手な人は何度も聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	美術工芸英語、英会話 II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。小テストは間違った箇所を確認できるように、必ず返却する。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-C0102S

講義名	英会話Ⅰ（Cｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	英語の基礎を知識としてではなく言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数（読んでわかり、聞いてわかり、自分で使える単語の数）と最低限の規則（文法）が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。 また、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICに挑戦できる実力がつくことをめざす。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　授業計画紹介　Orientation, Self Introduction in English 第2週　Unit 1: Listening & Reading Practice 1 第3週　Unit 2: Listening & Reading Practice 2 第4週　Unit 3: Listening & Reading Practice 3 第5週　Unit 4: Listening & Reading Practice 4 第6週　Review (1) Unit 1-4までの習熟度確認 第7週　Unit 5: Listening & Reading Practice 5 第8週　Unit 6: Listening & Reading Practice 6 第9週　Unit 7: Listening & Reading Practice 7 第10週 Unit 8: Listening & Reading Practice 8 第11週 Review (2) Unit 5-8までの習熟度確認 第12週 Unit 9: Listening & Reading Practice 9 第13週 Unit 10: Listening & Reading Practice 10 第14週 Unit 11: Listening & Reading Practice 11 第15週 Review (3) Unit 12による前期の習熟度確認 (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, Review Test 3回 30%, 授業中の提出物等 20%, 積極的な授業への参加 20%
教科書	Welcome to the TOEIC L&R Test（新訂版 TOEIC L&R テストへようこそ） 北原良夫編著（株）朝日出版社 ISBN 978-4-255-15649-1
参考書　参考資料	英和辞典、和英辞典
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、リスニングが苦手な人は何度も聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	美術工芸英語、英会話 II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。小テストは間違った箇所を確認できるように、必ず返却する。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-C0102S

講義名	英会話Ⅰ（Dｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 占部　幹也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	TOEIC L&R テストスコア500点を目標とする。
授業概要	中学・高校で学習した文法と語彙をベースにしたうえで、実社会で求められるビジネスに直結した実践的なリーディング力とリスニング力を養うことを主眼とする。また、ビジネス分野における読解力・聴解力を測る目安とされているTOEIC L&Rテスト受験に向けての対策を行ことでスコアアップを目指す。あわせて英語を用いた日常のコミュニケーションへの心理的垣根を取り除くことを目指す。 【追加】卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について 本学ディプロマポリシー2、3に該当する。
授業計画 授業内容	対面による演習（ペアワーク・グループワークを含む） 1 オリエンテーション：英語を学ぶ意義と必要性/TOEICテスト概要確認/スコアアップのための学習法 2 単語テスト／Unit01　人物の動作と状態／表・用紙 3 単語テスト／Unit02　疑問詞を使った疑問文／広告 4 単語テスト／Unit03　日常場面での会話／品詞 5 単語テスト／Unit04　アナウンス・ツアー／動詞 6 単語テスト／Unit05　物の状態と位置／チャット 7 単語テスト／Unit06　基本構文と応答の決まり文句／手紙・Eメール 8 単語テスト／Unit07　電話での会話／代名詞・関係代名詞 9 単語テスト／Unit08　ラジオ放送・宣伝／接続詞・前置詞 10 単語テスト／Unit09　Yes/No疑問文／ダブルパッセージ 11 単語テスト／Unit10　オフィスでの会話①／Part5復習 12 単語テスト／Unit11　留守番電話／トリプルパッセージ 13 単語テスト／Unit12　オフィスでの会話②／Part7復習 14 単語テスト／Unit13　Part1・Part2復習／時制・代名詞・語彙問題 15 単語テスト／Unit14　トーク・スピーチ・会議の一部／つなぎ言葉・文の挿入
成績評価	評価ポイント：小テスト（30%）　受講態度（40%）　期末テスト（30%）
教科書	テキスト：MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST 桐原書店　￥1700＋税
参考書　参考資料	副教材：TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ　朝日新聞出版　￥890＋税
履修上の注意	授業の予習復習も含めて主体的に学習に取り組むこと。
予習・復習指導	1回の授業に対して1時間の予習と2時間の復習を確保すること。 （具体的な内容） ・単語テスト用に指定された単語を覚えて来る。 ・前回授業で取り組んだ問題に繰り返し取り組む（解きなおし／聞き直し／読み直し）。
関連科目	必要に応じて高校時・受験時の参考書を参照すること。
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じてクラスルームを活用
教員の実務経験	指導実績：立命館、関学、関大、橘大、近大、大工大、樟蔭女子大、竜谷大、京都先端科学大等 京セラ、シャープ、パナソニック、資生堂、三菱商事、森精機、日本電産、損保ジャパン等
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-C0102S

講義名	英会話Ⅰ（Eｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	英語の基礎を知識としてではなく言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数（読んでわかり、聞いてわかり、自分で使える単語の数）と最低限の規則（文法）が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。 また、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICに挑戦できる実力がつくことをめざす。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　授業計画紹介　Orientation, Self Introduction in English 第2週　Unit 1: Listening & Reading Practice 1 第3週　Unit 2: Listening & Reading Practice 2 第4週　Unit 3: Listening & Reading Practice 3 第5週　Unit 4: Listening & Reading Practice 4 第6週　Review (1) Unit 1-4までの習熟度確認 第7週　Unit 5: Listening & Reading Practice 5 第8週　Unit 6: Listening & Reading Practice 6 第9週　Unit 7: Listening & Reading Practice 7 第10週 Unit 8: Listening & Reading Practice 8 第11週 Review (2) Unit 5-8までの習熟度確認 第12週 Unit 9: Listening & Reading Practice 9 第13週 Unit 10: Listening & Reading Practice 10 第14週 Unit 11: Listening & Reading Practice 11 第15週 Review (3) Unit 12による前期の習熟度確認 (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, Review Test 3回 30%, 授業中の提出物等 20%, 積極的な授業への参加 20%
教科書	Welcome to the TOEIC L&R Test（新訂版 TOEIC L&R テストへようこそ） 北原良夫編著（株）朝日出版社 ISBN 978-4-255-15649-1
参考書　参考資料	英和辞典、和英辞典
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、リスニングが苦手な人は何度も聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	美術工芸英語、英会話 II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。小テストは間違った箇所を確認できるように、必ず返却する。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-C0102S

講義名	英会話Ⅰ（Fｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	英語の基礎を知識としてではなく言語として使用できるようにする。そのためには十分な語彙数（読んでわかり、聞いてわかり、自分で使える単語の数）と最低限の規則（文法）が必要となる。語彙数の習熟度には個人差があるが、各々コミュニケーションに必要な語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。 また、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICに挑戦できる実力がつくことをめざす。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　授業計画紹介　Orientation, Self Introduction in English 第2週　Unit 1: Friends 第3週　Unit 2: Hobbies 第4週　Unit 3: Commuting 第5週　Review (1) Unit 1-3までの習熟度確認 第6週Unit 4: Fashion 第7週Unit 5: Personality 第8週Unit 6: Sleep 第9週Unit 7: Travel 第10週 Review (2) Unit 4-7までの習熟度確認 第11週 Unit 8: Diets 第12週 Unit 9: Money 第13週 Unit 10: E-books 第14週 Review (3) Unit 8-10までの習熟度確認 第15週 Speaking Test （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, Review Test 3回 30%, Speaking Test 20%, 授業中の提出物等積極的な授業への参加 20%
教科書	Companion to TOEIC Bridge L&R Tests（大学生のためのTOEIC Bridge L&R Tests演習） エスタ・ウェア他著（株）南雲堂 ISBN 978-4-523-17925-2（後期も同じ教科書の後半部を使用する）
参考書　参考資料	英和辞典、和英辞典
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、リスニングが苦手な人は何度も聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	美術工芸英語、英会話 II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。小テストは間違った箇所を確認できるように、必ず返却する。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO102S

講義名	美術工芸英語（Aｸﾗｽ）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 占部　幹也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	TOEIC L&R テストスコア500点を目標とする。
授業概要	中学・高校で学習した文法と語彙をベースにしたうえで、実社会で求められるビジネスに直結した実践的なリーディング力とリスニング力を養うことを主眼とする。また、ビジネス分野における読解力・聴解力を測る目安とされているTOEIC L&Rテスト受験に向けての対策を行ことでスコアアップを目指す。あわせて英語を用いた日常のコミュニケーションへの心理的垣根を取り除くことを目指す。 【追加】卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について 本学ディプロマポリシー2、3に該当する。
授業計画 授業内容	対面による演習（ペアワーク・グループワークを含む） 1 オリエンテーション：英語を学ぶ意義と必要性/TOEICテスト概要確認/スコアアップのための学習法 2 単語テスト／Unit01　人物の動作と状態／表・用紙 3 単語テスト／Unit02　疑問詞を使った疑問文／広告 4 単語テスト／Unit03　日常場面での会話／品詞 5 単語テスト／Unit04　アナウンス・ツアー／動詞 6 単語テスト／Unit05　物の状態と位置／チャット 7 単語テスト／Unit06　基本構文と応答の決まり文句／手紙・Eメール 8 単語テスト／Unit07　電話での会話／代名詞・関係代名詞 9 単語テスト／Unit08　ラジオ放送・宣伝／接続詞・前置詞 10 単語テスト／Unit09　Yes/No疑問文／ダブルパッセージ 11 単語テスト／Unit10　オフィスでの会話①／Part5復習 12 単語テスト／Unit11　留守番電話／トリプルパッセージ 13 単語テスト／Unit12　オフィスでの会話②／Part7復習 14 単語テスト／Unit13　Part1・Part2復習／時制・代名詞・語彙問題 15 単語テスト／Unit14　トーク・スピーチ・会議の一部／つなぎ言葉・文の挿入
成績評価	評価ポイント：小テスト（30%）　受講態度（40%）　期末テスト（30%）
教科書	テキスト：MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST 桐原書店　￥1700＋税
参考書　参考資料	副教材：TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ　朝日新聞出版　￥890＋税
履修上の注意	授業の予習復習も含めて主体的に学習に取り組むこと。
予習・復習指導	1回の授業に対して1時間の予習と2時間の復習を確保すること。 （具体的な内容） ・単語テスト用に指定された単語を覚えて来る。 ・前回授業で取り組んだ問題に繰り返し取り組む（解きなおし／聞き直し／読み直し）。
関連科目	必要に応じて高校時・受験時の参考書を参照すること。
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じてクラスルームを活用
教員の実務経験	指導実績：立命館、関学、関大、橘大、近大、大工大、樟蔭女子大、竜谷大、京都先端科学大等 京セラ、シャープ、パナソニック、資生堂、三菱商事、森精機、日本電産、損保ジャパン等
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-C0103S

講義名	美術工芸英語（Bｸﾗｽ）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	前期の英語学習に基づき、語彙数（読んでわかり、聞いてわかり、自分で使える単語の数）をさらに増やし、最低限の規則（文法）をマスターすることを目標とする。 また、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICに挑戦できる実力がつくことをめざす。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　Unit 11: Online Friendsを使用したWarming-Up 第2週　Unit 12: Productivity 第3週　Unit 13: Pets 第4週　Unit 14: Made by Hand 第5週　Review (1) Unit 12-14までの習熟度確認 第6週Unit 15: Writing 第7週Unit 16: Food Culture 第8週Unit 17: Stress 第9週 Review (2) Unit 15-17までの習熟度確認 第10週 Unit 18: Ghosts 第11週 Unit 19: Housing 第12週 Unit 20: Gender Equality 第13週 Review (3) Unit 18-20までの習熟度確認 第14週 Speaking Test 第15週 これまでのReviewと定期試験対策 (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, Review Test 3回 30%, Speaking Test 20%, 授業中の提出物等積極的な授業への参加 20%
教科書	Companion to TOEIC Bridge L&R Tests（大学生のためのTOEIC Bridge L&R Tests演習） エスタ・ウェア他著（株）南雲堂 ISBN 978-4-523-17925-2（前期と同じ教科書の後半部を使用する）
参考書　参考資料	英和辞典　和英辞典
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、リスニングが苦手な人は何度も聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話I　英会話II　英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。小テストは間違った箇所を確認できるように、必ず返却する。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO103S

講義名	美術工芸英語（Cｸﾗｽ）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 占部　幹也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	TOEIC L&R テストスコア500点を目標とする。
授業概要	中学・高校で学習した文法と語彙をベースにしたうえで、実社会で求められるビジネスに直結した実践的なリーディング力とリスニング力を養うことを主眼とする。また、ビジネス分野における読解力・聴解力を測る目安とされているTOEIC L&Rテスト受験に向けての対策を行ことでスコアアップを目指す。あわせて英語を用いた日常のコミュニケーションへの心理的垣根を取り除くことを目指す。 【追加】卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について 本学ディプロマポリシー2、3に該当する。
授業計画 授業内容	対面による演習（ペアワーク・グループワークを含む） 1 オリエンテーション：英語を学ぶ意義と必要性/TOEICテスト概要確認/スコアアップのための学習法 2 単語テスト／Unit01　人物の動作と状態／表・用紙 3 単語テスト／Unit02　疑問詞を使った疑問文／広告 4 単語テスト／Unit03　日常場面での会話／品詞 5 単語テスト／Unit04　アナウンス・ツアー／動詞 6 単語テスト／Unit05　物の状態と位置／チャット 7 単語テスト／Unit06　基本構文と応答の決まり文句／手紙・Eメール 8 単語テスト／Unit07　電話での会話／代名詞・関係代名詞 9 単語テスト／Unit08　ラジオ放送・宣伝／接続詞・前置詞 10 単語テスト／Unit09　Yes/No疑問文／ダブルパッセージ 11 単語テスト／Unit10　オフィスでの会話①／Part5復習 12 単語テスト／Unit11　留守番電話／トリプルパッセージ 13 単語テスト／Unit12　オフィスでの会話②／Part7復習 14 単語テスト／Unit13　Part1・Part2復習／時制・代名詞・語彙問題 15 単語テスト／Unit14　トーク・スピーチ・会議の一部／つなぎ言葉・文の挿入
成績評価	評価ポイント：小テスト（30%）　受講態度（40%）　期末テスト（30%）
教科書	テキスト：MASTERY DRILLS FOR THE TOEIC L&R TEST 桐原書店　￥1700＋税
参考書　参考資料	副教材：TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ　朝日新聞出版　￥890＋税
履修上の注意	授業の予習復習も含めて主体的に学習に取り組むこと。
予習・復習指導	1回の授業に対して1時間の予習と2時間の復習を確保すること。 （具体的な内容） ・単語テスト用に指定された単語を覚えて来る。 ・前回授業で取り組んだ問題に繰り返し取り組む（解きなおし／聞き直し／読み直し）。
関連科目	必要に応じて高校時・受験時の参考書を参照すること。
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じてクラスルームを活用
教員の実務経験	指導実績：立命館、関学、関大、橘大、近大、大工大、樟蔭女子大、竜谷大、京都先端科学大等 京セラ、シャープ、パナソニック、資生堂、三菱商事、森精機、日本電産、損保ジャパン等
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO103S

講義名	美術工芸英語（Dｸﾗｽ）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	本来は専門分野で使う英語を学んでもらう科目だが、どの専門分野でも必要となるコミュニケーションのための語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。就職、進学に備え、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICで５００点以上を獲得できる実力を目指す。
授業概要	どの専門分野でも必要なコミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手を理解し、自分の意思を伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　授業計画紹介 Unit 1: Eating Out 第2週　Unit 2: Travel 第3週　Unit 3: Amusement 第4週　Unit 4: Meetings 第5週　Unit 5: Personnel 第6週　Unit 6: Shopping 第7週　Unit 7: Advertisement 第8週　Unit 8: Daily Life 第9週　Unit 9: Office Work 第10週 Unit 10: Business 第11週 Unit 11: Traffic 第12週 Unit 12: Finance and Banking 第13週 Unit 13: Media 第14週 Unit 14: Health and Welfare 第15週 これまでのReviewと定期試験対策 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, 授業内提出物等 50%, 平常点 20%
教科書	STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND RESDING TEST - Advanced -（一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3） 北尾泰幸他編著（株）朝日出版社 ISBN 978-4-255-15596-8
参考書　参考資料	英和辞典　和英辞典
履修上の注意	日本語での知識があればあるほど英文は読みやすく、聞き取りやすくなる。身の回りや国内国外のニュースをはじめさまざまなことに常に関心を持つと英語理解が深まる。
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、長いリスニング問題は聞き取れるまで何度も繰り返し聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話I　英会話II　英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。毎回の提出物は間違った箇所を確認できるように、必ずfeedbackする。随時教室でまたはメールで質問を受けつける。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO103S

講義名	美術工芸英語（Eｸﾗｽ）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	これまでの英語学習成果に基づき、さらに語彙数（読んでわかり、聞いてわかり、自分で使える単語の数）を増やし、最低限の規則（文法）をマスターする。 また、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICに挑戦できる実力をつけることをめざす。
授業概要	TOEIC受験を視野に入れて、コミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第１週 授業計画紹介 Unit 1: Restaurants 第２週 Unit 2: Offices 第３週 Unit 3: Daily Life 第４週 Unit 4: Personnel 第５週 Unit 5: Shopping 第６週 Unit 6: Finances 第７週 Unit 7: Transportation 第８週 Unit 8: Technology 第９週 Unit 9: Health 第10週 Unit 10: Travel 第11週 Unit 11: Business 第12週 Unit 12: Entertainment 第13週 Unit 13: Education 第14週 Unit 14: Housing 第15週 これまでのReviewと定期試験対策 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, 授業内提出物等 50%, 平常点 20%
教科書	A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC L&R TEST Book 1: Elementary（コミュニケーションスキルが身に付くTOEIC L&R TEST初級編） 角山照彦他著（株)成美堂 ISBN 978-4-7919-7252-4
参考書　参考資料	英和辞典　和英辞典
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、長いリスニング問題は聞き取れるまで何度も繰り返し聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話Ⅰ、英会話II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。毎回の提出物は間違った箇所を確認できるように、必ずfeedbackする。随時教室でまたはメールで質問を受けつける。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO103S

講義名	美術工芸英語（Fｸﾗｽ）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	前期の英語学習に基づき、語彙数（読んでわかり、聞いてわかり、自分で使える単語の数）をさらに増やし、最低限の規則（文法）をマスターすることを目標とする。 また、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICに挑戦できる実力がつくことをめざす。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　Unit 11: Online Friendsを使用したWarming-Up 第2週　Unit 12: Productivity 第3週　Unit 13: Pets 第4週　Unit 14: Made by Hand 第5週　Review (1) Unit 12-14までの習熟度確認 第6週Unit 15: Writing 第7週Unit 16: Food Culture 第8週Unit 17: Stress 第9週 Review (2) Unit 15-17までの習熟度確認 第10週 Unit 18: Ghosts 第11週 Unit 19: Housing 第12週 Unit 20: Gender Equality 第13週 Review (3) Unit 18-20までの習熟度確認 第14週 Speaking Test 第15週 これまでのReviewと定期試験対策 (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, Review Test 3回 30%, Speaking Test 20%, 授業中の提出物等積極的な授業への参加 20%
教科書	Companion to TOEIC Bridge L&R Tests（大学生のためのTOEIC Bridge L&R Tests演習） エスタ・ウェア他著（株）南雲堂 ISBN 978-4-523-17925-2（前期と同じ教科書の後半部を使用する）
参考書　参考資料	英和辞典　和英辞典
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、リスニングが苦手な人は何度も聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話I、英会話II、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。小テストは間違った箇所を確認できるように、必ず返却する。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
科目ナンバリング	COM-CO103S

講義名	英会話Ⅱ（Aｸﾗｽ）上級		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 占部　幹也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	TOEIC L&R テストスコア600点を目標とする。
授業概要	中学・高校で学習した文法と語彙をベースにしたうえで、実社会で求められるビジネスに直結した実践的なリーディング力とリスニング力を養うことを主眼とする。また、ビジネス分野における読解力・聴解力を測る目安とされているTOEIC L&Rテスト受験に向けての対策を行ことでスコアアップを目指す。あわせて英語を用いた日常のコミュニケーションへの心理的垣根を取り除くことを目指す。 【追加】卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について 本学ディプロマポリシー2、3に該当する。
授業計画 授業内容	対面による演習（ペアワーク・グループワークを含む） 1 オリエンテーション：英語を学ぶ意義と必要性/TOEICテスト概要確認/スコアアップのための学習法 2 単語テスト／音読・シャドーイング／短文穴埋め問題対策／長文読解演習 3 単語テスト／音読・シャドーイング／短文穴埋め問題対策／長文読解演習 4 単語テスト／音読・シャドーイング／短文穴埋め問題対策／長文読解演習 5 単語テスト／音読・シャドーイング／短文穴埋め問題対策／長文読解演習 6 単語テスト／音読・シャドーイング／短文穴埋め問題対策／長文読解演習 7 単語テスト／音読・シャドーイング／短文穴埋め問題対策／長文読解演習 8 単語テスト／音読・シャドーイング／短文穴埋め問題対策／長文読解演習 9 単語テスト／音読・シャドーイング／短文穴埋め問題対策／長文読解演習 10 単語テスト／音読・シャドーイング／短文穴埋め問題対策／長文読解演習 11 単語テスト／音読・シャドーイング／短文穴埋め問題対策／長文読解演習 12 ミニテスト 13 単語テスト／音読・シャドーイング／短文穴埋め問題対策／長文読解演習 14 単語テスト／音読・シャドーイング／短文穴埋め問題対策／長文読解演習 15 単語テスト／音読・シャドーイング／短文穴埋め問題対策／長文読解演習
成績評価	評価ポイント：小テスト（30%）　受講態度（40%）　期末テスト（30%）
教科書	テキスト：はじめてのTOEIC L&R テスト入門模試　Jリサーチ出版　￥800+税
参考書　参考資料	副教材：TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ　朝日新聞出版　￥890円＋税
履修上の注意	授業の予習復習も含めて主体的に学習に取り組むこと。
予習・復習指導	1回の授業に対して1時間の予習と2時間の復習を確保すること。 （具体的な内容） ・単語テスト用に指定された単語を覚えて来る。 ・前回授業で取り組んだ問題に繰り返し取り組む（解きなおし／聞き直し／読み直し）。
関連科目	必要に応じて高校時・受験時の参考書を参照すること。
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じてクラスルームを活用
教員の実務経験	指導実績：立命館、関学、関大、橘大、近大、大工大、樟蔭女子大、竜谷大、京都先端科学大等 京セラ、シャープ、パナソニック、資生堂、三菱商事、森精機、日本電産、損保ジャパン等
科目ナンバリング	COM-CO204S

講義名	英会話Ⅱ（Bｸﾗｽ）中級		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	どの専門分野でも必要となるコミュニケーションのための語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。就職、進学に備え、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICで５００点以上を獲得できる実力を目指す。
授業概要	TOEIC 500点以上をめざすテキストを使用し、どの専門分野でも必要なコミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手を理解し、自分の意思を伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　授業計画紹介 Unit 1: Restaurants 第2週　Unit 2: Entertainment 第3週　Unit 3: Business 第4週　Unit 4: The Office 第5週　Unit 5: Telephone 第6週　Unit 6: Letters & E-mails 第7週　Unit 7: Health 第8週　Unit 8: The Bank & The Post Office 第9週　Unit 9: New Products 第10週 Unit 10: Travel 第11週 Unit 11: Daily Life 第12週 Unit 12: Job Applications 第13週 Unit 13: Shopping 第14週 Unit 14: Education 第15週 これまでのReviewと定期試験対策 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, 授業内提出物等 50%, 平常点 20%
教科書	BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST - Intermediate -（TOEIC L&R TESTへの総合アプローチ, Intermediate） 吉塚弘他著（株)成美堂 ISBN 978-4-7919-7253-1
参考書　参考資料	英和辞典、和英辞典
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、長いリスニング問題は聞き取れるまで何度も繰り返し聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話 I、美術工芸英語、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。毎回の提出物は間違った箇所を確認できるように、必ずfeedbackする。随時教室でまたはメールで質問を受けつける。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO204S

講義名	英会話Ⅱ（Cｸﾗｽ）中級		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	どの専門分野でも必要となるコミュニケーションのための語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。就職、進学に備え、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICで５００点以上を獲得できる実力を目指す。
授業概要	TOEIC 500点以上をめざすテキストを使用し、どの専門分野でも必要なコミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手を理解し、自分の意思を伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　授業計画紹介 Unit 1: Restaurants 第2週　Unit 2: Entertainment 第3週　Unit 3: Business 第4週　Unit 4: The Office 第5週　Unit 5: Telephone 第6週　Unit 6: Letters & E-mails 第7週　Unit 7: Health 第8週　Unit 8: The Bank & The Post Office 第9週　Unit 9: New Products 第10週 Unit 10: Travel 第11週 Unit 11: Daily Life 第12週 Unit 12: Job Applications 第13週 Unit 13: Shopping 第14週 Unit 14: Education 第15週 これまでのReviewと定期試験対策 (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, 授業内提出物等 50%, 平常点 20%
教科書	BEST PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST - Intermediate - (TOEIC L&R TESTへの総合アプローチ, Intermediate) 吉塚弘他著 (株)成美堂 ISBN 978-4-7919-7253-1
参考書　参考資料	英和辞典、和英辞典
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、長いリスニング問題は聞き取れるまで何度も繰り返し聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話 I、美術工芸英語、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。毎回の提出物は間違った箇所を確認できるように、必ずfeedbackする。随時教室でまたはメールで質問を受けつける。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO204S

講義名	英会話Ⅱ（Dｸﾗｽ）初級		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	これまでの英語学習成果に基づき、さらに語彙数（読んでわかり、聞いてわかり、自分で使える単語の数）を増やし、最低限の規則（文法）をマスターする。 また、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICに挑戦できる実力をつけることをめざす。
授業概要	コミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手をおおまかに理解し、自分の意思をある程度伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第１週 授業計画紹介 Unit 1: Restaurants 第２週 Unit 2: Offices 第３週 Unit 3: Daily Life 第４週 Unit 4 Personnel 第５週 Unit 5 Shopping 第６週 Unit 6 Finances 第７週 Unit 7 Transportation 第８週 Unit 8 Technology 第９週 Unit 9 Health 第10週 Unit 10: Travel 第11週 Unit 11: Business 第12週 Unit 12: Entertainment 第13週 Unit 13: Education 第14週 Unit 14 Housing 第15週 これまでのReviewと定期試験対策 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, 授業内提出物等 50%, 平常点 20%
教科書	A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC L&R TEST Book 1: Elementary（コミュニケーションスキルが身に付くTOEIC L&R TEST初級編） 角山照彦他著（株)成美堂 ISBN 978-4-7919-7252-4
参考書　参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、長いリスニング問題は聞き取れるまで何度も繰り返し聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話 I、美術工芸英語、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。毎回の提出物は間違った箇所を確認できるように、必ずfeedbackする。随時教室でまたはメールで質問を受けつける。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO204S

講義名	英会話Ⅱ（Eｸﾗｽ）中級		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	どの専門分野でも必要となるコミュニケーションのための語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。就職、進学に備え、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICで５００点以上を獲得できる実力を目指す。
授業概要	TOEIC 500点以上をめざすテキストを使用し、どの専門分野でも必要なコミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手を理解し、自分の意思を伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　授業計画紹介 Unit 1: Eating Out 第2週　Unit 2: Travel 第3週　Unit 3: Amusement 第4週　Unit 4: Meetings 第5週　Unit 5: Personnel 第6週　Unit 6: Shopping 第7週　Unit 7: Advertisement 第8週　Unit 8: Daily Life 第9週　Unit 9: Office Work 第10週 Unit 10: Business 第11週 Unit 11: Traffic 第12週 Unit 12: Finance and Banking 第13週 Unit 13: Media 第14週 Unit 14: Health and Welfare 第15週 これまでのReviewと定期試験対策 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, 授業内提出物等 50%, 平常点 20%
教科書	STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND RESDING TEST - Advanced -- （一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3） 北尾泰幸他編著（株）朝日出版社 ISBN 978-4-255-15596-8
参考書　参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	日本語での知識があればあるほど英文は読みやすく、聞き取りやすくなる。身の回りや国内国外のニュースをはじめさまざまなことに常に関心を持つと英語理解が深まる。
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、長いリスニング問題は聞き取れるまで何度も繰り返し聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話 I、美術工芸英語、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。毎回の提出物は間違った箇所を確認できるように、必ずfeedbackする。随時教室でまたはメールで質問を受けつける。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO204S

講義名	英会話Ⅱ（Fｸﾗｽ）中級		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	どの専門分野でも必要となるコミュニケーションのための語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。就職、進学に備え、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICで５００点以上を獲得できる実力を目指す。
授業概要	TOEIC 500点以上をめざすテキストを使用し、どの専門分野でも必要なコミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手を理解し、自分の意思を伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　授業計画紹介 Unit 1: Eating Out 第2週　Unit 2: Travel 第3週　Unit 3: Amusement 第4週　Unit 4: Meetings 第5週　Unit 5: Personnel 第6週　Unit 6: Shopping 第7週　Unit 7: Advertisement 第8週　Unit 8: Daily Life 第9週　Unit 9: Office Work 第10週 Unit 10: Business 第11週 Unit 11: Traffic 第12週 Unit 12: Finance and Banking 第13週 Unit 13: Media 第14週 Unit 14: Health and Welfare 第15週 これまでのReviewと定期試験対策 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, 授業内提出物等 50%, 平常点 20%
教科書	STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND RESDING TEST - Advanced -- （一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3） 北尾泰幸他編著（株）朝日出版社 ISBN 978-4-255-15596-8
参考書　参考資料	英和辞典、和英辞典
履修上の注意	日本語での知識があればあるほど英文は読みやすく、聞き取りやすくなる。身の回りや国内国外のニュースをはじめさまざまなことに常に関心を持つと英語理解が深まる。
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、長いリスニング問題は聞き取れるまで何度も繰り返し聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話 I、美術工芸英語、英語コミュニケーション
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。毎回の提出物は間違った箇所を確認できるように、必ずfeedbackする。随時教室でまたはメールで質問を受けつける。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO204S

講義名	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（Aｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	どの専門分野でも必要となるコミュニケーションのための語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。就職、進学に備え、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICで５００点以上を獲得できる実力を目指す。
授業概要	TOEIC 500点以上をめざすテキストを使用し、どの専門分野でも必要なコミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手を理解し、自分の意思を伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　授業計画紹介 Unit 1: Sightseeing 第2週　Unit 2: Restaurant 第3週　Unit 3: Hotel / Service 第4週　Unit 4: Employment 第5週　Unit 5: Entertainment 第6週　Unit 6:Shopping / Purchases 第7週　Unit 7: Sports / Health 第8週　Unit 8: Doctor’ s Office / Pharmacy 第9週　Unit 9: Hobbies / Art 第10週 Unit 10: Education / Schools 第11週 Unit 11: Technology / Office Supplies 第12週 Unit 12: Transportation 第13週 Unit 13: Travel / Airport 第14週 Unit 14: Housing / Construction 第15週 Review および定期試験対策 （授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。）
成績評価	評価ポイント：　定期試験 30%, 授業内提出物等 50%, 平常点 20%
教科書	PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC L&R TEST (600点を目指すTOEIC L&R TESTへのストラテジー) 松本恵美子他著 (株)成美堂 ISBN 978-4-7919-7233-3
参考書　参考資料	英和辞典　和英辞典
履修上の注意	この授業は、TOEIC対策に特化したクラスで、コミュニケーション科目の単位不足を補うためのセーフティーネットではありません。英会話IIの単位を落とした人は、このクラスではなく、英会話IIを再履修してください。英会話IIをまだ履修していない人は、まず英会話IIを履修してください。 この授業を履修する場合「英語コミュニケーション B」は履修できません。
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、長いリスニング問題は聞き取れるまで何度も繰り返し聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話 I・美術工芸英語・英会話 II
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。毎回の提出物は間違った箇所を確認できるように、必ずfeedbackする。随時教室でまたはメールで質問を受けつける。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO305S

講義名	英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（Bｸﾗｽ）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ ヒルド　麻美	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	どの専門分野でも必要となるコミュニケーションのための語彙数を確実に増やすことを一番の目標とする。就職、進学に備え、英語によるコミュニケーション能力を測定する世界共通テストTOEICで５００点以上を獲得できる実力を目指す。
授業概要	TOEIC 500点以上をめざすテキストを使用し、どの専門分野でも必要なコミュニケーションの手段として英語の「読む」「聞く」「話す」を主体に訓練する。日常生活で相手を理解し、自分の意思を伝えられるように、語彙数を確保し、リスニング力をつける。 本学のディプロマポリシー1, 2に該当し、英語学習により異文化理解を促進することで、多様な人々と共に働く際の相手への思いやり、協調性、コミュニケーション力を養う。
授業計画 授業内容	全15回 第1週　科目説明　授業計画紹介 Unit 1: Eating Out 第2週　Unit 2: Travel 第3週　Unit 3: Amusement 第4週　Unit 4: Meetings 第5週　Unit 5: Personnel 第6週　Unit 6: Shopping 第7週　Unit 7: Advertisement 第8週　Unit 8: Daily Life 第9週　Unit 9: Office Work 第10週 Unit 10: Business 第11週 Unit 11: Traffic 第12週 Unit 12: Finance and Banking 第13週 Unit 13: Media 第14週 Unit 14: Health and Welfare 第15週 習熟度確認試験とfeedback (授業計画と内容は進度・習熟度・行事等にあわせて変更することがあります。)
成績評価	評価ポイント：　習熟度確認試験 30%, 授業内提出物等 50%, 平常点 20%
教科書	STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND RESDING TEST - Advanced -- (一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3) 北尾泰幸他編著（株）朝日出版社 ISBN 978-4-255-15596-8
参考書　参考資料	英和辞典　和英辞典　TOEIC問題集　TOEIC語彙集
履修上の注意	この授業は、TOEIC対策に特化したクラスであり、コミュニケーション科目の単位不足を補うためのセーフティーネットとしての基礎英語ではありません。この授業を履修する場合「英語コミュニケーション A」は履修できません。
予習・復習指導	練習するリスニングについては、聞き取れなかった語句を自分で何度も発音してみると次回から聞き取れるようになる。教材の音声がストリーミング配信されるので、長いリスニング問題は聞き取れるまで何度も繰り返し聞き直せる。 １回の授業に対して授業と同じ９０分を準備と復習に使ってください。
関連科目	英会話 I　・　美術工芸英語　・　英会話 II
課題に対するフィードバックの方法	毎週の重要ポイントはGoogle Classroomにアップロードする。毎回の提出物は間違った箇所を確認できるように、必ずfeedbackする。随時教室でまたはメールで質問を受けつける。
教員の実務経験	京都国立博物館において20年余り文化財に関する翻訳と通訳業務を行い、また、東洋美術史国際会議のコーディネーターを担当してきた。 英語教育においては同志社大学では主に時事英語、立命館大学では政策科学部の専門科目である政策科学演習を英語で担当してきた。本学では国際交流プロジェクト全般を担当している。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CO305S

講義名	情報基礎演習（Aｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村　奈保	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・Word、Excel、PowerPointの基本操作を習得する。 ・AdobeIllustrator、AdobePhotoshopの基本操作を習得する。
授業概要	パソコンの基礎及び実務用ソフト（Word、Excel、PowerPoint）では、他の授業でも必要なレポート作成、計算処理、プレゼンテーションスキルを身に付ける。 またデザイン系ソフト（AdobeIllustrator、AdobePhotoshop）ではロゴやイラスト、広告作成、画像編集など自由に描画、編集する為の基本操作を習得することを目的とする。 美術工芸学科のディプロマポリシー1.4に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション 第２回　Word：文章の作成・フォントや書式の設定 第３回　Excel：表の作成・表のデザイン・表計算 第４回　PowerPoint：スライドの作成・ビジュアル要素の設定 第５回　PowerPoint　プレゼンデータ作成 第６回　AdobeIllustrator、AdobePhotoshopの概要説明 第７回　AdobeIllustratorの基本操作① 第８回　AdobeIllustratorの基本操作② 第９回　AdobeIllustratorの基本操作③ 第10回　AdobePhotoshopの基本操作① 第11回　AdobePhotoshopの基本操作② 第12回　AdobePhotoshopの基本操作③ 第13回　最終課題 第14回　最終課題 第15回　投票・総括 ※毎回練習課題をやりながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を変更する場合があります。
成績評価	受講態度・出席30%　課題提出70%にて評価する。
教科書	データにて配布。　必要に応じて資料を配布する。
参考書　参考資料	『しっかり学ぶWord/Excel/PowerPoint 標準テキスト』定平誠　技術評論社 『世界一わかりやすい Illustrator　操作とデザインの教科書』技術評論社 その他授業内で必要に応じて紹介する。
履修上の注意	毎回パソコンを使用する為忘れないようにすること。
予習・復習指導	・１講義に対し３時間程度の予習復習をすること。 ・授業で学んだ操作方法を用いて作品作りに取り組むこと。 ・課題ごとに試作したものを整理し、まとめること。
関連科目	「コンピューターデザイン演習」
課題に対するフィードバックの方法	授業内にて適宜対応する。
科目ナンバリング	COM-C0106S

講義名	情報基礎演習（Bｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	1		
必修選択区分	建築学部：必修、工芸学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	永井　秀幸	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	新谷　謙一郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	中村　卓	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・パソコンにおけるデータの入力・出力・保存・読み込み方法を習得する。 ・Google Workplaceの各種アプリ（Gmail、Googleカレンダー、Googleドライブ、Googleドキュメント、Google スプレッドシート、Googleスライド）の基礎、及び活用方法を習得する。 ・Adobe Photoshop、Illustratorを用いて簡単な図像やロゴを作成する。 ・最終目標：大学で建築を学ぶために必要な基本的なPCスキル、能動的な課題解決能力とコミュニケーション能力を養うこと。 演習の目標： １．大学の通学に慣れる ２．学友を作る ３．授業に出席したい ４．人前で話せる ５．共同作業に慣れる ６．失敗を恐れない ７．自主的に行動できる ８．チャレンジ精神が身に付く ９．利他的精神が身に付く １０．時間を有効活用できる １１．考えを速く絵に描いてみることに慣れる １２．　PCを使うことに慣れる
授業概要	PCの基本的な構成（Hardware、Software）やOS（Operation System）、及び実務用ソフトGoogle Workplace（Gmail、Googleカレンダー、Googleドライブ、Googleドキュメント、Googleスプレッドシート、Googleスライド）の基礎的な活用方法を習得することを目的とする。 各種アプリの単純な使い方だけではなく、大学の授業で必要とされる活用方法を示す。 例えば、建築を学ぶ上で必要な、情報を精査し課題を読み解く能力、提案し表現するコミュニケーション能力、効果的にプレゼンテーションする能力、協働で取り組む能力を、PC作業を覚えながら習得する。なお、課題ではAdobe Photoshop、およびIllustratorを用いて作成することで、基本的なグラフィックの制作方法も学ぶ。 本演習は、本学のディプロマポリシー２，３に該当する。（CRA 2,3） 建築学科のディプロマポリシー２，４に該当する。（CAT 2,4）
授業計画 授業内容	全15回 第1回【オリエンテーション】パソコンの共通操作・共通言語の理解、図書館の利用方法 第2回【入門１】Topic 1:「建築をコピる？」～引用の方法 / Tutorial 1: Google Gmail 第3回【入門２】Topic 2:「リサイクル/アップサイクル」～ブレーンストーミングをしてみる / Tutorial 2: Google Jambook 第4回【入門３】Topic 3: 「災害は自然のせい？」～アンケート作成・集計 / Tutorial 3: Google Forms 第5回【学期プロジェクト発表 】 Adobeソフトウェアの起動、プロジェクトチーム編成 第6回【基礎１】Topic 4:「フード・デザイン」～作り方を説明する / Tutorial 4: Google Slide 第7回【基礎２】Topic 5:「文化を伝えていく」～ストーリーを作る / Tutorial 5: Google Slide 第8回【基礎３】Topic 6:「街を賑わう」～データを処理する / Tutorial 6: Google Map/Earth Spreadsheet 第9回【学期プロジェクト演習】実演と実技講習（Adobe Photoshop/Illustrator） 第10回【応用１】Topic 7:「リノベ/コンバする」～図を書く / Tutorial 7: スケッチ速描 第11回【応用２】Topic 8:「ハック・ザ・商店街」～ダイアグラムを作る / Tutorial 8: スケッチ速描 第12回【応用３】Topic 9:「コンパクト・シティ」～マッピングをする/ Tutorial 9: スケッチ速描 第13回　学期プロジェクト演習：「グループ内最終作業」情報の編集 第14回　学期プロジェクト演習：「グループ内発表会」効果的なプレゼンテーションの方法 第15回　学期プロジェクト演習：総合発表　優秀作品のプレゼンテーション ※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	演習課題で成績評価を行う。
教科書	阿部信行『Illustrator & Photoshop & InDesign これ1冊で基本が身につくデザイン教科書』
参考書　参考資料	武田雅人『Google アプリ徹底入門の教科書2020 Google アプリの教科書シリーズ2020年版』（Kindle） 500円程度なので、できれば購入する。
履修上の注意	パソコン操作は習うより慣れることが重要である。常時パソコンを携帯し慣れ親しむ習慣をつける。また、最初に設定するアプリケーションのIDとパスワードは忘れずに管理する。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して1.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「コンピューターデザイン演習」、「IT 活用応用演習」、「工芸実習導入」
科目ナンバリング	COM-C0106S

講義名	総合ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	コミュニケーション科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村　奈保	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	Adobe InDesignの基本操作、活用方法の習得
授業概要	印刷物作成に特化したAdobe InDesignの基本操作、活用方法を習得し、 冊子等、複数ページのある印刷物の作成が容易に作成できるようになることを目的とする。 基本操作、活用方法を習得することで、学術論文、雑誌書籍、プレゼンテーション資料、ポートフォリオ等、作業効率をあげて作成することができる。 本学のディプロマポリシー３に該当する 美術工芸学科のディプロマポリシー4に該当する 建築学科のディプロマポリシー4に該当する
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション、InDesign概要、アプリケーションの準備 第２回　InDesign基礎①ドキュメント作成 第３回　InDesign基礎②テキスト・書式設定 第４回　InDesign基礎③図形の描画 第５回　InDesign基礎④ページ操作方法 第６回　InDesign基礎⑤スタイル 第７回　InDesign基礎⑥画像の配置 第８回　InDesign基礎⑦表組 第９回　InDesign基礎⑧プリント・書き出し 第10回　InDesign応用① 第11回　InDesign応用② 第12回　最終課題 第13回　最終課題 第14回　最終課題 第15回　合評・総評 ※理解状況に応じて、適宜内容を変更する場合があります。
成績評価	受講態度・出席30%　課題提出70%によって評価する。
教科書	データにて配布。　必要に応じて資料を配布する。
参考書　参考資料	必要に応じて授業内で紹介する。
履修上の注意	・毎回パソコンを使用する為忘れないようにすること。 ・各自興味のあるもの、こと、制作してきた作品のデータなどをまとめておくこと。
予習・復習指導	・１講義に対し３時間程度の予習復習をすること。 ・授業内で学んだ内容を使用し、常にデータをまとめておくこと。
関連科目	「情報基礎演習」「コンピュータデザイン演習」
課題に対するフィードバックの方法	授業内にて適宜対応する。
科目ナンバリング	COM-CO307S

４．教養教育科目 - キャリア形成科目

京都美術工芸大学シラバス［2022 年度版］

講義名	しごと論Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・「しごと」の多様性とその意義を理解する。 ・自身の将来の「しごと」について思考する。
授業概要	様々な仕事での貴重な経験談を通して、人の心のありようを知ることや、知恵、努力の様を学ぶ。 本学のディプロマポリシー１、２に該当する。
授業計画 授業内容	オムニバス形式／全15回 第１回　新谷　裕久（大学企画・広報） 第２回　宮本　貞治（木工） 第３回　高田　光雄（建築家） 第４回　三木　表悦（漆芸家） 第５回　国広　ジョージ（建築家） 第６回　細尾　真孝（西陣織） 第７回　阿部　祐二（俳優/リポーター） 第８回　宮沢　孝幸（京都大学　ウイルス・再生医科学研究所） 第９回　コシノ・ジュンコ（デザイナー） 第10回　堀木　エリ子（和紙デザイナー） 第11回　簇　邦充（数寄屋大工） 第12回　西堀　耕太郎（伝統工芸） 第13回　大西　英玄（清水寺成就院住職） 第14回　川尻　潤（陶芸家） 第15回　中井川　正道（環境デザイン） ※順番は前後する場合があります ※講師の都合により、他の講師と入れ替える場合があります（上記は昨年の講師）
成績評価	毎回の小レポート80%、受講態度20%によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書　参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 想定の範囲内において各講師の仕事内容について調べておく。 講義後は分からなかった内容や用語などを調べて講義の内容を把握する。
関連科目	3年次には引き続き「しごと論Ⅱ」を受講することが望ましい。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-CA101L

講義名	しごと論Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤　眞吾	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	将来の就職において、学科、コースの専門性をどのように活かしていくのか。就職への助言にとどまらず、改めて仕事に向かうべく姿勢を再認識させ、社会に対して新たな視点をもつ機会とする。
授業概要	1年次の「しごと論I」では、新入生ということで具体的にイメージすることのできなかった社会人としての自覚の高揚を改めて3年次に実施する。美術工芸、建築の実務家教員によるオムニバス方式授業として、教員の専門的テーマから具体的なイメージを与えることにより、将来の就職への方向性を明確にする。 本学のディプロマポリシー１、２に該当する。
授業計画 授業内容	オムニバス方式 / 全 15 回 第 1 回（新谷　裕久）ガイダンス、防災・安全衛生管理について 第 2 回（髙田　光雄）建築計画について 第 3 回（遠藤　公誉）漆芸について 第 4 回（小梶　吉隆）ゼネコンのしごとについて 第 5 回（山内　貴博）建築とランドスケープについて 第 6 回（玉村　嘉章）木工について 第 7 回（安田　光男）ミラノでの「しごと」について 第 8 回（川尻　　潤）陶芸について 第 9 回（井上　年和）歴史的建造物の保存修理について 第 10 回（中井川正道）環境デザインについて 第 11 回（人見　将敏）建築設計と社会との関わりについて 第 12 回（小林　泰弘）文化財について 第 13 回（津村　健一）美術と造形について 第 14 回（井上　晋一）集合住宅の調査と設計について 第 15 回（安藤　眞吾）ものづくりデザインについて、総括
成績評価	毎回の小レポート（80%）、期末試験（論述形式）（20%）によって評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書　参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	遅刻、雑談厳禁。講師の話を聞きながら、要点を箇条書きでノートに取るように努めること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 配布資料や講義内容から、専門用語（作品・作家・技法）について復習し、関連用語（作品・作家・技法）についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	1 年次開講科目である「しごと論I」に引き続き履修することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-CA302L

講義名	社会活動Ⅰ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷　裕久	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	津村　健一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	青木　太一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	永井　秀幸	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	江本　弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	宮本　貞治	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	社会人として必要なコミュニケーション能力や行動力を身につける。
授業概要	地域の清掃、催事にボランティア活動として参加することや学校行事に積極的に参加することにより、コミュニケーション能力や行動力などの社会性を育成する機会とする。 本学のディプロマポリシー3に該当する。
授業計画 授業内容	下記の社会活動により延べ5日間選択する。クラスルームのスプレッドシートにて各自がイベント一週間前までに事前予約を行い、活動実施後は3日以内にレポートを提出する。 １．新日吉神宮ちまき組立て作業奉仕 1日（4月中旬）／20～30名 ２．鴨川トレッキング＆清掃活動 1日（4/24）／250名 ３．新日吉神宮神幸祭支援活動 1日（5/8）／20～30名 ４．七条大橋・貞教学区清掃活動 1日（8/7,9/7）／（10～50名）×2 ５．祇園祭支援活動 1日（7/24）／5名 ６．貞教学区夏祭り 1日（7/30）／30～100名 ７．園部演習林保全活動 1日（9月上旬）／20～30名 ８．貞教学区体育祭 2日（10/8,10/9）／（30～100名）×2 ９．KYOBI祭支援活動 4日（10/28,10/29,10/30,10/31）／（30～250）×4 10．東山ふれあい広場支援活動 1日(11月上旬）／10～20名 11．京都伝統工芸館・鴨川七条ギャラリー展示活動 1日（年4回随時）／（10～50名）×4 12．ｵｰﾌﾞﾝｷｬﾝﾊﾟｽ支援活動 1日（4/29,5/29,6/19,7/17,7/24,7/31,8/7,8/11,8/21,8/28,9/18）／（10～50名）×11
成績評価	実習態度（30%）、小レポート（70%） 実習態度は、実習への積極性、遅刻、レポートの提出遅れ等について評価する（減点方式）。 5つの課題（5日）の実習とレポート提出をもって修了とする。 予約した課題において公欠・体調不良等で欠席する場合は、クラスルーム上で各自で予約変更を行う。但し、各課題の定員を超えないようにすること。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書　参考資料	実習を通して適宜紹介する。 フィールドワークの安全については入学時に配布する「防災・安全対策マニュアル」を参照のこと。 また、新型コロナウイルス感染対策マニュアルも参照すること。
履修上の注意	学外での活動が多いので安全面に注意すること。集合時間等は厳守すること。 新型コロナウイルス感染症対策（３密を避ける、マスクの着用、手洗い、換気等）を徹底すること。
予習・復習指導	予習・復習は特に必要ないが、各実習ごとに実施される打合せならびに反省会に参加すること。 具体的な日程については事前に掲示する。
関連科目	1年次は、伝統文化科目である「京都学」で学ぶ地域社会との関連性が高い。 2年次には引き続き「社会活動Ⅱ」を選択することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	一実習（1コマ）に対して、修了時に反省会を実施し、口頭にて所見を述べる。
科目ナンバリング	COM-CA103P

講義名	社会活動Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	1		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新谷　裕久	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	津村　健一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	青木　太一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	永井　秀幸	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	江本　弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	宮本　貞治	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	高度な社会人として必要なコミュニケーション能力や行動力を身につける。
授業概要	社会活動Ⅰにより身につけたコミュニケーション能力や行動力などの社会性を地域活動や学校催事への参加を重ねることにより発展させる。 本学のディプロマポリシー2、3に該当する。
授業計画 授業内容	下記の社会活動により延べ5日間選択する。クラスルームのスプレッドシートにて各自がイベント一週間前までに事前予約を行い、活動実施後は3日以内にレポートを提出する。 １．新日吉神宮ちまき組立て作業奉仕 1日（4月中旬）／20～30名 ２．鴨川トレッキング＆清掃活動 1日（4/24）／250名 ３．新日吉神宮神幸祭支援活動 1日（5/8）／20～30名 ４．七条大橋・貞教学区清掃活動 1日（8/7,9/7）／（10～50名）×2 ５．祇園祭支援活動 1日（7/24）／5名 ６．貞教学区夏祭り 1日（7/30）／30～100名 ７．園部演習林保全活動 1日（9月上旬）／20～30名 ８．貞教学区体育祭 2日（10/8,10/9）／（30～100名）×2 ９．KYOBI祭支援活動 4日（10/28,10/29,10/30,10/31）／（30～250）×4 10．東山ふれあい広場支援活動 1日(11月上旬）／10～20名 11．京都伝統工芸館・鴨川七条ギャラリー展示活動 1日（年4回随時）／（10～50名）×4 12．ｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽ支援活動 1日（4/29,5/29,6/19,7/17,7/24,7/31,8/7,8/11,8/21,8/28,9/18）／（10～50名）×11
成績評価	実習態度（30%）、小レポート（70%） 実習態度は、実習への積極性、遅刻、レポートの提出遅れ等について評価する（減点方式）。 ５つの課題（５日）の実習とレポート提出をもって修了とする。 予約した課題において公欠・体調不良等で欠席する場合は、クラスルーム上で各自で予約変更を行う。但し、各課題の定員を超えないようにすること。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書　参考資料	実習を通して適宜紹介する。 フィールドワークの安全については入学時に配布する「防災・安全対策マニュアル」を参照のこと。 また、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルも参照すること。
履修上の注意	学外での活動が多いので安全面に注意すること。集合時間等は厳守すること。 新型コロナウイルス感染症対策（３密を避ける、マスクの着用、手洗い、換気等）を徹底すること。
予習・復習指導	予習・復習は特に必要ないが、各実習ごとに実施される打合せならびに反省会に参加すること。 具体的な日程については事前に掲示する。
関連科目	１年次の「社会活動Ⅰ」に引き続きを選択することが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	一実習（1コマ）に対して、修了時に反省会を実施し、口頭にて所見を述べる。
科目ナンバリング	COM-CA204P

講義名	ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田　幸秀	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	①仕事の現場を体験し大学で学ぶ意義を再確認する ②社会人として必要な知識やスキルを身につける ③卒業後の進路に対する明確な意識を醸成し、進路選択のミスマッチを防ぐ ④仕事の現場での能動性（課題の設定・解決策の実践等）を高める
授業概要	卒業後のキャリア人生を充実したものにするため、社会人としての仕事を実体験するカリキュラム。3年次前期の事前学習を通じて就業体験を希望する企業、事業所等を見つけ、原則として夏季休暇中の5日間（各日8時間）を実習期間にあて、レポートやプレゼンテーションによって振り返りを行う。特に仕事現場での問題解決や自己の成長を図るため、適切な課題設定を行って実習に臨むことを重視する。 本学のディプロマポリシー３に該当する。
授業計画 授業内容	■令和２年度の予定 ①事前学習（１）　ガイダンス ②事前学習（２）　業界研究＜１＞ ③事前学習（３）　業界研究＜２＞ ④事前学習（４）　インターンシップの心得など ⑤事前学習（５）　実習計画書作成 ⑥事前学習（６）　メンタルケア ⑦実　　習 夏季休暇中、原則として５日間の実習スケジュールを実習先と相談のうえ各自が設定 ⑧事後学習（１）　報告書の書き方指導 ⑨事後学習（２）　感想発表 ⑩事後学習（３）　プレゼン＜１＞ ⑪事後学習（４）　プレゼン＜２＞ ＊予定は変更になることがあるので、掲示などで確認すること ■想定される実習先 各種工房、工芸・建築・デザイン関連企業、京都伝統工芸協議会会員企業、京都府物産協会会員企業、業界団体・組合、公的機関など ＊原則として学生が自ら実習先を開拓する。帰省先等での実習も可能。就職を希望する業界や企業での就業体験を特に推奨する
成績評価	事前・事後学習（30%）、実習先での学びと行動（＝実習報告書40%）、実習先の評価（30%）により総合的に評価する
履修上の注意	・履修したものの実習に行かなかった場合は成績が「不可」となるので注意すること。その場合、後期の履修取り消し期間内に取り消しの手続きができる。特に夏休みに建築士試験対策講座などを受講する者は注意を要する ・コロナ感染拡大防止のため、インターンシップをオンラインに切り替える企業や事業所が出てくることが考えられる。この場合は感染拡大防止を最優先とし、オンライン等も実習として認める。
予習・復習指導	インターンシップは心と技を磨く貴重な教育機会であるため、履修者には十分な準備と能動的な姿勢が要求される。1コマあたり1・5時間の予習・復習が必要。
関連科目	「キャリア支援講座Ⅰ・Ⅱ」の講義を兼ねる。
課題に対するフィードバックの方法	実習先の選定などの相談や質問を随時受け付ける。
教員の実務経験	塾・予備校講師／国会議員秘書（議員会館）／情報誌の編集、新聞の取材・インタビュー・連載企画／外国領事館での国際交流、査証発給業務など。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA305P

講義名	ﾒﾃﾞｨｱﾘﾃﾗｼｰ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 山田　幸秀	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・大学の研究や日常生活において情報を適切に収集、活用する意識と能力を高める。 ・積極的にニュースメディアに接する習慣を身につけ、社会への適応能力を養う。 ・特に海外ニュースについては、英字メディアや英文サイトから一次情報にアクセスする技術を習得する。 ・新聞、テレビ、ラジオなどのメディア関係者から直接、話を聞くことで、ニュースや情報に対する関心を深めるとともに、発信する側の思いや取り組みを知る。
授業概要	テレビや新聞などの既存メディアに加え、わたしたちはインターネットを通じてさまざまな情報を得ている。一方でSNSによって個人による情報発信が可能になった結果、インターネット上にはさまざまな情報があふれ、その真偽を見極めるチカラが求められるようになった。大学の研究や日常生活に情報をどう生かせばいいかを考え、社会生活においてメディアを活用する技術を身につけるため、メディアの特性を知るとともに、一線で活躍するメディア関係者らの話を聞く。 また、“USA TODAY”“Washington Post”などの英字紙、“Rotten Tomatoes”“Box Office Mojo”などの英文の映画情報サイトからタイムリーなトピックをピックアップし、日本では報道されない情報や、海外の視点に触れる。 さらに、日々のニュースの主役であり、普段はメディアの取材対象となる警察関係者、外交官、政治家からメディアのフィルターを通さずに直接話を聞く機会を設ける。 本科目は、本学のディプロマポリシー2、3に該当する
授業計画 授業内容	全15回 第１回　ガイダンス：メディアリテラシーとは ― メディア情報を大学生活にどう生かすか 第２回　メディアの種類と特性 ― 新聞、テレビ、ラジオ、通信社、雑誌、フリーペーパー、インターネット 第３回　メディアを巡る諸問題(1) ― 誤報、客観報道と情報操作 第４回　メディアを巡る諸問題(2) ― 実名報道 第５回　英字メディアのリテラシー(1) 第６回　英字メディアのリテラシー(2) 第７回　テレビ局の仕事 第８回　新聞社の仕事 第９回　FMラジオ局のさまざまな取り組み ― 音楽からアートまで 第10回　ソーシャルメディアの功罪 第11回　ニュースの主役(1) ― 警察 第12回　ニュースの主役(2) ― 外交官 第13回　ニュースの主役(3) ― 政治家 第14回　動画広告の世界（「カンヌライオンズ国際クリエイティビティフェスティバル」歴代入賞作品の紹介） 第15回　情報収集・分析のプロたち ― インテリジェンスとは ※予定は目安です。変更になる場合があります。
成績評価	・毎回の小レポートを点数化し、出席状況を加味した上で評価する。
教科書	授業開始に先立ち、オリジナルテキストを配付する。
参考書　参考資料	「実名と報道」（日本新聞協会 編集委員会）　※同協会のウェブサイトから無料でダウンロードできます。
履修上の注意	・受け身の姿勢ではなく、自分のアタマで考えながら受講すること。 ・ゲストには積極的に質問を。
教員の実務経験	産経新聞社で情報誌の編集、米全国紙"USA TODAY"のプロモーション（ダイジェスト版の翻訳）、新聞の取材、インタビュー、紙面連載などに携わる。その後、在大阪カンボジア王国名誉領事館館長としてビザの発給業務のほか、カンボジアー日本の二国間交流や米国、台湾など各国在外公館との国際交流に従事。 情報誌では特集、エッセー、旅行などの連載を担当したほか「湾岸戦争特集」を発行。クウェートを解放した多国籍軍に130億ドルもの資金を提供しながら、クウェート政府が米国の主要新聞に出した国際社会への感謝広告に日本の国名がなかった問題を取り上げた。また、新聞のインタビューでは政治家、外交官、大学教授ら数多くの人物を取材し、紙面で紹介した。 また、10年以上にわたり関西のメディア、警察、外国公館、政治家、インテリジェンス関係者らが集まる私的な交流会を主宰。メンバーには本講座に協力いただいている。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CA106L

講義名	現代社会論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目		
科目分野名	キャリア形成科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 福田　安佐子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	この講義の目標は、現代社会に対する理解を深めることである。様々な時代や場所において、規範や感性がいかにして形成されてきたかを学び、それが現代社会といかなる関係を保っているか、自ら考える力をつける。
授業概要	本科目では映像作品を手掛かりに、その表現にどのような心性や価値観が反映されているかを読み解く。現代アート、ゾンビ、身体観の変遷を基本的なテーマとし、それら個々の表現を紐解き、さらに現代を生きる我々との関係を考えることによって、現代社会がいかに形成されてきたかについてより深い理解を目指す。 本科目は本学のディプロマポリシーの2に該当する。
授業計画 授業内容	第１回＜オリエンテーション＞現代アート、ゾンビ、身体と現代社会 第２回：＜講義＞ゾンビ概論：「なぜ我々はゾンビ映画を見るのか」 第３回：＜講義＞植民地における人間とゾンビ：映画「ホワイトゾンビ」(1931) 第４回：＜講義＞人種化・植民地化される身体と文明 第５回：＜講義＞1968年の世界：映画「ナイト・オブ・ザ・リビングデッド」(1968)と＜病＞ 第６回：＜講義＞アブジェクション：体液、血液、皮膚の表象 第７回：＜講義＞アブジェクション：内蔵、腐敗、生殖の表象 第８回：＜講義＞現代の黙示録：映画「28日後…」(2002)における廃墟と崇高の美学 第９回：＜講義＞現代における感染と新・植民地主義の表象 第10回：＜講義＞加工される身体１：タトゥーからプリミティヴ・アートへ 第11回：＜講義＞加工される身体２：現代アートと加工されるジェンダー 第12回：＜講義＞身体の美醜：二十世紀の身体表象 第13回：＜講義＞美しい身体、商品化される身体 第14回：＜講義＞ジェンダー化される身体、セクシュアル化される身体 第15回：＜講義＞未来の身体：二十一世紀の身体表象
成績評価	授業への参加（５０％）、レポートまたは試験（５０％）で評価する
参考書　参考資料	マキシム・クロンブ著『ゾンビの小哲学』武田宙也・福田安佐子訳、人文書院、2019年。マーゴ・デメッロ著『ボディ・スタディーズ：性、人種、階級、エイジング、健康／病の身体学への招待』田中洋美監訳、晃洋書房、2017年。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、4.5時間の事前学習をすること （具体的な内容） 授業で指示された作品や論文などを各自でも熟覧・熟読し、分からない用語や概念が出てきた場合には、質問できるよう準備しておくこと。
課題に対するフィードバックの方法	適宜対応する
教員の実務経験	特になし
科目ナンバリング	COM-CA307L

５．専門教育科目 - 美術工芸科目・基本科目

京都美術工芸大学シラバス［2022 年度版］

講義名	工芸概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・広く工芸全般の意味を理解する。 ・工芸に対する広い視野を身につける。
授業概要	広く工芸の意味を理解すると共に、古くから伝わる工芸が世界のそして日本の文化としていかに我々の生活に定着しているかを各専門分野の切り口をとおして論じる。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する
授業計画 授業内容	オムニバス / 全 15 回 第 1～ 3回　陶磁器業界の近況と今後を概観すると共に、「ものづくり」の変遷を成形技法、加飾技法、素材などを通じて解説し、工芸への理解を深める（横山直範） 第 4～ 7回　物造りという観点から時代をさかのぼり彫刻作品、仏像彫刻作品が、生活に定着し馴染んできたか、映像、写真資料を参考に学ぶ（青木太一） 第 8～10回　木工の技術・材料・デザイン等の解説。現在活躍している工芸家の作品・映像等を通して多様な工芸のスタイルを紹介する（玉村嘉章） 第11～14回　伝統的な漆工芸品の歴史、構造、制作技法、諸道具について、また漆工芸を支える素材の内、主に国産漆の現状について概略を説明する（遠藤公誉） 第 15 回　　総括（玉村嘉章） ※順番が前後する場合や担当者が変更になる可能性があります。
成績評価	複数回実施する小レポートにより評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書　参考資料	『工芸の見かた感じ方』（東京国立近代美術館工芸課編淡交社）
履修上の注意	各講師が指示する内容のレポートを提出する。
予習・復習指導	1コマに対し4.5時間の復習をする事。 配布資料や講義内容から、専門用語（作品・作家・技法など）について復習し、関連用語（作品・作家・技法など）についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	「伝統工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CRA-BA101L

講義名	建築概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	工芸学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 髙田　光雄	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	建築学の深い成り立ちと多様な広がりを理解し、建築に対する幅広い視野を身につける。同時に、受け身で知識を習得するのではなく、自ら問いを発して、自ら考え、自ら答えるという研究の基本を身につけ、大学での学び方を習得する。
授業概要	建築学は「建築とは何か」という問いに始まり、「建築とは何か」という問いに終わる。 そして、その問いは無数の問いに細分化される。本講義では、建築学をめぐる多数の問いを投げかけ、具体的な建築作品や研究事例を用いた各問いの考察を通じて、建築の魅力と建築学の醍醐味に触れ、各自が「建築とは何か」という問いに向き合う構えに接近する。建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　　講義概要・建築とは何かという問い 第２回　　建築を京都で学ぶ意味は何か 第３回　　建築や都市の歴史を学ぶ楽しみとは 第４回　　修復の世界とは 第５回　　建築構造の重要性とその役割とは 第6回　　建築におけるモノとコトのデザイン 第7回　　路地から見る京都のまちづくりとは 第8回　　リノベーション・まちづくりにおける建築企画とは 第9回　　建築は社会を変えられるか 第10回　建築の「しぶさ」は定義できるか 第11回　シンガポールとホーチミンの住宅に見る東南アジアの風土とは 第12回　建築と食文化はどう関わるか 第13回　建築の文化的価値とは 第14回　伝統建築はいかにして設計されたのか 第15回　まとめ
成績評価	「小レポート(小テスト)＋期末試験(期末レポート)」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	なし
参考書　参考資料	講義において紹介する。
予習・復習指導	各講義内容を自分に対する問いとして整理するとともに、それに答える試みを重ねること。 １コマに対し、4.5時間の復習をすること
関連科目	建築学科全科目
課題に対するフィードバックの方法	講義の中で質疑・応答などを行う。
教員の実務経験	32年間の各種建築計画・設計実務経験を有する。また、大学の専任教員として11年間の実務経験を有する。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-BA102L

講義名	伝統工芸概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	工芸学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・工芸業界の裾野の広さを理解する。 ・各工芸について基本的な知識を身につける。
授業概要	京都の伝統工芸業界の実務者による講演形式の授業を実施することで、工芸業界の裾野の広さを学ぶ。 京都美術工芸大学ディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	オムニバス／全１５回 第１回　玉村　嘉章　　概論 第２回　藤井　收　　漆芸 第３回　小田　珠生　　表具 第４回　内田　俊秀　　伝統工芸品 第５回　八田　誠治　　友禅・西陣 第６回　須藤　拓　　鋳金・鍛金・彫金 第７回　若林　卯兵衛　仏壇・仏具① 第８回　若林　卯兵衛　仏壇・仏具② 第９回　綾部　之　　京指物 第10回　小林　泰弘　　文化財 第11回　野口　康　　金箔 第12回　猪飼　祐一　　京焼 第13回　石田　正一　　竹工芸 第14回　渡邉　晶　　刃物 第15回　玉村　嘉章　　総括 ※上記リストは昨年度のものであり、今年度は講師の変更や順番が前後する場合があります。 　詳細については第1回目の概論において説明します。
成績評価	毎回実施する小レポートにより評価する。
教科書	各講義の担当教員が必要に応じて資料を配布する。
参考書　参考資料	工芸の見かた・感じかた(東京国立近代美術館工芸課：編)淡交社 明日への伝統工芸(浅見 薫著)㈶京都伝統工芸産業支援センター [その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
履修上の注意	各講師が指示する内容のレポートを提出する。
予習・復習指導	(内容)各講義の担当教員の略歴や特徴、用語や作品など、重要と感じることについて調べること。 (時間)講義1コマに対して４．５時間の事前学習をすること。
関連科目	同じく必修科目である「工芸概論」と併せて工芸の知識を深める。
課題に対するフィードバックの方法	レポートに含まれる質疑応答については、各講義の担当教員からの情報をまとめて総括の時間に行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	COM-BA103L

講義名	構成基礎演習（デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊　俊博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	知覚となるメディアが多用する現代において、デザインの分野も多岐にわたりメディアの積極的活用が重要視されている。メディアにおける視覚化は、色彩、図形、配置などバランス感覚を重要視される。デザイナーに必要な造形のバランス感覚を本講義で習得することを目的とする。
授業概要	基礎的な造形を使った平面構成　・造形的なバランス感覚を習得する・手描きやイラストレーター（ソフト）の習得もふくめ、バランスの取れた感覚を養っていく。
授業計画 授業内容	1日目8月5日 本講義の説明後、１.2限イラストレーターを使用、ベジュ曲線および図形を使用し、５つのテーマに沿って5課題を制作し、提出する。 2日目8月8日 図形〇△□を使用し、手書きによる色鉛筆で色彩構成を行う。 3日目8月9日 作業予備日および、総評
成績評価	出席および課題提出を持って評価する
教科書	必要に応じて配布
参考書　参考資料	なし
履修上の注意	集中講義のため、一定の時間を過ぎた遅刻者は単位不認定とする
予習・復習指導	講義中に予備知識の学習指導を行うので、流れに沿った事前学習を行うこと 各自自学に励むこと
関連科目	素描・色彩理論演習・造形基礎演習I・造形基礎演習II
課題に対するフィードバックの方法	課題毎に講評を通してフィードバックを行う
科目ナンバリング	COM-BA104S

講義名	構成基礎演習（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻　潤	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	遠藤　公誉	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	分野の枠を横断する形で、さまざまな素材と技法に接することを通じ、自身の見識を広げものづくりや発信における発想力を養い、展開する力を身につけるための一助にする。
授業概要	割れた陶磁器片を接合して継目を金属粉などで装飾する。この作業を通じ、本来の用途である器とは別のものとして再生させる。7週で成果物を制作、完成させるが、可能であれば成果物の個数を増やしても良い。自身の専攻では触れる機会の少ない素材を扱う中で、工芸スキルやものづくりにおける発想力を拡張するきっかけを得る。 京都美術工芸大学のディプロマポリシー１、3 美術工芸学科のディプロマポリシー１、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全8回　夏季集中 第1回　本科目の概要説明　金継技法の解説 第2回 金継作業　接合 第3回 金継作業　欠損部補填 第4回 金継作業　欠損部補填 第5回 金継作業　漆線描き 第6回 金継作業　漆線描き 第7回 金継作業　粉入れ 第8回　合評・総括
成績評価	受講態度50%、提出作品50%を基本に、総合的に判断する。
教科書	なし。必要に応じて資料を配布する
参考書　参考資料	「金継ぎ1年生」山中俊彦　監修　文化出版局 「金繕い工房」原一菜　著　里文出版
履修上の注意	作業においては、担当教員とコミュニケーションをよく取るようにする。 予習・復習をすることで材料・技法を深く理解するように努める。 自身の経験の振り返りのため、作業工程を記録しポートフォリオを作成する。
予習・復習指導	配布した資料、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。 実習1コマに対し0.5時間の予習、1.0時間の復習を行う。
関連科目	「芸術導入実習」「工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	課題の進捗に応じて講評・質疑応答をおこなう。
科目ナンバリング	COM-BA104S

講義名	構成基礎演習（建築）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 江本　弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	種村　俊昭	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・造形物の様々な特性を理解する。 ・平面・立体構成の感覚、空間把握能力を養う。 ・自身の考えを描写を通じて具現化し、他者に伝える能力を習得する。
授業概要	本科目では造形の基礎演習として、形を生み出す上で最も重要な線の描き方と構成の方法を、様々な事物を描写する中で体得し、かつ描き出したものから発見的に考察していく。まず自身の身近なものを描くことから始め、次に平面での構成の練習、そして平面から立体空間構成への展開、最後に総合的な課題として、家具（椅子）による立体空間を構成しその描写を行う。 建築学科のディプロマポリシーの１，２に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　オリエンテーション：授業の目標や留意点等の説明 起こし絵課題１：課題説明、実測説明 第2回　起こし絵課題２：実測図の作成 第3回　起こし絵課題３：起こし絵の作成 第4回　起こし絵課題４：作品発表、スケッチ課題１：作図基礎、添景の描写 第5回　スケッチ課題２：インテリアスケッチと構成への発展 第6回　平面構成１：点と線 第7回　平面構成２：点・線・面・色彩 第8回　総合課題１：椅子のデザイン１ 第9回　総合課題２：椅子のデザイン２ 第10回　総合課題３：椅子のデザイン３ 第11回　総合課題４：椅子のデザイン４・発展 第12回　立体課題１：立体の構成１ 第13回　立体課題２：立体の構成２ 第14回　立体課題３：光の箱１ 第15回　立体構成４：光の箱２・総評
成績評価	受講態度（20%）、各課題提出物の評価（80%）
教科書	フランシス・D・K・チン著、太田邦夫訳『建築ドローイングの技法』
参考書　参考資料	必要に応じて参考資料を配布する。 その他の参考書として、 小沢剛、塚本由晴著『線の演習 建築学生のための美術入門』 小嶋一浩、伊藤香織、他編著『空間練習帳』
履修上の注意	毎回の授業に積極的に参加すること。また、提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	各回1.5時間の予習復習をすること。 授業内に終了しなかった作品の完成、ならびにより良い作品作りに向けて作業を行うこと。
関連科目	「建築設計導入実習」「建築設計基礎演習Ｉ」「デザイン作図演習」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-BA104S

講義名	伝統住居概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要となる基本的な知識を習得する。
授業概要	日本の伝統的な住居について、変遷過程や形態、特徴を史料、遺構等に基づき解説する。 建築学科のディプロマポリシーの１、２に係る。
授業計画 授業内容	全15 回 第１回 オリエンテーション　史跡と古墳 第２回 原始的な住居と集落 第３回 都城と宮殿 第４回 寝殿造 第５回 書院造 第６回 城郭 第７回 武家屋敷 第８回 都市と村落 第９回 民家 第10回 町屋（町家） 第11回 劇場 第12回 茶室と数寄屋 第13回 近代和風建築 第14回 洋風住宅 第15回 歴史的な町並み
成績評価	レポートおよび定期試験結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書　参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、小沢朝江・水沼淑子『日本住居史』吉川弘文館
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
関連科目	社寺建築概論、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	期末試験を実施し、試験後に解答を公開する。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-BA105L

講義名	色彩学（Aｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤　眞吾	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・色彩を体系立てて理論的にとらえる。 ・工芸・デザインや建築に役立つ配色調和手法を体系的に学ぶ。 ・色彩検定試験にチャレンジできる知識の修得。
授業概要	色彩は、私たちの環境・生活全てに大きく関わっている。色彩を単に感性だけで処理するのではなく、体系立てて理論的に学ぶ。配色カード等を活用し、理論を実務に応用するためのセンスアップトレーニングを並行して行う。この講義は色彩検定の受験対策にも役立つ内容とする。 本学のディプロマポリシー１、２に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回　オリエンテーション 色感テスト 第 2 回　光と色(なぜ色が見えるのか?) カラーダイヤル作成(1) 第 3 回　色の表示方法(PCCS 色彩体系) カラーダイヤル作成(2) 第 4 回　色の表示(マンセル・JIS の色名) カラーダイヤル作成(3) 第 5 回　色の混合(混色の方法) スライド上映(色とデザイン) 第 6 回　色と心理的効果 演習(色の見え) 第 7 回　色彩調和(1) 演習(ナチュラルハーモニー、コンプレックスハーモニー) 第 8 回　色彩調和(2) 演習(色相配色、トーン配色) 第 9 回　色彩調和(3) 演習(グラデーション、セパレーション) 第 10 回 配色技法(1) 演習(トーンオントーン、トーンイントーン配色) 第 11 回 配色技法(2) 演習(古典的配色技法) 第 12 回 配色技法(3) 演習(イメージ配色) 第 13 回 色彩計画(1) (カラーデザインとユニバーサルデザイン) 第 14 回 色彩計画(2) (インテリアスタイルと配色、素材の色) 第 15 回 色彩計画(3) (住宅のエクステリアの色彩、景観調和)
成績評価	評価ポイント：受講態度（20%）、演習課題の評価（50%）、期末試験の評価（30%）
教科書	『カラーコーディネーター入門「色彩」』(日本色研事業株式会社) 『新配色カード 199a』(日本色研事業株式会社)
参考書　参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	演習内容は配色カードを貼り付けるものとなるので、ハサミとスティック糊を毎回持参すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 次回の授業内容について、シラバスに準じて教科書の内容を読んでおくこと。
関連科目	「デザイン概論」「色彩理論演習」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックは次回以降の講義時間内で行う。
科目ナンバリング	COM-BA106L

講義名	色彩学（Bｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤　眞吾	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・色彩を体系立てて理論的にとらえる。 ・工芸・デザインや建築に役立つ配色調和手法を体系的に学ぶ。 ・色彩検定試験にチャレンジできる知識の修得。
授業概要	色彩は、私たちの環境・生活全てに大きく関わっている。色彩を単に感性だけで処理するのではなく、体系立てて理論的に学ぶ。配色カード等を活用し、理論を実務に応用するためのセンスアップトレーニングを並行して行う。この講義は色彩検定の受験対策にも役立つ内容とする。 本学のディプロマポリシー１、２に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1 回　オリエンテーション 色感テスト 第 2 回　光と色(なぜ色が見えるのか?) カラーダイヤル作成(1) 第 3 回　色の表示方法(PCCS 色彩体系) カラーダイヤル作成(2) 第 4 回　色の表示(マンセル・JIS の色名) カラーダイヤル作成(3) 第 5 回　色の混合(混色の方法) スライド上映(色とデザイン) 第 6 回　色と心理的効果 演習(色の見え) 第 7 回　色彩調和(1) 演習(ナチュラルハーモニー、コンプレックスハーモニー) 第 8 回　色彩調和(2) 演習(色相配色、トーン配色) 第 9 回　色彩調和(3) 演習(グラデーション、セパレーション) 第 10 回 配色技法(1) 演習(トーンオントーン、トーンイントーン配色) 第 11 回 配色技法(2) 演習(古典的配色技法) 第 12 回 配色技法(3) 演習(イメージ配色) 第 13 回 色彩計画(1) (カラーデザインとユニバーサルデザイン) 第 14 回 色彩計画(2) (インテリアスタイルと配色、素材の色) 第 15 回 色彩計画(3) (住宅のエクステリアの色彩、景観調和)
成績評価	評価ポイント：受講態度（20%）、演習課題の評価（50%）、期末試験の評価（30%）
教科書	『カラーコーディネーター入門「色彩」』(日本色研事業株式会社) 『新配色カード 199a』(日本色研事業株式会社)
参考書　参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	演習内容は配色カードを貼り付けるものとなるので、ハサミとスティック糊を毎回持参すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 次回の授業内容について、シラバスに準じて教科書の内容を読んでおくこと。
関連科目	「デザイン概論」「色彩理論演習」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックは次回以降の講義時間内で行う。
科目ナンバリング	COM-BA106L

講義名	日本美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	工芸学部：必修、建築学部：選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 田中　水萌	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	日本美術史の流れを理解し、基礎的な知識を得ることを目標とする。
授業概要	日本の各時代における代表的な作品を取り上げ、古代からの日本美術の流れについて概観する。作品の様式・技法・成立背景、また文化的社会的側面などを紹介し、授業内での映写等を通して作品の鑑賞を行い理解を深めていく。 本科目は本学のディプロマポリシーの１に該当する。
授業計画 授業内容	1 ガイダンス 2 日本美術史のはじまり 3 奈良時代の美術① 4 奈良時代の美術② 5 平安時代の美術① 6 平安時代の美術② 7 平安時代の美術③ 8 鎌倉時代の美術① 9 鎌倉時代の美術② 10 鎌倉時代の美術③ 11 室町時代の美術① 12 室町時代の美術② 13 江戸時代の美術① 14 江戸時代の美術② 15 総括
成績評価	期末レポート(70%)、小レポート等 (30%)
教科書	特になし
参考書　参考資料	山下裕二、高岸輝監修『美術出版ライブラリー歴史編　日本美術史』美術出版、2014年 古田亮編著『教養の日本美術史』ミネルヴァ書房、2019年　　ほか講義中に指示する
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、１時間の事前学習及び１時間の復習をすること （具体的な内容） 配布資料に事前に目を通し、専門用語について読みや意味を調べておくこと。講義内容の復習の際、疑問点についても調べること
課題に対するフィードバックの方法	フィードバックは次回以降の講義内で行う
教員の実務経験	専門分野における実務の経験を有し、概ね３年以上の実務の経験を 有している
科目ナンバリング	COM-BA107L

講義名	素描		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	渡邊　俊博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	塚本　カナエ	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	創造活動のプロセスにおいて不可欠である透視図法を習得する。また基本となる単純な構造やプロポ―ションを正確に把握する能力を養い、より複雑な形態へも対応出来る様、応用力をつける。
授業概要	物づくりにおいて、自身のエスキースや他者との視覚的コミュニケーションを正確かつ効率的に進める為には透視図法の習得が不可欠である。本科目では対象物の構造を2次元に落とし込む作業を行う演習により、2点透視図法を習得する。また、プロポーションの把握や空間・量感の表現にも重点を置き、全体という秩序の中で部分を計画出来るバランス感覚を要請する。 美術工芸学科のディプロマポリシー1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第 1回　準備課題　：矩形と球体を用いた透視図法の説明 第 2回　フォルムと構造　：1辺11ｃｍの立方体を2点透視図法で描く 第 3回　プロポーション　：プロポーションの基本「１：１」を様々な角度から描く 第 4回　プロポーション応用　：基本プロポーション「１：１」からの展開 第 5回　フォルムと構造応用　：与えられたモチーフの構造を2点透視図法で捉える 第 6回　固有色・量感・材質感　：モチーフの量感・色・材質感を表現する 第 7回　円について　：正方形の中に円を、円の中に正方形を描く 第 8回　円柱１　：直立した円柱を描く 第 9回　円柱２　：横倒しの円柱を描く 第10回　円柱応用　：円柱を基本構造にもつモチーフの構造・おプロポーションを捉える。 第11回　円柱応用　：円柱応用１で捉えた形態に固有色・量感・材質感を加える 第12回　複合形態1　：基本形態が組み合わさった複合形態の構造・プロポーションを捉える 第13回　複合形態２　：複合形態１で捉えた構造に固有色・量感・材質感を加える 第14回　想定描写　：文章によって指示された形態や色、材質などを視覚化する 第15回　合評会　:2点透視図法のまとめと補足
成績評価	受講態度40%、課題制作の完成度60%により評価する。
教科書	なし
参考書　参考資料	適宜資料を配布する。
履修上の注意	素描経験者も１から学ぶ姿勢で臨むこと。
予習・復習指導	透視図法などの遠近法を理解するため、課題モチーフと同じ形態のモチーフを用いて反復練習すること。 講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。
関連科目	構成基礎演習、立体造形
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CRA-BA108S

講義名	デザイン概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤　眞吾	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・広義のデザイン概念を理解する。 ・近代デザインの歴史と作品を認識する。 ・現代のデザイナーやその活動を知る。 ・これからの社会とデザインの関わりを考える。
授業概要	デザインの本来的意味や語源、領域等にわたって述べると共に、産業革命以後の近代デザイン史を概説する。また、デザインがいかに社会の動きと連動してきたか事例を挙げて解説すると共に、デザインの価値についても論じる。さらには、現代社会におけるデザインの役割と課題についても言及し、ヨーロッパにおけるデザインムーブメントや、わが国におけるデザイン啓蒙活動の紹介を通して理解を深める。 本学のディプロマポリシー１、２に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回 オリエンテーション、イントロダクション 第２回 近代デザインの歴史①：アーツ・アンド・クラフツ運動から 第３回 近代デザインの歴史②：バウハウスの与えた影響 第４回 アメリカの工業デザインの黎明期：「レイモンドローウィー」 第５回 日本におけるグッドデザイン賞の位置づけ 第６回 日本の著名なプロダクトデザイナー 第７回 デザイナー研究「佐藤オオキ」（VIDEO） 第８回 世界のデザイン動向①：ミラノサローネを中心に 第９回 世界のデザイン動向②：パリデザインウィークとルーブル・ランス 第10回 欧米のデザイン動向③：フィンランドのデザイン 第11回 北欧（デンマーク）家具の歴史とデザイン 第12回 スペシャルレクチャー「ポートフォリオの作り方」 第13回 グラフィックデザインについて 第14回 ユニバーサルデザインについて 第15回 ECOデザイン+BOPデザインについて
成績評価	評価ポイント：受講態度（20%）、毎回のレポート（80%）よって評価する。
教科書	毎回レジュメを配布する。
参考書　参考資料	「カラー版世界デザイン史」美術出版社
履修上の注意	毎回講義内容に関する小レポートを提出していただき、理解度を確認する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 配布資料や講義内容から、デザイナーやデザイン分野、専門用語について復習し、関連事項についても調べるなど理解を深めておくこと。
関連科目	「色彩学」
課題に対するフィードバックの方法	授業開始前に、前回の小レポートの総評ならびに質問に対する回答等を行う。
科目ナンバリング	COM-BA109L

講義名	社寺建築概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要となる基本的な知識を習得する。
授業概要	社寺建築について変遷過程や形態、その特徴を史料、遺構等に基づき解説する。 また歴史的建造物の保存修復についてその理念や具体的な手法について論ずる。 本科目は建築学科のディプロマポリシーの１、２に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回 オリエンテーション 建築史学の発展 第２回 神社建築（１）古代の社殿形式 第３回 神社建築（２）神社本殿の形式と社殿配置 第４回 寺院建築（１）寺院の登場と古代・奈良時代の仏教建築 第５回 寺院建築（２）古代・平安時代の仏教建築－密教、浄土教－ 第６回 寺院建築（３）中世の仏教建築－大仏様、禅宗様、折衷様、中世仏堂－ 第７回 寺院建築（４）近世の仏教建築およびその他の宗教施設 第８回 建築の生産体制と雛形本 第９回 社寺建築の構造形式 第10回 社寺建築の細部意匠 第11回 近代における西洋技術の導入 第12回 近代建築の展開 第13回 近代化遺産 第14回 文化財建造物の分類と修理技術 第15回 歴史的建造物の保存と活用
成績評価	レポートおよび定期試結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書　参考資料	後藤治『日本建築史』共立出版、日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版、太田博太郎『日本建築史序説』彰国社
履修上の注意	配布プリント、 講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	講義１コマに対し、4.5 時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 配布プリント、講義ノートより予習復習を行うこと。
関連科目	伝統住居概論、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	期末試験を実施し、試験後に解答を解説する。
教員の実務経験	有
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-BA210L

講義名	西洋美術史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 安積　柊二	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	1. 古代から現代までの西洋美術の歴史を理解し、その基礎的知識を身につける 2. 授業中の課題、レポート課題を通して作品を適切に観察、分析する視点を養い、文章として形にできるようにする。
授業概要	古代エジプトの彫像から21世紀のインスタレーション作品まで、西洋美術の歴史を概観する。適宜自身の専門分野であるドイツ近代美術や、日本美術、博物館学の内容も交えて講義を行う予定。 また、課題レポートでは適切な形で作品の情報を言語化し、分析する力が求められる。添削のみならず適宜レポート（アカデミック・ライティング）の書き方についても、適宜学生の要望に応じて行いたい。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション、古代エジプト美術 第2回 古代ギリシア、ローマ美術 第3回 ロマネスク、ゴシック美術 第4回 イタリア・ルネサンスの始まり 第5回 ルネサンスの展開 第6回 「北方ルネサンス」 第7回 ルネサンスからマニエリスムへ 第8回 バロック美術 第9回 バロックからロココへ 第10回 新古典主義、アカデミズム美術 第11回 レアリスム、印象派 第12回 モダニズム以前と以後 第13回 戦間期のヨーロッパ美術 第14回 第二次世界大戦と美術 第15回 戦後美術
成績評価	出席30%、中間レポート30%、期末レポート40%
教科書	特に設けない
参考書　参考資料	『西洋美術館』（小学館） 『西洋美術の歴史』全8巻（中央公論新社）
履修上の注意	高校で学ぶ程度の世界史の知識があることが望ましい。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、1時間の事前学習及び3時間の復習をすること （具体的な内容） とにかく展覧会に行って作品を見て、分析したことを書き留めましょう。 難しければオンライン美術館などで、定期的にあらゆる作品を目にする環境を作ることをおすすめします。
課題に対するフィードバックの方法	レポートの簡潔な添削を行う
教員の実務経験	現在大阪大学大学院博士後期課程でドイツ近代美術について研究する傍ら、美術館などで職務にあたっている。
科目ナンバリング	COM-BA211L

講義名	東洋美術史		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 淺湫　毅	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	広い東洋世界の中で、仏教を信仰し（あるいはかつて信仰していた）地域、範囲を理解し、それぞれの地域でうみだされた作品が、同様の主題のもとに製作されていながらもいかに異なるかを理解するとともに、日本文化の基層をなす仏教美術への理解を深めることを目標とする。せっかく仏教美術の聖地京都で学んでいるのだから、仏教美術のエキスパートを目指そうではないか。
授業概要	「東洋」という言葉が指し示す範囲は広く、また場合に応じてその範囲も変化する。本講は広い東洋世界の中で作り続けられてきた美術作品の中でも、とくに日本と関係の深い「仏教美術」を中心に学ぶ。地理的にはインドから東南アジア、中国、朝鮮を経て日本へ、時間的には古代から現代にいたるまでの仏教美術の特色を、実際の作例映像などを通じてみていく。きらめく仏教美術の世界を、本講を通じてともに旅しよう。本科目は工芸学部ディプロマポリシーの１に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 ガイダンス 東洋世界と仏教美術の基礎知識 第2回 日本の仏教美術　１ 飛鳥時代１　法隆寺を中心に 第3回 日本の仏教美術　２ 飛鳥時代２　白鳳文化とは 第4回 日本の仏教美術　３ 奈良時代１　東大寺・興福寺を中心に 第5回 日本の仏教美術　４ 奈良時代２　唐招提寺と鑑真 第6回 日本の仏教美術　５ 平安時代１　最澄・空海と密教の美術 第7回 日本の仏教美術　６ 平安時代２　仏師定朝の時代 第8回 日本の仏教美術　７ 鎌倉時代１　運慶の登場 第9回 日本の仏教美術　８ 鎌倉時代２　快慶と次世代の仏師 第10回 日本の仏教美術　９ 鎌倉時代３　鎌倉と禅宗の美術 第11回 日本の仏教美術　10 南北朝から近・現代まで 第12回 朝鮮（韓国）の仏教美術 朝鮮三国時代から統一新羅時代 第13回 中国の仏教美術 中国南北朝時代から唐時代 第14回 東南アジアの仏教美術 ベトナム・カンボジア・タイ・ミャンマー 第15回 南アジアの仏教美術 インド・パキスタン・スリランカ
成績評価	受講態度70%　期末レポート30%
教科書	とくになし
参考書　参考資料	小学館『日本美術全集』『世界美術全集　東洋編』等の美術書 このほか書店に数多くある「仏像入門」に類する本に目を通しておくこと
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して１時間の予習と１時間の復習をすること。 （具体的な内容） 適宜、京都国立博物館や寺社などを訪れ、実際の仏像作品をしっかりみておくこと 授業当日に配布する資料を必ず読んで確認すること
課題に対するフィードバックの方法	レポートは採点し、コメントを付して返却する
教員の実務経験	京都国立博物館・東京国立博物館に勤務
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-BA312L

講義名	伝統絵画技法Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 長谷川　雅也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	課題制作⑦
授業概要	日本の絵画は、古く中国等の影響を強く受けながら独自の発展を遂げてきた。明治以降「日本画」というカテゴリーの中で制作されるようになってからも西洋の絵画理論とはことなる「写意・写生」の意識や伝統的絵画技法を保ち続けている。本科では、古典作品の模写により伝統的な描線、彩色について学ぶ。併せて、「写意」の伝統に即して学ぶため、基本的画材を用いて描写・制作を行う。本科目では工芸学部ディプロマポリシーの１に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　オリエンテーション　購入画材確認、進行手順の説明、受講時の留意点、次週の準備 第2回　古典作品の模写による描法①　(運筆) 第3回　古典作品の模写による描法②　(運筆) 第4回　古典作品の模写による描法①　(彩色) 第5回　古典作品の模写による描法②　(彩色) 第6回　古典作品の模写による描法③　(彩色) 第7回　古典作品の模写による描法④　(彩色) 第8回　古典作品の模写による描法⑤　(彩色) 第9回　課題制作①　ー写生から彩色、仕上げまでー 第10回　課題制作② 第11回　課題制作③ 第12回　課題制作④ 第13回　課題制作⑤ 第14回　課題制作⑥ 第15回　課題制作
成績評価	出席、遅刻、課題への取り組む姿勢、感性度によって評価する
教科書	必要に応じて適時資料を提示する
参考書　参考資料	模写手本(コピー手本)
予習・復習指導	授業の進行より遅れが生じた場合は、自主的に翌週までに課題制作を進めておく。課題作品の提出を厳守する。
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに質疑応答、提案を行う。
科目ナンバリング	CRA-BA213S

講義名	建築計画Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	建築を具体的な形にしていく計画・設計手法とそのために必要となる基礎的知識を学び、その知識を活用できるようになること。
授業概要	建築に携わる者にとって基礎的で必須の教科。建築そのものを理解するための基礎知識や建築計画・設計に要求される知識・技術、計画・設計手法を体系的に学習する。 前半において計画の基礎となる人間の知覚と行動、建築空間の性能、形態、後半において設計の基礎となる建築の計画手法、空間構成の技法、外部空間の構成手法、計画の表現技法などを学習する。建築設計関連の演習と相関した授業計画としている。 建築学科のディプロマポリシーの１．２．３．４に係る。
授業計画 授業内容	全15 回 第 1回 ガイダンス、建築計画の目的、意義など 第 2回 人間の知覚と行動１：（形態知覚の特性、心理環境と形態） 第 3回 人間の知覚と行動２：（人間の行動と形態） 第 4回 寸法と規模の計画１：（寸法の計画） 第 5回 寸法と規模の計画２：（単位空間の寸法） 第 6回 空間の性能１：（空間の機能、安全性） 第 7回 空間の性能２：（耐久性、経済性、省エネルギー） 第 8回 空間の形態：（地理的環境と形態、機能と形態） 第 9回 計画の技法１：（設計プロセス） 第10回 計画の技法２：（空間構成のエレメント） 第11回 空間構成の技法 第12回 造形技法 第13回 外部空間の構成と配置計画１：（外部空間のスケール、歩行空間の形態） 第14回 外部空間の構成と配置計画２：（外部空間の構成、建物の配置形態） 第15回 表現技法 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	「小レポート(小テスト)＋期末試験(期末レポート)」により成績評価を行う。 授業態度（出席も含め30%）も考慮し、最終成績とする。
教科書	「現代建築学　新訂　建築計画1」　岡田光正著他　鹿島出版会
参考書　参考資料	第3版「コンパクト建築設計資料集成」 日本建築学会　丸善株式会社
履修上の注意	基礎教養として社会の仕組みをある程度理解し、建築に関わる現代的問題をニュース等から情報を得て、自らの課題として認識しようとすること。また、人間の行動実態や豊かな生活環境のあり方等に興味をもち、授業で学んだこと・考えたことと日々の生活との関わりを知ろうとする心掛け・行動が重要である。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書や配布資料を読み、建築計画に関わる考え方を感覚的に理解すること。また具体的な単語や数値を覚えること。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅰ、Ⅱ」、「建築概論」、「建築計画Ⅱ、Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	小レポート（小テスト）のフィードバックを次回以降の講義内もしくはクラスルームで行う予定である。
教員の実務経験	10年以上の設計実務経験を有する。
教員の実務経験有無	有り
科目ナンバリング	COM-BA114L

講義名	建築構造力学Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 竹脇　出	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	新谷　謙一郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	力学理論の基礎を学び、将来実務者として適切な判断を行う素養を身に付ける。
授業概要	静定梁、静定ラーメンに生じる力の算出方法、応力度の算定方法を身に付け、建築構造設計に必要な構造力学の基礎を習得することを目的とする。 建築学科のディプロマポリシー１に係る
授業計画 授業内容	全15回 第　１ 回 オリエンテーション／力の基礎（１）　力の分解 第　２ 回 力の基礎（２）モーメントの計算 第　３ 回 力の釣合い 第　４ 回 構造物に生じる外力／荷重・支点反力／反力計算（１） 第　５ 回 反力計算（２） 第　６ 回 反力計算（３） 第　７ 回 反力計算（４） 第　８ 回 部材断面に生じる力／応力計算（１） 第　９ 回 応力計算（２） 第 １０ 回 応力計算（３） 第 １１ 回 応力計算（４）／３ヒンジラーメンの反力計算 第 １２ 回 応力図を描く（１） 第 １３ 回 応力図を描く（２） 第 １４ 回 応力図を描く（３） 第 １５ 回 応力図を描く（４） ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果（40%） 演習課題提出状況・内容（60%）
教科書	初学者の建築講座「建築構造力学(第三版)」　市ヶ谷出版社
参考書　参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5時間の復習をすること。 （授業ノートの整理、前回演習課題の復習等）
関連科目	「建築構造力学Ⅱ」　「建築構造力学Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次回の講義内で行う。
科目ナンバリング	COM-BA215L

講義名	文化財概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 中谷　武雄	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	文化財に対する経済的な視点と考え方とその変化・発展を理解し、保存から活用へ、観光資源化への流れのなかで、とくに生活や地域における文化財の意義や役割について、文化的、経済的、政治的、社会的な内容、すなわち、現代文化財経営論を理解する。
授業概要	文化財を現代文化財経営論として、現代社会おける文化財とその活用政策への展開を基礎視角に、経済学、文化経済学の立場から論じる。文化財を媒介に文化と経済の関係や、文化財に関連した社会的・政治的・経済的な保存、保護、活用の仕組みを学習して、その背景にある文化・文化財に関する考え方（意義・意味・役割）の変化、発展を、情報通信・科学技術の発達とも関連づけて解説する。 工芸学部ディプロマシー1、2に該当する。
授業計画 授業内容	I　現代社会における文化・文化財・文化政策 1　現代社会の文化財と文化　（現代文化財経営論　文化財保護法改正） 2　文化財と文化的財　（文化経済学：経済と文化　文化的所産） 3　文化（財）保護の歴史　（文化の独占的消費から商品化・産業化・民主化） 4　知的財産（権）　（創造性の経済学　著作権の経済学） 5　日本の文化政策　（文化庁　文化財保護→文化創造支援） II　文化財保護法の体系 6　文化財保護法　（改正の歴史と文化（財）の拡張） 7　有形文化財と無形文化財　（文化財の体系・種類　ユネスコの遺産事業） 8　民俗文化財と記念物　中間試験・予定 9　伝統的建造物群　（文化遺産を活かした地域活性化） 10　重要文化的景観　（景観法） 11　登録文化財　（文化遺産の経済学） III　文化財と文化政策　（文化によるまちづくり） 12 世界遺産　（古都京都の文化財） 13 日本遺産　（文化財の観光資源化） 14 文化によるまちづくり　（文化交流と文化観光推進法） 15 まちづくりと地域おこし　（文化資本の循環・形成・蓄積・発展） ☆☆教科書を参照して、「私のふるさとの（地域の，身近な，好きな・・）文化財」（仮）という提出物（35%）のテーマの観点から、まちあるき（文化体験）に親しんでおくこと。
成績評価	期末レポート：35%　中間テスト：20%　毎回の提出物：45%
教科書	文化庁「未来に伝えよう文化財：文化財行政のあらまし」最新版（2021年10月） 各自でダウンロード
参考書　参考資料	東京大学文化資源学研究室編『文化資源学：文化の見つけかたと育てかた』新曜社、2021年10月25日、2600＋税 伊藤孝（産業遺産学会元会長）『「近代化遺産」の誕生と展開：新しい文化財保護のために』岩波書店、2021年7月16日、6820．－ 岩城卓二・高木博志編『博物館と文化財の危機』人文書院、2020年2月、194頁、2300＋税
履修上の注意	文化・文化財と経済や社会の関係を重視して、政治・産業の動きにも目を配ること。
予習・復習指導	講義１コマに対し、1．5時間の事前学習、および1．5時間の復習をするとともに、適宜フィールドワークに従事すること。 （具体的な内容） 期末レポート作成（1500字程度）のため、関連文献や資料に目を通すとともに、日頃からまちあるきに親しみ、現場／現物を観察／鑑賞しておくこと。
関連科目	工芸と経済　世界文化遺産論　地域社会論
課題に対するフィードバックの方法	提出物に対する事前相談と、コメントを加えて、最終提出とする。
教員の実務経験	なし
教員の実務経験有無	なし
科目ナンバリング	COM-BA116L

講義名	日本住居史		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	建築史研究、歴史的建造物の調査研究、設計・施工に必要となる基本的な知識を習得する。
授業概要	日本の伝統的な住居について、変遷過程や形態、特徴を史料、遺構等に基づき解説する。 建築学科のディプロマポリシーの１、２に係る。
授業計画 授業内容	全15 回 第１回 オリエンテーション　史跡と古墳 第２回 原始的な住居と集落 第３回 都城と宮殿 第４回 寝殿造 第５回 書院造 第６回 城郭 第７回 武家屋敷 第８回 都市と村落 第９回 民家 第10回 町屋（町家） 第11回 劇場 第12回 茶室と数寄屋 第13回 近代和風建築 第14回 洋風住宅 第15回 歴史的な町並み
成績評価	レポートおよび定期試験結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書　参考資料	日本建築学会『日本建築史図集』彰国社、小沢朝江・水沼淑子『日本住居史』吉川弘文館
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
関連科目	日本建築史、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	期末試験を実施し、試験後に解答を公開する。
教員の実務経験	文化財建造物修復、歴史的建造物設計監理
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-BA118L

講義名	構法計画Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸髙　太郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	「木構造」の構成を覚え、基本原理を理解する。在来軸組工法における床組・小屋組の設計方法を理解する。
授業概要	１．建築物の架構としての「木構造」の構成、基本原理について学ぶ。 ２．「木構造」が水平力へ抵抗するメカニズムを学ぶ。 ３．部材の継手・仕口、造作等、「木構造」のディティールについて学ぶ。 建築学科のディプロマポリシー１に係る
授業計画 授業内容	全15回 第　１ 回 建築工法の分類 第　２ 回 木構造（　１）　木材の特徴 第　３ 回 木構造（　２）　木構造の基本構成 第　４ 回 木構造（　３）　軸組／耐力壁 第　５ 回 木構造（　４）　耐力壁量・耐力壁の配置 第　６ 回 木構造（　５）　耐力壁量・耐力壁の配置 第　７ 回 木構造（　６）　床組の構成／床組の設計 第　８ 回 木構造（　７）　床組の設計／部材の継手・仕口 第　９ 回 木構造（　８）　床組の設計 第１０ 回 木構造（　９）　小屋組の構成 第１１ 回 木構造（１０）　小屋組の設計 第１２ 回 木構造（１１）　小屋組の設計 第１３ 回 木構造（１２）　接合金物・造作・仕上げ 第１４ 回 木構造（１３）　造作・仕上げ 第１５ 回 木構造（１４）　枠組壁工法（２×４工法） ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果（40%） 授業レポート提出状況・内容（60%）
教科書	『建築構法』第五版　内田祥哉著　市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑　木造住宅』　大野隆司著　エクスナレッジ
参考書　参考資料	資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：0.5時間（テキストの次回講義部分を読む） 復習：4.0時間（授業ノートの整理等）
関連科目	「建築設計基礎演習Ⅱ」　「建築材料」　「建築生産論」　「構想計画Ⅱ」　他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。
科目ナンバリング	AAT-BA120L

講義名	建築CAD演習 I		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基本科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 永井　秀幸	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	江本　弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	中村　卓	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・グラフィックデザインの意義を理解するとともに、その実践のためにAdobe Photoshopおよび Illustratorの基礎的な操作法を習得する。 ・2次元CAD（Computer Aided Design）の意義を理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCADの基礎的な操作法を習得する。 ・建築設計作品のデジタル・プレゼンテーションの意義を理解するとともに、その実践のために上記のソフトウェアを活用する。
授業概要	本演習では、まずデザインにおけるコンピューターソフトウェアの身近な活用事例を概観し、その意義を理解しながら、代表的なグラフィックデザインソフトウェアであるAdobe Photoshopおよび Illustratorを使用し図形描画や画像処理の基礎を習得する。 次に、建築に関連する実務上、近年広く活用されているCAD（Computer Aided Design）のうち、2次元CADの意義を理解しながら、CADソフトウェアのひとつであるAutodesk AutoCADを使用し2次元CAD上の空間概念および基礎的な操作法を習得する。 最後に、これらのソフトウェアを駆使し、2次元媒体における建築設計図面の作成、および建築設計作品の総合的なプレゼンテーションの能力の向上を目指す。 ・建築学科ディプロマポリシー4に該当する。
授業計画 授業内容	全15回、週1回・2コマ 第1回　ガイダンス、コンピューターを用いたデザインの基本概念 第2回　Illustrator①（基本操作、テキスタイルのトレース【課題1】） 第3回　Illustrator②（フォントの基礎、デザインコンセプトの構築） 第4回　Illustrator③（ロゴマークのデザイン【課題2】） 第5回　Illustrator④（課題2の成果品の講評） 第6回　Photoshop①（基本操作、写真の加工） 第7回　Photoshop②（写真の合成【課題3】） 第8回　AutoCAD①（基本図形の描画） 第9回　AutoCAD②（建築図面の描画） 第10回　AutoCAD③（モデル空間とペーパー空間、ペン設定、印刷） 第11回　AutoCAD④（異尺度図面の印刷【課題4】） 第12回　総合課題① 第13回　総合課題② 第14回　総合課題③ 第15回　総合課題④（成果品のプレゼンテーション、講評） ※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	・「Illustrator & Photoshop & InDesign これ1冊で基本が身につくデザイン教科書」阿部信行著、技術評論社 ・「CADの基礎と演習 ーAutoCAD2011を用いた2次元基本製図ー」赤木徹也他著、共立出版
教科書	・「Illustrator & Photoshop & InDesign これ1冊で基本が身につくデザイン教科書」阿部信行著、技術評論社 ・「CADの基礎と演習 ーAutoCAD2011を用いた2次元基本製図ー」赤木徹也他著、共立出版

参考書　参考資料	・教員作成資料 ・「デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本 ［AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版］」稲葉幸行著、技術評論社 ・「Autodesk AutoCAD 2022公式トレーニングガイド」井上竜夫著、日経BP
履修上の注意	VDT（Visual Display Terminals＝PCなどの情報端末）作業が中心となるため、作業環境維持（各種IDとパスワードの管理など）、作業データ管理（こまめなバックアップなど）、健康管理（特に眼精疲労）に注意を払うこと。 演習で配布された、あるいは各自収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。 課題に対する成果物の提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまずきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得すること。 演習で扱う題材に関連するグラフィックデザイン、および建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行うこと。
関連科目	・「情報基礎演習」の履修および合格を本科目の履修条件とする。 ・本科目の履修および合格を「建築CAD演習Ⅱ」の履修条件とする。 ・総合課題は「建築設計基礎演習Ⅰ」（旧「工芸実習基礎Ⅰ」）と連携する。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに全体で講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-BA121S

６．専門教育科目 - 美術工芸科目・基幹科目

京都美術工芸大学シラバス［2022 年度版］

講義名	色彩理論演習		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村　奈保	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	色彩理論をAdobeIllustratorを用いて実践的に制作をしながら理解する。
授業概要	色彩は創作活動において非常に重要な要素である。 この授業では、課題を行うことで色彩の性質や効果を理解させることを目的とする。 テーマや条件を指定された中で、その目的に応じた色彩構成技術を習得する。 美術工芸学科のディプロマポリシー1.2.4に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション 第２回　色彩について 第３回　実践練習①　自己色彩分析 第４回　実践練習②　同系色 第５回　実践練習③　補色 第６回　実践練習④　アクセントカラー・ドミナントカラー 第７回　実践練習⑤　グレースケール 第８回　応用①　5つの色 第９回　応用②　多色 第10回　応用③ 第11回　応用④ 第12回　最終課題 第13回　最終課題 第14回　最終課題 第15回　合評・総評 ※毎回練習課題をやりながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を変更する場合があります。
成績評価	受講態度・出席30%　課題提出70%
教科書	必要に応じて、資料を配布する。
参考書　参考資料	授業内で必要に応じて紹介する
履修上の注意	・コンピューター（AdobeIllustrator）による課題制作を行う。 ・提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	・常に日常の中にある色に目を向けること。 ・毎回課題の試作や制作を行うこと。 ・また、課題ごとに試作したものを整理し、まとめておくこと。
関連科目	「色彩学」、「コンピュータデザイン演習」
課題に対するフィードバックの方法	授業内にて適宜対応する。
科目ナンバリング	CRA-MA201S

講義名	伝統住居論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 江本　弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	①　現代までに至る、建築・都市の近代化過程についての大枠・流れを理解すること。 ②　①の理解に際し、建築家・建築作品のみに着目せず、その背景（地理・社会・文化など）をふまえて考察できるようになること。
授業概要	この授業は現在の建築環境に関わる、建築・都市の近代化過程についての講義を行う。わたしたちの暮らしのまわりや雑誌媒体では、日々さまざまな建築が生まれ、わたしたちの目に触れている。本科目は、そうした身近な現代建築がつくられる世界的状況を俯瞰的に理解するために、現代から逆行するかたちで近現代建築史を語りおこす。 本科目は建築学科ディプロマポリシーの１，3に該当する。
授業計画 授業内容	全15コマ 1.　ガイダンス 2.　近現代建築史を読み解く視点：教科書の構成から 3.　21世紀の建築へ 4.　ポスト・モダニズム（１）：1980年代～ 5.　ポスト・モダニズム（２）：1960年代末～ 6.　戦後建築史（１）：1960年代 7.　戦後建築史（２）：終戦～1950年代 8.　モダニズム（１）：1930年代 9.　モダニズム（２）：1930年代の日本 10.　モダニズム（３）：1920年代 11.　モダニズム（４）:1920年代の日本 12.　建築の世紀初頭 13.　建築の世紀末 14.　日本の状況: 明治維新以降 15.　19世紀の建築理論へ ※なお、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	毎回配布する小レポート（60%）と期末レポート（40%）により総合的に評価する。レポートの課題内容については追って知らせる。
教科書	本田昌昭、末包伸吾『テキスト建築の20世紀』
参考書　参考資料	日埜直彦『日本近現代建築の歴史 明治維新から現代まで』 江本弘『歴史の建設――アメリカ近代建築論壇とラスキン受容』
履修上の注意	講義では、西洋・日本近代の大まかな流れにポイントを絞って解説する。そのため、建築家・建築作品等の詳細な内容については、教科書や参考書、その他の書籍から情報を自発的に得ること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 予習：　次回授業の該当年代にあたる建築物等について教科書で確認する。 復習：　講義内容の整理。関連文献（別途指示）の参照。
関連科目	「伝統住居概論」「伝統空間論」「伝統建築論 I」
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う予定。
教員の実務経験	有／建築設計（三井嶺建築設計事務所2017-18）
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-MA202L

講義名	デザイン作図演習（Aｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村　奈保	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	Fusion360の操作と３Dデータ作成技術の習得
授業概要	３次元CADソフトFusion360び活用方法、モデリング技術を習得する。 造形設計と表現を効率化することができ、 CADで作成したデータはさまざまなメディアと連携することが容易となる。 平面だけでなく立体の表現方法を学ぶことにより作品発表の場を広げることが可能となる。 美術工芸学科のディプロマポリシー1.2.4に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション・Fusion360の特徴・インストール 第２回　画面操作・モデリング基礎・データの管理方法 第３回　スケッチの基本操作 第４回　モデリング基礎①形状の作り方 第５回　モデリング基礎②形状の変形 第６回　モデリング基礎③・レンダリング基礎 第７回　モデリング基礎④ 第８回　モデリング基礎⑤ 第９回　モデリング基礎⑥ 第10回　モデリング基礎⑦ 第11回　モデリング基礎⑧ 第12回　最終課題 第13回　最終課題 第14回　最終課題 第15回　合評・総評 ※毎回練習課題をやりながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を変更する場合があります。
成績評価	受講態度・出席30%　課題提出70%によって評価する。
教科書	データにて配布。　必要に応じて資料を配布する。
参考書　参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	・毎回パソコンを使用する為忘れないようにすること。 ・データをクラウド上で作成、管理するため、Wi-Fi環境の整った場所で制作すること。 ※データ作成にはマウスの使用を推奨。
予習・復習指導	・１講義に対し３時間程度の予習復習をすること。 ・授業で学んだ操作方法を用いて独自に作品を作成すること。 ・課題ごとに試作したものを整理し、まとめること。
関連科目	IT活用応用演習
課題に対するフィードバックの方法	授業内にて適宜対応する。
科目ナンバリング	COM-MA203S

講義名	デザイン作図演習（Bｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	森重　幸子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	江本　弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	藤巻　佐有梨	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	ものづくりの原点は、創造的アイデア・デザインの構築である。一方で、そのアイデアを他者へ伝え理解してもらわなければいかに素晴らしいアイデアでも実現しない。この授業では自己のアイデアを構築する練習だけでなく他者への伝達ツールの獲得を目指す。
授業概要	・透視図法の基礎的原理を学習し、３次元の空間を２次元の平面上に表現する手法を理解する。 ・線による描画手法の演習を通して、建築物の外観・内観や、人物、樹木などをスケッチとして描く手法を身につける。 ・建築物を対象とし、プロポーション、ディテール、素材などについて観察して読み取る目を養う。 建築学科のディプロマポリシーの２、４に該当する。
授業計画 授業内容	全15 回／1回2コマ 第 1 回：オリエンテーション、線の練習、線による描写演習導入 第 2 回：透視図法の基礎（１）：一点透視図法、スケッチパース演習 第 3 回：透視図法の基礎（２）：二点透視図法、スケッチパース演習 第 4 回：表現手法演習（１）：線による描写演習、外観スケッチ 第 5 回：表現手法演習（２）：線による描写演習、外観スケッチ 第 6 回：表現手法演習（３）：線による描写演習、内観スケッチ、点景 第 7 回：表現手法演習（４）：線による描写演習、内観スケッチ、点景 第 8 回：表現手法演習（５）：線による描写演習　インテリア透視図基礎 第 9 回：空間表現演習（１）：外観スケッチ、プロポーション 第10 回：空間表現演習（２）：外観スケッチ、プロポーション 第11 回：空間表現演習（３）：ディテールスケッチ、構成 第12 回：空間表現演習（４）：街並みスケッチ 第13 回：空間表現演習（５）：都市、家具他 第14 回：プレゼンテーション（１）：ポートフォリオ作成 第15 回：プレゼンテーション（２）：総括、作品発表
成績評価	受講態度（30%）、演習作品の完成度等（70%）によって評価する。
教科書	フランシスD.K.チン『建築ドローイングの技法』彰国社
参考書　参考資料	授業開始時に配布される資料（必要な回）を参考にする。
履修上の注意	鉛筆（２B）、消しゴム、カッター、および初回に配布するスケッチブックを毎回持参すること。 PCを持参（クラスルームに課題提示）すること。
予習・復習指導	１回の演習（２コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 任意の建築物や、関連科目において自らが設計した作品などを対象として、各自でスケッチの練習を行うこと。 教科書の第1章を読んでおくこと。また、第2章「線ードローイングの本質」を読み、鉛筆で線の練習をしておくこと。授業後には、各回授業の内容に関連する教科書ページについて読んでおくこと。
関連科目	工芸実習基礎Ⅰ・Ⅱ、建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとにその日書いたスケッチを見ながら講評を行う。最終回には、作成したポートフォリオに対して全体での講評を行う。
科目ナンバリング	COM-MA203S

講義名	デザインと法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
	◎ 松井　宏記	

到達目標	社会において、デザイン関係の活動をする上で、1どんな問題が起こり得るか、2問題が起きたらど 到達目標 のように専門家に相談したら良いのか、3問題はどのような流れで解決されるか、について 大まかに知って欲しい。(自分で解決できるようになる必要はありません。)
授業概要	近年、デザインの創作や利用にあたって、法律面でのケアが重要となっている。他人のデザインを加 工する場合、作品を事業に用いる場合など、場面ごとにケアする内容も異なる。 本講義では、デザ インが直接問題となる法律(意匠法、商標法、著作権法、不正競争防止法)を扱 う。制度の基礎か ら、各制度での効果的な権利取得方法などを事例を交えて解説する。 本科目は工芸学部ディプロマシーの1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回 オリエンテーション:デザインと知的財産の関係について 第2回 意匠法1:意匠法の基本的内容について 第3回 意匠法2:意匠法の具体的内容について 第4回 意匠法3:意匠権の活用方法について 第5回 意匠法4:意匠権の権利行使、意匠調査のやり方等について 第6回 商標法1:商標法の基本的内容について 第7回 商標法2:商標法の具体的内容について 第8回 商標法3:商標権の活用方法について 第9回 商標法4:商標権に関する事件の紹介 第10回 意匠法・商標法まとめ 第11回 著作権法1:著作権法で守られる権利について 第12回 著作権法2:著作権侵害について 第13回 著作権法3:著作権の利用について 第14回 不正競争防止法:不正競争防止法の内容について 第15回 まとめ
成績評価	試験および出席回数にて評価を行う
教科書	なし。
参考書　参考資料	講師作成のテキストを毎回の授業で配布（ダウンロード）
予習・復習指導	一講義（1 コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 法律の基本的な内容を理解し、法律と自分との関わりを考え、さらに、日々生活やデザインをする場 で自分はどのようにすべきかを考えること。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートや質問のフィードバックを講義の中で行う。
教員の実務経験	弁理士登録23年
科目ナンバリング	COM-MA204L

講義名	伝統絵画技法Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 長谷川　雅也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・より高度な伝統絵画技法を身につける。 ・基底材とその性質について理解する。
授業概要	「伝統絵画技法Ⅰ」で習得した描法をもとに、実技制作を行い伝統的絵画技法が現代においても引き継がれ息づいている事を実践し、リアルな感覚を実感し理解を深める。美術工芸学科ディプロマポリシー１に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　日本画画材を用いた課題制作①　ー写生から基本的な行程を経て仕上げへー 第2回　日本画画材を用いた課題制作② 第3回　日本画画材を用いた課題制作③ 第4回　日本画画材を用いた課題制作④ 第5回　日本画画材を用いた課題制作⑤ 第6回　日本画画材を用いた課題制作⑥ 第7回　日本画画材を用いた課題制作⑦ 第8回　日本画画材を用いた課題制作⑧ 第9回　日本画画材を用いた課題制作⑨ 第10回　日本画画材を用いた課題制作⑩ 第11回　日本画画材を用いた課題制作⑪ 第12回　異素材への制作①　（木製団扇） 第13回　異素材への制作② 第14回　異素材への制作③ 第15回　異素材への制作④
成績評価	出席、遅刻、課題制作に取り込む姿勢と作品の完成度によって評価する。
教科書	必要に応じて適時資料を提示する。
参考書　参考資料	必要に応じて適時資料を提示する。
予習・復習指導	授業の進行によりおくれが生じた場合は、自主的に次回までに課題制作を進めておく。課題作品の提出を厳守する。
課題に対するフィードバックの方法	実習毎に質疑応答、提案をする
科目ナンバリング	CRA-MA206S

講義名	社寺建築論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	4		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上　直樹	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	社寺建築を単に様式で捉えるのではなく、決定された寸法の根拠や意味まで深く考察できる知識と思考法を体得する。
授業概要	「社寺建築概論」で得た様式上の基礎知識のうえに、社寺建築の各部構造がどのような設計原理と様式によって決定がなされてきたかについて論じ、社寺建築の本質にせまろうとする。 建築学科のディプロマポリシーの１、２に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　授業ガイダンス　　社寺建築を理解するための基礎知識 第２回　基礎廻りの構造と様式的変遷 第３回　軸部の構造と様式的変遷 第４回　組物の構造と様式的変遷　その１　古代・中世の組物 第５回　組物の構造と様式的変遷　その２　近世の組物と中備 第６回　軒の構造と様式的変遷　その１　古代・中世の軒 第７回　軒の構造と様式的変遷　その２　近世・近代の軒 第８回　軒の構造と様式的変遷　その３　扇垂木 第９回　小屋組みの構造と様式的変遷 第10回　屋根葺きの構造と様式的変遷 第11回　天井の構造と様式的変遷 第12回　建具の構造と様式的変遷 第13回　細部意匠論　その１　木鼻・虹梁 第14回　細部意匠論　その２　高欄・格狭間・その他 第15回　授業のまとめ
成績評価	レポートで評価をおこなう
教科書	近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版
参考書　参考資料	滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、文化財建造物保存技術協会などが刊行した文化財建造物修理工事報告書
履修上の注意	「社寺建築概論」の既習を条件とする
予習・復習指導	日頃から文化財建造物の修理工事報告書に慣れ親しんでほしい。そこから常識ではなく、実物から復元することができる知識、能力を学びたい。また現地に赴き実際の社寺建築を見学する行動力と観察眼を身につけたい。
関連科目	「社寺建築概論」「伝統建築図」
課題に対するフィードバックの方法	提出したレポートに対して講評・質疑応答をおこなう
教員の実務経験	担当教員は文化財建造物修理事業における設計監理に30年以上従事しており、とくに伝統建築のうちでも社寺建築について十分な経験がある。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-MA407L

講義名	伝統空間論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	屋外空間のほとんどが日本固有の風土や文化、社会体制の影響下に形成されていることを理解する。
授業概要	日本における伝統空間＝屋外空間のありようを理解する。特に「内」、「外」の空間概念のとらえ方が西欧とは違っていること、また生活様式に屋外空間が必要不可欠であったこと、身分と空間の関係などを学習する。 工芸学部ディプロマポリシー１、２に該当する。
授業計画 授業内容	全15 回 第 1回 授業ガイダンス（屋外空間の意義、役割） 第 2回 「 内」・「外」の空間概念の誕生 第 3回 自然環境と生活空間　１　（雨、湿度、日照、風、台風、雪、四季など） 第 4回 自然環境と生活空間　２　（暮らし、集住など） 第 5回 戦いがもたらす屋外空間　（集住、防御など） 第 6回 戦いがもたらす屋外空間　（西欧との比較） 第 7回 寺社がもたらす屋外空間　１　（浄土、石庭、参道、鎮守の杜　遥拝山など） 第 8回 寺社がもたらす屋外空間　２ 第 9回 貴族、大名がもたらす屋外空間　１（枯山水、池泉回遊式庭園、大名庭、茶庭など） 第10回 貴族、大名がもたらす屋外空間　２ 第11回 江戸期の都市空間　１（火除地、橋詰、広小路など） 第12回 江戸期の都市空間　２ 第13回 都市における空間　１（街路、広場、公園など） 第14回 都市における空間　２ 第15回 都市空間と社会システム
成績評価	受講態度30%、レポート70%により評価する。
教科書	配布資料、映像等
参考書　参考資料	「風土」和辻哲郎　「作庭記」田村剛　「日本建築史図録」
履修上の注意	常に自身の生活空間（屋外）とまちを比較する意識を頭に置きながら授業を受ける。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 日頃から現代の道路や公園の形状、広さ、空間の役割などに着目する。 また、それらの昔の姿（街道、庭園）などについても調べ、興味をもつ。 屋内、屋外の両方の空間を我々は生活に合わせて作ってきたことを常に念頭におくことが授業を理解する近道となる。文献等を調べることに加え外出時に体験的学習を行うこと。
関連科目	「建築概論」「伝統住居概論」「社寺建築論」「伝統建築環境学」など
課題に対するフィードバックの方法	期末試験後に試験の解答、解説をweb掲示板に公開する。
科目ナンバリング	CRA-MA308L

講義名	伝統建築環境学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	建築空間と外部空間の集積としての地域・都市の成り立ちを知り、そのことから，古代から現代までの都市形成・造営と都市デザインの歴史を振り返りながら、時代と社会が求めてきた伝統建築環境、地域・都市造営・デザインとはどのようなものかを理解して、未来の有り様を創造できることを到達目標とする。
授業概要	単体の住宅や様々な建築はその敷地形状や周辺の状況によって形式・形態や空間形成に強く影響を受けてきた。古代から近世以前までの都市形成・造営と都市デザインの歴史を振り返りながら、その時代と社会が求めてきた都市造営・デザインとはどのようなものかを解説。そして歴史的環境活用例として歴史的遺産を活用した地域再生や歴史的景観を活かした街づくり例を紹介する。授業の前半は京都地域を中心に主に日本の住環境について考え、後半は世界の住環境について視野を広げていく。 建築学科のディプロマポリシー１、３に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　京 都 ＿ 街の構造 第２回　町 家 ＿ 京町家 第３回　民 家 ＿ 民家の環境形成前半 第４回　民 家 ＿ 民家の環境形成後半 第５回　格 子 ＿ 格子割の都市前半 第６回　格 子 ＿ 格子割の都市後半 第７回　庭 園 ＿ 庭園と建物の関係前半 第８回　庭 園 ＿ 庭園と建物の関係後半 第９回　起 源 ＿ 人類と都市の起源 第10回　住 居 ＿ 多様な住まい 第11回　環 境 ＿ 環境負荷の削減と環境品質の向上 第12回　内 外 ＿ 内部空間と外部空間 第13回　田 園 ＿ 田園都市 第14回　東 西 ＿ アメリカにおけるランドスケープデザインの近代 第15回　南 北 ＿ ヨーロッパにおけるランドスケープデザインの近代 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	評価ポイント：授業態度（30%）、期末レポート（70%）。
教科書	適宜プリントを配布。
参考書　参考資料	「都市計画の歴史」 日端康雄 講談社、「日本の都市空間　都市デザイン研究体　彰国社 「建築設計資料集成」[地域・都市Ⅰ～プロジェクト編]及び[地域・都市Ⅱ～データ編]日本建築学会編　丸善㈱　この他にも授業で適宜紹介する。
履修上の注意	基礎教養として経済学、社会学、法学などの基礎を理解し、社会の仕組みを（ある程度）理解していること、現代的問題・課題をニュース、新聞等から日々情報を得て、自らの課題として認識、意識していることが重要である。（「認識力」）また、豊かな生活実現、都市環境のあり方などに興味をもち、いろいろな場面、機会などを捉え、豊かな生活実現と都市・街などのあり方、情景などについて日々発見する心掛けが重要である。（「観察力」＋「構想力」）
予習・復習指導	授業で配布する資料は図版のみなので、そこに授業で知った解説をメモやスケッチしてオリジナルノートを作成すること。また、その中で特に興味を持った事柄について深く調べること。 1コマに対し4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築計画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」、「伝統住居概論」、「伝統住居論」、「伝統空間論」、「公共デザイン論」他
課題に対するフィードバックの方法	期末試験／期末レポートに関してフィードバックをする場合は、点数だけではなくコメント等を記載して返却する。
科目ナンバリング	CRA-MA309L

講義名	文献・絵画史料概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西山　克	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	絵画を窓と考えてみよう。そこには分厚いカーテンがかかっていて、外の景色は私たちには見えない。どのような手段でこのカーテンを開けることができるのか、それこそが学問の方法である。実際の絵画（そこに関わる範囲で文献も）を使って、昔の社会や思想、文化を読み解く力を身につける。
授業概要	歴史学は、まずは文献（文字史料）の解釈を基礎に成り立っている学問である。しかし非文字史料もまた文献と同様に、さまざまな歴史の情報を私たちに提供してくれる。本講義では、日本中世の絵画を中心にとりあげ、その画面の解釈を通して、それが制作され、また受容された時代の何が読み取れるのかを考えていいく。 工芸学部のディプロマポリシー１に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　絵画を史料とすること 第２回　絵巻物①　春日権現験記絵 第３回　絵巻物②　一遍聖絵 第４回　絵巻物③　絵師草紙 第５回　絵巻物④　百鬼夜行図 第６回　絵巻物⑤　道成寺縁起絵巻 第７回　寺社絵図①　伊勢参詣曼荼羅 第８回　寺社絵図②　那智参詣曼荼羅 第９回　寺社絵図③　清水寺参詣曼荼羅 第10回　寺社絵図④北野曼荼羅 第11回　仏画①　普賢十羅刹女像 第12回　仏画②　童子経曼荼羅図 第13回　仏画③　六道絵 第14回　仏画④　熊野観心十界図 第15回　まとめ
成績評価	出席・授業への姿勢・コメントシート60%、期末試験40%
教科書	授業中にプリントを配布する。
参考書　参考資料	授業期間の要所で参考図書を紹介する。
履修上の注意	受講に関するルールは初回の授業で説明する。また講義で扱う絵画については、教室でプリントを配布するが、予習・復習の時点で図書やWebを介して閲覧しておくことが望ましい。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 なお講義中でふれる絵画史料については、プリントを配布するが、予習・復習の時点で図書やWebなどを介し自身で検索・閲覧を必ずおこなうこと。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う。
科目ナンバリング	COM-MA210L

講義名	伝統構造学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	社寺建築、古民家、町屋、煉瓦造建造物など、日本の歴史的建造物について構造的特徴を理解し、調査研究、設計・施工に活かすための素養を身につける。
授業概要	歴史的建造物の基礎、軸部、壁、屋根など各部の構造形式、技法、工法、耐震技術などを学び、耐震診断や構造設計の基本を理解する。建築学科のディプロマポリシーの２、３に係る。
授業計画 授業内容	全１５回 第１回　オリエンテーション　歴史的建造物の地震被害 第２回　耐震対策の歴史 第３回　伝統工法と在来工法 第４回　基礎の工法 第５回　伝統木造の工法（１）床組 第６回　伝統木造の工法（２）軸組 第７回　伝統木造の工法（３）小屋組 第８回　伝統木造の工法（４）軒廻り、妻飾り 第９回　伝統木造の工法（５）雑作 第１０回　屋根の工法 第１１回　壁の工法 第１２回　木造以外の歴史的建造物 第１３回　伝統工法の耐震技術 第１４回　伝統工法の構造設計 第１５回　在来工法の構造設計
成績評価	定期試験結果により評価を行う。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書　参考資料	伝統のディテール研究会『伝統のディテール』障国社、渋谷五郎他『新訂 日本建築』学芸出版社
履修上の注意	配布プリント、講義ノートを毎回持参する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	建築一般構造Ⅰ・Ⅱ、伝統住居概論、社寺建築概論
課題に対するフィードバックの方法	期末試験を実施し、試験後に答案を公開する。
教員の実務経験	文化財建造物、歴史的建造物の設計監理
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA211L

講義名	ＩＴ活用応用演習（Aｸﾗｽ）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村　奈保	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・Fusion360の操作と３Dデータ作成技術の習得 ・MAYAの操作と３Dデータ作成技術の習得
授業概要	本科目では、３DCGのアプリケーションのFusion360とMAYAの２つの授業を行う。 Fusion360を選択した場合は、デザイン作図演習で学んだ基礎を元にFusion360の更なる技術を習得する。 MAYAを選択した場合は、ゲーム開発、キャラクターアニメーションに使用される技術を学ぶ。 どちらのソフトも技術の習得により、作品表現の幅を広げ、プレゼンテーションや学外コンペなどにも役立たせることが出来る。 美術工芸学科のディプロマポリシー1.2.4に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 Fusion360 第１回　オリエンテーション 第２回　モデリング復習 第３回　モデリング応用① 第４回　モデリング応用② 第５回　モデリング応用③ 第６回　モデリング応用④ 第７回　モデリング応用⑤ 第８回　モデリング応用⑥ 第９回　モデリング応用⑦ 第10回　モデリング応用⑧ 第11回　モデリング応用⑨ 第12回　最終課題 第13回　最終課題 第14回　最終課題 第15回　合評・総評 MAYA 第１回　オリエンテーション（MAYAインストール３DCG概説） 第２回　MAYA基本、ポリゴンモデリング基本① 第３回　ポリゴンモデリング基本② 第４回　ポリゴンモデリング実習① 第５回　ポリゴンモデリング実習② 第６回　質感設定、照明、レンダリング 第７回　NURBSモデリング 第８回　キャラクター作成① 第９回　キャラクター作成② 第10回　キャラクター作成③ 第11回　キャラクター作成④ 第12回　アニメーション基本 第13回　アニメーション① 第14回　アニメーション② 第15回　合評・総評 ※毎回練習問題をやりながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を変更する場合があります。
成績評価	受講態度・出席30%　課題提出70%にて評価する。
教科書	データにて配布。　必要に応じて資料を配布する。
参考書　参考資料	『Fusion360操作ガイド』三谷大暁/別所智広/坂元浩二（共書）スリプリ
履修上の注意	※Fusion360はデザイン作図演習の応用となる為、デザイン作図演習履修済みであることが必須。 ・毎回パソコンを使用する為忘れないようにすること。 ・データをクラウド上で作成、管理するため、Wi-Fi環境の整った場所で制作すること。 ・データ作成にはマウスの使用を推奨。
予習・復習指導	・１講義に対し３時間程度の予習復習をすること。 ・授業で学んだ操作方法を用いて独自に作品を作成すること。 ・また、課題ごとに試作したものを整理し、まとめること。
関連科目	「デザイン作図演習」
課題に対するフィードバックの方法	授業内で、適宜説明、解説する。
科目ナンバリング	CRA-MA213S

講義名	ＩＴ活用応用演習（Bｸﾗｽ）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 永井　秀幸	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	井上　晋一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	中村　卓	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・2次元CAD（Computer Aided Design）の意義をより深く理解するとともに、その実践のためにAutodesk AutoCADの発展的な操作法を習得する。 ・BIM（Building Information Modeling）の意義を理解するとともに、その実践のためにGraphisoft Archicadの基礎的な操作法を習得する。 ・建築設計作品の制作過程、およびプレゼンテーションにおけるコンピューターレンダリングと動画制作の意義を理解するとともに、その実践のためにalphacox Twinmotionの基礎的な操作法を習得する。
授業概要	昨今、建築に関連する実務上、2次元および3次元 CAD（Computer Aided Design）は必須のスキルとなっている。こうした現状を踏まえ、本演習では2次元および3次元 CAD、および3次元 CADの発展形であり、近年目覚ましく普及しつつあるBIM（Building Information Modeling）の、建築設計作品の制作過程、およびプレゼンテーションにおける意義を理解する。その上で、総合的な建築設計・表現能力の向上に向け、それらのソフトウェア（Autodesk AutoCAD、Graphisoft Archicad、alphacox Twinmotion）の基礎的および応用的な操作法を習得する。 ・建築学科ディプロマポリシー1および2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回、週1回・2コマ 第1回　ガイダンス、AutoCAD①（基本操作の復習） 第2回　AutoCAD②（応用操作） 第3回　AutoCAD③（同上） 第4回　Archicad①（基本操作：インストールとサンプルのモデリング） 第5回　Archicad②（同上） 第6回　Archicad③（同上） 第7回　Archicad④（応用操作：自身の設計作品のモデリング） 第8回　Archicad⑤（同上） 第9回　Archicad⑥（同上） 第10回 Twinmotion①（インストールとBIMモデルのインポート） 第11回 Twinmotion②（レンダリング応用） 第12回 Twinmotion③（同上） 第13回 Twinmotion④（動画制作） 第14回 Twinmotion⑤（同上） 第15回 Twinmotion⑥（成果品のプレゼンテーション、講評） ※教授内容に対する理解・習得状況に応じて、適宜内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	下記に基づき総合的に評価する。 ・学習状況（30%、演習の円滑な進行への貢献を含む） ・課題に対する成果品（70%、全課題に対する成果品の提出を必須とする）
教科書	・「CADの基礎と演習 ーAutoCAD2011を用いた2次元基本製図ー」赤木徹也他著、共立出版
参考書　参考資料	・教員作成資料 ・「デザインの学校 これからはじめる AutoCADの本 ［AutoCAD/AutoCAD LT 2020/2019/2018対応版］」稲葉幸行著、技術評論社 ・「Autodesk AutoCAD 2022公式トレーニングガイド」井上竜夫著、日経BP ・「ARCHICAD 22ではじめるBIM設計入門[基本・実施設計編]」 BIM LABO 著、エクスナレッジ

履修上の注意	VDT（Visual Display Terminals＝PCなどの情報端末）作業が中心となるため、作業環境維持（各種IDとパスワードの管理など）、作業データ管理（こまめなバックアップなど）、健康管理（特に眼精疲労）に注意を払うこと。 演習で配布された、あるいは各自収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。 課題に対する成果物の提出期限を厳守すること。
予習・復習指導	コンピューターソフトウェアの操作法の習得は、特に基礎段階では積み上げの性質が強く、つまずきを放置するとその先の学習がままならない。そのため、常に十分な予習復習により、各回の演習内容を確実に習得すること。 演習で扱う題材に関連する建築の実作品や提案の各媒体におけるプレゼンテーションの実例に対し、日頃から留意し、自身の制作への反映を視野に分析を行うこと。
関連科目	・「情報基礎演習」および「コンピューターデザイン演習」の履修および合格を本科目の履修条件とする。 ・BIM課題は「工芸実習基礎Ⅱ」と連携する。
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに全体で講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-MA213S

講義名	コンピュータデザイン演習（美工）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 木村　奈保	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	AdobeIllustratorの基本操作、活用方法を習得する。 AdobePhotoshopの基本操作、活用方法を習得する。
授業概要	２次元グラフィックソフトAdobeIllustrator、Photoshopを使用し、図形描画や画像編集の基本を学ぶ。 Illustratorでは、ロゴ、イラスト、テキストなどを自由かつ正確にレイアウトする力を付ける。 Photoshopでは、画像編集、効果などの操作を学び、自分で撮影した写真なども編集出来る力を付ける。 これらのグラフィックソフトを活用し、デザインの表現力を広げることを目的とする。 美術工芸学科のディプロマポリシー1.4に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション 第２回　Illustrator 復習：図形ツールを使用したデータ作成 第３回　Illustratorの基本 第４回　Illustratorの機能① 第５回　Illustratorの機能② 第６回　Illustratorの機能③ 第７回　Photoshop復習：画像の修正 第８回　写真について 第９回　Photoshopの機能① 第10回　Photoshopの機能② 第11回　Photoshopの機能③ 第12回　IllustratorとPhotoshop 第13回　最終課題 第14回　最終課題 第15回　投票・総括 ※毎回練習課題をやりながら理解を深めていきます。 ※理解状況に応じて、適宜内容を変更する場合があります。
成績評価	受講態度・出席30%　課題提出70%
教科書	データにて配布。必要に応じて、資料を配布する。
参考書　参考資料	授業内で必要に応じて紹介する
履修上の注意	・パソコンを使用（AdobeIllustrator、AdobePhotoshopをインストールし、すぐに使える状態にしておくこと） ・段階的なスキルアップを目標とするので、継続した出席が重要です。 ・課題の提出期限は厳守してください。 ・この授業内で使用するアプリケーションは自ら使い、制作することが一番のスキルアップになります。常に使用する習慣をつけ、慣れていきましょう。
予習・復習指導	１講義に対し３時間程度の予習復習をすること。 授業で学んだ操作方法を用いて作品作りに取り組むこと。 また、課題ごとに試作したものを整理し、まとめておくこと。
関連科目	「情報基礎演習」「色彩理論演習」「総合コミュニケーション」
課題に対するフィードバックの方法	授業内にて適宜対応する。
科目ナンバリング	CRA-MA114S

講義名	コンピュータデザイン演習（建築）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 永井　秀幸	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	江本　弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	中村　卓	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・Photoshop により画像の加工・修正・合成方法を習得する。 ・Illustrator により図形描画や文字入力方法を習得する。 ・Photoshop とIllustrator を活用しグラフィック作品を作成する。 ・AutoCADを通して、2次元CADの操作方法に関する基本的な概念を習得する。
授業概要	グラフィックソフト（Adobe Photoshop、Illustrator）を使用し、画像処理や図形描画の基礎を学ぶ。 Photoshopでは主に写真などのペイント系ラスターデータの処理方法を学ぶ。 Illustratorではドロー系ベクターデータの処理方法を学ぶ。これらのグラフィックソフトを活用し、デザイン表現力やプレゼンテーション能力の向上を図ることを目的とする。 また、AutoCADの基本的な操作方法、CAD上の空間概念を習得し、2次元CADによる建築設計図面の作成能力を高める。 【ディプロマポリシー】 ・建築学科ディプロマポリシーの4
授業計画 授業内容	全15回 第1回　オリエンテーション・グラフィックソフトの理解 第2回　Illustrator（描画）：基本操作、案内図を描く（課題①） 第3回　Illustrator（文字）：フォントを知る・ロゴマークを考える 第4回　Illustrator（制作）：ロゴマークをデザインする（課題②） 第5回　Photoshop（画像処理）：基本操作 第6回　Photoshop（画像処理）：写真の加工技術を学ぶ 第7回　Photoshop（画像処理）：写真の合成方法を学ぶ（課題③） 第8回　Autocad：基本操作1 第9回　Autocad：基本操作2 第10回　Autocad：画層設定・スナップ 第11回　Autocad：寸法・文字・ハッチング 第12回　Autocad：モデル空間とペーパー空間・印刷とペン設定 第13回　総合演習課題　1 第14回　総合演習課題　2 第15回　総合演習課題のプレゼンテーション・講評 ※本授業は、最終的に「総合演習課題」へと到達する構成としているが、学習への理解・到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	学習状況（20%）、提出課題（80%）により成績評価を行う。
教科書	CADの基礎と演習，赤城徹也他著（共立出版）
参考書　参考資料	デザインの学校　これからはじめる　AutoCADの本 Autodesk AutoCAD 2021 / AutoCAD LT 2021公式トレーニングガイド，稲葉幸行著（技術評論社）
履修上の注意	パソコン操作は習うより慣れることが重要である。常時パソコンを携帯し慣れ親しむ習慣をつける。 また、最初に設定するアプリケーションのIDとパスワードは忘れずに管理する。
予習・復習指導	デザインのアイデアや様々なグラフィックイメージの事例及びCADによる作図方法についての知識を図書館・ウェブ等で調べ、蓄積していくこと。 一講義（1コマ）に対して2時間の予習復習をすること
関連科目	「情報基礎演習」「IT活用応用演習」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-MA114S

講義名	建築計画Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	生活に関する多面的な知見に触れながら、住居に関する建築計画についての基礎的な専門知識の理解を深め、現代のライフスタイルに応じた住居の計画・設計を行える能力を身につける。
授業概要	住居は人間生活を行うためのシェルターであり、あらゆる建築物の起源と言われる。本講義では、「住まう」ということに関する、さまざまな原理・原則について、具体的な例を用いて解説を行う。「住まう」ことについての現代的なテーマについても触れながら、時代とともに変化していく、ライフスタイルに応じた居住空間の計画、設計に関する基本的な知識を学ぶ。建築学科のディプロマポリシーの２、３に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　ガイダンス、住居の建築計画学について 第2回　ライフスタイルと社会の変化について 第3回　住空間の計画プロセス1 第4回　住空間の計画プロセス2 第5回　住宅の単位空間 第6回　住空間の機能と組織 第7回　住環境としつらえ 第8回　住居計画　（屋根と階段、開口部と水回り） 第9回　住居計画　（外構・植栽、住宅の構成） 第10回　住居計画　（住戸の定型とバリエーション） 第11回　集合住宅の系譜 第12回　集合住宅の種類と規模 第13回　現代における集合住宅 第14回　優秀レポート発表 第15回　総括・ディスカッション
成績評価	学習状況（30%）とレポート課題（30%）及び期末試験（40%）によって評価する。
教科書	「住むための建築計画」　佐々木誠著他　彰国社
参考書　参考資料	「住宅の計画学入門」　岡田光正著他　鹿島出版会
履修上の注意	住居に関する建築計画に関して、幅広く興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	教科書の第1章から第5章を読み、専門用語や掲載されている実例の建築物について調べておくこと。 一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「建築計画Ⅰ」「建築計画Ⅲ」「建築デザイン演習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	レポート課題については優秀レポート作成者の発表を通して総評を行う。 期末試験については解説・総評を掲示する。
科目ナンバリング	COM-MA215L

講義名	建築一般構造Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸髙　太郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	「木構造」の構成を覚え、基本原理を理解する。在来軸組工法における床組・小屋組の設計方法を理解する。
授業概要	１．建築物の架構としての「木構造」の構成、基本原理について学ぶ。 ２．「木構造」が水平力へ抵抗するメカニズムを学ぶ。 ３．部材の継手・仕口、造作等、「木構造」のディティールについて学ぶ。 建築学科のディプロマポリシー１に係る
授業計画 授業内容	全15回 第　１ 回 建築工法の分類 第　２ 回 木構造（　１）　木材の特徴 第　３ 回 木構造（　２）　木構造の基本構成 第　４ 回 木構造（　３）　軸組／耐力壁 第　５ 回 木構造（　４）　耐力壁量・耐力壁の配置 第　６ 回 木構造（　５）　耐力壁量・耐力壁の配置 第　７ 回 木構造（　６）　床組の構成／床組の設計 第　８ 回 木構造（　７）　床組の設計／部材の継手・仕口 第　９ 回 木構造（　８）　床組の設計 第　１０ 回 木構造（　９）　小屋組の構成 第　１１ 回 木構造（１０）　小屋組の設計 第　１２ 回 木構造（１１）　小屋組の設計 第　１３ 回 木構造（１２）　接合金物・造作・仕上げ 第　１４ 回 木構造（１３）　造作・仕上げ 第　１５ 回 木構造（１４）　枠組壁工法（２×４工法） ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果（40%） 授業レポート提出状況・内容（60%）
教科書	『建築構法』第五版　内田祥哉著　市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑　木造住宅』　大野隆司著　エクスナレッジ
参考書　参考資料	資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：0.5時間（テキストの次回講義部分を読む） 復習：4.0時間（授業ノートの整理等）
関連科目	「工芸実習基礎Ⅱ」　「建築材料」　「建築施工法」　「建築一般構造Ⅱ」　他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。
科目ナンバリング	CRA-MA116L

講義名	建築材料		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	建築物の設計に必要となる材料選定の基本を理解する。
授業概要	建築材料への見識を深めることにより、設計の魅力と可能性を学ぶ。その学ぶことと実社会との間にリアリティを持たせるため、素材の産地や職人技術、手加工と機械加工の世界、その歴史的背景や現代的側面についても学ぶ。建築学科のディプロマシーに１に係わる。
授業計画 授業内容	第１回　建築材料概論 第２回　木材についての講義 第３回　木質材料についての講義 第４回　植物材料についての講義 第５回　金属材料（スチール・ステンレスなど）についての講義 第６回　非鉄金属材料（アルミニウム・チタン・銅など）についての講義 第７回　コンクリートについての講義 第８回　セメント・コンクリートについての講義 第９回　石についての講義 第10回　土・漆喰・石膏についての講義 第11回　焼成材料（タイル、レンガ、瓦など）についての講義 第12回　ガラス、プラスチックについての講義 第13回　その他の材料についての講義 第14回　レポート発表会 その1 第15回　レポート発表会 その2
成績評価	レポート及び期末試験により、総合的に評価する。
教科書	朝吹香菜子、他著「建築材料　新テキスト」彰国社
参考書　参考資料	藤森照信著「藤森照信、素材の旅」新建築社 JA109/隈研吾特集「Kengo Kuma:a LAB for materials」新建築社
履修上の注意	日頃から、身の回り、街中、建築雑誌で見かける様々な材料を観察する。興味を持ったら調べる。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 教科書の熟読、実際に当該材料が使われている建物を調べてみる。
関連科目	建築施工法
課題に対するフィードバックの方法	授業中にレポート発表（代表者数名）をしてもらい、講評と総括をする。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA217L

講義名	建築法規		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
	◎ 余谷　和則	
	山木　辰哉	
	寺本　健三	
	藤井　茂	

到達目標	建築基準法及び関連規定の主旨や背景を学び、論理解釈及び文理解釈の法文読解力を養う。 更に、これらの規定を正しく読みこなし、設計や施工に活用できる能力を養うことを目標とする。
授業概要	建築物を建築する為には、様々な法的規制を知る必要がある。本講義では建築基準法を主とした、建築物を建築する際に遵守すべき法的規制の基本的な事項について説明する。 個々の建築物を地震、火災等から守り、その建築物を利用する人々の生命、健康、財産を守る観点からの規制や、個々の建築物ではなく、都市計画的な建築物の秩序という観点からの規制の他、最新の動向や景観条例などについて学ぶ。 本科目は建築学科のディプロマポリシー１に該当する。
授業計画 授業内容	全１５回 第　１回　法の成り立ち並びに法の読み方及び解釈、用語の定義 第　２回　建築基準法　：　制度規制　（手続き等） 第　３回　建築基準法　：　単体規定①（一般構造１） 第　４回　建築基準法　：　単体規定②（一般構造２） 第　５回　建築基準法　：　単体規定③（防火避難規定１） 第　６回　建築基準法　：　単体規定④（防火避難規定２） 第　７回　建築基準法　：　単体規定⑤（防火避難規定３） 第　８回　建築基準法　：　単体規定⑥（防火避難規定４） 第　９回　建築基準法　：　集団規定①（敷地と道路） 第１０回　建築基準法　：　集団規定②（建蔽率、容積率） 第１１回　建築基準法　：　集団規定③（高さ制限） 第１２回　建築基準法　：　単体規定⑦（構造強度） 第１３回　建築基準関係規定等 第１４回　景観条例等 第１５回　演習 ※理解状況に応じて、適宜内容を変更する場合がある。
成績評価	受講態度（45%）及び期末試験（55%）により総合的に評価する。
教科書	①井上建築関係法令集［令和４年度版］（井上書院） ②改訂版　図説　やさしい建築法規（学芸出版社）
参考書　参考資料	講義で適宜配布する。
履修上の注意	資格取得の為だけでなく、建築に携わっていく上で必要な知識であり、意欲的に臨むこと。
予習・復習指導	一講義（一講義（1コマ））に対して、4.5 時間の復習をすること。 （具体的な内容） 学んだ内容を必ず法令集で確認し、法律独特の表現方法に慣れる努力をすること。 法令集を読み、図面や実際の建築物を視ることで、知識の定着を図ること。
関連科目	「建築計画」　他、建築に関する科目
課題に対するフィードバックの方法	質問等がある場合、次回以降の講義で解説する。
教員の実務経験	京都市役所・京都確認検査機構
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA218L

講義名	建築構造力学Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 竹脇　出	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	新谷　謙一郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	力学理論の基礎を学び、将来実務者として適切な判断を行う素養を身に付ける。
授業概要	静定トラスに生じる応力の算出方法、構造物の断面に生じる応力度の算定方法を身に付ける。また、許容応力度設計、不静定構造物の応力計算、塑性設計など構造設計における必要知識を習得する。 建築学科のディプロマポリシー１に係る
授業計画 授業内容	全15回 第　１ 回 トラス構造物の部材に生じる力／トラス構造物の応力計算（１） 第　２ 回 トラス構造物の応力計算（２） 第　３ 回 トラス構造物の応力計算（３） 第　４ 回 トラス構造物の応力計算（４） 第　５ 回 断面諸量（１）　断面１次モーメントと図心 第　６ 回 断面諸量（２）　断面２次モーメント 第　７ 回 応力と応力度／応力度の計算（１） 第　８ 回 応力度の計算（２） 第　９ 回 応力度の計算（３） 第 １０ 回 応力度の計算（４） 第 １１ 回 応力度の計算（５） 第 １２ 回 座屈現象と座屈荷重 第 １３ 回 部材の変形（たわみ） 第 １４ 回 不静定構造 第 １５ 回 弾性と塑性／塑性設計 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果（40%） 演習課題の提出状況・内容（60%）
教科書	初学者の建築講座「建築構造力学(第三版)」 市ヶ谷出版社
参考書　参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5時間の復習をすること。 （授業ノートの整理、前回演習課題の復習等）
関連科目	「建築構造力学Ⅰ」　「建築構造力学Ⅲ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次回の講義内で行う。
科目ナンバリング	COM-MA219L

講義名	建築環境工学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 橋本　頼幸	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	熱・光・空気・音などの環境要素の利用や制御技術の基礎を習得し、建物設計に生かす能力を養う。
授業概要	本科目は建築学科ディプロマポリシーの①に該当する。 人間生活の器であるとされる建築物に、直接・間接に影響をおよぼす内外の環境条件について総合的に理解し、計画設計に応用する能力を養う。本講義においては主に熱、空気、日照などについての理解を深める。
授業計画 授業内容	１．建築環境工学とは ２．熱環境1—伝熱、熱貫流 ３．熱環境2—壁体各部の温度、断熱 ４．熱環境3—空気線図、結露、温熱感 ５．空気環境1—空気汚染物質、換気 ６．空気環境2—通風、換気の方式 ７．日照と日射1—太陽の位置、隣棟間隔 ８．日照と日射2—日射の種類、日照調整 ９．採光、照明と色彩1—視環境、採光の方法、昼光率 １０．採光、照明と色彩2—照明方式、照明計算 １１．採光、照明と色彩3—色彩、色の３属性、色彩調節 １２．音環境1—音の性質、音の量と単位、騒音 １３．音環境2—騒音防止、遮音と吸音、室内音響 １４．都市の熱環境、都市の空気環境 １５．まとめ
成績評価	提出課題(20%)および期末試験(80%)
教科書	基礎力が身につく 建築環境工学(森北出版株式会社)
参考書　参考資料	エース建築環境工学<1><2>(朝倉書店)
履修上の注意	講義を通して学んだことは、実生活を通して観察、体験および計算をすることで理解を深めること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 教科書の当該部分を読み、環境工学が建築にどう生かされているかを実物を見て調べておくこと。
関連科目	「建築設備」他建築関連科目
課題に対するフィードバックの方法	出席プリントに記載された質問などは、次回以降の授業で解説・説明する。
教員の実務経験	建築・設備設計として約20年実務経験あり
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-MA220L

講義名	文化財マネージメント論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 小林　俊和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	文化財活用の現状を理解する。 文化財保存の社会的な環境や持続的な仕組みについて理解する。
授業概要	文化財の活用と再生を促すマネジメントについて、ケーススタディを交えながら学習する。ここでいう文化財の活用と再生とは、文化財を保存の対象とするだけに留めず活用の対象へと視野を拡げることである。そして、文化財マネジメントとは、文化財に地域の社会的な問題を克服する新しい見方があることを発見することにある。これらの内容を具体的に個人別またはグループに分かれて意見交換しながら学ぶ。 本科目は、本学ディプロマポリシーの2、3、美術工芸学科ディプロマポリシーの2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　文化財マネジメント概論 第2回　文化財マネジメントを学ぶ１－　保護と優先順位 第3回　文化財マネジメントを学ぶ2－　保護と重要度 第4回　日本の文化財保護の仕組み 第5回　文化財の保存 第6回　文化財の再現 第7回　文化財の被災シミュレーション　基礎 第8回　文化財の被災シミュレーション　所有者の視点から学ぶ 第9回　文化財の被災シミュレーション　レスキューの視点から学ぶ 第10回　文化財の被災シミュレーション　防災マニュアルを考える 第11回　費用効果分析１　運用コストの計算 第12回　費用効果分析2　比較と分析 第13回　文化財の情報化 第14回　文化財の活用とプログラミング 第15回　総括
成績評価	個人ワークシートやグループワークシートの提出（40%）・期末テスト（60%）
参考書　参考資料	後藤治『都市の記憶を失う前に』白揚社、後藤治『伝統を今のかたちに』白揚社
履修上の注意	個人ワークのほかにグループに分かれてグループワークや意見交換する機会があります。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、1時間の事前学習及び3.5時間の復習をすること。 （具体的な内容） 前回と次回の授業内容は関連していますので、授業前に前回の配布資料やノートのメモを読み、各自の見解を深める復習が必要となります。また、授業で紹介する寺社仏閣、ミュージアム、非営利活動の現場等に実際に探訪するなど、各自の関心に合わせて自発的な学習を行うことが望ましい。
関連科目	文化財概論
課題に対するフィードバックの方法	授業終了前、または次回の授業開始時に全体に向けた総評を行う。
教員の実務経験	無し。
教員の実務経験有無	無し。
科目ナンバリング	CRA-MA222L

講義名	インテリア設計		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	渡邊　俊博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任准教授	富家　大器	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・作画の基礎の習得から、プランニングに必要なスケッチや透視図の作成に繋げる。 ・インテリアの作図（平面図、展開図、天井伏図）と、透視図を作成する力を身につける。 ・オリジナルのインテリアデザイン空間作品を、企画から図面まで完成させ、プレゼンテーションを行うことで、プロセスの位置づけを確認し、トータルでのインテリアプランニング力を修得する。
授業概要	作画・作図の基礎からインテリアデザイン計画に取り組む。 インテリアの計画は、どのような人がどのように使うかという生活行動を考慮し、目的に応じた空間を考えることである。課題に対して、その目標を達成するための企画とコンセプトを立案し、それらをを具現化する計画図（平面図、展開図、天井伏図、家具図、透視図、模型、マテリアル計画、グラフィックデザイン等）を作成する能力を体得し、オリジナルの空間を提案する。【インテリアプランナー合格者の実務免除科目】 建築学科ディプロマポリシー１、２に該当する。
授業計画 授業内容	全１５回 第１回　ガイダンス・作画基礎 第２回　作画基礎（添景・一点透視） 第３回　作画基礎（家具・2点透視） 第４回　作画基礎（2点透視） 第５回　一点透視図の基礎作図 第６回　インテリア図課題提示・エスキーの作成 第７回　インテリア図（平面図）の作成 第８回　インテリア透視図の作成 第９回　インテリア透視図の作成 第10回　インテリアスケッチの作成 第11回　課題提示・事例調査 第12回　コンセプト・企画作成 第13回　図面作成 第14回　図面作成・プレゼンテーション準備 第15回　合評会
成績評価	授業態度(40%)、作品・プレゼンテーション(60%)として評価する。
教科書	毎回資料を配布する。
参考書　参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	インテリアプランナー合格者の実務免除科目として位置づけられている。毎回のスケジュール管理をしっかりと行い、必ず提出期限を守ること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。
関連科目	デザイン作図演習
課題に対するフィードバックの方法	演習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-MA223S

講義名	構法計画Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　基幹科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸髙　太郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	「鋼構造」・「鉄筋コンクリート」の構成を覚え、基本原理を理解する。
授業概要	１．建築物の架構としての「鉄筋コンクリート構造」の構成、基本原理について学ぶ。 ２．建築物の架構としての「鋼構造」の構成、基本原理について学ぶ。 ３．壁式の架構の構成、基本原理について学ぶ。 ４．架構以外の建築物の要素について学ぶ。 建築学科のディプロマポリシー１に係る
授業計画 授業内容	全15回 第　１ 回 鉄筋コンクリート構造（１）　鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第　２ 回 鉄筋コンクリート構造（２）　鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第　３ 回 鉄筋コンクリート構造（３）　鋼材及びコンクリートの特徴 第　４ 回 鉄筋コンクリート構造（４）　配筋原理 第　５ 回 鉄筋コンクリート構造（５）　部材の設計 第　６ 回 鉄筋コンクリート構造（６）　部材の設計 第　７ 回 鉄筋コンクリート構造（７）　陸屋根の防水 第　８ 回 鉄筋コンクリート構造（８）　仕上げ等 第　９ 回 鋼構造（１）　鋼材の特徴／鉄骨造の基本構成 第 １０ 回 鋼構造（２）　ボルト接合部の設計 第 １１ 回 鋼構造（３）　溶接接合部の設計 第 １２ 回 鋼構造（４）　床スラブ・壁 第 １３ 回 壁式構造　補強コンクリートブロック造、壁式鉄筋コンクリート造 第 １４ 回 各部構法　開口部、階段 第 １５ 回 造作と納まり　和室の造作 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果（40%） 授業レポートの提出状況・内容（60%）
教科書	『建築構法』第五版　内田祥哉著　市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑　RC造・鉄骨造』　大野隆司著　エクスナレッジ
参考書　参考資料	資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：0.5時間（テキストの次回講義部分を読む） 復習：4.0時間（授業ノートの整理等）
関連科目	「建築設計基礎演習Ⅱ」　「建築材料」　「建築生産論」　「構法計画Ⅰ」　「建築構造力学Ⅲ」 他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。
科目ナンバリング	AAT-MA127L

７．専門教育科目 - 美術工芸科目・展開科目

京都美術工芸大学シラバス［2022 年度版］

講義名	伝統工芸産業工学		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤　公誉	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	産業としての伝統工芸について、業種ごとに成り立ちや技術的・意匠的特色、また世の中での位置づけなど、概要を認識し理解する。ものづくりの高度な技について、工学的な側面からの理解を深める。
授業概要	伝統工芸産業について、その定義や業種ごとの特色、地域ごとの特色、問題点などについて多岐にわたり論じる。様々な技術を研究する応用科学である「工学」の立場より、伝統工芸・伝統産業について考察する。伝統工芸品を成立させる構造、意匠、技法、材料などの諸要素と、伝統工芸の産地を取り巻く地理的条件などのさまざまな要素の、密接な関連性について学び、工芸に対し更に認識を深める。 京都美術工芸大学ディプロマポリシー　1・2 美術工芸学科のディプロマポリシー　1・2・3　　に該当する
授業計画 授業内容	全15週／週1日 第 1週 遠藤　公誉　漆芸 第1回目　大規模漆器産地　輪島について　その1 第 2週 遠藤　公誉　漆芸 第2回目　大規模漆器産地　輪島について　その2 第 3週 遠藤　公誉　漆芸 第3回目　漆芸の道具　漆刷毛の構造と使用について 第 4週 青木　太一　彫刻 第1回目　仏師による仏像修復 第 5週 玉村　嘉章　木工 第1回目　木工・家具産業の歴史と構造 第 6週 玉村　嘉章　木工 第2回目　五大家具産地の成り立ちと特徴 第 7週 玉村　嘉章　木工 第3回目　機械化による木工業界の変化 第 8週　川尻　潤　陶芸 第1回目　京焼・清水焼　歴史と現在　その1 第 9週　川尻　潤　陶芸 第2回目　京焼・清水焼　歴史と現在　その2 第10週　川尻　潤　陶芸 第3回目　京焼・清水焼　歴史と現在　その3 第11週　遠藤　公誉　漆芸 第4回目　漆芸の道具　蒔絵筆の構造と使用について 第12週　遠藤　公誉　諸工芸 第4回目　江戸時代の職人技と機械工学の融合 その1 第13週　遠藤　公誉　諸工芸 第5回目　江戸時代の職人技と機械工学の融合 その2 第14週　遠藤　公誉　諸工芸 第6回目　江戸時代の職人技と機械工学の融合 その3 第15週　遠藤　公誉　総括 伝統産業の現代産業への転換について
成績評価	講義ごとの小レポートの内容によって評価する。
教科書	なし
参考書　参考資料	「なぜ漆はジャパンと呼ばれたか」　中室勝郎著　六耀社 「近代漆器の産業技術と構造」　北野信彦著　雄山閣 その他講師ごとに参考書などを紹介する。
履修上の注意	オムニバス形式のため、担当する教員により配布資料が無い場合がある。講義の内容を注意深く聴講することは勿論であるが、分野が多岐にわたるため、予習時などに自主的に予備知識を獲得しておくこと。
予習・復習指導	1コマに対して予習に1.5時間、復習に3時間を目安とすること。 参考書「なぜ漆はジャパンと呼ばれたか」第三章 なぜ、輪島に輪島塗があるのか P115～173 を事前に読んでおくこと。その他、配布資料や講義内容から、専門用語（作品・作家・技法など）について復習し、関連用語（作品・作家・技法など）についても調べるなど理解を深めておくこと
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「伝統工芸材料科学」
課題に対するフィードバックの方法	オムニバス形式のため、フィードバックの方法は各教員により異なる。クラスルームを活用したフィードバックや講義中のフィードバックなど様々な形態をとる。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CAC-DE301L

講義名	伝統工芸材料科学		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤　公誉	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	伝統的、または現代の産業における「ものづくり」について、科学の視点から様々に考察し、より深く理解・認識することを目標する。
授業概要	伝統工芸や様々なものづくりの分野で用いられる材料は、長い間に培われた作り手の経験の蓄積によって吟味されてきた。現代の材料科学の観点から、さまざまな「ものづくり」に用いられた材料と技術を調査研究していくと、その選択の妥当性に改めて驚かされることが多い。本講では、伝統的な様々な素材を科学的な眼で見ていくことが新たな発見につながることを様々な事例で紹介する。 美術工芸学科のディプロマポリシー2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第 1週 遠藤　公誉　　諸工芸　和紙について 第 2週 三木　表悦　　漆芸　漆の胎の材について 第 3週 ゲストスピーカー　漆芸　漆について 第 4週 宮本　貞治　　木工　木工材料について 第 5週 守崎　正洋　　陶芸　陶芸材料についてⅠ 第 6週 守崎　正洋　　陶芸　陶芸材料についてⅡ 第 7週 中井川　正道　デザイン　舗装Ⅰ 第 8週　中井川　正道　デザイン　舗装Ⅱ 第 9週　塚本　カナエ　デザイン ガラスについてⅠ 第10週　塚本　カナエ　デザイン ガラスについてⅡ 第11週　津村　健一　デザイン　合成樹脂について 第12週　渡邊　俊博　デザイン　カッティングシートの表現方法Ⅰ 第13週　渡邊　俊博　デザイン　カッティングシートの表現方法Ⅱ 第14週　遠藤　公誉　　諸工芸　刃物の素材と砥石 第15週　遠藤　公誉　　漆芸　漆芸の加飾材料について　総括
成績評価	毎回実施する小レポートにより評価する。
教科書	特に設定しない。
参考書　参考資料	授業中適宜紹介する
履修上の注意	オムニバス形式のため、担当する教員により配布資料が無い場合がある。講義の内容を注意深く聴講することは勿論であるが、分野が多岐にわたるため、復習時などに自主的に予備知識を獲得しておくこと。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して1時間の復習をすること。授業内容を深く理解するために、復習を怠らないこと。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「伝統工芸産業工学」
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	CAC-DE302L

講義名	工芸経営論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩田　均	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	①経営学の基礎的な概念を理解する。 ②職業的自立を目指す工芸家に必要な経営論理を理解し、実践的に応用してみる。 ③自由に研究テーマを設定し、独自のキャリアプランを策定する。
授業概要	現代において工芸で身を立てるには、ものをつくる技を身につけるとともに、その良さを自覚し社会に普及するための深い理解が不可欠である。そのため、従来の経営学の基礎を踏まえたうえで、現代の工芸家に必要な経営の考え方や事例を紹介する。卒業後の進路を見定め、自らの人生を拓くことに役立つ講義とする。 本学ディプロマポリシーの１，２，３に該当する。
授業計画 授業内容	第1回　講義ガイダンス：講義の概要、経営学とは、エレガントカンパニー 第2回　経営学の誕生：テイラー科学的管理、フォーディズム 第3回　経営学の展開：人間関係論、経営管理論、環境適合理論 第4回　経営戦略論：使命と戦略、戦略策定法、組織文化 第5回　マーケティング論：顧客の創造、マーケティングの４P、ユーザーイノベーション 第6回　顧客の研究：ブランド論、顧客との関係性、購買代理業態 第7回　経営学の人間観：五段階欲求説、動機づけ理論、リーダー論、日本的経営 第8回　組織の理論：バーナードの組織論、大規模組織、次世代産業組織 第9回　伝統産業の組織：徒弟制、家業、社会的分業、問屋制、コミュニティ 第10回　資金と起業：資金マネジメント、起業の基礎知識、起業家精神 第11回　地域力経営：地域力を育む事業：農林業、商店、金融、エネルギーなど 第12回　文化力経営：見えざる資産、智恵の経営、ストーリー戦略、ナレッジマネジメント 第13回　生活様式論：ライフスタイルの提案、アーツ＆クラフツ、コロナ明けの新様式 第14回　共成経営の実践：共成経営学の構築、企業経営と地域経営、工業と工芸の共成 第15回　総括と到達度テスト
成績評価	毎回提出のミニレポートや受講意欲などの平常点（50%）と最終段階での到達度レポート（50%）によって総合的に評価する。
教科書	毎回の講義用資料を事前にネット配信する。
参考書　参考資料	赤岡功『エレガント・カンパニー』有斐閣 ドラッカー『マネジメント』ダイヤモンド社
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、１時間の予習及び３時間の復習を目安とする。 （具体的な内容） 講義の中で提示する課題などに積極的に取り組み、しっかり復習して講義内容を咀嚼し身につけ、実践に役立ててください。
関連科目	地域社会論、工芸と経済
課題に対するフィードバックの方法	レポート内容や質問などについて、次回以降の講義で紹介・応答するなどの方法でフィードバックする。
教員の実務経験	京都府庁で24年間、シンクタンクで7年間などの実務経験を有する。
科目ナンバリング	CAC-DE303L

講義名	立体造形（デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊　俊博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任准教授	三木　表悦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	餌取　健司	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	主に重力や風力の影響を受ける立体造形は、素材の性質や構造、接合部の強度などの制約を受ける。 それらの制約を理解した上で、芸術的価値やデザイン的価値を有する造形表現を思考する力を身につける。 今まで学んできた基礎力を応用し、独自の発想力を活かした造形表現を行う。
授業概要	立体物を創造する場合の考え方の一例として、立体は2次元の集合体ととらえることができる。 つまり2次元の造形の良し悪しが3次元の立体の成果となる。さらに、立体物全体から2次元へフィードバックする過程も重要な造形要因となる。加えて重力、環境などの影響を考慮するという複雑な思考と判断力が必要となる。 一つの造形物を芸術的価値、デザイン的価値を有するものに作り上げるための思考と表現力を養う。 美術工芸学科ディプロマポリシー1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第 1回　オリエンテーション　授業概要説明 第 2回　造形美について 第 3回　表現の研究 第 4回　何を表現したいのか？表現プレゼンテーション 第 5回　課題制作1 ： エスキースの作成 第 6回　課題制作2 ： 素材の確定 第 7回　作品プレゼンテーション 第 8回　作品制作　実制作 1 第 9回　作品制作　実制作 2 第10回　作品制作　中間チェック 第11回　作品制作　実制作 3 第12回　作品制作　実制作 4 第13回　作品制作　フィニッシュワークチェック 第14回　作品制作　フィニッシュワーク 第15回　提出・講評会
成績評価	授業態度40%、提出物の完成度60%、作品プレゼンテーション20%の総合評価
参考書　参考資料	資料を適宜配布する。
履修上の注意	芸術的価値や、デザインの意味を理解し、自らの造形に活かせるよう美の探求をすること。
予習・復習指導	専門性を高めるために、常に芸術性、デザイン性を意識して行動する。 一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	造形基礎演習Ⅰ、造形基礎演習Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-DE304S

講義名	立体造形（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 三木　表悦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	立体造形は、素材の性質や構造、接合部の強度などの制約を受ける。 それらを理解した上で、芸術的価値やデザイン的価値を有する造形表現を思考し実行する力、工芸力を身につける。
授業概要	立体物を創造する場合の考え方の一例として、線・面の構成で考えることが出来る。 つまり１次元２次元の造形の良し悪しが３次元の立体の成果につながる。加えて重力、環境などの影響を考慮するという複雑な思考と判断力が必要となる。 今回は素材として竹などを活用して造形に取り組み、素材の違い、特徴などの理解を深め価値ある造形物への思考力表現力など工芸に必要な力を養う。 美術工芸学科のディプロマポリシー1・3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回/週１回 第 1回　オリエンテーション　授業概要説明 第 2回　竹素材の体験（素材体験） 第 3回　竹表現の研究 第 4回　基礎素材作成（竹ひご作り） 第 5回　試作 ： エスキースの作成 第 6回　試作2 第 7回　試作3 第 8回　作品制作　実制作 1 第 9回　作品制作　実制作 2 第10回　作品制作　中間チェック 第11回　作品制作　実制作 3 第12回　作品制作　実制作 4 第13回　作品制作　実制作 5 第14回　作品制作　作品撮影 第15回　提出・講評会
成績評価	授業態度20%、提出物の完成度60%、作品プレゼンテーション20%の総合評価
教科書	なし
参考書　参考資料	資料を適宜配布する。
履修上の注意	芸術的価値や、デザインの意味を理解し、自らの造形に活かせるよう美の探求をすること。
予習・復習指導	専門性を高めるために、常に芸術性、デザイン性を意識して行動する。 一講義に対して３時間の予習復習を心がけること。
関連科目	芸術導入実習、伝統工芸概論、造形基礎演習Ⅰ、造形基礎演習Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-DE304S

講義名	伝統文様		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	近代から現代に至る過程における、工芸・デザイン概念の成立と展開に関する大きな流れを時代背景と社会背景を踏まえたうえで理解する。
授業概要	本講義では、おもに近代以降の日本の工芸とデザイン概念の成立と展開について、作品や作家・デザイナーなどをの紹介を交えて解説する。これらを踏まえたうえで、「伝統」として現代まで続く工芸と新たな領域としてのデザインにおける、様式、装飾、文様などを諸要素として概観する。 本学のディプロマポリシー１に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 近代日本の美術・工芸概念の成立　1 第3回 近代日本の美術・工芸概念の成立　2 第4回 近代日本の美術・工芸概念の成立　3 第5回 博覧会と工芸 第6回 博覧会と図案 第7回 美術・工芸と教育　１ 第8回 美術・工芸と教育　２ 第9回 美術・工芸と教育　３ 第10回 図案家・図案団体と産業 第11回 図案家と図案集 第12回 近代日本における海外デザイン影響 第13回 官展と工芸 第14回 デザイン以降の工芸 第15回 総括
成績評価	授業態度、期末レポートによって総合的に評価する。
教科書	資料を適宜配布する。
参考書　参考資料	森仁史『日本〈工芸〉の近代　―美術とデザインの母胎として」の創出』2009年、吉川弘文館 北澤憲昭『美術のポリティクス　―「工芸の」成り立ちを焦点として」2013年、ゆまに書房 並木誠士、青木美保子 編『京都 近代美術工芸のネットワーク』2017年、思文閣出版
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：次回授業のテーマ、内容に関するトピックを確認しておくこと。 復習：講義内容を整理してくこと。
課題に対するフィードバックの方法	講義内で適宜対応する。
科目ナンバリング	CAC-DE305L

講義名	古文書解読演習Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三野　拓也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	文字のくずし方に慣れ、記載内容を理解する能力を習得する。
授業概要	美術・工芸・建築に関する思想や意匠をくみ取るためには、作品以外の情報も調査し理解する必要がある。本授業は、そのような情報を有している古文書を解読する能力を身につけることを目的とする。また、古文書だけではなく、木製品や布製品に記された墨書にも触れ、多様なくずし字を理解する力を養成する。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの１に該当する。
授業計画 授業内容	第１回 オリエンテーション 第２回 漢文の基礎文法 第３回 漢文の読解方法 第４回 古文書の基礎知識 第５回 古文書の読解① 第６回 古文書の読解② 第７回 古文書の読解③ 第８回 古文書の読解④ 第９回 古文書の読解⑤ 第１０回 古文書の読解⑥ 第１１回 古文書の読解⑦ 第１２回 古文書の読解⑧ 第１３回 古文書の読解⑨ 第１４回 古文書の読解⑩ 第１５回 まとめ
成績評価	評価ポイント：受講態度60%、期末試験40%
教科書	児玉幸多編『くずし字用例辞典　普及版』（東京堂出版） ※タイトルを間違えないこと
参考書　参考資料	角川『新字源』（漢和辞典）
履修上の注意	『くずし字用例辞典　普及版』と漢字辞典を持参すること。漢字辞典については、電子辞書でもよい。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して1.5時間の復習をすること。 （具体的な内容） 読むことができなかった文字のくずし方を辞典で調べ、実際に書いてみること。 書く際には漢字の筆順を確認して、筆の流れを意識すること。
関連科目	後期に「古文書解読演習Ⅱ」を続けて履修するのが望ましい。
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに質疑応答等を行う。
教員の実務経験	有
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-DE306S

講義名	伝統建築図（応用）		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上　直樹	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	伝統建築特に社寺建築特有の納まりや細部意匠の製図法を学ぶとともに製図道具の使い方を習得する。特に詳細図を中心に演習をおこない伝統建築における設計基準、寸法決定の流れを理解する。
授業概要	伝統建築の基礎的な納まりや寸法決定の流れを把握し、より高度な図面作成技術を習得するため、各回課題ごとに代表的な伝統建築の詳細図面を作図する。 また伝統建築の彩色技法についても演習をおこなう。 建築学科のディプロマポリシーの２、３に係る。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　授業ガイダンス　授業の目的、課題説明、製図道具の説明 第２回　伝統建築図面の基礎/√２～√４の作図　格子戸の割付け 第３回　伝統建築図面の細部意匠(1)/組物　中世和様 第４回　伝統建築図面の細部意匠(2)/蟇股　古代本蟇股　中世本蟇股 第５回　伝統建築図面の細部意匠(3)/木鼻　中世大仏様　中世禅宗様 第６回　伝統建築図面の細部意匠(4)/木鼻　近世大工文書から 第７回　伝統建築図面の細部意匠(5)/破風板　近世神社本殿 第８回　伝統建築図面の細部意匠(6)/彩色技法　近世神社本殿 第９回　伝統建築図面の細部意匠(7)/彩色技法　近世神社本殿 第10回　伝統建築図面の細部意匠(8)/彩色技法　近世神社本殿 第11回　伝統建築図面の納まり(1)/軒廻り　中世和様 第12回　伝統建築図面の納まり(2)/詳細図　中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第13回　伝統建築図面の納まり(3)/詳細図　中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第14回　伝統建築図面の納まり(4)/詳細図　中世仏堂断面詳細図、規矩図、近世神社断面詳細図 第15回　図面の提出　講評 また授業では伝統建築特有の製図技法を学ぶために製図道具(烏口、面相筆、撓い定規等)の使用法も体験する。 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	すべての課題の提出図面によって成績評価する。
教科書	課題ごとに、資料を適宜配布する。
参考書　参考資料	日本建築史基礎資料集成（中央公論美術出版）、国宝、重要文化財修理工事報告書等
履修上の注意	毎回課題が提示されるため毎回の出席が望まれる。 また毎回授業時間内に課題を完成させることに努め、完成しない場合は時間外に作図をおこなうこと。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること
関連科目	伝統建築専門実習への展開、履修することを薦める科目；伝統建築図（基礎）・(発展)
課題に対するフィードバックの方法	提出課題に対して講評・質疑応答をおこなう
教員の実務経験	大上教授は文化財建造物の解体修理事業に約40年近く従事しており、数多くの文化財建造物の設計監理の経験がある。また伝統建築の図面(文化庁に提出する永久保存図)も多数調製しており、伝統建築の製図法については熟知している。
科目ナンバリング	CRA-DE307S

講義名	室内意匠論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	インテリアデザインに関する知識（計画、エレメント、スタイル、材料、環境等）を幅広く吸収し、魅力的かつ適切なインテリアデザインを行うための基礎知識と技術の習得を目的とする。
授業概要	インテリア空間は人間に最も身近な環境であり、時代の社会的背景、生活文化、技術などから、様々な影響を受けている。本講義では室内デザインに関する原理・原則を基に、様々な観点から、さらに具体的な事例を通じての解説を交え、インテリアデザインにおける基本的な考え方、用語、技術等についての講義を行う。 建築学科のディプロマシー1,2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　オリエンテーション、インテリアデザインとは、自己紹介 第２回　インテリア空間 第３回　インテリアエレメント、インテリアプランナー試験解説 第４回　インテリアスタイル 第５回　家具デザイン 第６回　ウインドートリートメント 第７回　ライティングデザイン、 第８回　インテリア設備 第９回　マテリアルコーディネート 第10回　カラーコーディネート 第11回　エルゴノミクス（人間工学） 第12回　室内環境 第13回　インテリア計画と発想 第14回　ﾕﾆﾊﾞｰｻﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ､ｻｽﾃｨﾅﾌﾞﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ 第15回　インテリアデザインのプロセスと評価：修得確認レポート
成績評価	評価ポイント：授業態度（40%）、ミニレポートの提出および評価（40%）、修得確認のためのファイナルレポート＜必須＞（20%）によって評価する。
教科書	図解テキスト「インテリアデザイン」　/井上書院　/小宮容一、加藤力、片山勢津子、塚口眞佐子、ペリー史子、西山紀子
参考書　参考資料	授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	室内意匠・生活文化に関して、日常から幅広く興味を持って、学ぼうとする姿勢を持つこと。
予習・復習指導	教科書の該当講義（1コマ）章を読み、専門用語（背景・技術）について調べ、理解を深めておくこと。 また授業で興味を得たものについて、深く研究する姿勢を持つこと。
関連科目	「デザイン概論」「建築概論」「色彩学」「伝統工芸概論」「デザイン作図演習」
課題に対するフィードバックの方法	毎回のミニレポート課題により、限定コメント等により質疑応答を行う。
科目ナンバリング	COM-DE308L

講義名	古文書解読演習Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	1		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 西山　克	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	くずし字（ひらかな、漢字）の読解力を身につける。将来的に自らの力で解読できるようにするための方法、考え方の基礎を学ぶ。
授業概要	前近代のくずし字で書かれた文献に接し、くずし字の解読の基礎を学ぶ。前近代の文字とは言ってもほとんどは現代の私たちが使用している文字でもある。ただ筆書きのくずし字は読みにくい。まずはなれること。様式・難易度の異なるものをコピーし、順次に解読していく。 工芸学部のディプロマポリシー１に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　授業の内容、進め方について 第２回　一枚の文書から 第３回　前近代の文章に慣れる① 第４回　前近代の文章に慣れる② 第５回　前近代の文章に慣れる③ 第６回　絵巻物の詞書を読む① 第７回　絵巻物の詞書を読む② 第８回　絵巻物の詞書を読む③ 第９回　絵巻物の詞書を読む④ 第10回　古文書を読む① 第11回　古文書を読む② 第13回　古文書を読む③ 第14回　古文書を読む④ 第15回　まとめ
成績評価	出席・授業への姿勢60%、期末試験40%
教科書	授業中にプリントを配布する。
参考書　参考資料	児玉幸多編『くずし字用例字典（普及版）』（東京堂出版）などのくずし字に関する字典類
履修上の注意	受講に関するルールは初回の授業で説明する。適宜、授業中に意見・発表を求める場合がある。くずし字字典は必ず持参すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して2時間の予習復習をすること。 なお授業中に使用する絵画史料や古文書については、あらかじめプリントを配布するが、予習・復習の時点で図書やWebなどを介し自身で検索・閲覧をおこなっておくこと。
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを次回以降の授業内で行う。
科目ナンバリング	COM-DE309S

講義名	建築設備		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 橋本　頼幸	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	建築諸設備を、シェルターである建築構造や建築環境との相互関係を理解し、都市の基幹設備(インフラストラクチャー)や環境との関連を把握し、環境に配慮したシステム設計の基礎を習得する。
授業概要	本科目は建築学科ディプロマポリシーの①に該当する。 シェルターとしての建築を安全・快適・健康・利便で、人間のあらゆる生活活動に供できる環境を作り上げるのに不可欠な建築の数々の設備システムの基礎を理解し、適切に設計する基礎技術の習得を目的とする。
授業計画 授業内容	１．建築設備とは ２．情報・通信設備 ３．給水設備１ ４．給水設備２ ５．給湯設備 ６．排水・通気設備１ ７．排水・通気設備２ ８．ガス設備 ９．防災設備１ １０．防災設備２ １１．空調設備１　システム １２．空調設備２　負荷計算 １３．空調設備３　熱源 １４．空調設備４　搬送 １５．まとめ
成績評価	提出課題(20%)および期末試験(80%)
教科書	図解　建築設備(森北出版株式会社)
参考書　参考資料	絵解き建築設備、吉村武、世良田崇、オーム社
履修上の注意	講義を通して学んだことは、実生活を通して観察、体験および計算をすることで理解を深めること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 （具体的な内容） 教科書の当該部分を読み、当該設備が建築にどう組み込まれているかを実物を見て調べておくこと。
関連科目	「建築環境」他建築関連科目
課題に対するフィードバックの方法	出席プリントに記載された質問などは、次回以降の授業で解説・説明する。
教員の実務経験	建築・設備設計として約20年実務経験あり
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-DE310L

講義名	建築一般構造Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 戸髙　太郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	「鋼構造」・「鉄筋コンクリート」の構成を覚え、基本原理を理解する。
授業概要	１．建築物の架構としての「鉄筋コンクリート構造」の構成、基本原理について学ぶ。 ２．建築物の架構としての「鋼構造」の構成、基本原理について学ぶ。 ３．壁式の架構の構成、基本原理について学ぶ。 ４．架構以外の建築物の要素について学ぶ。 建築学科のディプロマポリシー１に係る
授業計画 授業内容	全15回 第　１ 回 鉄筋コンクリート構造（１）　鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第　２ 回 鉄筋コンクリート構造（２）　鉄筋コンクリートラーメン構造の基本構成 第　３ 回 鉄筋コンクリート構造（３）　鋼材及びコンクリートの特徴 第　４ 回 鉄筋コンクリート構造（４）　配筋原理 第　５ 回 鉄筋コンクリート構造（５）　部材の設計 第　６ 回 鉄筋コンクリート構造（６）　部材の設計 第　７ 回 鉄筋コンクリート構造（７）　陸屋根の防水 第　８ 回 鉄筋コンクリート構造（８）　仕上げ等 第　９ 回 鋼構造（１）　鋼材の特徴／鉄骨造の基本構成 第１０ 回 鋼構造（２）　ボルト接合部の設計 第１１ 回 鋼構造（３）　溶接接合部の設計 第１２ 回 鋼構造（４）　床スラブ・壁 第１３ 回 壁式構造　補強コンクリートブロック造、壁式鉄筋コンクリート造 第１４ 回 各部構法　開口部、階段 第１５ 回 造作と納まり　和室の造作 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験の結果（40%） 授業レポートの提出状況・内容（60%）
教科書	『建築構法』第五版　内田祥哉著　市ヶ谷出版社 『世界で一番楽しい建物できるまで図鑑　RC造・鉄骨造』　大野隆司著　エクスナレッジ
参考書　参考資料	資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する授業レポートの提出を毎回行う。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：0.5時間（テキストの次回講義部分を読む） 復習：4.0時間（授業ノートの整理等）
関連科目	「工芸実習基礎Ⅱ」　「建築材料」　「建築施工法」　「建築一般構造Ⅰ」　「建築構造力学Ⅲ」 他
課題に対するフィードバックの方法	授業レポートのフィードバックを次回の講義内で行う。
科目ナンバリング	CRA-DE111L

講義名	伝統建築論Ⅰ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 三木　勲	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	１）各時代の建築を代表する概念や理論また作品や人物さらには各時代の建築における様式の特徴や部位の名称など、学士レベルで最低限必要とされる専門的な知識を身につける。２）それにより、例えば、メディアや旅先などでふと目にした歴史的な建築の年代や様式などを見極められるようにする。３）加えて、過去の建築にこれからの建築にも活かせる点を見出し、歴史的な深みと厚みをもって、建築ひいては都市の今を捉えられるようにする。
授業概要	西洋建築の歴史について、その理解に欠かせない様式を中心に、画期となった概念や理論また作品や人物などを紹介しながら、講義を行う。西洋建築の起源とされる古代ギリシア建築から、近代建築への転換期とされる１９世紀の歴史主義と折衷主義の建築に至るまでに及ぶ時代の建築を時系列的に順番に扱う。ある時代の建築は、先立つ別の時代の建築から何を継承しまた何を刷新することで、そのある時代に固有のスタイル、すなわち、ゴシックやバロックなどと呼ばれる、時代様式を獲得するに至ったのか？この点を、全体を通じた大きな論点としながら、授業を展開していく。歴史上の過去の建築を対象とするが、先人の知恵に学ぶとよくいわれるように、遠い昔の建築にこそ、現在の建築ひいては都市を考える上で有意義なヒントが潜在している場合が多々ある。そこで、各講義では、現代に繋がる論点も抽出しながら、解説していきたい。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの1,2および建築学科ディプロマポリシーの1,2に該当する。
授業計画 授業内容	１）ガイダンス：西洋建築史を学ぶ意義 ２）古代ギリシア建築 ３）古代ローマ建築I ４）古代ローマ建築II ５）初期キリスト教建築（ビザンティン建築を含む） ６）ロマネスク建築I ７）ロマネスク建築II ８）ゴシック建築I ９）ゴシック建築II １０）ルネサンス建築I １１）ルネサンス建築II １２）バロック建築I １３）バロック建築II １４）新古典主義建築 １５）歴史主義と折衷主義の建築
成績評価	毎授業後のコメントなどの提出物を60%、期末レポート課題（1回）を40%の割合で評価の対象とする。
教科書	特に指定はない。適宜、文献などの関連資料を紹介していく。
参考書　参考資料	西田正嗣編『ヨーロッパ建築史』昭和堂1998年. 陣内秀信ほか『図説 西洋建築史』彰国社2005年. 伊藤喜彦ほか：『リノベーションからみる西洋建築史－歴史の継承と創造性－』彰国社, 2020年.
履修上の注意	できるかぎり予習・復習をしておくのが望ましい。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、4.5時間の復習をすること （具体的な内容） スライドや動画などの資料、参考書を用いて、各時代の建築の様式的特性またその時代相互の関連性の理解に努める。授業は、必ず冒頭で前回のおさらいを行い、その上で、新しいテーマをもとに展開する。毎回授業教材（レジュメやスライドなど）を用意する。それら教材をもとに、しっかりと復習をすることが望ましい。
関連科目	設計演習、近代建築史、建築計画など、計画系科目の学習に資するよう、専門用語の使い 方にも留意してください。
課題に対するフィードバックの方法	評価の方法や基準などをweb掲示板で公表する。
教員の実務経験	あり
教員の実務経験有無	あり
科目ナンバリング	CAT-DE215L

講義名	伝統建築論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上　晋一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	髙田　光雄	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	京町家や細街路（路地）の保全・継承・再生の意義、まちづくり（コミュニティ・デザイン）に関わる学理、方法、実践、社会システムを理解する。まちづくり（コミュニティ・デザイン）にかかわる実践的対応能力の開発を行う。 【参考】 京町家の保全・継承の意義は，京町家が連担し，自然と調和し，洗練され落ち着いた統一的な「町並み景観」，また伝統的な住まいやまちでの職住共存の暮らし方の中で積み重ねられてきた工夫や知恵の「生活文化」，それらを基盤とする京町家の現代的価値を問い直すことにある。（引用：京都市京町家保全・継承推進計画　平成31年2月策定）
授業概要	京町家を建物単体で取り扱うのではなく，それらが連担することや，集合体として形成している路地も含めて、それら関係性にも着目しながら、京都におけるまちの保全・継承・再生の意義を概説するとともに、京町家などの伝統的建築が残る生活空間の現代的再編・再生を目的としたまちづくり（コミュニティデザイン）に関する講義を行う。また、フィールドワークやワークショップの方法を学んだ上でまちづくりの現代的課題と実践にかかわる演習を行う。 建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回 第１回 講義概要・履修指導 第２回 町家・細街路・リノベーション(1) 第３回 京町家・細街路・リノベーション(2) 第４回 京町家・細街路・リノベーション(3) 第５回 フィールドワーク論(1) 第６回 フィールドワーク論(2) 第７回 フィールドワーク論(3) 第８回 まち歩き 第９回 フィールドワーク演習準備 第10回 フィールドワーク演習(1) 第11回 フィールドワーク演習(2) 第12回 演習発表・講評(1) 第13回 ワークショップ(1) 第14回 ワークショップ(2) 第15回 演習発表・講評(2) ※学習への理解、到達状況に加えて、コロナ等の感染状況応じて、フィールドワークの実施可否など適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	演習（40点満点）と 提出課題（60点満点）の合計点が60点以上を合格とする。
教科書	なし（配布資料あり、パワーポイントなどを使用）
参考書　参考資料	講義において紹介する。
履修上の注意	本講義中に行うフィールドワークには必ず出席し、ワークショップに臨むこと。 フィールドワーク時には、大学生としての自覚を持ち、事故のないよう注意すること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して、4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	伝統建築論I
課題に対するフィードバックの方法	演習ごとに講評・質疑応答などを行う。
教員の実務経験	調査研究実務経験豊富
科目ナンバリング	CAT-DE316L

講義名	建築施工法		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 河村　大助	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	建築生産(1企画・計画、2設計、3施工、4保全、5解体・廃棄)の一連の流れを理解する。更に、各生産工程の中での、ステークホルダー、契約図書、関連法規、建築材料、工法の位置づけ、関連を理解することで建築生産についての理解を深める。
授業概要	この授業は将来、建築設計・インテリア・施工等に関わる職業を志望する学生諸君を対象に、「建物はどのようにつくられ、どの様な一生をたどるか」について具体的にビジュアルで示しつつ平易に解説する。 まず、施工については、準備、仮設工事から、本設工事、竣工検査までの全体プロセスを重視し、各種の工法的特徴、前後工事との関係などに重点を置いた説明を行う。 更に、施工の前段階である計画・設計および完成後の維持管理、リニューアル、そして、解体まで視野に入れた内容とすることにより、建物の一生を俯瞰する建築生産論の理解を目指す。 本科目は、建築学科のディプロマポリシーの１に該当する。
授業計画 授業内容	全15回×90分 第1回　ガイダンス、建築生産とは１、小テスト 第2回　建築生産とは２、小テスト 第3回　解体工事、小テスト 第4回　準備工事（調査）、小テスト 第5回　準備工事（仮設）、山留め工事、小テスト 第6回　杭工事、土工事、小テスト 第7回　躯体工事（コンクリート）１、小テスト 第8回　躯体工事（コンクリート）２、小テスト 第9回　躯体工事（鉄骨）３、小テスト 第10回　外装工事、小テスト 第11回　内装工事、小テスト 第12回　設備工事、小テスト 第13回　外構・その他工事、竣工、小テスト 第14回　維持・保全・改修、小テスト 第15回　建築生産とデザイン、総括
成績評価	出席態度（３０点）、各授業の最後に小テスト（７０点）を実施して評価する。
教科書	「施工がわかる イラスト建築生産入門」 日本建設業連合会編 彰国社
参考書　参考資料	授業の中で随時紹介する
履修上の注意	各授業の中で随時指示する。
予習・復習指導	1講義(1コマ)に対して2時間の復習をすること。
関連科目	「建築一般構造Ⅰ・Ⅱ」、「建築材料」、「建築設備」、「建築法規」、「建築構造力学Ⅰ・Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	小テストについては、次の講義の冒頭で、回答及びポイントの解説を行う。
教員の実務経験	30年の建築設計・工事監理の実績、および、5年のCM（コンストラクションマネジメント）実績を持つ。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CRA-DE312L

講義名	建築計画Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	2		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重　幸子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	学校、美術館、図書館、ホールといった様々な建築物について、用途に応じて求められる計画的知識を身に着けるとともに、実例の分析を通じてそこで行われる人々の活動を豊かにする設計的な工夫について学ぶ。
授業概要	建築計画学の一般理論をビルディングタイプ別に講義する。また各種建築物の個別の計画手法について、具体的な建築家作品をあげながら解説する。複合施設や現代的な現象である変容についても言及し、今後の建築計画学のあり方についても展望する。 各自でも事例分析を行いレポートとしてまとめる。建築物の計画的な特徴について言語化することを通して、その建築物に求められる機能や、空間の豊かさ、計画的合理性など、多角的な観点から建築物を評価する力を養う。 建築学科のディプロマポリシーの１、２に該当する。
授業計画 授業内容	週１コマ×15回 第 1 回 ガイダンス、概論 第 2 回 文化施設;美術館・博物館・劇場(1) 第 3 回 文化施設;美術館・博物館・劇場(2) 第 4 回 文化施設;美術館・博物館・劇場(3) 第 5 回 教育施設;小学校、中学校(1) 第 6 回 教育施設;小学校、中学校(2) 第 7 回 教育施設;幼稚園、保育園 第 8 回 文化施設;図書館 第 9 回 事例分析、レポート発表 第 10 回 居住施設;集合住宅(1) 第 11 回 居住施設;集合住宅(2) 第 12 回 福祉施設;高齢者入居施設 第 13 回 福祉施設;病院 第 14 回 業務施設;オフィスビル 第 15 回 公共空間;外部空間
成績評価	期末テスト・小テスト(70%)とレポート及び学習状況(30%) により総合的に評価する。
教科書	川崎寧史他 『テキスト建築計画』学芸出版社
参考書　参考資料	『第３版コンパクト建築設計資料集成』（丸善）
履修上の注意	建築計画に関する事例研究をすることで、講義を深く理解するよう努めること。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5 時間の予習復習をすること。 各回の授業の前に、参考書の『コンパクト建築設計資料集成』の該当する建築用途のページを読み予習すること。授業後に、教科書の該当する建築用途のページを読み復習すること。 建築を学ぶ学生としていろいろな建物に興味を持ち見学する事を勧める。
関連科目	「建築デザイン演習I、II」、「建築計画I、II」
課題に対するフィードバックの方法	レポートについてのフィードバックを講義時間内に行う。 小テストの解答・解説を授業時間内に行う。
教員の実務経験	建築設計の実務経験10年以上の教員が担当する。
教員の実務経験有無	実務経験教員が担当
科目ナンバリング	ARC-DE219L

講義名	建築計画Ⅳ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 髙田　光雄	ＫＹＯＢＩ　建築学部

到達目標	建築計画学の基礎概念や現代的課題について理解する。また、それらをふまえて、居住空間の現代的再編・再生を目的とした、住居・住環境の計画、設計、整備、運営のあり方や方法に関する基礎的知識と技術を習得する。（建築の設計・計画的側面の理解能力の獲得）
授業概要	住居はあらゆる建築の原点である。本講義では、建築計画学の基礎的概念や現代的課題について概説するとともに、人間居住についての多面的考察をふまえ、様々なレベルでの居住空間の構成原理を示し、併せて、居住空間の現代的再編・再生を目的とした住居・住環境の計画、設計、整備、運営などに関わる学理と実践について具体的に講述する。 建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回 第1回 講義概要・履修指導 第2回 建築計画学・住居計画学とは何か 第3回 第二次世界大戦後のわが国の住まい 第4回 人間と建築・住居:近代建築の失敗に学ぶ 第5回 空間の機能:住宅は住むための機械なのか 第6回 空間の組織化:動線と空間組織図からみた建築・住居 第7回 中間まとめ:住居計画のための建築計画学的基礎 第8回 公共性・社会性と住居計画(空間における公・共・私の関係) 第9回 地域性・場所性と住居計画(地方性と地域性・空間と場所) 第10回 多様性・適合性と住居計画(スケルトン・インフィル) 第11回 近未来の都市居住(実験集合住宅 NEXT21 の実験) 第12回 少子高齢社会と住居計画1(高齢社会と長寿社会) 第13回 少子高齢社会と住居計画2(自立と交流の支援) 【演習課題出題】 第14回 地球環境問題と住居計画1(住居計画における環境配慮) 第15回 地球環境問題と住居計画2(生活文化の継承・発展と環境配慮)
成績評価	演習（30 点満点）と期末 試験（70 点満点）の合計点が60 点以上を合格とする。
教科書	なし（配布資料あり。パワーポイント、ビデオなどを使用）
参考書　参考資料	講義において紹介する。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して、4.5 時間の予習復習をすること。
関連科目	建築計画I、建築計画II、建築計画III
課題に対するフィードバックの方法	講義の中で演習の講評や質疑、応答などを行う
科目ナンバリング	ARC-DE320L

講義名	建築構造力学Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 新谷　謙一郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	構造設計における構造力学の理解を深める。
授業概要	不静定構造について解説した後に動力学および地震応答解析の基本的な事柄を説明する。 建築学科のディプロマポリシーの１に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第1回　オリエンテーション 第2回　静定と不静定について 第3回　不静定梁(1) 第4回　不静定梁(2) 第5回　不静定骨組(1) 第6回　不静定骨組(2) 第7回　不静定骨組(3) 第8回　崩壊荷重(1) 第9回　崩壊荷重(2) 第10回　鉄筋コンクリート構造の設計(1) 第11回　鉄筋コンクリート構造の設計(2) 第12回　動力学(1) 第13回　動力学(2) 第14回　動力学(3) 第15回　動力学(4) ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	定期試験・小テストの結果（50%）および演習課題の提出状況等（50%）により評価する。
教科書	「はじめて学ぶ建築構造力学」　森北出版
参考書　参考資料	演習問題等の資料を講義中に適宜配布する。
履修上の注意	授業内容に関する演習課題を毎回行う。
予習・復習指導	一講義（１コマ）に対して4.5時間の復習をすること。 （授業ノートの整理、前回演習課題の復習等）
関連科目	「建築構造力学Ⅰ」　「建築構造力学Ⅱ」 「建築一般構造Ⅰ」　「建築一般構造Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	演習課題のフィードバックを次回の講義内で行う。
科目ナンバリング	ARC-DE321L

講義名	公共デザイン論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	美術工芸科目　展開科目		
配当年次	3		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任准教授	富家　大器	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	公共物に対するデザインについて全般的な内容および価値観等を理解し、都市空間における問題点を解決する能力を養う。
授業概要	公共物、空間に対する社会的役割、価値について講述する。 本学ディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　公共のデザイン 第２回　広場のデザイン 第３回　デザイン・サーヴェイ 第４回　景観（街並み）づくり 第５回　街の見方・調べ方 第６回　景観のデザイン 第７回　記憶の視点 第８回　中間レポート 第９回　土木分野における公共デザイン 第10回　土木施設の役割と景観 第11回　景観法と景観デザイン 第12回　施設形状、ボリュームのデザイン 第13回　色彩、素材のデザイン 第14回　住民コンセンサス手法　（アカウンタビリティ、ワークショップ他） 第15回　小レポート「景観デザインの役割について」 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	授業態度60%、第８回小レポート各20%、第15回小レポート各20%
教科書	配布資料、映像等
参考書　参考資料	「路上と観察をめぐる表現史」フィルムアート社　「復刻 デザイン・サーヴェイ」彰国社　「住み継がれる家の価値総集編」財）勤労者住宅協会　「シビックデザイン自然、都市、人々の暮らし」大成出版社　「カラーコーディネーションの実際」環境色彩　東京商工会議所
履修上の注意	講義内容は前半が山内担当、後半は富家担当に別れるが、両分野は密接な関係にあり一体的なものである。従って、片方に偏ることなく受講すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 都市計画、都市デザイン、ランドスケープ、土木、景観などに関する用語の概念をできるだけ調べ理解に努めること。
関連科目	建築計画Ⅱ　建築計画Ⅳ　伝統建築論Ⅱ　デザイン概論　色彩理論演習
課題に対するフィードバックの方法	小レポートに関してフィードバックをする場合は、点数だけではなくコメント等を記載して返却する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-DE313L

８．専門教育科目 - 専門演習・実習（美術工芸学科）

京都美術工芸大学シラバス［2022 年度版］

講義名	芸術導入演習（デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	専門教育のための基礎として描画力を養う。 芸術的なアプローチを試み、描画表現によるメッセージの伝達スキルを学ぶ。
授業概要	専門教育を受けるための基礎的な表現力を身に着ける。 課題のテーマを基に表現イメージを想像する。 想像を確実なものとするために既存の作品や画像を集め想像を明確化する。 明確化した像を表現に写す。 表現は細密描写を前提とする。 美術工芸学科ディプロマポリシー1に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　ガイダンス 第２回　テーマに関する調査 第３回　テーマに関する調査 第４回　テーマに関する調査 第５回　下書き 第６回　下書き 第７回　進捗報告会 第８回　本制作 第９回　本制作 第10回　本制作 第11回　本制作 第12回　本制作 第13回　本制作 第14回　本制作 第15回　講評会 ＊課題の詳細はガイダンス時に示す
成績評価	受講態度50%、提出作品50%によって評価する
教科書	適宜資料を配布する
参考書　参考資料	授業中に適宜紹介する
履修上の注意	プロセス上の不明点や疑問点等は担当教員に速やかに相談する。 教員のアドバイス等を十分に理解する。 教員とのコミュニケーションを出来るだけとる。 プレゼンテーションの準備をしっかり行う、また積極的に質問を行う。
予習・復習指導	描く習慣をつけるため、平素から身の回りの物や人、風景をスケッチする。 一講義（２コマ）に対して3 時間の予習復習をすること。
関連科目	「芸術導入実習」「造形基礎演習I」
課題に対するフィードバックの方法	適宜講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP101S

講義名	芸術導入演習（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤　公誉	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	専攻していない他分野の工芸技法を体験することで、自身の見識を広げ、ものづくりにおける発想力を養い、展開する力を身につけるための一助にする。
授業概要	陶芸、木工・彫刻、漆芸の内より、自分が所属・専攻していない分野の技法について学習する。それぞれの工芸の実習室に出向き作業を行い、基礎的な知識と技術を学ぶ。15週を前後半に分け、7回の授業時間で一種分野の工芸技法による成果物を制作、計2種類の簡単な工芸作品を完成させる。自身の専攻では触れる機会の少ない様々な素材を扱うことで、工芸をより深く理解するきっかけにする。 京都美術工芸大学のディプロマポリシー　1 美術工芸学科のディプロマポリシー　1・3　　に該当する
授業計画 授業内容	全15週／週1日 陶芸…陶芸の初歩技法である「手捻り」の技法にて茶碗と菓子皿などを制作。成形、高台削り、さらに素焼き生地に下絵付けを施し、制作過程を学習する。 木工…綸子文様の地紋彫りを通して彫刻の基本を学ぶ。道具の理解を深め、古典文様を彫刻する中で、木材の性質を学び、運刀法の基本技を学ぶ。 漆芸…漆芸の代表的な加飾技法である螺鈿技法を学ぶ。漆素地の磨き仕上げ・貝部分のデザイン・切り出し・削り・磨き・貼り付けの工程を通じ、道具の扱いも含め学習、体験する。 上記の内、専攻以外の2分野につき第1週～第7週、第8週～第14週で作業を行う。 第15週は全体で総括を行う。
成績評価	受講態度50%、技の習得度20%、提出作品30%等を基本に、総合的に判断する。
教科書	なし
参考書　参考資料	授業中に適宜紹介する
履修上の注意	作業においては、担当教員とコミュニケーションをよく取るようにする。 予習・復習をすることで材料・技法を深く理解するように努める。 自身の経験の振り返りのため、作業工程を記録しポートフォリオを作成する。
予習・復習指導	一授業（1コマ）に対して計1.5時間の予習復習をすること。
関連科目	「芸術導入実習」「工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	全体には最終回の講評にて実施。個々の学生には質問などのある場合、個別に対応する。
科目ナンバリング	CAC-SP101S

講義名	芸術導入実習(ﾃﾞｻﾞｲﾝ)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 津村　健一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	餌取　健司	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	導入教育の一環として専門教育を受けるための基盤を学ぶ。 各々の領域および分野における知識と技術を学ぶ。
授業概要	領域および分野の基礎的な内容について触れ、自己の思考に照らし今後の進むべき方向性を確認する。 美術工芸学科ディプロマポリシー１，２，３、４に該当する。
授業計画 授業内容	第 1週　ガイダンス（領域および分野別） ・ 第15週　講評（領域および分野別） ＊領域および分野ごとの課題はガイダンス時に提示する。 デザイン…企画/構想、調査/分析、問題発見/整理、コンセプト立案/計画等のプロセス。それらを明確化するための表現、エスキス/ドローイング/モデリング、プレゼンテーション等デザインに必要な一連の流れを学ぶ。 また、表現に必要な画材や材料の加工方法などを習得する。 漆芸…漆芸技法の内、基本となる髹漆技法(下地・塗りの工程)に不可欠な道具作りの方法を習得する。塗師屋小刀（包丁）・切出小刀と呼ばれる刃物類の研ぎ、ヒノキベラの削り、漆刷毛の布着せと漆塗り・切り出し・叩きほぐしが作業内容である。各自所有の刃物を自分で研ぎ、その他の道具もその刃物で加工する。専用の漆刷毛には補強用に漆で布を貼り、表面に漆を塗り込む。ごく初歩の刷毛と漆の扱いも併せて習得する。 陶芸…陶磁器工芸と文化との関係について歴史的な変遷を学ぶ。桃山時代に確立した灰釉陶磁器(織部・唐津など)を通して、釉薬と素地の素材技術・成形技術および焼成技術を理解する。また陶磁器の製造技術の基礎であるタタラ成形による器作りや呉須・鉄絵による下絵付け技法、更には色絵陶器の基礎である上絵付け技法を学び、そして制作することで陶磁器工芸の基礎知識を習得する。 木工･彫刻…木工技法の1つである指物と、彫刻技法の基本である地紋彫りを行う。指物では鉋・鑿の刃の研磨　　方法に始まり、道具を使用出来る状態にするための調整・仕込み法を学ぶ。それらの道具を用いてあられ組、蟻組の加工方法を学ぶ。彫刻では綸子文様の地紋彫りを行い、作図法、彫刻等の仕込みと研磨法、運刀の基本を学ぶ。その後に襷花菱文様の地紋彫りを行い丸刀の研磨法やより複雑な文様の彫刻を学ぶ。
成績評価	実習中の態度50%、習得度20%、提出作品30%等を基本に総合的に判断する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
履修上の注意	予習・復習をすることで材料技法を深く理解するように努めること。
予習・復習指導	実習1コマに対し1.5時間の復習を行う。 実習後に内容の確認と次回への準備を確実に行う。
課題に対するフィードバックの方法	授業内で質疑応答を行う。領域、分野別に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP002P

講義名	芸術導入実習(漆芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤　公誉	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任准教授	三木　表悦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	技法は知識だけでなく経験の集積による理解・認識を基に習得する。作業に応じた道具類の適切な加工・調整方法と使用方法を学び、それらを使い漆の練習用手板を今後の実習のため作成する。以上を目標とする。
授業概要	漆芸技法の基本となる髹漆技法(下地・塗り)に欠かせない道具作りの方法を習得する。切出小刀と呼ばれる刃物類の研ぎ・ヒノキヘラの削り・漆刷毛の布着せと漆塗り、削り出し叩きほぐしが作業内容である。各自の刃物を研ぎ、その他の道具もその刃物で加工する。専用の漆刷毛には布を貼り、漆を塗り込む。合わせて練習用手板に漆塗りを施し、ごく初歩の刷毛と漆の扱いを習得する。 関連するディプロマポリシー 京都美術工芸大学のディプロマポリシー　1 美術工芸学科のディプロマポリシー　1・3　　に該当する
授業計画 授業内容	全15週／週2日 第1週 本科目の概要説明　道具作り1：ヘラ木切り出し、鉋がけ 第2週 道具作り2：ヘラ木切り出し、鉋がけ、油引き 第3週 道具作り3：切り出し小刀研ぎ 第4週 道具作り4：切り出し小刀研ぎ、ヘラ削り 第5週 道具作り5：漆刷毛木地固め、木地固め研ぎ、布着せ 第6週 道具作り6：漆刷毛布目揃え、目摺り錆 第7週 道具作り7：漆刷毛布目摺り錆研ぎ、固め 第8週　道具作り8：色漆練り、漆刷毛色漆塗り 第9週　道具作り9：漆刷毛切り出し、ほぐし、糊洗い 第10週　道具作り10：手板木地固め　目摺り錆 第11週　道具作り11：漆漉し、下塗り表裏 第12週　道具作り12：研ぎ、塗り重ね 第13週　道具作り13：研ぎ、塗り重ね 第14週　道具作り14：研ぎ、上塗り 第15週　道具作り15：作業完成確認、総括
成績評価	技術の習得度40%、課題作品の進捗・完成度40%、受講態度20%によって評価する。
教科書	なし。必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書　参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」　Ⅰ～Ⅳ　社団法人　日本漆工協会編 「漆芸品の鑑賞基礎知識」至文堂
履修上の注意	作業に使用する小刀・ヘラ木・刷毛・砥石などの道具の手入れを日常行うこと。 また、配布する資料、参考書等文献から関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	自身の経験の振り返りのため、作業工程を記録しポートフォリオを作成する。 実習後に作業した内容の確認と次回への準備を確実に行う。 実習1コマに対し0.5時間の予習、1.0時間の復習を行う。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	課題の進捗に応じて講評・質疑応答をおこなう。
科目ナンバリング	CAC-SP002P

講義名	芸術導入実習(陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻　潤	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	小野　多美枝	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	導入教育の一環として専門教育を受けるための基盤を学ぶ。 各々の領域および分野における知識と技術を学ぶ。
授業概要	領域および分野の基礎的な内容について触れ、自己の思考に照らし今後の進むべき方向性を確認する。 美術工芸学科ディプロマポリシー１，２，３、４に該当する。
授業計画 授業内容	第 1週　ガイダンス（領域および分野別） ・ 第15週　講評（領域および分野別） ＊領域および分野ごとの課題はガイダンス時に提示する。 デザイン…企画/構想、調査/分析、問題発見/整理、コンセプト立案/計画等のプロセス。それらを明確化するための表現、エスキス/ドローイング/モデリング、プレゼンテーション等デザインに必要な一連の流れを学ぶ。 また、表現に必要な画材や材料の加工方法などを習得する。 漆芸…漆芸技法の内、基本となる髹漆技法(下地・塗りの工程)に不可欠な道具作りの方法を習得する。塗師屋小刀（包丁）・切出小刀と呼ばれる刃物類の研ぎ、ヒノキベラの削り、漆刷毛の布着せと漆塗り・切り出し・叩きほぐしが作業内容である。各自所有の刃物を自分で研ぎ、その他の道具もその刃物で加工する。専用の漆刷毛には補強用に漆で布を貼り、表面に漆を塗り込む。ごく初歩の刷毛と漆の扱いも併せて習得する。 陶芸…陶磁器工芸と文化との関係について歴史的な変遷を学ぶ。桃山時代に確立した灰釉陶磁器(織部・唐津など)を通して、釉薬と素地の素材技術・成形技術および焼成技術を理解する。また陶磁器の製造技術の基礎であるタタラ成形による器作りや呉須・鉄絵による下絵付け技法、更には色絵陶器の基礎である上絵付け技法を学び、そして制作することで陶磁器工芸の基礎知識を習得する。 木工･彫刻…木工技法の1つである指物と、彫刻技法の基本である地紋彫りを行う。指物では鉋・鑿の刃の研磨　　方法に始まり、道具を使用出来る状態にするための調整・仕込み法を学ぶ。それらの道具を用いてあられ組、蟻組の加工方法を学ぶ。彫刻では綸子文様の地紋彫りを行い、作図法、彫刻等の仕込みと研磨法、運刀の基本を学ぶ。その後に襷花菱文様の地紋彫りを行い丸刀の研磨法やより複雑な文様の彫刻を学ぶ。
成績評価	実習中の態度50%、習得度20%、提出作品30%等を基本に総合的に判断する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
履修上の注意	予習・復習をすることで材料技法を深く理解するように努めること。
予習・復習指導	実習1コマに対し1.5時間の復習を行う。 実習後に内容の確認と次回への準備を確実に行う。
課題に対するフィードバックの方法	授業内で質疑応答を行う。領域、分野別に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP002P

講義名	芸術導入実習（木工・彫刻）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	青木　太一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・各道具の扱い方と手入れの仕方を習得する。 ・基本的な加工方法を習得する。 ・刃物研ぎの基本を習得し、上達させる。 ・基礎的な木彫刻の運刀法技法の習得を目標にする。
授業概要	道具の扱い方、材料及び基本的な加工方法について学ぶ。まず、諸道具の中でも基本的な平鉋、平鑿、彫刻刀などの仕立て方や、刃の研ぎ方を練習する。加工については、古典文様の綸子文様・襷花菱文様の作図・彫りを木彫刻の運刀法を理解し習得する。平板の制作により鋸や鉋の扱い方を習得。組手の加工において、鑿の扱い方を学ぶとともに、スコヤや差金を用いて精度の高い加工を覚える。 美術工芸学科ディプロマポリシー１，２，３、４に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週 第　１週　研ぎ練習①（砥石の説明・使用法・砥石台の制作） 第　２週　研ぎ練習②彫刻刀の砥ぎ）　地紋彫り綸子文様の作図 第　３週　綸子文様の地紋彫り① 第　４週　綸子文様の地紋彫り② 第　５週　襷花菱文様の作図・襷花菱文様の地紋彫り① 第　６週　襷花菱文様の地紋彫り② 第　７週　研ぎ練習③（寸８鉋の砥ぎ・鉋の裏押し） 第　８週　研ぎ練習④（鉋の裏出し・表馴染み調整・下端調整・押さえ金調整）平板制作① 第　９週　研ぎ練習⑤（鑿のかつら仕込み・鑿の裏押し・鑿の砥ぎ）平板制作② 第１０週　あられ組①（製材・木取り・墨付け） 第１１週　あられ組②（仕口加工） 第１２週　あられ組③（仮組み・仕上げ） 第１３週　蟻組①（製材・木取り・墨付け） 第１４週　蟻組②（仕口加工・仮組み） 第１５週　蟻組③（調整・仕上げ）まとめ・合評
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書　参考資料	木工大図鑑（講談社　2008） 近藤豊著　『古建築装飾文様集成　草木編・鳥獣編・風月編』（光村推古書院 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ,切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 木彫刻彫像、自由課題ともに、授業で作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。 1コマに対し1.5時間の復習をする事。
関連科目	「芸術導入演習（工芸）」「工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP002P

講義名	造形基礎演習Ⅰ（デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊　俊博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	一般にはセンスという言葉で表されている造形感覚を身に着ける。
授業概要	点・線・面、比率、量、空間などを意識した際に現れる美的なバランスを学ぶ。 美術工芸学科ディプロマポリシー2に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第 1回　オリエンテーション 第 2回　平面構成　：　比率・形態について 第 3回　平面構成　：　エスキース 第 4回　平面構成　：　制作 第 5回　平面構成　：　合評会 第 6回　立体構成　：　関係を考える 第 7回　立体構成　：　エスキース 第 8回　立体構成　：　制作 第 9回　立体構成　：　制作 第10回　立体構成　：　合評会 第11回　空間構成　：　構造とフォルム 第12回　空間構成　：　エスキース 第13回　空間構成　：　制作 第14回　空間構成　：　制作 第15回　空間構成　：　合評会
成績評価	授業態度40%、3課題の完成度60%（各20%）により評価する。
参考書　参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	構想や試作段階で数多くの検討をする事。
予習・復習指導	試作を数多く作り、教員の意見を聞く事。 一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	素描、構成基礎演習
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP103S

講義名	造形基礎演習Ⅰ（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任講師	◎ 青木　太一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	小林　泰弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・美術、芸術における縦・横・奥行で表現する立体の造形を一つの作品としてまとめ 全体的な構想・表現力および塑像造形技法の習得を目標とする。 ・細部にとらわれず骨格の形成、全体的なバランスを重点的に考えて制作する事を目標とする。
授業概要	制作する自由課題を決めて図面及びデッサンを制作してそれを基に木片で骨格を形成し針金・シュロ縄で詳細部分を造形し油土を用いて立体課題を制作する。 工芸学部ディプロマポリシー1.2.3に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第 1回　オリエンテーション　課題・授業概要説明 第 2回　自由課題の選択確定・作図 第 3回　自由課題の習作・デッサン・作図 第 4回　自由課題の習作・デッサン・作図 第 5回　自由課題の習作・デッサン・作図 第 6回　骨格を形成制作（細長い木片）針金・シュロ縄（補助材） 第 7回　骨格を形成制作（細長い木片）針金・シュロ縄（補助材） 第 8回　課題制作　① 第 9回　課題制作　② 第10回　課題制作　③ 第11回　課題制作　④ 第12回　課題制作　⑤ 第13回　課題制作　⑥ 第14回　仕上げ工程から完成チェック 第15回　仕上げ工程から完成へ・講評
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書　参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	自由課題を確定する上で作図・デッサンにとりかかれるよう、予め資料を収集 するなど準備し十分に構想を練っておくこと。
予習・復習指導	古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 一講義（1コマ）に対して1.5時間の予習復習をすること。
関連科目	素描、構成基礎演習、造形基礎演習Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP103S

講義名	造形基礎演習Ⅱ（デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊　俊博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	身近な素材を使って芸術的な価値をもたせるためには、まず多様な思考のもとに生み出されるアイデアが重要となる。そのアイデアを生むための多様な思考の必要性を理解することを目指す。
授業概要	「紙」を基本的な素材とする「あかり」を制作する。私たちが暮らす上で「あかり」の存在は不可欠である。 その「あかり」は大きさ、強さ、色合いなど様々である。また、それらが見せる陰影は心理的な感情を左右するメッセージを有する。そのメッセージは時間とともに変化するとらえようのないもので、不確実なものである。 そのような性質をもつ「あかり」をコントロールすることの重要性を学ぶ。 美術工芸学科ディプロマポリシー2に該当する
授業計画 授業内容	全15回 第 1回　オリエンテーション、課題説明・アイデアの探し方 第 2回　アイデアと素材　（素材に触れる） 第 3回　アイデアと素材　（素材の観察） 第 4回　アイデアと素材　（立体構成） 第 5回　アイデアと材料　（エスキスと立体模型 １ ） 第 6回　アイデアと素材　（エスキスと立体造形 ２ ） 第 7回　中間プレゼンテーション　（アイデア発表） 第 8回　中間プレゼンテーション　（アイデア発表） 第 9回　実物の検証　（大きさと明るさの検証） 第10回　実物の検証　（光と色を考える） 第11回　実制作・紙立体照明の組み合わせ 1 第12回　実制作・紙立体照明の組み合わせ 2 第13回　実制作・紙立体照明の組み合わせ 4 第14回　実制作・紙立体照明の組み合わせ 5 第15回　プレゼンテーション・講評会
成績評価	授業態度20% 課題制作の完成度60%、プレゼンテーション20%によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書　参考資料	必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意	授業の性格上、各自の積極性・自主性が求められる。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	造形基礎演習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	中間、最終講評、質疑応答を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP204S

講義名	造形基礎演習Ⅱ（工芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	作品制作に必要な道具等の制作法の習得を通して、道具の中に隠されたものづくりの知恵を学ぶ。 また、作品制作に有用となる機械類の使用法を学び、今後の作品制作の効率化や質の向上を目指す。
授業概要	工芸作品の制作を行うにあたっては、素材の選定や道具の制作・手入れ、治具・補助具の制作等様々な準備、知識、技術が必要となる。本演習では作品制作に必要となる道具の制作法を学ぶ。本演習で得られた知識と技術が実習における作品制作の質向上に寄与し、より深く工芸を理解する事を目的とする。 美術工芸学科ディプロマポリシー2に該当する
授業計画 授業内容	第 1週　ガイダンス（領域および分野別） ・ 第15週　講評（領域および分野別） ＊分野ごとの課題はガイダンス時に提示する。 漆芸…漆工芸において制作道具は作者の手の延長であり、道具を自分で作ることから学びの第一歩が始まる。また市販品を活用する場合も、作りて個々によってカスタマイズすることが作り手の基本である。 本演習では紛筒、筆洗い棒や針木砥など蒔絵の用品から、髹漆に使用する道具を自作することで、基礎技術の向上と同時に伝統技法への理解を深める。 陶芸…陶磁器工芸と文化との関係について歴史的な変遷を学ぶ。桃山時代に確立した灰釉陶磁器(織部・唐津など)を通して、釉薬と素地の素材技術・成形技術および焼成技術を理解する。また陶磁器の製造技術の基礎であるタタラ成形による器作りや呉須・鉄絵による下絵付け技法、更には色絵陶器の基礎である上絵付け技法を学び、そして制作することで陶磁器工芸の基礎知識を習得する。 木工･彫刻…木工技法の1つである刳物についての基本技法を「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」において修得したが、本演習では刳物作品を制作する際に使用されるテンプレートの作成をレーザー加工機を用いて行い、そのテンプレートを用いた荒彫り作業にトリマーを用いる。レーザー加工機及びトリマーの使用方法を学び、作品制作の効率化や精度の向上のための制作方法を身に付ける。
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・課題完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて資料を配布する。
参考書　参考資料	必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意	授業の性格上、各自の積極性・自主性が求められる。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	造形基礎演習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP204S

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(ﾃﾞｻﾞｲﾝ)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊　俊博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	餌取　健司	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	1年次に学んだ造形的バランス感覚を、目的（用途）に基づいて応用し、視覚性（造形性）・機能性を統合するデザイン的思考を身に着ける。 ・表現手法を習得し、次年度からの展開に応用する力をつける。
授業概要	導入教育では純視覚性（造形性）・独自性に力点を置いた芸術的アプローチを行ったが、本科目では平面系・立体系それぞれの課題ごとに指定された目的（用途）・デザイン計画を基に、事例研究から目標設定というデザイン的アプローチを行い、目標達成のために造形的要素がどの様に機能し得るのか、実制作を通して考察する。
授業計画 授業内容	全15回/週２日 第 1週 オリエンテーション 第 2週　事例研究 第 3週　目標設定 第 4週　アイデア創出 第 5週　コンセプト立案 第 6週　エスキース制作1 第 7週　エスキース制作2 第 8週　中間発表 第 9週　設計・レイアウト1 第10週　設計レイアウト2 第11週　実制作1 第12週　実制作2 第13週　実制作3 第14週　実制作4 第15週　合評会 ＊選択したコースにより若干の変更があります。
成績評価	授業態度（40%）、提出課題完成度（60%）によって総合的に評価する。
参考書　参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	演習作品は各テーマ切り替えまでに完成させる事。 道具の整理整頓、後片づけに留意のこと。
予習・復習指導	試作を2点以上作り、授業時に指導教員の意見を聞くこと。
関連科目	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP105P

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（漆芸）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤　公誉	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任准教授	三木　表悦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	基礎的な加飾技法について、知識と共に理解と認識を得ることを目標とする。様々な蒔絵技法や変わり塗技法の基礎を学び、蒔絵筆などの道具類と素材の適切な調整方法や使用方法を習得する。
授業概要	漆芸技法の内、線描き蒔絵及び金属粉や貝、卵殻、箔といった様々な材料を活用する伝統的基礎的な加飾技法を学ぶ。作業を通じて素材と技法の関係を理解し、基礎的な加飾技術を身につける。同時に、漆の材料としての特性、即ち塗り、硬化、研ぎ、磨き、あるいは混入物による粘性の変化などについても、実習を通じて理解を深め、2年次以降のより高いレベルでの課題制作に取り組む基礎を固める。 京都美術工芸大学ディプロマポリシー　1 美術工芸学科のディプロマポリシー　1・3　　に該当する
授業計画 授業内容	全15週／週2日 第1週 準備作業1：本科目の概要説明、　手板研ぎ 第2週 準備作業2：手板研ぎ・胴摺り 第3週 準備作業3：手板上摺り・呂色磨き　置き目作成 第4週 準備作業4：絵漆調合、焼き漆作成、置き目留め・押し 第5週 準備作業5：置き目留め・押し　　卵殻　螺鈿（微塵貝粒置き）仕掛け 第6週 加飾作業1：図案①線描き、粉入れ　　青貝（割貝）・平文仕掛け 第7週 加飾作業2：図案①木砥掃除、線描き、粉入れ　錫梨子地粉蒔きぼかし 第8週 加飾作業3：図案①木砥掃除、線描き、粉入れ　　絞漆仕掛け 第9週 加飾作業4：図案①木砥掃除、粉固め、胴摺り 図案②線描き、粉入れ　　各種仕掛け手板塗り込み① 第10週 加飾作業5：図案①摺り漆、磨き 図案②木砥掃除、線描き、粉入れ 各種仕掛け手板塗り込み研ぎ出し① 第11週 加飾作業6：図案①摺り漆、磨き 図案②木砥掃除、線描き、粉入れ　　各種仕掛け手板塗り込み② 第12週 加飾作業7：図案②木砥掃除、粉固め、胴摺り 各種仕掛け手板塗り込み研ぎ出し② 第13週 加飾作業8：図案②摺り漆、磨き　　各種仕掛け手板胴摺り 第14週 加飾作業9：図案②摺り漆、磨き　　各種仕掛け手板上摺り・呂色磨き① 第15週 加飾作業10:各種仕掛け手板上摺り・呂色磨き②　　総括
成績評価	技術の習得度40%、作品完成度40%、受講態度20%によって評価する。
教科書	なし　必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書　参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」　Ⅰ～Ⅳ　社団法人　日本漆工協会編 「漆芸品の鑑賞基礎知識」至文堂 「漆塗りの技法書」誠文堂新光社
履修上の注意	作業に使用する蒔絵筆などの諸道具の手入れを日常行うこと。また、配布した資料や参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	予習：道具類の手入れ。主には蒔絵筆の状態確認。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。また、筆運びの練習を自主的に行うなど。 作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の予習及び1.0時間の復習をすること。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答をおこなう。
科目ナンバリング	CAC-SP105P

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ(陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	小野　多美枝	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	日本の伝統的な灰釉を用いた祥瑞・色絵陶器について、その歴史的な変遷と基礎的な製作工程を理解し、現在における陶磁器工芸の基礎を理解することを目的に、基礎となる灰釉調合調製方法から当時の祥瑞・色絵陶器の素材調製方法・成形技法・加飾技法を実習し、さらに陶磁器製造技術を深く就学することを目標とする。
授業概要	江戸後期に確立された日本の伝統的な祥瑞・色絵陶器について、素材である素地と灰釉薬の素材実習と、基礎的なろくろ成形実習、および基礎的な下絵付・上絵付・化粧技法の加飾実習を行い、陶磁器製造の基礎を習得する。 美術工芸学科ディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週 第１週　課題説明・テストピース用石膏型作り・小煎茶碗道具作成 第２週　テストピース作り　化粧（生） 第３週　荒もみ・菊もみ ロクロ実習（土殺し・土取り・盃引き）・灰釉ピース素焼焼成実習(OF) 第４週　ロクロ成形（小煎茶碗水挽き）(信楽30個)（カンナ等道具作り） 第５週　ロクロ成形（小煎茶碗水挽き）(磁器30個) 第６週　ロクロ成形（小煎茶碗水挽き）(磁器30個) 第７週　ロクロ成形（小煎茶碗削り） 第８週　ロクロ成形（小煎茶碗削り）・素焼焼成実習(OF)・長石を用いた灰釉の調合・施釉 第９週　陶石・含鉄を用いた灰釉の調合・施釉・本焼焼成実習(OF・RF) 第10週　灰釉・化粧土のピース貼り付け・レポート 第11週　染付：小煎茶碗（ろくろ線）練習 第12週　染付：小煎茶碗（割付け・小紋）練習 第13週　染付：小煎茶碗（小紋）練習 第14週　染付：小煎茶碗（ろくろ線・割付け・小紋）清書・本焼焼成実習(RF) 第15週　染付：小煎茶碗（ろくろ線・割付け・小紋）清書 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書　参考資料	日本陶磁大系(平凡社)　やきものと釉薬―基本的な考え方(理工学社) [その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
履修上の注意	陶磁器の素材・制作技術・加飾技術の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習１コマに対して１．５時間の復習をすること。
関連科目	「芸術導入実習(陶芸)」「日本美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP105P

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工・彫刻）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 青木　太一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・各種道具(印刀・丸刀)の使用方法、研ぎ方を習得することを目標とする。 ・平安時代に制作された宝相華唐草文様の透かし彫り部分を資料をもとに 基礎的な立体造形表現と技法の習得を目標とする。 ・刳物の基本的な技法を習得する。
授業概要	「芸術導入実習（木工・彫刻）」で学んだ木彫刻技法の基礎をもとに、宝相華唐草文様の透かし彫り彫刻の制作を行う。透かし彫り彫刻は、表裏両面の浮彫り、地の部分の彫り抜きを経て完成させる。 次の工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）での課題のデッサン、作図、彫刻の見本となるモデリングを油土で製作。 刳物による器物の制作を通して適切な木取り法を理解し、荒取りから仕上げに到る工程を学ぶ。 また基本的な塗装の方法についても学ぶ。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週 第１週　・オリエンテーション（課題説明、課題作品の造形・各種道具の使用方法についての理解） ・刳物作品考案、図案作成 第２週　・透かし彫り用宝相華唐草文様の作図、作図の板材への転写 ・豆鉋制作①鉋台墨付練習 第３週　・透かし彫り用宝相華唐草文様の作図、作図の板材への転写 ・豆鉋制作②樫鉋台豆平 第４週　・糸のこにて透かす部分の抜き取り ・豆鉋制作③樫鉋台四方反り 第５週　・糸のこにて透かす部分の抜き取り ・荒彫り①木取、図面転写、型紙作成 第６週　・糸のこにて透かす部分の抜き取り、表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・荒彫り②丸のみ研ぎ、仕立て 第７週　・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・荒彫り③ 第８週　・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ①（内側　四方反り） 第９週　・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ②（外側　豆平） 第１０週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・中仕上げ③ 第１１週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り ・仕上げ①ペーパー当て木製作 第１２週・表面図様の浮彫り、裏面図様の彫り表面図様の浮彫り両面の仕上げ彫りから完成へ ・仕上げ② 第１３週・立体彫刻の課題説明(課題作品の造形・各種道具の使用方法についての理解) ・仕上げ③塗装講座 第１４週・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・仕上げ④オイル塗装等 第１５週・まとめ・合評
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書　参考資料	西川新次著　『平等院大観　第2 巻　彫刻』　（岩波書店　1987） 「盆百選」（平安堂書店　1972）

履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	透かし彫り彫刻の実際の作品を古寺・社寺で見学、スケッチするなど、積極的に課外での学習し取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ,切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1.5時間の復習をする事。
関連科目	「芸術導入実習（木工・彫刻）」「日本工芸美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP105P

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(ﾃﾞｻﾞｲﾝ)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 渡邊　俊博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	津村　健一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	安藤　眞吾	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任准教授	富家　大器	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	平面系・立体系・空間系デザインの視覚化プロセスにおいて必要となる実践的な手法を身に着け、視覚化によって得られる情報の重要性を理解する。
授業概要	本科目ではアイデアの視覚化に必要なアウトプット技術として印刷の基礎原理の理解やプロトタイプ・スケールモデルの制作を行い、その成果物からデザイン検討を行いデザイン方針を立てる。
授業計画 授業内容	全15回/週２日 第 1週　オリエンテーション 第 2週　情報収集 第 3週　アイデア抽出 第 4週　コンセプト立案 第 5週　ラフスケッチ 第 6週　ラフモック 第 7週　中間発表 第 8週　コンセプト修正 第 9週　アイデアスケッチ 第10週　設計 第11週　スケールモデル 第12週　プロトタイプ 第13週　デザイン評価・デザイン検討 第14週　デザイン方針作成 第15週　合評会 ＊選択したコースにより若干の変更があります。
成績評価	授業態度40%、課題制作の完成度60%によって評価する。
参考書　参考資料	必要に応じて資料を配布する。
履修上の注意	授業中には必ず作業着を着用すること。 薬品の使用に際しては指定された分量を厳守すること。
予習・復習指導	世の中にある様々な「握るかたち」を調べ、ファイリングしておく。 日ごろから身の回りにある印刷物に目を向けておくこと。
関連科目	工芸デザイン基礎実習Ⅰ
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP206P

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(漆芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤　公誉	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任准教授	三木　表悦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	基礎的な髹漆技法について知識のみでなく、経験に基づいたより深い理解・認識を得ることを目標とする。目的に応じた道具類と素材の適切な調整方法と使用方法を身につけ、作業工程の理解・認識を深める。
授業概要	漆芸技法の内、基礎となる髹漆技法(きゅうしつぎほう：器物制作における下地・塗りの技法)の習得と理解を目指す。手板木地を土台に用いた布着せ本堅地呂色仕上げの技法、並びに原型に布を貼り重ねて胎を形成する布乾漆の技法を学ぶ。これらの下地・塗りの作業を反復して行うことを通じ、髹漆の技術を身につける。同時に作業に必要な道具の調整の方法も、工程に応じて学習する。 京都美術工芸大学ディプロマポリシー　1 美術工芸学科のディプロマポリシー　1・3　　に該当する
授業計画 授業内容	全15週／週2日 第1週 本科目の概要説明　　下地作業1：木地固め　　乾漆作業1：原型吸い込み止め 第2週 下地作業2：木地固め研ぎ、布着せ　　乾漆作業2：布貼り 第3週 下地作業3：布目揃え、目摺り錆　　乾漆作業3：布目揃え、目摺り錆 第4週 下地作業4：地付け、地研ぎ　　乾漆作業4：目摺り錆研ぎ、布貼り 第5週 下地作業5：地付け、地研ぎ　　乾漆作業5：目摺り錆研ぎ、布貼り 第6週 下地作業6：地研ぎ、地固め 乾漆作業6：目摺り錆研ぎ、布貼り 第7週 下地作業7：錆付け、錆研ぎ 乾漆作業7：目摺り錆研ぎ、布貼り 第8週　下地作業8：錆付け、錆研ぎ　乾漆作業8：原型除去 第9週　下地作業9：錆付け、錆研ぎ、繕い錆付け　　乾漆作業9：内側布貼り 第10週　下地作業10：繕い錆研ぎ、面取り、中塗り　　乾漆作業10：内側布目揃え、目摺り錆 第11週　塗り作業11：中塗り研ぎ、中塗り　　乾漆作業11：中塗り 第12週　塗り作業12：中塗り研ぎ、上塗り　　乾漆作業12：中塗り 第13週　塗り作業13：上塗り呂色研ぎ、胴摺り、上摺　　乾漆作業13：上塗り 第14週　塗り作業14：呂色磨き、上摺　　乾漆作業14：上塗り 第15週　塗り作業15：呂色仕上げ磨き　　乾漆作業15：研ぎ、仕上磨き 髹漆作業完成確認、総括
成績評価	技術の習得度40%、作品完成度40%、受講態度20%によって評価する。
教科書	なし　必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書　参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」　Ⅰ～Ⅳ　社団法人　日本漆工協会編 「漆芸品の鑑賞基礎知識」至文堂 「漆塗りの技法書」誠文堂新光社
履修上の注意	作業に使用する小刀・ヘラ木・刷毛・砥石などの道具の手入れを日常行うこと。また、配布した資料、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。制作する手板は後期の加飾の素地となるため、後期開始時までに完成させる。
予習・復習指導	予習：道具類の手入れ。主には刃物研ぎ、消耗したへらの削り直し。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。 作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の予習及び1.0時間の復習をすること
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「芸術導入実習」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答をおこなう。
科目ナンバリング	CAC-SP206P

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻　潤	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	小野　多美枝	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	江戸後期・明治期より現在まで京焼の主流である粟田坏土による色絵陶器の製陶技術の知識と技法の習得を目的する。現在の陶磁器の基礎となった化学計算を用いた釉薬調製方法の基礎を実習し、ろくろ・鋳込み成型法と和絵具・洋絵具を用いた色絵陶磁器技法の習得を目標とする。
授業概要	明治時期に導入された土石原料・工業原料を用いた釉薬調製方法・磁器泥漿の素材基礎を習得する。また、粟田坏土を用いたろくろ成型法を実習する。加飾実習では、和・洋絵具（金襴手）を用い色絵陶器技法について実習する。 美術工芸学科ディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週 第１週　課題説明(資料説明) テストピース作り(土石釉・色釉実験用) 第２週　ロクロ成形(磁器五寸皿：道具作り)　テストピース素焼焼成 第３週　ロクロ成形(磁器五寸皿：水挽き) 第４週　ロクロ成形(磁器五寸皿：水挽き)・土石釉・色釉調合 第５週　ロクロ成形(磁器五寸皿：削り) 第６週　ロクロ成形(磁器五寸皿：削り) 第７週　磁課題説明・ロクロ成形(仁清茶碗：道具作り)・本焼焼成実習(OF・RF) 第８週　ロクロ成形(仁清茶碗：水挽き) 第９週　ロクロ成形(仁清茶碗：削り) 第10週　土石・色釉施釉および窯詰め 第11週　赤絵(磁器五寸皿)練習 第12週　赤絵(磁器五寸皿) 清書 第13週　秋草紋(仁清茶碗)練習　本焼焼成実習(OF・RF) 第14週　秋草紋(仁清茶碗)清書 第15週　瓔珞紋(仁清茶碗)練習・清書　本焼焼成実習(OF) 成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書　参考資料	日本陶磁大系(平凡社)　やきものと釉薬―基本的な考え方(理工学社) [その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
履修上の注意	美術工芸書籍により江戸・明治期の陶磁器作品・技法の予備知識を得る。陶磁器窯業化学の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。 整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習１コマに対して１．５時間の復習をすること。
関連科目	「工芸・デザイン 基礎実習Ⅰ(陶芸)」「日本工芸美術史」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP206P

講義名	工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(木工・彫刻)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	青木　太一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・各種道具(印刀・丸刀)の使用方法、研ぎ方の習得を深める。 ・工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工・彫刻）で学んだ彫刻技法に基づき古典彫刻のモデルを課題とした木彫刻彫を通して、美術表現力および彫刻造形技法を習得する。 ・隠蟻組の技法を習得する。 ・拭漆の基本的な技法を習得する。
授業概要	木彫刻の基礎で古典彫刻をモデルとして佛手の木彫刻を伝統彫刻技法を駆使しながら完成させる。 モデルとして佛手の作図、木彫り制作のための立体デッサンとして油土で製作しそれを元に鑿で荒彫り、中取り、彫刻刀で小造り、仕上げ彫り工程を得て完成させる。 基礎実習Ⅰで制作した複数の仕口加工の発展として隠蟻組の練習を実施する。反復練習を通して加工精度を上げる。また、使用する道具も増えてくるので、それぞれの刃の研ぎ方を並行して指導する。 拭漆塗りを行う。また、最後に装飾金物の取付指導を行う。加工をとおして、材料の反りが発生する可能性がある。その対処方法を学ぶことで木材特性をさらに習得することにつなげる。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週 第　１週・オリエンテーション（課題説明、課題作品の造形・各種道具の使用方法についての理解） ・隠蟻組練習①（木取り） 第　２週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・隠蟻組練習②（墨付） 第　３週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・隠蟻組練習③（仕口加工） 第　４週・ 古典をモデルとした木彫刻彫像の見本となるモデリングを油土で製作・材への作図の転写 ・隠蟻組練習④（仕口加工） 第　５週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 ・隠蟻組練習⑤（留加工） 第　６週・木彫刻の荒取り工程 ・隠蟻組練習⑥（留加工） 第　７週・ 木彫刻の荒取り工程 ・隠蟻組練習⑦（仕上） 第　８週・木彫刻の荒取り行程、中取り工程 ・隠蟻組練習⑧（仕上） 第　９週・木彫刻の中取り工程 ・小箱製作①（木取り） 第１０週・木彫刻の小造り行程 ・小箱制作②（木取り） 第１１週・ 木彫刻の小造り行程，仕上げ彫り工程 ・小箱制作③（墨付） 第１２週・ 木彫刻の仕上げ彫り行程 ・小箱制作③（墨付） 第１３週・立体彫刻の課題説明(課題作品の造形・各種道具の使用方法についての理解) ・小箱制作④（仕口加工） 第１４週・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・小箱制作⑤（仕口加工） 第１５週・まとめ・合評
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書　参考資料	丸尾 彰三郎　 水野敬三郎著　『日本彫刻史基礎資料集成』　（中央公論美術出版） 「ろくろ」（法政大学出版局　1979）、「漆椀百選」（光琳社出版　1975）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。

予習・復習指導	古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ,切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1.5時間の復習をする事。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ（木工）」「科学と芸術」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP206P

講義名	専門実習Ⅰ(ﾃﾞｻﾞｲﾝ)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 津村　健一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	安藤　眞吾	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	木村　奈保	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任准教授	富家　大器	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	様々な分野における表現活動を、人に伝わるものとする為の効率的な手法としてデザインプロセスを実践的に学び身に着ける。
授業概要	デザインとは全体の要素を集約し、アートの表現、グラフィックの表現、立体の造形制作など、それらあらゆる要素を集約しコンセプトを表現することである。本授業では与えられたテーマによる実作品やスケールモデル、コンセプトパネルなどの制作の中で、事例調査・分析、コンセプト立案、からアウトプット、フィードバック、ブラッシュアップという基本的なデザインプロセスを体験する。 課題はビジュアルデザインコース、インテリア・空間デザインコース、CULTUREデザインコースでそれぞれ異なる。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、3,4に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回/週 2 日 第 1 回 オリエンテーション スライド 第 2 回 事例調査 第 3 回 事例調査 第 4 回 デザインコンセプト作成 第 5 回 デザインコンセプト作成 第 6 回 アイデアスケッチ作成 第 7 回 エスキース制作 第 8 回 エスキース制作 第 9 回 デザインスケッチの図面化 図面提出 第 10 回 実作品制作 第 11 回 実作品制作 第 12 回 実作品制作 第 13 回 プレゼンパネル制作 第 14 回 プレゼンパネル制作 第 15 回 合評会 ＊選択したコースにより若干の変更があります。
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
教科書	授業を通して適宜紹介する。
参考書　参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	平素から街中や身の回りにある情報を収集し、ファイリングしておく。
関連科目	「専門実習Ⅱ(デザイン)」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験	有
科目ナンバリング	CAC-SP207P

講義名	専門実習Ⅰ（漆芸）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 遠藤　公誉	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任准教授	三木　表悦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	より専門的な加飾技法である蒔絵3 技法及び螺鈿（青貝）について、経験に基づいた深い理解と技術の獲得を目標とする。前期よりも難易度の高い蒔絵・螺鈿技法であるが、作業を通じより高度な加飾技法の習得を目指す。
授業概要	前期「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」において学んだ線描き蒔絵よりも、より高度である蒔絵の代表的な3 技法（平蒔絵・高上蒔絵・研出蒔絵）及び螺鈿技法（薄貝の加工）を習得する。蒔絵では様々な粒度の金銀粉を、螺鈿では厚さ0.1mm程の貝を用いる。図案は課題として設定されたものを使用。作業に必要な道具の調整の方法も、工程に応じて学習する。 京都美術工芸大学ディプロマポリシー　1 美術工芸学科のディプロマポリシー　1・3　　に該当する
授業計画 授業内容	全15週／週2日　（遠藤：2日／週） 第1週 準備作業1：　本科目の概要説明　各技法置目作成 第2週 蒔絵作業1：平蒔絵粉入れ　青貝作業1：薄貝切り出し、 第3週 蒔絵作業2：平蒔絵固め、胴摺り、線描き粉入れ　高蒔絵炭粉上げ　青貝作業2：薄貝切り出し、貼り付け 第4週 蒔絵作業3：平蒔絵固め、胴摺り　高蒔絵炭粉上げ研ぎ　青貝作業3：薄貝切り出し、貼り付け 第5週 蒔絵作業4：平蒔絵上摺り、仕上げ磨き　研ぎ出し蒔絵粉入れ　高蒔絵炭粉上げ　青貝作業4：括り 第6週 蒔絵作業5：研ぎ出し蒔絵固め　蒔絵炭粉上げ研ぎ　青貝作業5：中塗り 第7週 蒔絵作業6：研ぎ出し蒔絵固め 高蒔絵高上げ漆塗り込み　青貝作業6：中塗り研ぎ 第8週 蒔絵作業7：研ぎ出し蒔絵固め研ぎ、固め　高蒔絵高上げ漆塗り込み研ぎ、再塗り込み　青貝作業7：中塗り 第9週 蒔絵作業8：研ぎ出し蒔絵固め研ぎ、胴摺り　高蒔絵高上げ漆塗りみ研ぎ、胴摺り　青貝作業8：中塗り研ぎ 第10週 蒔絵作業9：研ぎ出し蒔絵粉入れ 高蒔絵粉入れ　青貝作業9：上塗り 第11週 蒔絵作業10：研ぎ出し蒔絵粉入れ 高蒔絵粉入れ　青貝作業10：上塗り炭研ぎ 第12週 蒔絵作業11：研ぎ出し蒔絵固め　高蒔絵固め　青貝作業11：上塗り炭研ぎ、胴摺り 第13週 蒔絵作業12：研ぎ出し蒔絵・高蒔絵固め研ぎ、胴摺り　青貝作業12：上摺り、呂色磨き1回目 第14週 蒔絵作業13：研ぎ出し蒔絵・高蒔絵毛打ち粉入れ　青貝作業13：上摺り、呂色磨き2回目 第15週　蒔絵作業14：研ぎ出し蒔絵・高蒔絵毛打ち固め、仕上磨き　青貝作業14：上摺り、呂色磨き3回目 蒔絵・螺鈿作業完成確認、総括
成績評価	技術の習得度40%、作品完成度40%、受講態度20%によって評価する。

教科書	なし　必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書　参考資料	「やさしく身につく漆のはなし」　Ⅰ～Ⅳ　社団法人　日本漆工協会編 「漆芸品の鑑賞基礎知識」至文堂 「漆塗りの技法書」誠文堂新光社
履修上の注意	作業に使用する蒔絵筆などの諸道具の手入れを日常行うこと。また、配布資料、参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。
予習・復習指導	予習：道具類の手入れ。蒔絵筆の状態確認、研ぎ炭・砥石の準備など。 復習：道具類の手入れ。遅れている作業がある場合には次回の実習までに極力追いつくように作業を進める。作業工程のポートフォリオを作成、学習の振り返りに役立てる。 1コマに対し0.5時間の事前学習及び1.0時間の復習をすること
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答をおこなう。
科目ナンバリング	CAC-SP207P

講義名	専門実習Ⅰ(陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	小野　多美枝	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	明治期導入された西欧の化学的な陶磁器製造技術の基本的な知識とその調製法の習得を目標とする。磁器坏土を用いた大物ろくろ成形技法の習得と、土石色釉薬を用いた陶磁器製造技法、低火度釉・いっちん技法を用いた交趾焼技法及び、耐熱素地を用いた中火度陶器の製造技術の習得を目標とする。
授業概要	土石合わせ色釉薬を用いた高火度陶磁器技術・市販無鉛フリットを用いた低火度陶器・中火度陶器技術について実習する。これらの素材を用い、磁器坏土を用いた大物ろくろ基礎成形技法・いっちん技法加飾技法を習得する。また土鍋製作をとおして耐熱素地・中火度陶器技法を習得する。 美術工芸学科ディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週 第１週　課題説明・ロクロ成形(酒器揃[徳利・盃]：道具作り／水挽き 第２週　成形実習(ロクロ成形[酒器揃])：水挽き 第３週　成形実習(ロクロ成形[酒器揃])：水挽き 第４週　成形実習(ロクロ成形[酒器揃])：削り 第５週　成形実習(ロクロ成形[大皿])：道具作成・水挽き 第６週　成形実習(ロクロ成形[大皿])：水挽き・中火度釉調製 第７週　成形実習(ロクロ成形[大皿])：水挽き 第８週　成形実習(ロクロ成形[大皿])：削り　　素焼焼成実習 第９週　成形実習(ロクロ成形[土鍋])：水挽き・中火度製品化 第10週　成形実習(ロクロ成形[土鍋])：削り・仕上げ) 第11週　加飾実習(大皿)：いっちん・影青 第12週　京薩摩金襴手技法(酒器揃) 第13週　加飾実習(大皿)：いっちん彩色　本焼焼成実習(OF・RF) 第14週　加飾実習(大皿)：上絵付　上絵付焼成実習(OF) 第15週　成形実習・加飾実習・釉薬実習の講評 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書　参考資料	日本陶磁大系(平凡社)　やきものと釉薬―基本的な考え方(理工学社) [その他必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
履修上の注意	美術工芸書籍により明治期の陶磁器作品・技法の予備知識を得る。デザインはあらかじめ予習し、実習時には決定しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。 整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習１コマに対して１．５時間の復習をすること。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(陶芸)」「色彩理論演習」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP207P

講義名	専門実習Ⅰ（木工・彫刻）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 青木　太一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・各種道具(印刀・丸刀・鑿)の使用方法、研ぎ方の習得を深める。 ・挽物の基本的な技法を習得する。 ・小箱制作の手法を習得する。 ・工芸・デザイン基礎実習Ⅱ(木工・彫刻)で学んだ佛手彫刻の彫刻技法に基づき古典彫刻の モデルを課題とした木彫刻を通して構想・美術表現力および彫刻造形技法の習得を目標にする。
授業概要	本格的な立体彫刻制作に取り組む。伝統彫刻技法を駆使しながら木彫刻の基本造形となる古典をモデルとした課題をデッサン、作図、彫刻見本となるモデリングを油土で製作しそれを元にして鑿で荒彫り、中取り、彫刻刀で小造り、仕上げ彫り工程を得て完成させる。 反復練習を通して、隠蟻組の加工精度を上げた後に小箱の制作を行う。また、使用する道具も増えてくるので、それぞれの刃の研ぎ方を並行して指導する。 挽物による器物の制作を通して適切な木取り法を理解し、荒取りから仕上げに到る工程を学ぶ。またこれらに使用する道具と機械の仕組みを理解し道具の製作や機械の保守も合せて学ぶ。これらの工程を学びながら常に工芸の本道を見失わない心を育てていく。本授業では挽物の基本的な技法を習得する事を目標とする。また器物の制作を通じて指物との共通点や相違点を考察し、器物と人との関わり合いの認識を深める事を目的とする。拭漆の基本的な技法を習得する。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週 第　１週・オリエンテーション（彫刻課題説明） ・拭漆についての説明 第　２週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・拭漆練習 第　３週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・小箱制作①（仕口加工） 第　４週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写 ・小箱制作②（仕口加工） 第　５週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 ・小箱制作③（仕口加工） 第　６週・木彫刻の木取り、荒取り工程 ・小箱制作④（仕口加工） 第　７週・木彫刻の荒取り工程 ・小箱制作⑤（仕口加工） 第　８週・木彫刻の荒取り工程 ・小箱制作⑥（仮組） 第　９週・木彫刻の荒取り行程、中取り工程 ・小箱制作⑦（底板加工） 第１０週・木彫刻の中取り工程 ・小箱制作⑧（蓋加工） 第１１週・木彫刻の中取り工程 ・小箱制作⑨（組立） 第１２週・木彫刻の中取り工程, 小造り工程 ・小箱制作⑩（仕上） 第１３週・木彫刻の中取り工程、小造り行程 ・挽物① 第１４週・木彫刻の小造り行程, 仕上げ彫り工程 ・挽物② 第１５週・木彫刻の仕上げ彫り行程から完成へ、 講評・総括
成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。

参考書　参考資料	丸尾 彰三郎　　水野敬三郎著　『日本彫刻史基礎資料集成』　（中央公論美術出版） 近藤豊著　『古建築装飾文様集成　草木編・鳥獣編・風月編』　（光村推古書院 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する彫刻刀及び叩き鑿を研ぎ,切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1.5時間の復習をする事。
関連科目	「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP207P

講義名	専門実習Ⅱ(ﾃﾞｻﾞｲﾝ)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	津村　健一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	安藤　眞吾	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	渡邊　俊博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任准教授	富家　大器	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	山本　太郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	3コースにそれぞれにおける課題において、企画・立案する力を身につける。 実践的な表現方法を学び、デザインプロセスにおける一連の流れを推進できる力をつける。
授業概要	本授業は、3コース別に課題を行う。 ビジュアルデザインコース（グラフィックデザイン/ブランディングデザイン） インテリア・空間デザインコース（店舗デザイン/インテリアデザイン） カルチャーデザイン（プロモーション1.2） 美術工芸学科ディプロマポリシー１，２，３，４に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回/週 2 日 第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 企画・アイデア発想手法演習 第 3 週 市場調査、情報収集及び分析 第 4 週 デザイン企画(アイデア抽出) 第 5 週 デザイン企画(コンセプトの検討) 第 6 週 デザイン企画(デザイン検討) 第 7 週 デザイン企画(設計作業) 第 8 週 中間講評、合評会 第 9 週 デザイン計画 第 10 週 デザイン計画 第 11 週 デザイン計画 第 12 週 試作によるユーザー調査 第 13 週 デザイン計画 第 14 週 デザイン計画 第 15 週 課題総括、総合合評 ＊各コースおよび課題によって日程が多少異なります
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書　参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	実習1コマに対し1.5時間の事前学習をすること。
関連科目	専門実習Ⅰ(デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評および質疑応答を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP308P

講義名	専門実習Ⅱ（漆芸）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 三木　表悦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	遠藤　公誉	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	漆芸の伝統的な技法の習得とともに、その活用方法と、現代生活へのアプローチを考える基礎を学ぶ。また素材技法を研究し、自らが作るモノの芯をしっかりと固め卒業制作に取り組む基本的な姿勢を習学する。
授業概要	1年間を通じて「用を持つ工芸品制作」と「用を必要としない表現作品」の2作品が課題。乾漆技法による制作を中心として、必要に応じてその他素材や技法を取り入れる。作品を実体化する過程を通じ、「何を・なぜ・どのように」つくり出すかを学ぶ。同時に「ものづくりを如何にマネジメントするか」という点にも重きを置く。そのために素材・道具の自己調達や研究、作品についてのプレゼンテーションについても行う。 美術工芸学科のディプロマポリシー　1・2・3・4　　に係る
授業計画 授業内容	全15週/週2日 第１週　科目の概要説明　デザイン1：アイデア抽出 第２週　デザイン2：アイデア抽出 第３週 制作設計 第４週 プレゼンテーション 第５週 原型1：例）乾漆造形の場合成形（削り・捻塑など） 第６週 原型2：成形（削り・捻塑など） 第７週 原型3：成形（削り・捻塑など） 第８週 原型4：成形（削り・捻塑など） 第９週 胎1：布着せ1回目・布目揃え・目摺り錆 第10週 胎2：布着せ2回目・布目揃え・目摺り錆 第11週 胎3：布着せ3回目・布目揃え・目摺り錆 第12週 胎4：布着せ4回目・布目揃え・目摺り錆 第13週 胎5：布着せ5回目・布目揃え・目摺り錆 第14週　胎6：布着せ6回目・布目揃え・目摺り錆 第15週　胎7：布着せ予備回　総括
成績評価	アイデア抽出・デザイン力20%、技術の習得度・材料の理解度30%、課題作品の進捗度30%、受講態度20%
教科書	なし　必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書　参考資料	やさしく身につく漆のはなしⅠ～Ⅳ社団法人日本漆工協会/漆芸品の鑑賞基礎知識 至文堂/漆塗りの技法書 誠文堂新光社/うるし工芸辞典 光芸出版/漆　その科学と実技 理工出版社
履修上の注意	乾漆その他それぞれの制作技法の進捗について取りまとめポートフォリオを制作すること。作品の最終仕上げの技法についての調査研究を行う。参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。道具の手入れを日常行うこと。自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に管理見直しを報告連絡相談すること。
予習・復習指導	予習：道具の手直し。 次の作業目的にあった道具の状態に準備する。必要な素材・道具の調達。スケッチや文字によるアイデア抽出作業。デザインを確認するためのモデルの制作。 復習：道具類の手入れ。いつでも作業できるように基本的なメンテナンスをする。遅れている作業がある場合には次回の実習までに放課後等を利用し作業を進める。作業工程をポートフォリオなどにまとめ、学習の振り返りに役立てる。 予習0.5時間復習1.0時間を目安に取り組む。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「伝統工芸産業工学」「芸術導入実習」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」「工芸・デザイン基礎実習Ⅱ」「専門実習Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答をおこなう。
科目ナンバリング	CAC-SP308P

講義名	専門実習Ⅱ(陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻　潤	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	小野　多美枝	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	中国・韓国・日本の伝統的な高火度陶磁器の製造技術について、技術的な習得を目的とする。文化財として継承されている伝統的な陶磁器の製造技術と化学的な陶磁器の製造技術を比較し、色釉陶器の特質を理解し、さらにこれら素材を用いた加飾技術を習得することを目標とする。
授業概要	伝統釉(灰釉と土石釉)を調製し、文化財として継承されている陶磁器の比較検討を行う。磁器坏土を用いた複雑な形状のろくろ技法、磁器泥漿を用いた鋳込み成形技法の実習や各種色釉薬を用いた加飾技術の実習を行う。 美術工芸学科ディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週 第１週　課題説明：テストピースの作成 第２週　成形実習(鋳込み成形[ｵﾘｼﾞﾅﾙ作品])：説明・図面作成・ﾐﾆｱﾁｭｰﾙ作成 第３週　成形実習(鋳込み成形[ｵﾘｼﾞﾅﾙ作品])：原型作成 第４週　成形実習(鋳込み成形[ｵﾘｼﾞﾅﾙ作品])：原型仕上げ 第５週　成形実習(鋳込み成形[ｵﾘｼﾞﾅﾙ作品])：鋳込み型作成 第６週　伝統釉(鉄釉と銅釉)の調製 第７週　伝統釉(鉄釉と銅釉)の調製・施釉　　本焼焼成実習(OF) 第８週　伝統釉(鉄釉と銅釉)の施釉　　本焼焼成実習(RF) 第９週　成形実習(ロクロ成形[急須])：図面作成・道具作成 第10週　成形実習(ロクロ成形[急須])：水挽き 第11週　成形実習(ロクロ成形[急須])：水挽き 第12週　成形実習(ロクロ成形[急須])：削り 第13週　成形実習(ロクロ成形[急須])：削り・仕上げ 第14週　鉄釉と銅釉の製品化(天目碗・黄瀬戸・織部向付けの制作)本焼焼成実習(OF・RF) 第15週　製品化の講評とレポート提出 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキスト(伝統釉を含む)を配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書　参考資料	釉調合の基本(改訂版)（加藤悦三著)窯技社　[必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
履修上の注意	実習を始めるまでに、現在伝承している陶磁器の釉薬や素地、焼成などを調査しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。 整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習１コマに対して１．５時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅰ(陶芸)」「伝統工芸産業工学」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP308P

講義名	専門実習Ⅱ（文化財）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小林　泰弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	田川　新一朗	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	小田　珠生	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	時代的な表現・材質・そのために確立された各工程の方法と技術の基本を習得して、材料の変化に対応した修理技術と表現法の変遷を学ぶことで、文化財修理の本質を理解するとともに、報告書作成のノウハウを学ぶ。また共同作業を通して連携作業を学ぶ。 2課題とし、立体・平面の修理を学ぶ。
授業概要	現在の文化財修理の理念を学び、修理の全工程を実習するとともに、それに不可欠な、さまざまな材料を用いた文化財修理に必要な技法を学ぶ。 美術工芸学科ディプロマポリシーの①、③に係る。
授業計画 授業内容	全15週/週2回　2課題 講義・フィールドワーク等については随時状況を見て行う 立体　　平面　扁額の修理 1週　導入・ガイダンス　　表の仮張り 2週　文化財（仏像）の調書作成。（保存状態調査）　　肌裏紙除去 3週　文化財（仏像）の調書作成。（・写真撮影法）　　肌裏紙除去 4週　修理仕様書作成。　　額の修理 5週　クリーニング法。剥落止め（実験）　　折伏せの処理 6週　クリーニング法。剥落止め　　折伏せの処理 7週　クリーニング法。剥落止め　　肌裏打ち 8週　解体作業の注意　接着剤除去方法　　肌裏打ち 9週　解体作業　　額装中の仕立 10週　解体写真撮影法。調査・採寸・作図　　額装中の仕立 11週　材質補強（材料選択、実験）　　額装仕立 12週　材質補強（材料選択、実験）　　額装仕立 13週　組み立て（材料選択、試作）　　額装仕立て 14週　組み立て（材料選択、試作）　　額装仕立て 15週　総評　　総評
成績評価	実習中の態度（30%）、習得度（調査等も含む）（30%）、研究成果等（40%）を基本に、総合的に判断する
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書　参考資料	修復の理論・美術院紀要・文化財修理報告書（楽浪文化財修理所）など
履修上の注意	健康管理に留意し、道具・材料の安全な取り扱いを徹底すること。 文化財を汚したり傷つけることのないように常に心掛けること。 授業中は、常に『作業記録』『作品の観察記録』を取り、扱っている作品の状態を把握すること。 記録情報は、作業メンバーで共有すること。
予習・復習指導	予習は制作および道具の手入れ（刃物研ぎ等）1.5時間 復習は授業内容の記録および道具の手入れ（刃物研ぎ等）1.5時間
関連科目	「文化財保存概論」「文化財修理論」等の講義系科目
課題に対するフィードバックの方法	実習時間内で課題に対して常に質疑応答等を行う
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAC-SP308P

講義名	専門実習Ⅱ（木工・彫刻）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 宮本　貞治	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	青木　太一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	中岡　功	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	江元　遥	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・棚制作の全体過程を習得する。 ・より高度で専門的な拭漆の技法を習得する。 ・木の特性について理解を深める。 ・専門実習Ⅰ（木工・彫刻）で学んだ佛手彫刻の彫刻技法に基づき古典彫刻のモデルを課題とした木彫刻を通して、構想・美術表現力および彫刻造形技法の習得を目標とする。
授業概要	今までに学んだ技術をベースに指物作品を制作する。制作する作品は小棚とし、図面引き、木取りを通して、板材から作品となるまでの全体過程を習得する。完成した作品には仕上げとして、拭漆塗りを行う。また、最後に装飾金物の取付指導を行う。加工をとおして、材料の反りが発生する可能性がある。その対処方法を学ぶことで木材特性をさらに習得することにつなげる。 本格的な彫刻制作に取り組む。古典彫刻をモデルとして木彫刻作品を完成させる。伝統彫刻技法を駆使しながら仏像彫刻、欄間彫刻、建築装飾彫刻といったジャンルにとらわれない自由課題を制作する。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週 第　１週・オリエンテーション（課題説明） ・小棚作品考案・図面作成 第　２週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・割り付け・ 第　３週・古典をモデルとした木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングを油土で製作 ・木取り 第　４週・古典をモデルとした木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 ・木作り①（鉋掛け） 第　５週・木彫刻の荒取り工程 ・木作り②（寸法切り） 第　６週・木彫刻の荒取り工程 ・仕口加工① 第　７週・木彫刻の荒取り行程、中取り工程 ・仕口加工② 第　８週・木彫刻の中取り工程 ・仕口加工③ 第　９週・木彫刻の中取り工程 ・仕口加工④ 第１０週・木彫刻の中取り工程, 小造り工程 ・仮組・部材調整　成形① 第１１週・木彫刻の小造り行程 ・仮組・部材調整　成形② 第１２週・木彫刻の小造り行程 ・本組 第１３週・木彫刻の小造り行程，仕上げ彫り工程 ・面取り 第１４週・木彫刻の仕上げ彫り行程から完成へ ・仕上げ 第１５週・組上げ　合評

成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書　参考資料	図解木工の継手と仕口（理工学社　1987） 丸尾 彰三郎　水野敬三郎著　『日本彫刻史基礎資料集成』　（中央公論美術出版） 近藤豊著　『古建築装飾文様集成　草木編・鳥獣編・風月編』　（光村推古書院 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ,切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 木彫刻彫像、自由課題ともに、授業で作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。 1コマに対し1.5時間の復習をする事。
関連科目	「専門実習Ⅰ（木工・彫刻）」「伝統工芸産業工学」「工芸経営論」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP308P

講義名	専門実習Ⅲ(ﾃﾞｻﾞｲﾝ)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	津村　健一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	安藤　眞吾	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	渡邊　俊博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任准教授	富家　大器	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	山本　太郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	3コースにそれぞれにおける課題において、以下の内容を習得する。 ・実践的な市場調査を体験し、情報収集力や分析力を身につける。 ・企画・立案する力を身につける。 ・デザイン開発プロセスにおける一連の流れを推進できる力をつける。
授業概要	本授業は、3コース別に課題を行う。 ビジュアルデザインコース（エディトリアルデザイン/表現のベクトル展） インテリア・空間デザインコース（空間デザイン/表現のベクトル展） カルチャーデザイン（プロダクト/表現のベクトル展） ＊表現のベクトル展はプレ卒業制作と位置づけ展示発表機会を設ける。 美術工芸学科ディプロマポリシー１，２，３，４に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回/週 2 日 第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 企画・アイデア発想手法演習 第 3 週 市場調査、情報収集及び分析 第 4 週 アイデア抽出 第 5 週 コンセプトの検討 第 6 週 デザイン検討 第 7 週 デザイン検討 第 8 週 中間講評、合評会 第 9 週 コンセプトの再検討 第 10 週 デザイン作業 第 11 週 デザイン作業 第 12 週 デザイン作業 第 13 週 デザイン作業 第 14 週 デザイン作業 第 15 週 課題総括、総合講評 ＊各コースおよび課題によって日程および内容が多少異なります
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書　参考資料	授業をとおして適宜紹介する。
履修上の注意	道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	実習1コマに対し1.5時間の事前学習をすること。
関連科目	専門実習Ⅱ(デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評および質疑応答を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP309P

講義名	専門実習Ⅲ（漆芸）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 三木　表悦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	遠藤　公誉	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	専門実習Ⅱを引継ぎ、作品の完成を目指す。その過程で、自らの創作の方向性を見極めるとともに社会のニーズを意識し、より高いクオリティの習得とその表現を目指す。
授業概要	専門実習Ⅱの課題である「用」を踏まえた作品と、あえて「用」を必要としない表現作品を引き続き制作し完成させる。その過程でその表面塗装や装飾のテストピースを作成。テストピースも評価の対象とする。また作品制作のプロセスやテストピースを作品制作の背景として発表する。 美術工芸学科のディプロマポリシー　１・２・３・４　に係る
授業計画 授業内容	全15週/週２日 第１週　本科目の概要説明　作品制作進行進捗プレゼンテーション 第２週　塗装・加飾計画の検討及び情報共有：素地過程の継続１ 第３週 手板による仕上げの試作実験１：素地過程の継続２ 第４週　手板による仕上げの試作実験２：素地過程の継続３ 第５週　手板による仕上げの試作実験３：素地過程の継続４ 第６週　手板による仕上げの試作実験４：素地過程の継続５ 第７週 手板による仕上げの試作実験５：素地過程の継続６ 第８週 加飾（仕上げ）計画決定 第９週　加飾１ 第10週　加飾２ 第11週　加飾３ 第12週　加飾４ 第13週　加飾５ 第14週　加飾６ 第15週　合評 総括
成績評価	アイデア抽出・デザイン力20%、技術の習得度・材料の理解度30%、課題作品の進捗度30%、受講態度20%
教科書	なし　必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書　参考資料	やさしく身につく漆のはなしⅠ～Ⅳ社団法人日本漆工協会/漆芸品の鑑賞基礎知識 至文堂/漆塗りの技法書 誠文堂新光社/うるし工芸辞典 光芸出版/漆　その科学と実技 理工出版社
履修上の注意	乾漆その他それぞれの制作技法の進捗についての取りまとめポートフォリオを作成する。作品の最終仕上げの技法についての調査研究を行う。参考書等文献からの関連する予備知識を得ておくこと。道具の手入れを日常行うこと。自身の作業スピードを考慮し計画を立て、常に管理見直しを報告連絡相談すること。
予習・復習指導	予習：道具類の手直し。次の作業目的にあった道具の状態に準備する。必要な素材・道具の調達。 復習：道具類の手入れ。いつでも作業できるように基本的なメンテナンスをする。遅れている作業がある場合には次回の実習までに放課後等を利用し追いつくように作業を進める。予習０．５時間復習１．０時間を目安に取り組む。
関連科目	「工芸概論」「伝統工芸概論」「伝統工芸産業工学」「伝統工芸材料科学」「芸術導入実習」「工芸・デザイン基礎実習Ⅰ」「専門実習Ⅰ」「専門実習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評・質疑応答をおこなう。
科目ナンバリング	CAC-SP309P

講義名	専門実習Ⅲ(陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

到達目標	上絵付技法について、文化財として継承されている伝統的な陶磁器の製造技術と化学的な陶磁器の製造技術を比較し、低火度絵具色彩調製技術を習得することを目的とする。また陶磁器の特質を理解していくとともにあらゆる石膏型成形技法を習得し、その素材を用いた加飾技術を習得することを目標とする。
授業概要	陶磁器坏土を用いた低火度・中火度・高火度陶磁器の製造技術として、複雑な形状の石膏型成形技法の実習を行う。無鉛フリットによる低火度絵具色彩調製、中火度釉薬調製実習を行ない、低火度・中火度焼成技術について実習を行う。 美術工芸学科ディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週 第１週　低火度絵具調製(京無鉛楽フリットベースの調製)：ﾃｽﾄﾋﾟｰｽ作成 第２週　低火度絵具調製(京無鉛楽フリットベースの調製)：基礎調製 第３週　低火度絵具調製(京無鉛楽フリットベースの調製)：絵具調製 第４週　低火度絵具調製(京無鉛楽フリットベースの調製)：絵付け・低火度(OF)焼成実習 第５週　成形実習(鋳込み成形)：泥漿調製 第６週　成形実習(鋳込み成形)：鋳込み 第７週　成形実習(鋳込み成形)：鋳込み 第８週　高火度釉・低火度釉(ｵﾘｼﾞﾅﾙ調製ﾃｽﾄ) 第９週　高火度釉・低火度釉(ｵﾘｼﾞﾅﾙ調製ﾃｽﾄ)(OF・RF)焼成実習 第10週　成形実習(押し型成形[蓋物])：図面作成・石膏型作成 第11週　成形実習(押し型成形[蓋物])：押し型 第12週　成形実習(押し型成形[蓋物])：削り仕上げ 第13週　高火度釉・低火度釉(ｵﾘｼﾞﾅﾙ調製ﾃｽﾄ)の施釉[蓋物]：製品化 第14週　高火度釉・低火度釉(ｵﾘｼﾞﾅﾙ調製ﾃｽﾄ)の施釉[蓋物]：製品化(OF・RF)焼成実習 第15週　製品化の講評とレポート提出 ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	実習プランを含めたテキスト(伝統釉を含む)を配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書　参考資料	釉調合の基本(改訂版)（加藤悦三著)窯技社　[必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
履修上の注意	実習を始めるまでに、現在伝承している陶磁器の釉薬や素地、焼成などを調査しておくこと。各テーマの完成時期に合わせるように努めること。 整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	(内容)実習において配布する資料や実践指導で習得過程目標としている成形技法・加飾技法の反復練習に励むこと、また時間に余裕があれば事前に素材の成分や効果を調べておく。 (時間)実習１コマに対して１．５時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅱ(陶芸)」「伝統工芸産業工学」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP309P

講義名	専門実習Ⅲ（文化財）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小林　泰弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	田川　新一朗	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	時代的な表現・材質・そのために確立された各工程の方法と技術の基本を習得して、材料の変化に対応した修理技術と表現法の変遷を学ぶことで、文化財修理の本質を理解するとともに、報告書作成のノウハウを学ぶ。
授業概要	現在の文化財修理の理念を学び、修理の全工程を実習するとともに、それに不可欠な、さまざまな材料を用いた文化財修理に必要な技法を学ぶ。 美術工芸学科ディプロマポリシーの１，３，４に該当する。
授業計画 授業内容	全15週/週２回 1週　組立 2週　組立 3週　組立 4週　接ぎ目処理（材料選択、テストピース作成、実験） 5週　接ぎ目処理（材料選択、テストピース作成、実験） 6週　接ぎ目処理（材料選択、テストピース作成、実験） 7週　接ぎ目処理（材料選択、テストピース作成、実験） 8週　漆箔・彩色（材料選択） 9週　漆箔・彩色（材料選択） 10週　漆箔・彩色（材料選択） 11週　漆箔・彩色（材料選択） 12週　修理記録（報告書）作成　完成写真撮影法　作図、採寸 13週　修理記録（報告書）作成　完成写真撮影法　作図、採寸 14週　修理記録（報告書）作成　完成写真撮影法　作図、採寸 15週　総評　現地納入
成績評価	実習中の態度（30%）、習得度（調査等も含む）（30%）、研究成果等（40%）を基本に、総合的に判断する
教科書	必要に応じて適宜資料を配布
参考書　参考資料	美術院紀要。他の修理報告書
履修上の注意	健康管理に留意し、道具・材料の安全な取り扱いを徹底すること。 文化財を汚したり傷つけることのないように常に心掛けること。 授業中は、常に『作業記録』『作品の観察記録』を取り、扱っている作品の状態を把握すること。 記録情報は、作業メンバーで共有すること。
予習・復習指導	予習は制作および道具の手入れ（刃物研ぎ等）1.5時間 復習は授業内容の記録および道具の手入れ（刃物研ぎ等）1.5時間
関連科目	「文化財保存概論」「文化財修理論」等の講義系科目
課題に対するフィードバックの方法	実習時間内で課題に対して常に質疑応答等を行う
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAC-SP309P

講義名	専門実習Ⅲ（木工・彫刻）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 宮本　貞治	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	青木　太一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	中岡　功	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	江元　遥	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・椅子・テーブルの構造について理解する。 ・より高度で精密な加工技術を習得する。 ・塗装技法をより向上させる。 ・ 専門実習Ⅱ（木工・彫刻）で学んだ彫刻技法に基づく木彫刻造形の美術表現及び彫刻技法の習得を目標とする。 ・ 自由課題を通して、木彫刻造形を一つの作品としてまとめる、全体的な構想・美術表現力および彫刻造形技法の習得を目標とする。
授業概要	椅子を制作する。複数の椅子のデザイン計画、設計をした上で、1/5 サイズで模型を制作するなどしてそれぞれの寸法の妥当性を検討する。作品としての問題点を抽出し、解決に向けての模索を通しより良い作品を制作するセンスを養う。その後、原寸サイズの椅子の制作を行い、より複雑な木工立体加工技術を修得する。 木彫刻造形である仏像彫刻、欄間彫刻、建築装飾彫刻といったジャンルにとらわれない自由課題を作図、見本となるモデリングを木彫りのための立体デッサンとして油土で制作し造形のプランを完成させ木彫作品を制作。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週 第　１週・オリエンテーション（課題説明）自由課題の作図 ・椅子作品考案・図面作成 第　２週・自由課題の習作・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングの製作 ・割り付け・木取り・小割・木作り（鉋がけ等）　木作り①（鉋がけ・寸法切り） 第　３週・自由課題の習作・木彫刻彫像のデッサン、作図、見本となるモデリングの製作 ・木作り②（鉋がけ・寸法切り）　木作り③（鉋がけ・寸法切り） 第　４週・木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り ・仕口加工① 第　５週・木彫刻彫像の習作・材への作図の転写、木取り ・仕口加工② 第　６週・自由課題の作品制作・材への作図の転写木取り、木彫刻の荒取り工程 ・仕口加工③ 第　７週・木彫刻の荒取り工程 ・仮組・部材調整 第　８週・木彫刻の荒取り工程 ・成形、仕上げ① 第　９週・木彫刻の荒取り工程，中取り工程 ・成形、仕上げ② 第１０週・木彫刻の中取り工程 ・成形、仕上げ③ 第１１週・　木彫刻の小造り行程 ・成形、仕上げ④ 第１２週・　木彫刻の小造り行程 ・組上げ、調整接着① 第１３週・木彫刻の小造り行程，仕上げ彫り工程 ・組上げ、調整接着② 第１４週・木彫刻の仕上げ彫り工程から完成へ ・塗装 第１５週・最終調整・合評

成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書　参考資料	椅子と日本人のからだ（矢田部英正　晶文社　2003）、1000chairs（Taschen America2000） 日本の木の椅子（商店建築社　1996） 丸尾 彰三郎　水野敬三郎著　『日本彫刻史基礎資料集成』　（中央公論美術出版） 近藤豊著　『古建築装飾文様集成　草木編・鳥獣編・風月編』　（光村推古書院 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。
予習・復習指導	実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ,切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 古寺や博物館・美術館等を訪れ、課題の参考となる彫刻作品を見学するなど、積極的に課外での学習に取り組むことが望ましい。 木彫刻彫像、自由課題ともに、授業で作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。 1コマに対し1.5時間の復習をする事。
関連科目	「専門実習Ⅱ（木工・彫刻）」「伝統工芸産業工学」「工芸経営論」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP309P

講義名	プロジェクト演習Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 安藤　眞吾	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	渡邊　俊博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	青木　太一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	遠藤　公誉	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・チームワークで課題解決するのためのコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 数テーマに分かれて実施、専門コースを問わない学科内の横断的な演習授業とする。 美術工芸学科ディプロマポリシー2,4に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 日/週 1 日 第 1 週　プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第 2 週　オリエンテーション 第 3 週～第 6 週　アイデアの具現化 第 7 週　中間発表 第 8 週　アイデア修正 第 9 週～第 14 週　実制作 第 15 週　最終プレゼンテーション 前年度の事例 「京都花灯路プロジェクト」 京都東山花灯路に連動して、京都の美大が創作行灯を制作。円山公園南の大谷祖廟参道に設置。 「駅ナカアートプロジェクト」 「国際文化都市・京都」をテーマにしたアート作品を地下鉄駅に展開することで、学生の視点で駅から京の文化を世界へ発信。（連携先：京都市交通局） 「京風パッケージデザインコンテスト」 次代を担う大学生を対象とした「食」をテーマにした京風パッケージデザインコンテスト。（主催：京都中央信用金庫）
成績評価	授業態度（30%）、作品（50%）、プレゼンテーション内容（20%）によって総合的に評価する。
参考書　参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	授業でのディスカッションにおいて自身の案をプレゼンするために必要な資料を作成しておく。
関連科目	「専門実習Ⅰ(デザイン)」
課題に対するフィードバックの方法	成果発表において、講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP210S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	プロジェクト演習Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	安藤　眞吾	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	遠藤　公誉	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	加納　奈都	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	小林　泰弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	田川　新一朗	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	坂本　ひかり	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	賀來　寿史	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	塚本　カナエ	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・チームワークで課題解決するのためのコミュニケーションスキルやプレゼンテーションスキルの向上
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 「デザイン系」「工芸系」の数テーマに分かれて実施。専門コースを問わない学科内の横断的な実習授業とする。 美術工芸学科ディプロマポリシー１，２，３，４に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 日/週 1 日 第 1 週　プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第 2 週　オリエンテーション 第 3 週 ～第 6 週　アイデアの具現化 第 7 週　中間発表 第 8 週　アイデア修正 第 9 週 ～第 14 週　実制作 第 15 週　最終プレゼンテーション 過年度の事例 「一坪茶室プレゼンテーション出展」 お茶の京都博での宇治茶を味わう新たな空間提案を京都府山城地区の市町村の一つとタイアップし企画立案制作を行う。（連携先：京都府） 「京風パッケージデザインコンテスト」 京都中央信用金庫主催の京風パッケージデザインコンテストに作品応募する。（連携先：京都中央信用金庫）

	「夜久野町-宮神社御神木再生プロジェクト」 伐採された御神木（銀杏）を新たな神として創作し継承する。（連携先：夜久野町） 「東本願寺の空間を市民緑地として整備提案」 東本願寺の入り口の前の公的空間の活用方法についての提案を行う。「東本願寺」 「和菓子落雁木型制作＆宣伝プロジェクト」 京都府南丹市美山町「京ゆば処静家」京湯葉入り落雁の木型制作とパッケージデザイン提案等
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
参考書　参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	演習1コマに対し1.5時間の事前学習をすること。
関連科目	専門実習Ⅱ(デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとに講評および質疑応答を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP311S

KYOBI
京都美術工芸大学

講義名	プロジェクト演習Ⅲ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	2		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	3		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	安藤　眞吾	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	渡邊　俊博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	遠藤　公誉	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	玉村　嘉章	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	小林　泰弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	田川　新一朗	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	坂本　ひかり	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	賀來　寿史	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	塚本　カナエ	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・チームワークで課題解決するのためのコミュニケーションやプレゼンテーションスキルの向上
授業概要	社会に実際にある課題をテーマにした問題解決型の実習で、実社会とつながる産学連携プロジェクトとしての側面をもち、地域の企業や団体と協力して取り組む。 「デザイン系」「工芸系」の数テーマに分かれて実施。専門コースを問わない学科内の横断的な実習授業とする。 美術工芸学科ディプロマポリシー１，２，３，４に該当する。
授業計画 授業内容	全15日/週1日 第 1週　プロジェクト演習全体ガイダンス(グループ分け) 第 2週　オリエンテーション 第 3週 ～第6週　アイデアの具現化 第 7週　中間発表 第 8週　アイデア修正 第 9週 ～第14週　実制作 第15週　最終プレゼンテーション 過年度の事例 「カフェの食器開発プロジェクト」 東山キャンパスの近くに新規開店するカフェの食器を四季をテーマに企画デザインし実制作する。（連携先：株式会社灰孝本店） 「きものデザインコンペ」 京都市内の学生を対象に、京都の基幹産業である和装の振興、人材育成及び学生のまち京都の推進寄与することを目的にしたコンペティション。（連携先：京都産業会館）

	「東山花灯路プロジェクト」 大谷祖廟参道（円山公園南）の「大学の街京都・伝統の灯り展」に灯りのオブジェを出展する。 （連携先：京都東山花灯路実行委員会） 「七条通スタンプラリー＆アートフェスタ」 七条通沿いのイベント参加店舗や施設内にアート作品を展示する。 （連携先：七条通商店街振興組合） 「金属素材を用いた商品開発」 金属素材：鉄、銅、ステンレス、アルミを使用した商品開発を行う。実制作としては図面、模型を作成し プレゼンテーションを行い、本製作をタイアップ企業にて実制作を行なってもらう。 （連携先：有限会社小林製作所）
成績評価	授業態度30%、作品50%、プレゼンテーション内容20%によって総合的に評価する。
教科書	必要に応じて、資料を適宜配布する。
参考書　参考資料	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。
履修上の注意	調査分析資料、試作作品等は授業フェーズの切り替えまでに完成させておくこと。 道具の整理整頓、後片付けに留意のこと。
予習・復習指導	演習1コマに対し1.5時間の事前学習をすること。
関連科目	専門実習Ⅲ(デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	プロジェクトごとに講評および質疑応答を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP312S

講義名	卒業制作研究(ﾃﾞｻﾞｲﾝ)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	津村　健一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	安藤　眞吾	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	渡邊　俊博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任准教授	富家　大器	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・卒業制作に向けて制作根拠となりうる研究を行う。 ・研究仮説を明確化し調査対象を定め計画を立てる。 ・資料や対象物の調査を行い分析し整理する。 ・整理をもとに卒業制作の課題の意義やテーマを構築する。
授業概要	本授業は後期の「卒業制作」のための研究と位置づけ、各自で設定したテーマをどのように論拠することができるかを研究、検討する。これまでに学んできた演習や実習内容ををさらに発展させ、市場やユーザー調査を実施して制作視点および根拠をしっかり組み立てる。 美術工芸学科ディプロマポリシー1, 2, 3に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回 第 1週 オリエンテーション 第 2週 研究仮説の検討 第 3週 研究計画の策定 第 4週 調査 第 5週 調査 第 6週 調査 第 7週 進捗発表 第 8週 分析 第 9週 分析 第10週 分析 第11週 研究のまとめ 第12週 研究のまとめ 第13週 試作、表現 第14週 試作、表現 第15週 研究発表 ＊美術工芸学科卒業制作研究発表会にて発表する
成績評価	調査成果50%、分析 20%、まとめ、発表内容 30%（作品および試作を含む）を総合的に評価する。
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書　参考資料	授業を通して適宜紹介する。 他大学および本大学過年度卒業制作作品集
履修上の注意	プレ卒業制作のつもりで仮説、調査、分析、まとめ、試作、作品等の作業に取り組むこと。
予習・復習指導	他大の卒業制作展の視察を十分に行っておくこと。
関連科目	専門実習Ⅲ(デザイン)
課題に対するフィードバックの方法	プロセスおよび報告時に適宜評価内容を伝達する。 研究成果を公開する。
科目ナンバリング	CAC-SP413P

講義名	卒業制作研究(漆芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 三木　表悦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	井上　絵美子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	各自が独自にテーマを定め、調査、分析、研究に基づき構想し漆を活用して製作に取り組むことを通じて、幅広い観点から自主的に課題を見出し、その解決に取り組める力を養うことを目標とする。
授業概要	卒業制作を見据え作品制作にあたり、学生各自がそれぞれの視点でテーマを見出し調査研究する。テーマの選定にあたっては、さまざまな視点から候補を挙げ、その制作に必要な情報収集、分析、技術習得、修練に取り組む。 美術工芸学科ディプロマポリシー1、2、3、4に該当する。
授業計画 授業内容	全15週/週２日 第１週　卒制について：概要説明、研究の方向性の選択、 第２週　研究計画 第３週　研究プラン試案決定 第４週　卒業制作研究1 第５週　卒業制作研究2：テーマ発表 第６週　卒業制作研究3 第７週　卒業制作研究4 第８週　卒業制作研究5 第９週　卒業制作研究6 第10週　卒業制作研究7 第11週　卒業制作研究8 第12週　卒業制作研究9 第13週　卒業制作研究10 第14週　卒業制作研究11 第15週　卒業制作研究12：研究発表：総括
成績評価	調査成果40%、制作物(試作/技術習得度含)40%、授業態度20%
教科書	特に指定しない、適宜資料を配付する。
参考書　参考資料	やさしく身につく漆のはなしⅠ～Ⅳ社団法人日本漆工協会/漆芸品の鑑賞基礎知識 至文堂/漆塗りの技法書 誠文堂新光社/うるし工芸辞典 光芸出版/漆　その科学と実技 理工出版社
履修上の注意	共同での制作環境であることを理解し①作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有する②素材及び工具の取り扱いには十分に注意する③作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払う④円滑で節度あるコミュニケーションを守る
予習・復習指導	工芸美術に関する情報を各自が収集し感性の錬磨に努める。研究の中で技術もしくは材料の知識などの不足が見受けられる場合は、必ず習熟、復習し理解を深める。特に実制作に使用・応用する伝統技法などについては事前に十分に調査および習得を心がけ、刹那的な製作にならないように心がける。
関連科目	伝統工芸概論、工芸概論、専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、伝統工芸材料科学、伝統工芸産業工学、その他
課題に対するフィードバックの方法	実習内容についての疑問点は、各自質疑する。
科目ナンバリング	CAC-SP413P

講義名	卒業制作研究(陶芸)		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻　潤	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	これまでに習得した陶磁器製造技術は日本の長い歴史の伝統の中で切磋琢磨されてきた技術であり、各時代でさらに展開し、新しい技術・考え方を導入し、衣食住の文化を考慮した工芸製品の作成を目標に、新しい釉薬・素地・成形技術・加飾技法を考察し、進化してきた。卒業制作研究では、これまでに就学したことをふまえ、現在の新素材や新技術を取り入れ、これまでにない新しい文化的要素・意匠・用途・新たな価値観を考え、さらに進化する伝統工芸品の作成に向け、卒業制作研究することを目標とする。
授業概要	陶芸実習の三年間で培った素材研究・成形研究・加飾研究・焼成研究を基礎として、各自の卒業制作テーマに向けて更なる研究を行う。 美術工芸学科ディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週 第１週　制作テーマの設定・ミーティング（担当職員と随時） 第２週　制作テーマ検討（素地のテストピースの作成） 第３週　素地のテストピースの作成 第４週　素地のテストピースの作成・素焼き 第５週　技法実習 Ⅰ（加飾技法の検討：選択と応用検討）　実施計画 第６週　技法実習 Ⅱ（加飾技法の検討：選択と応用検討）　テストピースによる検討 第７週　技法実習 Ⅲ（焼成技法の検討：選択と応用検討）　焼成と評価 第８週　技法実習 Ⅳ（素材技法の検討：選択と応用検討）　エスキースによる検討 第９週　技法実習 Ⅴ（加飾技法の検討：選択と応用検討）　エスキースによる検討 第10週　技法実習 Ⅵ（焼成技法の検討：焼成技法の選択と応用検討）　焼成・評価 第11週　技法実習 Ⅶ　試作品制作実習 第12週　技法実習 Ⅷ　試作品制作実習・進捗状況プレゼンテーション 第13週　技法実習 Ⅸ　試作品制作実習 第14週　技法実習 Ⅹ　試作品制作実習・図面・レポートまとめ 第15週　試作品講評・レポート提出（担当教員による評価） ※実習到達目標の状況に応じて、適宜実習内容を調整する場合がある。
成績評価	授業態度30%・技術習得30%・レポートと作品完成度40%により総合的に評価する。
教科書	卒業制作研究プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書　参考資料	釉調合の基本(改訂版)（加藤悦三著)窯技社　[必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する]
履修上の注意	専門実習Ⅱ・Ⅲ（陶芸）で確立した素地技術・成形技術、加飾技術、焼成技術を応用する。
予習・復習指導	(内容)卒業制作研究において配布する資料や実践指導で３年間に習得した成形技法・加飾技法の反復練習に更に励むこと。また時間に余裕があれば素材・成形・加飾・焼成など卒業制作に活かすための更なる研究に励むこと。 (時間)実習１コマに対して１．５時間の復習をすること。
関連科目	「専門実習Ⅱ(陶芸)」「専門実習Ⅲ(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	実習中に質疑応答を受けるとともに、課題提出時に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP413P

講義名	卒業制作研究（文化財）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小林　泰弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	田川　新一朗	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	村上　隆	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	坂本　ひかり	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	これまで培ってきた実習成果をまとめ、卒業制作、卒業論文の研究課題を見つける。 また、材料等の技法・混合比等の実験、試作等を行い卒業制作の第1歩を得る。
授業概要	これまで実習で培ってきた修復技術や古典技法などの実習成果の記録をまとめ、 卒業制作・卒業論文に向けて材料、技法など試作研究を行う。 美術工芸学科ディプロマポリシーの1,3,4に係る。
授業計画 授業内容	全15週/週2回 第1週　卒業制作準備　実習成果のまとめ 第2週　卒業制作準備　製作物・製作論文等のの調査・研究 第3週　卒業制作準備　製作物・製作論文等のの調査・研究 第4週　卒業制作準備　製作物・製作論文等のの調査・研究 第5週　卒業制作準備　製作物・製作論文等のの調査・研究 第6週　卒業制作準備　製作物・製作論文等のの調査・研究 第7週　卒業制作準備　製作物・製作論文等のの調査・研究 第8週　卒業制作準備　材料の研究、試作（エスキース） 第9週　卒業制作準備　材料の研究、試作（エスキース） 第10週　卒業制作準備　材料の研究、試作（エスキース） 第11週　卒業制作準備　材料の研究、試作（エスキース） 第12週　卒業制作準備　材料の研究、試作（エスキース） 第13週　卒業制作準備　材料の研究、試作（エスキース） 第14週　卒業制作準備　材料の研究、試作（エスキース） 第15週　総評
成績評価	実習中の態度（30%）、習得度（調査等も含む）（30%）、研究成果等（40%）を基本に、総合的に判断する
教科書	研究対象の書籍（正倉院紀要、美術院紀要）等
参考書　参考資料	研究対象や類似品が載っている書物
履修上の注意	専門書等の調査・研究を行う。復習を怠らないこと。
予習・復習指導	調査・研究で3時間
関連科目	文化財専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが履修済みであること
課題に対するフィードバックの方法	実習時間内で課題に対して常に質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP413P

講義名	卒業制作研究（木工・彫刻）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 青木　太一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	宮本　貞治	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	中岡　功	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	江元　遥	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	・工芸品に対する美意識をより深いものとする。 ・卒業作品の具体的な設計と材料の準備をする。 ・塗装技法をより向上させる。 ・木彫刻技法・木彫刻のプロセス（彫り進め方）について理解を深める。 ・適切な道具の使い方（適材適所での各道具の使用）に習熟する。 ・卒業作品の構想をし木材料の準備をする。
授業概要	今までに修得してきた三次元的な木工加工技術を用いて作品制作を行う。そしてより工芸品に対する美的感覚を習得する。ここでは、「小さな空間に技と美を収斂する上で大切なことは何なのか」を作品制作を通して体得することを目標とする。また同時に卒業作品の設計と、使用する材料の乾燥養生を並行して行う。 これまでに学んだ仏像彫刻、木彫刻の造形技法の集大成として、制作する木彫刻造形を自分の思っている形に表現出来るよに研究を進める。後期からの卒業制作に向けて材料の選択及び技法など卒業作品制作のプロセスを確立させる。 美術工芸学科のディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週 第　１週・図面作成①（彫刻・指物・刳物・挽物いずれも可） ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い製作 第　２週・板材への墨付け・木割作業 ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い製作 第　３週・部材加工：鋸による粗取り ・木彫刻の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 第　４週・部材加工：各部材の鉋がけ① ・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 第　５週・部材加工：各部材の鉋がけ② ・荒取り工程 第　６週・部材加工：仕口加工① ・荒取り工程、中取り工程 第　７週・部材加工：仕口加工② ・中取り工程 第　８週・部材加工：仕口加工③ ・中取り工程 第　９週・卒業制作プレゼンテーション① ・中取り工程、　小造り工程 第１０週・部材組立 ・小造り工程 第１１週・拭漆作業 ・小造り工程 第１２週・卒業制作設計図作成 ・小造り工程、仕上げ工程 第１３週・卒業制作プレゼンテーション② ・仕上げ工程 第１４週・拭漆作業 ・仕上げ工程 第１５週・全体講評 ・講評、卒業制作構想発表

成績評価	履修態度（30%）・技術習得度（30%）・作品完成度（40%）によって評価する。
教科書	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考書　参考資料	木工大図鑑（講談社　2008） 太田古朴著　『仏像彫刻技法』　（綜芸舎　1965） 近藤豊著　『古建築装飾文様集成　草木編・鳥獣編・風月編』　（光村推古書院 1972）
履修上の注意	作業に使用する道具の事前の手入れ、刃物研ぎ等の反復練習を日常行うこと。また、安全についての指導には必ず従うこと。健康管理と服装・保護具など安全管理を十分する。 古社寺や美術館を訪れて実際の木彫刻作品を見学するなど、課外学習を積極的に行なうことが望ましい。 授業で木彫刻作品の作図にとりかかれるよう、予め資料を収集するなど準備し、十分に構想を練っておくこと。
予習・復習指導	実習で学んだ技法を実習時間外に反復練習し、習得に励むこと。実習時間が始まるまでに使用する刃物等を研ぎ,切れ味の良い状態で 課題に入れるように準備しておく。 1コマに対し1.5時間の復習をする事。
関連科目	「専門実習Ⅲ（木工・彫刻）」
課題に対するフィードバックの方法	実習課題ごとに講評・質疑応答等を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP413P

講義名	卒業制作・論文(ﾃﾞｻﾞｲﾝ)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 中井川　正道	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	津村　健一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	安藤　眞吾	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	渡邊　俊博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任准教授	富家　大器	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	4年間の総括として自身が定めたテーマに対し調査・研究を重ね、導き出した考え方を各々が培ってきた手法により具現化し、人に伝わる表現（作品　論文）として発表する。
授業概要	コミュニケーション力、発想力、表現力、フィニッシュワーク力という4年間の学びにより修得したデザイン力を駆使して独自の視点により問題提起し、オリジナルの手法による解決案を具現化して提示する。 美術工芸学科ディプロマポリシー1、2、3に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回/週2日 第 1 週 オリエンテーション 第 2 週 卒業制作研究からのフィードバック考察 第 3 週 テーマ・コンセプト修正 第 4 週 設計 第 5 週 試作 第 6 週 試作 第 7 週 中間チェック 第 8 週 実制作 第 9 週 実制作 第 10 週 実制作 第 11 週 実制作 第 12 週 実制作 第 13 週 コンセプトパネルの制作 第 14 週 コンセプトパネルの制作 第 15 週 講評会 / 総括
成績評価	プロセスと最終成果物の完成度によって総合的に評価する。
参考書　参考資料	授業を通して適宜紹介する。
履修上の注意	各フェーズごとのチェックをスケジュール通り必ず受ける事。
予習・復習指導	特になし
関連科目	卒業制作研究
課題に対するフィードバックの方法	中間チェック時の指導及び完成時の講評・質疑応答。 卒業制作中間発表会、卒業制作コース事前審査、卒業制作審査会における講評による。
科目ナンバリング	CAC-SP414P

講義名	卒業制作・論文(漆芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任准教授	◎ 三木　表悦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	井上　絵美子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	各自が設定したテーマに沿って独自の調査、分析、研究に基づき構想し漆を活用して作品制作に取り組むことを通じてつねに幅広い観点から自主的に課題を見出し、その解決に取り組める力を養うことを目標とする。
授業概要	学生各自がテーマを設定し、担当教員の指導の下で卒業制作を行う。テーマの選定にあたっては、事前に十分な討議を担当教員及び学生間でおこない、4年間で習得した工芸に関する知識や技術に基づき、作品制作とその発表に取り組む 美術工芸学科ディプロマポリシー1、2、3、4に該当する。
授業計画 授業内容	全15週/週３日 第１週　オリエンテーション・卒業制作研究からのフィードバック考察 第２週　テーマ・コンセプト修正/実制作 第３週　実制作 第４週　実制作 第５週　実制作 第６週　実制作：中間発表 第７週　実制作 第８週　実制作 第９週　実制作 第10週　実制作 第11週　実制作 第12週　発表資料準備・実制作 第13週　発表資料準備・実制作 第14週　発表資料準備・実制作 第15週　合評会・総括
成績評価	本学での学びの集大成として、「素材」「技術」「社会性」「独自性」「伝統」「現代性」など様々な点から、テーマや価値を見極めた「研究・計画・制作・発表」ができているかを評価する。
教科書	なし
参考書　参考資料	やさしく身につく漆のはなしⅠ～Ⅳ社団法人日本漆工協会/漆芸品の鑑賞基礎知識 至文堂/漆塗りの技法書 誠文堂新光社/うるし工芸辞典 光芸出版/漆　その科学と実技 理工出版社
履修上の注意	また共同での制作環境であることを理解し①作業の進行状況・計画を常に担当教員及び同講義の履修者と共有すること②素材及び工具の取り扱いには十分に注意すること③作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと④円滑で節度あるコミュニケーションを守ること
予習・復習指導	工芸美術に関する情報を各自が収集し、技術や感性の錬磨に努めること。 実制作に使用・応用する伝統技法などについては事前に十分に調査および習得を心がけ、刹那的な製作にならないように心がけること。
関連科目	卒業制作研究（漆芸）
課題に対するフィードバックの方法	中間発表・合評等、制作中の質疑応答及び適宜講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP414P

講義名	卒業制作・論文(陶芸)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 川尻　潤	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	４年次前期の卒業制作研究（陶芸）をふまえ、現在の新素材や新技術を取り入れ、これまでにない新しい文化的要素・意匠・用途・新たな価値観を持った、『美しい』卒業作品を完成させることを目標とする。
授業概要	卒業制作研究で行った素材研究・成形研究・加飾研究・焼成研究を基に、卒業制作を行う。 美術工芸学科ディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週 第１週　卒業制作研究で決定したテーマに基づき実施計画の発表および制作 第２週　卒業作品制作(成形) 第３週　卒業作品制作(成形) 第４週　卒業作品制作(成形) 第５週　卒業作品制作(成形・評価) 第６週　卒業作品制作(加飾) 第７週　卒業作品制作(加飾) 第８週　卒業作品制作(加飾・評価) 第９週　卒業作品制作(素焼焼成) 第10週　卒業作品制作(下絵付け加飾) 第11週　卒業作品制作(下絵付け加飾) 第12週　卒業作品制作(本焼成)・進捗状況プレゼンテーション 第13週　卒業作品制作(上絵付け加飾) 第14週　卒業作品制作(上絵付け焼成) 第15週　卒業作品提出(担当教員による評価) ※４年生其々が、上記のような卒業制作到達目標計画を立て担当教員に提出。その上で卒業制作到達目標の状況に応じて、適宜内容および卒業制作手順を調整する場合がある。
成績評価	授業態度20%・技術習得20%・卒業作品の完成度60%により総合的に評価する。
教科書	卒業制作プランを含めたテキストを配布、必要に応じて適宜資料を配布。
参考書　参考資料	釉調合の基本(改訂版)（加藤悦三著)窯技社　［必要に応じて工芸美術書籍を適宜紹介する］
履修上の注意	４年間の学びの集大成として卒業制作研究(陶芸)で確立した素材・成形・加飾・焼成の技術の成果を基に卒業作品を完成させる。
予習・復習指導	(内容)卒業制作研究において配布する資料や実践指導で３年間に習得した成形技法・加飾技法の反復練習に更に励むこと、また時間に余裕があれば素材・成形・加飾・焼成を卒業制作構想を充実させるために更なる研究に励むこと。 (時間)実習１コマに対して１．５時間の復習をすること。
関連科目	「卒業制作研究(陶芸)」
課題に対するフィードバックの方法	卒業作品制作中に質疑応答を受けるとともに、作品提出時に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP414P

講義名	卒業制作・論文(文化財)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小林　泰弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	田川　新一朗	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	村上　隆	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	坂本　ひかり	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	卒業制作の作品（論文も含め）の完成。
授業概要	卒業制作研究の記録をまとめ、卒業制作・卒業論文に向けて制作を行う。 美術工芸学科ディプロマポリシーの①、②、③、④に該当する。
授業計画 授業内容	全15週/3回 第1週　卒業制作 第2週　卒業制作 第3週　卒業制作 第4週　卒業制作 第5週　卒業制作 第6週　卒業制作 第7週　卒業制作 第8週　卒業制作 第9週　卒業制作 第10週　卒業制作 第11週　卒業制作 第12週　卒業制作 第13週　卒業制作 第14週　卒業制作 第15週　卒業制作
成績評価	実習中の態度（20%）、習得度（調査等も含む）（20%）、研究成果等（60%）を基本に、総合的に判断する
教科書	卒制対象の作品等が記載されている書物。（正倉院紀要・美術院紀要）等
参考書　参考資料	卒制対象の作品等に類似しているのもが記載されている書物。
履修上の注意	作品を完成させること
予習・復習指導	予習は制作および道具の手入れ（刃物研ぎ等）1.5時間 復習は制作および道具の手入れ（刃物研ぎ等）1.5時間
関連科目	文化財の専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが履修済みであること
課題に対するフィードバックの方法	実習時間内で課題に対して常に質疑応答等を行う
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAC-SP414P

講義名	卒業制作・論文(木工・彫刻)		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 宮本　貞治	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	青木　太一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	中岡　功	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	江元　遥	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	4年間の総括として各自の設定したテーマに沿って、独自の調査、分析、研究などに基づき作品を構想し、設計制作する。自身が導き出した考え方を各々が培ってきた手法により具現化し、人に伝わる表現として発表する。 幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見いだす力を養う。 これまでの実習で積み重ねて修得した彫刻技術をもって作品を制作し完成させる。 木彫刻が古来引き継がれてきた造形技法を元に自らが持つ感性や表現力で作品にどのように活かせるか目指しながら学び仕上げる。
授業概要	学生各自がテーマを設定し、教員の指導の下で卒業制作を行う。テーマの選定にあたっては、予め十分な討議を指導教員及び学生間でおこない、4年間の講義、実習、演習を通じて習得した木工・彫刻に関する知識や技術に基づき、木工・彫刻分野の卒業制作に相応しい課題を選定する。 卒業制作研究(木工・彫刻)で材料の選択及び彫刻技法を習得し卒業作品制作のプロセスを研究して確立させ作品を制作をする。 美術工芸学科のディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	全 15 回/週2日 第 1 週 ・オリエンテーション ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い制作 第 2 週 ・卒業制作研究からのフィードバック考察 ・木彫刻の作図、デッサン、見本となるモデリングを油土を用い制作 第 3 週 ・テーマ・コンセプト修正 ・木彫刻の習作・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 第 4 週 ・設計 ・材への作図の転写、木取り、荒取り工程 第 5 週 ・試作 ・荒取り工程 第 6 週 ・試作 ・荒取り工程、中取り工程 第 7 週 ・ 中間発表 ・ 中取り工程 第 8 週 ・ 実制作 ・ 中取り工程 第 9 週 ・実制作 ・中取り工程、 小造り工程 第 10 週 ・ 実制作 ・小造り工程 第 11 週 ・ 実制作 ・ 小造り工程 第 12 週 ・ 実制作 ・小造り工程、仕上げ工程 第 13 週 ・ 実制作 ・仕上げ工程 第 14 週 ・ コンセプトパネルの制作 ・仕上げ工程 第 15 週 ・ 合評会 / 総括

成績評価	・授業態度20%・技術習得20%・卒業作品の完成度60%により総合的に評価する。 ・4 年間の学びの集大成として、卒業制作（論文）のテーマや価値を見極めた「研究・計画・制作・発表」が出来ているかを評価する。
参考書　参考資料	授業を通して適宜紹介する。 太田古朴著　『仏像彫刻技法』　（綜芸舎　1965） 近藤豊著　『古建築装飾文様集成　草木編・鳥獣編・風月編』　（光村推古書院 1972） 日本彫刻史基礎資料集成 平安時代　造像銘記篇８巻、平安時代　重要作品編５巻、鎌倉時代　造像銘記篇１６巻（中央公論美術出版 1966）
履修上の注意	４年間の学びの集大成として卒業制作研究(木工・彫刻)で確立した素材・成形・加飾・焼成の技術の成果を基に卒業作品を完成させる。
予習・復習指導	特になし
関連科目	「卒業制作研究(木工・彫刻)」
課題に対するフィードバックの方法	卒業作品制作中に質疑応答を受けるとともに、作品提出時に講評を行う。
科目ナンバリング	CAC-SP414P

９．専門教育科目 - 専門演習・実習（建築学科）

京都美術工芸大学シラバス［2022 年度版］

講義名	建築設計導入実習		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	3		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	新谷　謙一郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	①図面表現や模型制作の基礎的手法および道具の種類・使い方を正しく習得する。 ②図面描写や模型制作を通じて、建築の成り立ちについて理解できるようになる。 ③事例調査やダイアグラムの作成を通じて、建築空間がどのようなコンセプト（考え方）に基づいて設計されたのかを理解できるようになる。
授業概要	本科目は、建築設計の基礎科目である。課題を通じて、建築製図や模型制作に用いる各種道具の適切な使い方、建築空間の見方、読み方を学ぶ。 １）線の太さ、強弱、濃淡の使い分けとともに、文字の記入方法を習得する。 ２）配置図・平面図・断面図・立面図など、基本的な建築の図面（一般図）および透視図（パース）など、2次元での立体空間の表現技法について学ぶ。 ３）模型制作を行うことで立体の表現技法を習得する。 ４）世界の名作建築を教材に、建築物の図面を読み取り、どのような考え方で空間が設計されているのかを理解するなど、建築学科の学生として身につけておくべき力を育む。 各課題に取り組む上で、建築がどのようにつくられ、どのような部材で構成されているかを理解しながら取り組む。建築学科のディプロマポリシー１，４に係る科目である。
授業計画 授業内容	全15週/週90分×3時限×15回 第1週：ガイダンス（用具の使い方、スケジュール、課題の説明） 第2週：線の練習 第3週：建具表 第4週：建築図面のトレース（１）　配置図・平面図１ 第5週：建築図面のトレース（２）　平面図２ 第6週：建築図面のトレース（３）　立面図・断面図１ 第7週：建築図面のトレース（４）　断面図２ 第8週：建築の図法（１）　軸測投影図法（アクソノメトリック） 第9週：建築の図法（２）　中心投影図法（消点式パース） 第10週：建築模型の制作（１）（型紙制作・ボードへの貼り付け） 第11週：建築模型の制作（２）（部材の切り出し・仮組） 第12週：建築模型の制作（３）（組み立て・完成） 第13週：建築空間の読み取り（１）　事例収集・ダイアグラムの作成 第14週：建築空間の読み取り（２）　作品紹介シートの作成 第15週：プレゼンテーション、まとめ ※課題の詳細および日程については、各課題の授業初回に指示する。
成績評価	受講態度（20%）、提出物（作品）の完成度（80%）によって総合的に評価する。
教科書	安藤直見、柴田晃宏、比護結子　共著『建築のしくみ　住吉の長屋／サヴォア邸／ファンズワース邸／白の家』，丸善株式会社，2008年
参考書　参考資料	１）日本建築学会編『第3版コンパクト建築設計資料集成』，丸善株式会社，2005年 ２）垣田博之 著『名建築のデザインに学ぶ製図の基礎』，学芸出版，2021年
履修上の注意	１）模型制作等で使用する道具に関して、安全対策の指導には必ずしたがう。 ２）課題の条件および提出期限（〆切）を厳守する。 ３）指定教科書は各履修者が開講までに必ず用意する。

予習・復習指導	１）実習課題はその都度与えるが、提出期限は厳守する。 ２）各週の授業について、1.5時間の事前学習、3時間の復習が必要である。 ３）事前学習としては、教科書や参考資料の熟読の他、興味のある建築書の読み込み、建築物の見学を自発的に行う。 ４）復習としては、課題の振り返りと繰り返しの練習を行う。
関連科目	「構成基礎演習」「建築設計基礎演習Ⅰ」「建築設計基礎演習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	課題作品について、口頭発表、講評、質疑応答等を行う。
教員の実務経験	建築・インテリア設計、都市計画、景観設計、プロダクト、グラフィックのデザインなど、広範囲にわたる実務経験を持つ教員が指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP011P

講義名	工芸実習導入（建築デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	3		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目　工芸基礎系		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	岡北　一孝	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	新谷　謙一郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	①図面表現や模型制作の基礎的手法および道具の種類・使い方を正しく習得する。 ②図面描写や模型制作を通じて、建築の成り立ちについて理解できるようになる。 ③事例調査やダイアグラムの作成を通じて、建築空間がどのようなコンセプト（考え方）に基づいて設計されたのかを理解できるようになる。
授業概要	本科目は、建築設計の基礎科目である。課題を通じて、建築製図や模型制作に用いる各種道具の適切な使い方、建築空間の見方、読み方を学ぶ。 １）線の太さ、強弱、濃淡の使い分けとともに、文字の記入方法を習得する。 ２）配置図・平面図・断面図・立面図など、基本的な建築の図面（一般図）および透視図（パース）など、2次元での立体空間の表現技法について学ぶ。 ３）模型制作を行うことで立体の表現技法を習得する。 ４）世界の名作建築を教材に、建築物の図面を読み取り、どのような考え方で空間が設計されているのかを理解するなど、建築学科の学生として身につけておくべき力を育む。 各課題に取り組む上で、建築がどのようにつくられ、どのような部材で構成されているかを理解しながら取り組む。建築学科のディプロマポリシー１，４に係る科目である。
授業計画 授業内容	全15週/週90分×3時限×15回 第1週：ガイダンス（用具の使い方、スケジュール、課題の説明） 第2週：線の練習 第3週：建具表 第4週：建築図面のトレース（１）　配置図・平面図１ 第5週：建築図面のトレース（２）　平面図２ 第6週：建築図面のトレース（３）　立面図・断面図１ 第7週：建築図面のトレース（４）　断面図２ 第8週：建築の図法（１）　軸測投影図法（アクソノメトリック） 第9週：建築の図法（２）　中心投影図法（消点式パース） 第10週：建築模型の制作（１）（型紙制作・ボードへの貼り付け） 第11週：建築模型の制作（２）（部材の切り出し・仮組） 第12週：建築模型の制作（３）（組み立て・完成） 第13週：建築空間の読み取り（１）　事例収集・ダイアグラムの作成 第14週：建築空間の読み取り（２）　作品紹介シートの作成 第15週：プレゼンテーション、まとめ ※課題の詳細および日程については、各課題の授業初回に指示する。
成績評価	受講態度（20%）、提出物（作品）の完成度（80%）によって総合的に評価する。
教科書	安藤直見、柴田晃宏、比護結子　共著『建築のしくみ　住吉の長屋／サヴォア邸／ファンズワース邸／白の家』，丸善株式会社，2008年
参考書　参考資料	１）日本建築学会編『第3版コンパクト建築設計資料集成』，丸善株式会社，2005年 ２）垣田博之 著『名建築のデザインに学ぶ製図の基礎』，学芸出版，2021年

履修上の注意	１）模型制作等で使用する道具に関して、安全対策の指導には必ずしたがう。 ２）課題の条件および提出期限（〆切）を厳守する。 ３）指定教科書は各履修者が開講までに必ず用意する。
予習・復習指導	１）実習課題はその都度与えるが、提出期限は厳守する。 ２）各週の授業について、1.5時間の事前学習、3時間の復習が必要である。 ３）事前学習としては、教科書や参考資料の熟読の他、興味のある建築書の読み込み、建築物の見学を自発的に行う。 ４）復習としては、課題の振り返りと繰り返しの練習を行う。
関連科目	「構成基礎演習」「工芸実習基礎Ⅰ」「工芸実習基礎Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	課題作品について、口頭発表、講評、質疑応答等を行う。
教員の実務経験	建築・インテリア設計、都市計画、景観設計、プロダクト、グラフィックのデザインなど、広範囲にわたる実務経験を持つ教員が指導する。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP001P

講義名	建築設計基礎演習Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上　晋一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	種村　俊昭	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	細尾　直久	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	大田　精一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	設定条件を満たした適切な設計が行えること。設計手順を理解し、同種建築の分析を通して適切な建築計画を行い、自身の作品を正確な方法で表現できること。また、伝統建築特有の基礎的知識を構法も含め理解すること。
授業概要	基本的な手順に沿って一通りの建築設計プロセスを体験する。第1課題は、伝統建築の理解の一助として茶室・茶屋の描写を行う。第2課題は、小規模建築（10mキューブ）の課題を通して基本的な設計方法を習得する。第3課題は、小規模ギャラリーを設計する。敷地や先行事例の調査、コンセプト（設計意図）の立案、それを具体化する設計作業・表現を行うことで建築作品としてまとめあげていくプロセスを習得する。 建築学科のディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	全15 週/ 週2日・4コマ 第１週 ガイダンス、課題A： ＜茶室のトレース＞ ： 課題説明・建築図面の表現と理解（1）/平面図 第２週 課題A： 建築図面の表現と理解（2）/立面図 第３週 課題A： 建築図面の表現と理解（3）/断面図・最終提出 第４週 課題B：＜10mキューブ＞：課題説明・課題分析 第５週 課題B： コンセプトワーク・模型制作・エスキース 第６週 課題B： 図面作成（平面図・断面図・立面図）・エスキース 第７週 課題B： 中間提出・作品修正 第８週 課題B： エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第９週 課題B： 最終提出・優秀作品発表、 第10 週 課題C：＜小規模ギャラリー＞ ： 課題説明・課題分析・敷地見学・事例調査 第11 週 課題C： コンセプトワーク・図面作成（配置図・平面図）・エスキース 第12 週 課題C： 図面作成（断面図・立面図）・模型制作・エスキース 第13 週 課題C： 中間提出・作品修正 第14 週 課題C： エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第15 週 課題C： 最終提出・優秀作品発表
成績評価	授業態度（20%）、各課題の成果品の総合点（80%）で成績評価を行う。 成果品提出遅延の場合は大幅に減点されるので注意すること。
教科書	自作プリント、「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書　参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ」の教科書及び講義の中で配布された資料等

履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業（CAD 等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	設計課題と類似する実例の資料の調査ならびに実際の建築物を日頃より視察し、分析すること。 「工芸実習導入」で習得した図面・模型の作成方法、事例の読解方法を事前に確認しておくこと。 各課題共通で教科書のSection1,3を読み、かつ課題CについてはSection11も確認しておくこと。
関連科目	「建築設計導入実習」、「建築設計基礎演習Ⅱ」、「構成基礎演習」、「情報基礎演習」、「建築CAD演習Ⅰ」、「建築概論」、「建築計画Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとのエスキースや中間・最終成果品に対して講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	AAT-SP112S

講義名	工芸実習基礎Ⅰ（建築デザイン）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目　工芸基礎系		
配当年次	1		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上　晋一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	種村　俊昭	ＫＹＯＢＩ　建築学部
非常勤講師	細尾　直久	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	大田　精一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	設定条件を満たした適切な設計が行えること。設計手順を理解し、同種建築の分析を通して適切な建築計画を行い、自身の作品を正確な方法で表現できること。また、伝統建築特有の基礎的知識を構法も含め理解すること。
授業概要	基本的な手順に沿って一通りの建築設計プロセスを体験する。第1課題は、伝統建築の理解の一助として茶室・茶屋の描写を行う。第2課題は、小規模建築（10mキューブ）の課題を通して基本的な設計方法を習得する。第3課題は、小規模ギャラリーを設計する。敷地や先行事例の調査、コンセプト（設計意図）の立案、それを具体化する設計作業・表現を行うことで建築作品としてまとめあげていくプロセスを習得する。 建築学科のディプロマポリシー１、２、３に該当する。
授業計画 授業内容	全15 週/ 週2日・4コマ 第１週 ガイダンス、課題A： ＜茶室のトレース＞ ： 課題説明・建築図面の表現と理解（1）/平面図 第２週 課題A： 建築図面の表現と理解（2）/立面図 第３週 課題A： 建築図面の表現と理解（3）/断面図・最終提出 第４週 課題B：＜10mキューブ＞：課題説明・課題分析 第５週 課題B： コンセプトワーク・模型制作・エスキース 第６週 課題B： 図面作成（平面図・断面図・立面図）・エスキース 第７週 課題B： 中間提出・作品修正 第８週 課題B： エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第９週 課題B： 最終提出・優秀作品発表、 第10 週 課題C：＜小規模ギャラリー＞ ： 課題説明・課題分析・敷地見学・事例調査 第11 週 課題C： コンセプトワーク・図面作成（配置図・平面図）・エスキース 第12 週 課題C： 図面作成（断面図・立面図）・模型制作・エスキース 第13 週 課題C： 中間提出・作品修正 第14 週 課題C： エスキース・成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第15 週 課題C： 最終提出・優秀作品発表
成績評価	授業態度（20%）、各課題の成果品の総合点（80%）で成績評価を行う。 成果品提出遅延の場合は大幅に減点されるので注意すること。

教科書	自作プリント、「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書　参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業（CAD 等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	設計課題と類似する実例の資料の調査ならびに実際の建築物を日頃より視察し、分析すること。 「工芸実習導入」で習得した図面・模型の作成方法、事例の読解方法を事前に確認しておくこと。 各課題共通で教科書のSection1,3を読み、かつ課題CについてはSection11も確認しておくこと。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅱ」、「構成基礎演習」、「情報基礎演習」、「コンピュータデザイン演習」、「建築概論」、「建築計画Ⅰ」
課題に対するフィードバックの方法	課題ごとのエスキースや中間・最終成果品に対して講評・質疑応答等を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP102P

講義名	工芸実習基礎Ⅱ（建築デザイン）		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目　工芸基礎系		
配当年次	2		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 森重　幸子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	細尾　直久	ＫＹＯＢＩ　建築学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	永井　秀幸	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	江本　弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	大上　直樹	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	大田　精一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	大庭　徹	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	小規模な空間および住宅の設計により、基本的な建築空間の設計能力を身に付けるとともに、設計提案を図面および模型を用いて表現する方法を習得する。また、小規模の伝統建築について、構法を含めた知識を習得する。
授業概要	第一課題として、小規模なカフェ空間の設計を通して、建築や空間のプロポーション、動線の計画、光や影の演出、景色の切り取りといった基本的な空間造形および演出方法について学び、プレゼンテーションを行う。中間に伝統建築の理解の一助として民家の描写を行う。第二課題として、趣味空間のある住まい方を提案しながらより豊かな住空間の創造を目指しエスキスを行い、基本設計図書を作成し、プレゼンテーションを行う。 建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する。
授業計画 授業内容	全１５週／週2日・4コマ 第 1 週 ガイダンス、課題A・[ライブラリーカフェ]①：課題説明、敷地調査 第 2 週 ギャラリー②：コンセプト・基本構想報告 第 3 週 ギャラリー③：平面・断面・エスキス模型報告 第 4 週 ギャラリー④：成果品作成作業 第 5 週 ギャラリー⑤：作品発表 第 6 週 伝統建築①：[民家]建築図面の表現と理解（1）/平面図 第 7 週 伝統建築②：[民家]建築図面の表現と理解（2）/平面図 第 8 週 伝統建築③：[民家]建築図面の表現と理解（3）/矩計図 第 9 週 伝統建築④：[民家]建築図面の表現と理解（4）/矩計図 第 10 週 課題B：[趣味空間を活かした住宅]①：課題説明、敷地調査、事例分析、コンセプト立案 第 11 週 住宅②：コンセプトシート報告・基本構想作成作業 第 12 週 住宅③：基本構想発表・平面・断面・エスキス模型作成作業 第 13 週 住宅④：平面・断面・エスキス模型報告・成果品作成作業 第 14 週 住宅⑤：成果品（プレゼンボード・完成模型）作成作業 第 15 週 住宅⑥：作品発表
成績評価	授業態度20%、「基本型課設計・製図・展開型課題成果品」80%の内容から総合評価を行う。
教科書	「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善

参考書　参考資料	「建築概論」、「建築計画Ⅰ・Ⅱ」の教科書及び講義の中で配布された資料等
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。ＶＤＴ作業（ＣＡＤ等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。 課題AおよびBに当たっては、教科書のsection3「室と場面」を読み、行為と必要な空間の寸法について確認しておくこと。
関連科目	1年次の「工芸実習導入」「工芸実習基礎　I」から発展した内容を取り扱う。 同時期に開講する「IT活用応用演習」は、設計提案の表現手法として本演習に活用できる内容を取り扱う。「建築計画Ⅱ」は特に住空間の計画上の考え方として本演習と関連がある。
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。 提出作品に対して、グループごと、および全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP203P

講義名	建築デザイン演習Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目　建築デザイン系		
配当年次	2		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

119

職種	氏名	所属
教授	◎ 安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	大田　精一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	山口　尚之	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	大庭　徹	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	堀井　大継	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	(建築デザイン) ①小・中規模建築物の設計手法を習得する。 ②基本コンセプト、ゾーニング、配置計画、動線計画、環境設計、構造設計、プランニングを体系的に進める事が出来るようになる。 (伝統建築) 製図器具の使い方や図面表現の基本知識を理解し、伝統建築特有の複雑な様式を表現できる製図技術力を習得するとともに、伝統建築設計図面を読解できる技術力を体得する。
授業概要	第1課題は共通課題、第2課題は建築デザイン・伝統建築の課題の選択制で行われる。 (建築デザイン) 小・中規模の集合住宅、教育施設、商業施設、コミュニティ施設 などの設計を行い、課題を通して、計画・構造・設備・デザイン・透視図など、建築設計の基礎的要素を体験的に学ぶことを目的とする。具体的な敷地に対してフィールドサーベイを行い、コンセプト(設計意図)を立て、それを具体化する設計を行う。各学生が分析・検討した成果品を個別にチェックを行い、 最適解とするための指導を行う。 建築学科のディプロマポリシーの２．３．４に係る。 (伝統建築) 伝統建築設計図が表現している意味を理解し、製図技術力を習得する為、代表的な寺院・神社建築の平面図・断面図・立面図（縮尺＝１/40 ～１/50 程度）を作図する。 建築学科のディプロマポリシーの２に係る。
授業計画 授業内容	全 15 週/ 週 90 分×4時限× 15 回

	共通課題（第1課題） 第1週　ガイダンス、課題 A「集合住宅」: 課題説明・課題分析作業 第2週　課題・敷地・事例分析結果報告<グループ別> 第3週　平面計画・断面計画・エスキスチェック 第4週　基本構想発表<グループ別・全体> 第5週　構造計画・環境計画・エスキスチェック 第6週　プレゼンテーション作成・面積表・仕上表作成 第7週　作品提出・作品発表<全員公聴・評価> 建築デザイン課題（第2課題選択制） 第8週　課題 B「保育園」: 課題説明・課題分析作業 第9週　課題・敷地・事例分析結果報告<グループ別> 第10週　平面計画・断面計画・エスキスチェック 第11週　基本構想発表<グループ別・全体> 第12週　平面・断面・エスキスチェック 第13週　構造計画・環境計画・エスキスチェック 第14週　プレゼンテーション作成・面積表・仕上表作成 第15週　作品提出・作品発表<全員公聴・評価> 伝統建築課題（第2課題選択制） 第8週　課題説明・図面作成 第9週　見学会 第10週　模型作成 第11週　模型作成 第12週　模型作成 第13週　模型作成 第14週　模型作成 第15週　模型作成
成績評価	学習状況（20%）、提出作品（80%）の完成度によって総合的に評価する。
教科書	「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善 「集合住宅（建築設計テキスト)」　建築設計テキスト編集委員会編、彰国社 「保育施設（建築設計テキスト）」、山田あすか・藤田大輔、彰国社（第2課題で保育園を選択するもののみ）
参考書　参考資料	演習におけるレクチャー等で配布される資料及び下記の資料 「建築設計資料87　低層集合住宅2」　建築思潮研究所編、建築資料研究社 「ヒルサイドテラスで学ぶ建築設計製図」勝又英明、学芸出版社 「保育園・幼稚園・こども園の設計手法」仲 綾子その他、学芸出版社
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業(CAD等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理し常備すること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。 課題着手までに類似物件を数多く調査・見学しておくこと。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅰ」、「工芸実習基礎Ⅱ」、「建築計画Ⅱ」、「建築計画Ⅲ」、「建築デザイン演習Ⅱ」
課題に対するフィードバックの方法	建築デザイン（第1課題・第2課題） 20名程度の学生に一人の教員指導によるスタジオ制とし、発表会において全ての学生の作品に対して講評を行う。さらに、すべての作品について教員・学生投票を行い、投票数を多く獲得した学生発表について講評を行う。 伝統建築（第2課題） 最終回に手成果品に対し総評を行う。
教員の実務経験	各種建築計画・設計実務経験を有する。
科目ナンバリング	CAT-SP204S

講義名	建築デザイン演習Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目　建築デザイン系		
配当年次	3		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	井上　晋一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	森重　幸子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	永井　秀幸	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	新谷　謙一郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	江本　弘	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	杉本　直子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	山田　滋也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	中村　卓	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	藤巻　佐有梨	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	【前期】 オフィスデザインと、構造デザイン（ストラクチャから建築を考える）の課題を通して、より専門性の高い設計手法を習得し、建築設計の根幹となる知識を獲得することを到達目標とする。 【後期】 設計課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、構造・設備計画法等を習得すると共に、各種の構工法、製図法の知識と表現技術を習得することを到達目標とする。
授業概要	【前期】 前半はオフィスデザイン課題、後半は建築構造課題に取り組むことで、建築設計に必要な基礎知識を習得し、後期課題に向けての準備を行う。オフィスデザイン課題では、小規模事務所ビルの設計と近年の新しい働き方に対応したオフィスインテリアに関する計画について、設備・内装材料等も含めた統合的なデザイン手法を身に付ける。建築構造課題では各種構造形式を習得するなど建築構造の理解を深める。

	【後期】 メディアセンター、社会教育施設、商業施設、展示施設、コミュニティ施設、駅前広場などの地域複合施設の設計を行う。そのことを通じてＲＣ造などの建築の構工法、製図法の知識と表現技術を学ぶと共に、複合的な建築物の設計、リサーチによる課題の発見とコンセプトメイキング、プログラムの提案を習得する。（小グループに分け各グループを各教員が指導するスタジオ制で行う。） 建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する。
授業計画 授業内容	【前期】全15週/週1日・2コマ 第 1 週 ガイダンス・「オフィスデザイン」課題説明 第 2 週 エスキース1：リサーチ 第 3 週 エスキース2：報告共有、設計開始 第 4 週 エスキース3：テーマ、コンセプト作成 第 5 週 エスキース4：平面計画・断面計画・構造計画 第 6 週 エスキース5：基本構想発表・提出 第 7 週 エスキース6：内装計画・環境計画 第 8 週 エスキース7：作図（仕上げ） 第 9 週 エスキース8：プレゼンテーション 第10週 作品発表・指摘内容の修正加筆（指摘作品） 第11週 建築構造課題説明、S造、RC造 第12週 構造デザイン エスキース 第13週 模型製作１ 第14週 模型製作２ 第15週 模型製作３ ※課題の詳細についてや日程については、各課題の講義初日に各教員が指示する。 【後期】全15週／週2日・4コマ 第 1 週 ガイダンス、課題A(1)＜メディアセンター＞課題説明・班分け・作業 第 2 週 課題A(2)：課題・機能・社会的課題分析発表 第 3 週 課題A(3)：サーベイプレゼン・提出（課題・敷地分析、類似施設見学報告） 第 4 週 課題A(4)：基本構想発表・提出（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第 5 週 課題A(5)：スタディ模型等エスキス（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第 6 週 課題A(6)：作図（仕上げ）、提出模型製作 第 7 週 課題A(7)：作図（仕上げ）、提出模型製作 第 8 週 課題A(8)：作品発表・指摘内容の修正加筆（指摘作品）・展示　自他評価 第 9 週 課題B(1)：＜選択制（駅前広場と付帯施設）＞課題説明 第10週 課題B(2)：課題・機能・社会的課題分析発表 第11週 課題B(3)：サーベイプレゼン・提出（課題・敷地分析、類似施設見学報告） 第12週 課題B(4)：基本構想発表・提出（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第13週 課題B(5)：スタディ模型等エスキス（平面構成、空間構成、造形デザイン） 第14週 課題B(6)：作図（仕上げ）、提出模型製作 第15週 課題B(7)：作品発表・指摘内容の修正加筆（指摘作品） ※課題の詳細についてや日程については、各課題の講義初日に各教員が指示する。
成績評価	【前期】授業態度（20%）、前半・後半「成果品」（80%）から総合評価を行う。 【後期】授業態度（20%）、課題A・課題B「成果品」（80%）から総合評価を行う。
教科書	【前・後期】自作プリント、「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書　参考資料	「建築計画I・II・III・IV」の講義の中で配布された資料等
履修上の注意	【前・後期】製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。VDT 作業(CAD等)の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備するこ と。
予習・復習指導	【前期】一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 【後期】一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	【前・後期】「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅰ・Ⅱ」、「建築デザイン演習Ⅰ」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	各回ごとに進捗状況や構想内容についての質疑応答を行う。 作品発表時は全体での講評・質疑応答を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP305S

講義名	建築デザイン演習Ⅲ		
講義開講時期	前期	講義区分	演習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目　建築デザイン系		
配当年次	4		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上　晋一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	髙田　光雄	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	森重　幸子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	永井　秀幸	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	大上　直樹	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	「建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ」や各種座学で得た知識を基に、建築・地域・都市の課題を通じて、卒業研究や卒業設計としての具体的な成果へとつながる資料収集力・調査分析力・構想力・発想力・デザイン力・スケジュール管理力を身につける。
授業概要	ゼミ制として各指導教官の研究室に配属し、卒業制作へと繋げることを念頭に置き、建築・地域・都市に関するテーマを各自設定し、建築デザインコンペの参加も視野に入れ、論文／設計の制作を行う。 [建築・地域・都市的デザイン、伝統的建築群含む群建築・再開発・複合施設・外部空間構成・リノベーション・コンバージョン等] 建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する
授業計画 授業内容	全15週／週２日 第 1 週 ガイダンス 第 2 週 ゼミ・チェック（制作方針について） 1 第 3 週 ゼミ・チェック（制作方針について） 2 第 4 週 ゼミ・チェック（敷地／資料調査） 1 第 5 週 ゼミ・チェック（敷地／資料調査） 2 第 6 週 ゼミ・チェック（制作コンセプト草案） 1 第 7 週 ゼミ・チェック（制作コンセプト草案） 2 第 8 週 ゼミ・チェック（中間報告草案） 第 9 週 中間報告（全体） 第10週 ゼミ・チェック（図面・模型） 1 第11週 ゼミ・チェック（図面・模型） 2 第12週 ゼミ・チェック（図面・模型） 3 第13週 ゼミ・チェック（図面・模型） 4 第14週 ゼミ・チェック（図面・模型） 5 第15週 最終プレゼンテーション・講評

成績評価	授業態度（出席等30%）、中間・最終「成果品」（評価等70%）から総合評価を行う。
教科書	自作プリント、「第３版　コンパクト建築設計資料集成」日本建築学会編　丸善
参考書　参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「伝統建築環境学」等の講義の中で配布された資料等 「建築設計資料集成」[地域・都市Ⅰ～プロジェクト編] 及び[地域・都市Ⅱ～データ編]日本建築学会編　丸善㈱
履修上の注意	製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。ＶＤＴ作業（ＣＡＤ等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	一講義（2コマ）に対して3時間の予習復習をすること。 設計課題と類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅰ・Ⅱ」、「建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	それぞれの成果品を発表し、講評・質疑応答を行う
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP406S

講義名	伝統建築専門実習Ⅰ		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目　伝統建築系		
配当年次	2		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	建築デザイン演習Ⅰに倣う。
授業概要	建築デザイン演習Ⅰと統合する。
授業計画 授業内容	全15 週 第１～ 15 週　建築デザイン演習Ⅰに倣う
成績評価	建築デザイン演習Ⅰに倣う
教科書	建築デザイン演習Ⅰに倣う
参考書　参考資料	建築デザイン演習Ⅰに倣う
履修上の注意	建築デザイン演習Ⅰに倣う
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	建築デザイン演習Ⅰに倣う
課題に対するフィードバックの方法	建築デザイン演習Ⅰに倣う
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP207P

講義名	伝統建築専門実習Ⅱ		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目　伝統建築系		
配当年次	3		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
助教	砂川　晴彦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	大上　直樹	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
非常勤講師	大田　精一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	前期は建築デザイン演習Ⅱに倣う。 後期は現地調査を通して調査研究、設計、施工に関するそれぞれの手法を習得する。
授業概要	前期は建築デザイン演習Ⅱに倣う。 後期は歴史的建造物の現地調査（実測調査、破損調査、仕様調査）を行い、実測図を作成するとともに、修理計画を立案し発表する。
授業計画 授業内容	全30 週 〈前期〉第1～15週 建築デザイン演習Ⅱと統合 〈後期〉第16週 オリエンテーション 第17週 実測調査① 第18週 実測調査② 第19週 実測調査③ 第20週 実測調査④ 第21週 実測調査⑤ 第22週 図面作成① 第23週 図面作成② 第24週 図面作成③ 第25週 図面作成④ 第26週 図面作成⑤ 第27週 報告書・プレゼンテーション資料作成① 第28週 報告書・プレゼンテーション資料作成② 第29週 報告書・プレゼンテーション資料作成③ 第30週 プレゼンテーション、講評 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。
成績評価	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。 〈後期〉それぞれの成果物の完成度、発表の内容で評価する。
教科書	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。 〈後期〉適宜プリントを配布する
参考書　参考資料	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。 〈後期〉文化財建造物等の修理工事報告書、『日本建築史図面史料集成』中央公論美術出版
履修上の注意	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。 〈後期〉各自が主体的に取り組み、成果達成に向けて時間配分を充分に考慮すること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。
関連科目	〈前期〉建築デザイン演習Ⅱに倣う。 〈後期〉伝統住居概論、社寺建築概論、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	最終日に総評を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP308P

講義名	伝統建築専門実習Ⅲ		
講義開講時期	前期	講義区分	実習
基準単位数	4		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目　伝統建築系		
配当年次	4		
必修選択区分	選択必修		

担当教員

職種	氏名	所属
特任教授	◎ 大上　直樹	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	「伝統建築専門実習Ⅱ」で得た知見を基に、歴史的建造物の調査研究、設計、施工に関する制作手法を発展させる。
授業概要	各自が歴史的建造物の調査、設計に関するテーマを設定し、論文の執筆、図面・模型の制作を行う。
授業計画 授業内容	全15回 第１週 オリエンテーション 第２週 テーマ設定① 第３週 テーマ設定② 第４週 論文執筆、図面・模型制作① 第５週 論文執筆、図面・模型制作② 第６週 論文執筆、図面・模型制作③ 第７週 論文執筆、図面・模型制作④ 第８週 論文執筆、図面・模型制作⑤ 第９週 中間発表 第10週 論文執筆、図面・模型制作⑥ 第11週 論文執筆、図面・模型制作⑦ 第12週 論文執筆、図面・模型制作⑧ 第13週 論文執筆、図面・模型制作⑨ 第14週 論文執筆、図面・模型制作⑩ 第15週 プレゼンテーション、講評 ※学習への理解、到達状況に応じて、適宜授業内容を調整・変更する場合がある。 建築学科のディプロマポリシーの２、３に係る
成績評価	それぞれの成果物の完成度、発表の内容で評価する。
教科書	適宜プリントを配布する。
参考書　参考資料	文化財建造物等の修理工事報告書、『日本建築史図面史料集成』中央公論美術出版
履修上の注意	学生個々に卒業制作との関連を確認しながら進めること。
予習・復習指導	一講義（２コマ）に対して３時間の予習復習をすること。 学生個々に卒業制作との関連を確認しながら進めること。
関連科目	伝統建築専門実習Ⅱ、伝統住居概論、社寺建築概論、伝統構造学
課題に対するフィードバックの方法	課題をすべて提出しチームごとに発表会をおこないその講評・質疑応答をおこなう
教員の実務経験	担当教員の大上教授および井上准教授ともに長年文化財建造物保存修理工事の設計監理の経験があり、伝統的建造物の実測調査と図面作成の専門家である
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP409P

講義名	卒業制作（建築）		
講義開講時期	後期	講義区分	実習
基準単位数	6		
科目分類名	専門教育科目		
科目分野名	専門演習・実習科目		
配当年次	4		
必修選択区分	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 井上　晋一	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	安田　光男	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	髙田　光雄	ＫＹＯＢＩ　建築学部
教授	山内　貴博	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	森重　幸子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	新海　俊一	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
教授	生川　慶一郎	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	井上　年和	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	人見　将敏	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	河村　大助	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
准教授	宮内　智久	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	永井　秀幸	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
講師	根來　宏典	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	小梶　吉隆	ＫＹＯＢＩ　工芸学部
特任教授	大上　直樹	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	各自の設定したテーマに沿って、独自の調査、分析、研究などに基づき作品を構想し、設計／論文を制作する。 幅広い観点から問題を捉え、解を自主的かつ継続的に見いだす力を養う。
授業概要	学生各自がテーマを設定し、指導教官の指揮の下で卒業制作を行う。テーマの選定にあたっては、予め十分な討議を指導教官及び学生間でおこない、4年間の講義、実習、演習を通じて習得した建築に関する知識や技術に基づき、建築分野の卒業論文あるいは卒業設計に相応しい課題を選定する。 建築学科のディプロマポリシー１、２、３、４に該当する。
授業計画 授業内容	1. 卒業制作ガイダンス 2. 卒業テーマ、敷地／資料分析の検討 3. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）1 4. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）2 5. ゼミ・チェック（制作コンセプト草案）3 6. 卒業制作中間発表 7. ゼミ・チェック（設計／論文草案）1 8. ゼミ・チェック（設計／論文草案）2 9. ゼミ・チェック（設計／論文草案）3 10. ゼミ・チェック（設計／論文草案）4 11. ゼミ・チェック（まとめ、プレゼンテーション）1 12. ゼミ・チェック（まとめ、プレゼンテーション）2 13. ゼミ・チェック（まとめ、最終プレゼンテーション） 14. 作品展示、提出 15. 講評会
成績評価	4年間の学びの集大成として、卒業制作（設計・論文）のテーマや価値を見極めた「研究・計画・制作・発表」ができているかを評価する。
教科書	自作プリント、「第３版コンパクト設計資料集成」日本建築学会編　丸善

参考書　参考資料	「建築計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「伝統建築環境学」等の講義の中で配布された資料等 「建築設計資料集成」「日本建築学会梗概集・論文集」 「卒業制作作品集（各種）」「建築雑誌（各種）」
履修上の注意	成果物の提出締め切り日に必ず提出のこと。 「卒業制作中間発表会」・「講評会」には必ず出席すること。 製図および模型製作の際は、製図用具および工具の取り扱いには十分に注意すること。 ＶＤＴ作業（ＣＡＤ等）の際は、作業環境維持、作業管理、健康管理に注意を払うこと。 敷地見学、事例見学時において事故のないように注意を払うこと。 講義や設計製図で配布された、あるいは収集した関連資料等を整理・ファイリングし常備すること。
予習・復習指導	類似する実例（複数）を日頃見学、視察し分析すること。
関連科目	「工芸実習導入」、「工芸実習基礎Ⅰ・Ⅱ」、「建築デザイン演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「伝統建築図（基礎）・（応用）・（発展）」、「伝統建築専門実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、各種座学
課題に対するフィードバックの方法	ゼミ・チェック時に担当教員より質疑応答・講評を行う。 「卒業制作中間発表会」及び「講評会」時に建築学科の教員により質疑応答・講評を行う。
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	CAT-SP410P

１０．博物館学芸員養成科目

京都美術工芸大学シラバス［2022 年度版］

講義名	生涯学習論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目 ｜ 博物館学芸員養成科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 吉富　千恵	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	①人間の生涯に渡る発達について学ぶ ②生涯学び続けることの意義と必要性を理解する ③生涯学習支援と推進の方法を学ぶ
授業概要	本講義では、生命誕生の瞬間から高齢期まで、それぞれの時期における発達と課題を詳しく学ぶことを通して、生涯学習について考えます。 本科目は、本学ディプロマポリシーの３に該当します。
授業計画 授業内容	第1回 オリエンテーション 第2回 胎児期① 第3回 胎児期② 第4回 乳幼児期① 第５回 乳幼児期② 第６回 児童期① 第７回 児童期② 第８回 青年期① 第９回 青年期② 第１０回 中年期① 第１１回 中年期② 第12回 高齢期① 第13回 高齢期② 第14回 生涯学習論の背景① 第15回 生涯学習論の背景②
成績評価	期末テスト７０%、その他３０%（授業態度、自主レポートなど）
教科書	特に指定しない。適宜、レジュメを配布する。
参考書　参考資料	『現代の生涯学習』　岩永雅也　放送大学教材
履修上の注意	特になし
予習・復習指導	特になし
関連科目	博物館学芸員養成科目
課題に対するフィードバックの方法	コメント、質問のフィードバックを次回以降の講義内で行う。
教員の実務経験	なし
科目ナンバリング	COM-GE106L

講義名	博物館概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	教養教育科目 ｜ 博物館学芸員養成科目		
科目分野名	教養科目		
配当年次	1		
必修選択区分	選択		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	博物館活動の大要を把握するとともに、博物館の諸活動に従事するために不可欠な基礎的知識を総合的に習得する。
授業概要	博物館は、さまざまな博物館資料を調査・研究、さらに展示・活用し、幅広く社会と関わる学習活動の拠点である。本講義では、博物館に関する基礎的な知識、歴史などとともに、具体的な活動事例を提示し、現代社会における博物館の役割と意義を理解することを目指す。 本学のディプロマポリシー１に該当する。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 博物館とはなにか 第3回 学芸員の仕事　１ 第4回 学芸員の仕事　２ 第5回 博物館建築と機能 第6回 博物館の歴史　１ 第7回 博物館の歴史　２ 第8回 博物館と収集・保存 第9回 博物館資料と情報化 第10回 博物館と展示　１ 第11回 博物館と展示　２ 第12回 博物館とデジタル技術 第13回 博物館と学校教育 第14回 博物館と地域 第15回 総括
成績評価	授業時の小レポート（40%）、期末試験もしくは期末レポート（60%）によって総合的に評価する。
教科書	特に使用しない。
参考書　参考資料	加藤有次、鷹野光行、西源二郎、山田英徳、米田耕司『新版博物館学講座1　博物館概論』雄山閣出版、2000年
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必ず受講すること。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対して4.5時間の予習復習をすること。 予習：次回授業のテーマ、内容に関するトピックを確認しておくこと。 復習：講義内容を整理してくこと。適宜博物館などを見学すること。
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	小レポートのフィードバックを講義内でおこなう。
科目ナンバリング	COM-GE108L

講義名	博物館経営論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	2		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 岩田　均	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	博物館経営の基礎的な理論や事例を学び、博物館学芸員の役割や使命を理解すること。身近な博物館の経営改善や、理想とするあるべき博物館を構想することなどに取り組んでください。
授業概要	博物館には、地域や企業などの固有の文化的資源を発掘・評価し、資料を収集・保存・展示し、過去・現在・未来をつなぐ重要な使命がある。この授業では、主に経営学と文化経済学から得られる知見を基に、博物館経営の要諦を解説する。博物館の経営に限定せず、今後重要視される文化を扱う経営全般に役立つ講義としたい。 本学ディプロマポリシーの１，２，３に該当する。
授業計画 授業内容	第1回　博物館経営の概説 第2回　博物館と法律 第3回　博物館の使命 第4回　博物館と経営戦略 第5回　博物館マーケティング 第6回　文化継承の意味 第7回　博物館の組織 第8回　非営利組織の経営 第9回　資金マネジメント 第10回　学芸員の仕事 第11回　博物館の評価・改善 第12回　博物館の評価と連携 第13回　博物館のリスク管理 第14回　博物館と観光 第15回　まとめ、到達度テスト
成績評価	毎回提出のミニレポートや受講意欲などの平常点（50%）と最終段階での到達度レポート（50%）によって総合的に評価する。
教科書	毎回の講義用資料を事前にネット配信する。
参考書　参考資料	月刊『博物館研究』日本博物館協会
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、１時間の予習及び３時間の復習を目安とする。 （具体的な内容） 講義の中で提示する課題に真摯に取組むことをはじめ、しっかり復習して講義内容を博物館経営の改善に役立てるように。
関連科目	地域社会論、文化資源概論、工芸と経済　＊学芸員資格科目です
課題に対するフィードバックの方法	レポート内容や質問などについて、次回以降の講義で紹介・応答するなどの方法でフィードバックする。
教員の実務経験	京都府庁で24年間、シンクタンクで7年間などの実務経験を有する。
科目ナンバリング	COM-CU201L

講義名	博物館資料論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	2		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 和田　積希	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	博物館資料の分類とその方法に関する知識と、取扱いの基礎的能力を養う。
授業概要	博物館のコレクションを構築する博物館資料の名称、員数、時代表記、形状、品質、構造、伝来および解説を記述する方法を、各分野別に体系的かつ実践的に学び、高度に洗練された多様な文化の遺産を守り伝える博物館学芸員の素養を身につける。 本科目は本学のディプロマポリシー1に該当する。
授業計画 授業内容	第１回　博物館資料とは—博物館資料の概念 第２回　博物館資料の分類 第３回　博物館資料の収集 第４回　博物館資料の取り扱い 第５回　博物館資料の情報化と公開 第６回　博物館資料の実例—ポスター資料 第７回　博物館資料の実例—デザイン資料 第８回　博物館資料の実例—教育資料 第９回　資料の調査の実例—染織品 第10回　資料の調査の実例—美術工芸品 第11回　資料の保管管理の実例—図書館資料 第12回　資料の保管管理の実例—ガラススライド 第13回　資料の展示の実例—ラジオコレクション 第14回　資料の展示の実例—染織品 第15回　総括
成績評価	毎授業時のコメント30%、期末レポート70%を合わせて総合的に評価する。
教科書	指定しない。
参考書　参考資料	加藤有次他編『博物館学講座5　博物館資料論』雄山閣出版、1999 今村信隆編『博物館の歴史・理論・実践１： 博物館という問い』京都造形芸術大学 東北芸術工科大学 出版局 藝術学舎、2018
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必修。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、1.5時間の事前学習及び3時間の復習をすること （具体的な内容） 予習：毎回、事前に授業に関連すると思われるキーワードについて調べておく。 復習：毎回、授業で言及された用語についてまとめ、理解する。また、必要に応じて、関連する展覧会等を見学し、実物に接する機会を増やす。
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	コメント、質問へのフィードバックをGoogle Classroom上、あるいは次回以降の講義内でおこなう
教員の実務経験	博物館における資料の調査・研究の経験
教員の実務経験有無	あり
科目ナンバリング	COM-CU202L

講義名	博物館資料保存論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	3		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 森　道彦	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	ミュージアムにおけるモノの管理や保存において注意すべき基本的な要点を理解し、習得する。モノの劣化が材料や制作技法、保存環境といった様々な要素に応じて変わることを意識しつつ、状況に応じたよりよい対策について考えていく。
授業概要	博物館・美術館（ミュージアム）の業務において欠かせない、作品・資料の保存や管理についての基礎的な考え方や知識を学ぶ。収蔵品の保管や出納、修理のほか、展示や外部貸与、借用や運送といった業務においてなされる様々なモノの管理全般について広く理解するとともに、学芸員とモノとの関わり方や、それをとりまく現代的課題についても考えていく。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　ガイダンス －ミュージアムと資料保存の関わり 第２回　ミュージアムにおける収蔵品管理① 収蔵にかかわる諸問題 第３回　ミュージアムにおける収蔵品管理② 温湿度・光・振動・化学物質・生物被害など　1 第４回　ミュージアムにおける収蔵品管理③ 温湿度・光・振動・化学物質・生物被害など 2 第５回　ミュージアムにおける収蔵品管理④ 温湿度・光・振動・化学物質・生物被害など 3 第６回　ミュージアムにおける収蔵品管理⑤ 災害の防止と対策 第７回　ミュージアムにおける収蔵品管理⑥ 展示と輸送 第８回　作品・資料と文化財 第９回　伝統的な保存管理 第10回　修理の思想① 修理に至る道 第11回　修理の思想② 日本の文化財修理 第12回　修理の思想③ 修理のさまざま 第13回　資料保存の過去・現在・未来 第14回　小テスト 第15回　フィードバック
成績評価	受講態度についての平常評価を60%、小テストによる評価を40%とする
教科書	特になし。適宜、プリント類を配布する
参考書　参考資料	東京文化財研究所 編『文化財の保存環境』 石﨑武志『博物館資料保存論』講談社、2012年 稲村哲也・本田光子『博物館資料保存論』放送大学、2019年　　など
履修上の注意	内容が多岐にわたり、科学的知識も少なからず必要なため、復習をよく行うこと。
予習・復習指導	授業1コマに対し、事前学習および復習を各2時間程度行うこと。 （具体的な内容） 本シラバスや授業中に掲げた参考書、およびウェブサイト等を適宜参照する。予習は、できる限り課題意識をもって取り組むこと。復習に際して疑問が生じた場合は、次回授業冒頭の質問時間などを利用し、適宜質問すること。
関連科目	日本美術史、歴史学
課題に対するフィードバックの方法	各回授業の冒頭に前回授業についての短いまとめを行うほか、疑問点の質問を受け付けるなどして、理解の促進や知識の定着をはかる。
教員の実務経験	無し
教員の実務経験有無	無
科目ナンバリング	COM-CU303L

講義名	博物館展示論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	3		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 和田　積希	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	博物館における展示の理念や歴史、展示の諸形態、展示方法における基礎的な知識を習得するとともに、実際に展覧会を企画することで、その面白さや意義を実感し、学芸員の仕事を理解する。
授業概要	博物館における展示は、ただ作品を並べるということではない。展覧会は、調査・研究の過程で得られた情報の発信の場であるとともに、作品、企画者である学芸員、観覧者とをつなぐコミュニケーションの場でもある。本講義では、博物館展示の基礎知識を具体的な事例を用いて紹介するとともに、展覧会企画に取り組み、実践的な力を養う。 本科目は本学のディプロマポリシーの１に該当する。
授業計画 授業内容	第１回　ガイダンス—展示とはなにか 第２回　博物館展示の歴史と意義—欧米 第３回　博物館展示の歴史と意義—日本 第４回　展示のデザイン 第５回　展示の補足 第６回　展示の工夫と環境 第7回　展示の仕方 第8回　フィールドワーク 第9回　展覧会の作り方①　企画の流れと展示図面 第10回　展覧会の作り方②　借用と展示作業、図録の作成 第11回　展覧会の企画①　事前準備 第12回　展覧会の企画②　企画 第13回　展示の可能性 第14回　展覧会の企画③　発表 第15回　総括—展示の評価
成績評価	毎授業時のコメント30%、授業内課題（展覧会企画）40%、期末レポート30%を合わせて総合的に評価する。
教科書	指定しない。
参考書　参考資料	今村信隆編『博物館の歴史・理論・実践３：挑戦する博物館』京都造形芸術大学 東北芸術工科大学出版局 藝術学舎、2018年など
履修上の注意	博物館学芸員資格取得希望者は必修。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、1.5時間の事前学習及び3時間の復習をすること （具体的な内容） 予習：毎回、授業に関連すると思われるキーワードについて調べておく 復習：毎回、授業で言及された専門用語等についてまとめ、理解を深める。また、できるだけ博物館に足を運んで、実例に触れ、展示上の優れた点や不都合な点を考察する。
関連科目	博物館学芸員養成関連科目
課題に対するフィードバックの方法	コメント、講義内課題のフィードバックをGoogle Classroom上、あるいは次回以降の講義内でおこなう
教員の実務経験	博物館における展覧会の企画や展示の経験
教員の実務経験有無	有
科目ナンバリング	COM-CU304L

講義名	博物館情報・メディア論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	4		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 六車　美保	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題などについて理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。
授業概要	博物館においては、資料研究、展示、教育を含めた情報発信の管理と発信に、様々なメディアを用いたデジタル技術を活用することが近年盛んになっている。本稿では、博物館が取り扱う多岐にわたる情報について理解し、情報を適切に管理、発信する方法を学ぶ。 本科目は工芸学部ディプロマポリシーの１，２に該当する。
授業計画 授業内容	全15回 第１回　ガイダンス 第２回　博物館における情報・メディアとは 第３回　博物館における情報発信 第４回　ICT社会と博物館情報１ 第５回　ICT社会と博物館情報２ 第６回 博物館活動の情報化１ 第７回 博物館活動の情報化２ 第８回　デジタルアーカイブについて 第９回　デジタルアーカイブの実例と課題 第１０回　博物館と知的財産１ 第１１回　博物館と知的財産２ 第１２回　博物館のネットワーク 第１３回　プレゼンテーション１ 第１４回　プレゼンテーション２ 第１５回　総括
成績評価	授業態度(20%)、プレゼンテーション(30%)、最終レポート(50%)により、総合的に評価する。
教科書	資料を適宜配布する。
参考書　参考資料	・今村信隆編『博物館の歴史・理論・実践２　博物館を動かす』京都造形芸術大学　東北芸術工科大学出版局　藝術学舎、2017年
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、4.5時間の予習・復習をすること。 （具体的な内容） 博物館・美術館などの展覧会に出かけてください。
課題に対するフィードバックの方法	授業後のコメントシートには、次回授業時にフィードバックをおこなう。
科目ナンバリング	COM-CU405L

講義名	博物館教育論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	2		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	4		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤講師	◎ 奥井　素子	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	博物館の教育活動について、具体例を通して実践的に学ぶことを目的としている。各館の様々な取り組みを理解し、これからの博物館教育についても考えていきたい。本科目は本学のディプロマポリシーの２．３に該当する。
授業概要	社会教育機関としての博物館の役割と取り組みを知り、博物館における教育のあり方を学ぶ。将来博物館の仕事に関わる場合に備え、学芸員に求められる博物館教育の具体像を学ぶ。
授業計画 授業内容	全１５回 第1回 ガイダンス 第2回 博物館教育の種類と内容 第３回 ギャラリートーク、映像教材 第4回 ワークショップ 第５回 連続講座、市民講座 第６回 講演会、シンポジウム 第７回 図録 第８回 図書室、デジタルアーカイブ 第９回 学校教育との関わり 第１０回 地域社会との関わり 第１１回 特徴ある館の取り組み 第１２回 小課題へのフィードバック 第１３回 博物館教育のこれから 第１４回 予備日 第１５回 総括
成績評価	受講態度（３０％）、小課題（２０％）、最終レポート（５０％）
教科書	使用しない。
参考書　参考資料	倉田公裕・矢島國雄『新編博物館学』東京堂出版（１９９７）、寺島洋子・大高幸編『博物館教育論』放送大学教育振興会（２０１２）など。
予習・復習指導	一講義（1コマ）に対し、0.5時間の事前学習及び1時間の復習をすること （具体的な内容） 講義で取り扱う内容を自ら主体的に調べ、新しく学んだことについては復習すること。
関連科目	博物館学芸員養成科目
課題に対するフィードバックの方法	小課題のフィードバックを、講義内で個別または全体に対して行う。
教員の実務経験	鉄斎美術館（学芸補佐）、国立国際美術館（ボランティア）。
科目ナンバリング	COM-CU406L

講義名	博物館実習		
講義開講時期	通年	講義区分	実習
基準単位数	3		
科目分類名	博物館学芸員養成科目		
科目分野名			
配当年次	4		
必修選択区分	自由		

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 岡　達也	ＫＹＯＢＩ　工芸学部

到達目標	各種の美術工芸品を対象にして、その取り扱いに関する知識や技術を習得することで、博物館資料の展示、保存、活用などの重要性を理解する。
授業概要	博物館資料の取扱い、保存、活用などに関して、実際に作品等に触れることで学芸員にとって必要な知識と技術を指導する。 工芸学部のディプロマポリシー１に係る。
授業計画 授業内容	第1回 ガイダンス 第2回 博物館資料の取扱い① 第3回 博物館資料の取扱い② 第4回 漆芸作品の取扱い① 第5回 漆芸作品の取扱い② 第6回 木工作品の取扱い① 第7回 木工作品の取扱い② 第8回 彫刻作品の取扱い 第9回 刀剣の取扱い 第10回 見学① 第11回 ポスターの取扱い① 第12回 ポスターの取扱い② 第13回 展示企画と展示計画 第14回 見学② 第15回 総括 ※順序と内容は変更する場合があります。
成績評価	授業態度（50%）、各回のレポート（50%）によって総合的に評価する。
参考書　参考資料	適宜紹介する。
履修上の注意	「博物館概論」「生涯学習論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」「博物館教育論」を履修しておくこと。
予習・復習指導	・学外実習を視野に入れて予習復習をすること。 ・博物館資料の取り扱い、保存方法、データ収集の方法などを整理しておくこと。
関連科目	「博物館概論」「生涯学習論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館情報・メディア論」「博物館教育論」
課題に対するフィードバックの方法	実習時間内で適宜対応する。
科目ナンバリング	COM-CU407P